

UltraLite タイプVB

VK27M/B-G、VK15E/B-G、VJ27M/B-G、VJ15E/B-G

活用ガイド

Windows® 7 Professional 64ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows® 8 Proダウングレード)
Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows® 8 Proダウングレード)
Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1)

■ はじめに 7	■ メンテナンスと管理 447
本マニュアルの表記や、商標などの情報を記載しています。 最初にご覧ください。	本機のハードディスク（またはSSD）のメンテナンス方法 やバックアップ環境の構築などについて記載しています。
■ 本機の機能 17	■ 別売のOSを利用する 456
本機の各部の名称やインターフェイスについて記載してい ます。	本機で別売のOSを利用する場合にご覧ください。
■ システム設定 295	■ トラブルの予防と解決のヒント 458
本機のBIOSセットアップユーティリティやME BIOS Extensionの使い方、設定項目一覧などを記載しています。	トラブルの予防や解決のヒントについて記載しています。
■ セキュリティチップ ユーティリティ 329	■ トラブル解決Q&A 471
セキュリティチップの概要や使い方について記載してい ます。	本機をお使いになっているときのトラブル事例や解決法に ついて記載しています。
■ アプリケーションのインストール/アンイン ストール 378	■ アフターケア、改造について 662
本機にインストール、また添付されているアプリケーショ ンの概要やインストール、アンインストール方法について 記載しています。	本機のアフターケアやサポートに関する注意事項について 記載しています。
	■ 譲渡、廃棄について 668
	本機の譲渡、廃棄時の注意事項について記載しています。
	■ 仕様一覧など（Web専用コンテンツ） . . 678
	Webにて、仕様やソフトウェア占有量などの情報を公開し ています（インターネットへの接続環境が必要です）。

目次

はじめに	7	液晶ディスプレイ	96
はじめに.....	8	使用上の注意.....	97
本マニュアルの表記について.....	9	画面表示の調整.....	98
「ユーザー アカウント制御」について.....	12	表示できる解像度と表示色.....	100
デバイス マネージャの開き方.....	13	ディスプレイストレッチ機能.....	101
サポート技術情報について.....	14	外部ディスプレイ	102
ご注意.....	15	使用上の注意.....	103
本機の機能	17	外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色.....	105
各部の名称	18	外部ディスプレイコネクタ.....	108
各部の名称と説明.....	19	HDMIコネクタ.....	109
表示ランプ.....	25	Intel® WiDi.....	111
電源	27	外部ディスプレイ接続時の表示機能.....	122
電源の入れ方と切り方.....	28	表示先、表示機能の設定.....	123
電源の状態.....	30	画面出力先切替ツール.....	126
スリープ状態/休止状態使用上の注意.....	31	ディスプレイに合わせた設定.....	129
スリープ状態.....	33	Webカメラ	131
休止状態.....	36	Webカメラについて.....	132
クイックパワーオン.....	38	ハードディスク	134
電源の設定.....	41	使用上の注意.....	135
電源の自動操作.....	44	ハードディスクのメンテナンス.....	136
省電力機能	45	SSD	138
省電力機能について.....	46	使用上の注意.....	139
ECOモード機能.....	47	SSDのメンテナンス.....	140
ピークシフト機能.....	51	光学ドライブ	142
Intel SpeedStep® テクノロジー.....	54	使用上の注意.....	143
バッテリー	55	外付け光学ドライブの取り付け.....	144
バッテリーパック (二次電池) について.....	56	各部の名称と役割.....	146
使用上の注意.....	57	使用できるディスク.....	147
バッテリーパックの取り付け/取り外し.....	58	読み込みと再生.....	148
バッテリーの充電.....	62	書き込みとフォーマット.....	150
バッテリーの使い方と設定.....	63	非常時のディスクの取り出し方.....	151
バッテリーリフレッシュ.....	65	SDメモリーカードスロット	152
バッテリー・リフレッシュ&診断ツール.....	67	使用上の注意.....	153
キーボード	72	セットのしかた/取り出し方.....	155
キーの名称.....	73	サウンド機能	157
キーの使い方.....	75	音量の調節.....	158
キーボードの設定.....	77	マイクの設定.....	160
NXパッド	78	LAN機能	161
NXパッドの使い方.....	79	本機を安全にネットワークに接続するために.....	162
NXパッドの設定.....	80	使用上の注意.....	164
NXパッドのドライバを変更する.....	84	LANへの接続.....	165
NXパッドドライバへ戻す.....	86	LAN機能の設定.....	167
マウス	89	リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能.....	169
マウスを使用する.....	90	ネットワークブート機能 (PXE機能).....	172
マウスを接続するための設定方法.....	92	無線LAN機能	173
マウスを接続する前の設定に戻す.....	94	概要.....	174

本機を安全にネットワークに接続するために. . .	176	マネジメント機能.	285
無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに關 するご注意.	178	マネジメント機能について.	286
使用上の注意.	180	リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能	287
無線LAN機能のオン/オフ.	182	ネットワークブート機能 (PXE機能)	290
無線LANの設定と接続.	185	インテル® vProテクノロジー.	291
PROSet/Wirelessのインストール.	195	インテル® AMT.	292
PROSet/Wirelessのアンインストール.	196	システム設定.	295
ワイヤレスLANの設定.	197	BIOSセットアップユーティリティについて.	296
インテル® My WiFi ダッシュボード.	199	BIOSセットアップユーティリティの起動.	297
無線LANに関する用語一覧.	204	BIOSセットアップユーティリティの基本操作. . .	298
無線WAN機能.	207	BIOSセットアップユーティリティの終了.	299
概要.	208	工場出荷時の設定値に戻す.	300
使用上の注意.	209	設定項目一覧.	301
無線WAN機能を使用する準備.	210	「Main」メニュー.	302
無線WAN機能のオン/オフ.	213	「Advanced」メニュー.	303
接続とセキュリティ.	215	「Security」メニュー.	306
その他の機能.	226	「Boot」メニュー.	310
モデム.	232	ME BIOS Extensionについて.	314
使用上の注意.	233	使用上の注意.	315
電話回線との接続と設定.	235	ME BIOS Extensionを使用する前に.	316
海外でのモデムの使用.	238	ME BIOS Extensionの起動.	318
通信環境を切り替える.	240	工場出荷時の設定値に戻す.	319
ATコマンド.	241	ME BIOS Extensionの設定項目一覧.	320
USBコネクタ.	249	使用上の注意.	321
使用上の注意.	250	「MAIN MENU」	322
USB機器の取り付け/取り外し.	252	「INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION」 メニュー.	323
PCカード.	253	「INTEL(R) AMT CONFIGURATION」メニュー. .	324
使用上の注意.	254	割り込みレベル・DMAチャネル.	328
PCカードのセットのしかた/取り出し方.	255	セキュリティチップ ユーティリティ.	329
PCカードの割り込みレベルの設定.	257	概要.	330
メモリ.	258	セキュリティチップ機能を利用する準備.	332
取り付け前の確認.	259	セキュリティチップを有効にする.	333
メモリの取り付け/取り外し.	260	スーパバイザパスワード/ユーザパスワードの 設定.	335
メモリ変更時の確認.	265	セキュリティチップ ユーティリティのインス トール.	336
セキュリティ機能.	266	Security Platformの初期化.	338
セキュリティ機能について.	267	Security Platform ユーザーの初期化.	344
スーパバイザパスワード/ユーザパスワード. . .	268	セキュリティチップ ユーティリティの使い方. . .	348
ハードディスクパスワード機能.	269	利用できるセキュリティ機能.	354
I/O制限.	270	電子メールの保護機能.	355
指紋認証機能.	271	ファイルとフォルダの暗号化 (EFS) 機能. . . .	356
インテル® アンチセフト・テクノロジー.	274	Personal Secure Drive (PSD) 機能.	359
盗難防止用ロック.	276	辞書攻撃防御機能.	361
DEP (Data Execution Prevention) 機能.	277	セキュリティチップ機能のバックアップと復元. . .	362
暗号化ファイルシステム (EFS)	278	セキュリティチップ機能のバックアップ.	363
ウイルス検出・駆除.	279	セキュリティチップ機能の復元.	366
セキュリティチップ機能.	280	その他の注意事項.	371
ハードディスクセーバー.	281	本機を修理に出す前の準備.	372
SecureRedirector.	282		
NASCA.	283		
DeviceProtector.	284		

本機を修理に出した後.	373	ネットワークブートができない.	482
イベントビューアに記録される警告ログについて	374	電源が切れない.	483
セキュリティチップ ユーティリティのアンインストール.	375	自動的にスリープ状態にならない.	485
アプリケーションのインストール/アンインストール.	378	スリープ状態または休止状態から復帰しようとしたらWindowsのログオン画面が表示された. . .	486
便利な機能とアプリケーション.	379	スリープ状態にできない.	487
インストール/アンインストールについて.	382	スリープ状態から復帰できない、復帰に失敗した	488
ソフトウェア占有量について.	384	休止状態にできない.	489
「Service Pack」について.	385	「スタート」ボタンから休止状態にできない. . .	490
Internet Explorer 10.	386	休止状態から復帰できない、復帰に失敗した. . .	491
Office Personal 2013.	388	Windowsの電源設定ができない.	492
Office Home and Business 2013.	394	本機を一定時間放置すると、スリープ状態になってしまう.	493
Office Professional 2013.	400	USBマウスでスリープ状態から復帰する／しないを設定したい.	494
ハードディスクセーバー.	406	USBキーボードから復帰する際に使用したキーが復帰後に入力されていることがある.	495
ウイルスバスター.	409	バッテリー.	496
Access Connections.	415	本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してもバッテリーの充電が始まらない.	497
DeviceProtector.	422	タスクバーの通知領域に電源アイコンが表示されない.	498
Adobe Reader.	426	満充電したのに、バッテリー充電ランプが点灯する	499
ECOモード設定ツール.	429	バッテリー充電ランプが点滅する.	500
ピークシフト設定ツール.	430	NXパッド.	501
クイックパワーオン.	432	NXパッドが動作しない.	502
ワイヤレスLANの設定.	434	NXパッドの反応が鈍い.	505
画面出力先切替ツール.	436	NXパッドの拡張機能を使用したい.	506
Roxio Creator LJB.	438	文字入力中に、NXパッドのタップ機能が動作したり、マウスカーソルが移動してしまう.	507
Corel WinDVD.	442	一時的にNXパッドを無効にしたい.	508
メンテナンスと管理.	447	マウス.	509
ハードディスクのメンテナンス.	448	はじめに確認してください.	510
SSDのメンテナンス.	450	マウスを動かしても、何も反応しない.	511
お手入れについて.	452	マウスの動きが悪い.	512
お手入れを始める前に.	453	表示.	513
お手入れのしかた.	454	はじめに確認してください.	514
別売のOSを利用する.	456	電源を入れてしばらくすると、画面が真っ暗になる.	515
別売のOSを利用する.	457	表示できるはずの高解像度を選択できない.	516
トラブルの予防と解決のヒント.	458	ディスプレイに何も表示されない.	517
トラブルの予防.	459	画面の解像度を変更すると色数も変更される. . .	519
ウイルスから守る.	461	画面の色調を調整したい.	520
トラブル発生に備えて.	464	再生中の動画がとぎれる、なめらかに再生されない.	521
解決のヒント.	466	動画の再生中に画面が消えてしまう.	522
Windowsヘルプの紹介.	469	Windows Media PlayerでDVDが再生できない. . .	523
トラブル解決Q&A.	471	Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない.	524
電源.	472	Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる.	525
はじめに確認してください.	473	Corel WinDVDでDVDが再生できない.	527
電源が入らない.	474		
ディスプレイに何も表示されない.	475		
メッセージが表示されて、Windowsが起動しない	477		
「Windowsエラー回復処理」画面が表示された.	478		
「ユーザー名またはパスワードが正しくありません。」と表示された.	479		
パスワードを忘れてしまった.	480		

Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない、	528	サウンド	574
Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる、	529	はじめに確認してください、	575
個人設定で、Aero®に設定できない、	531	音が出ない、	576
画面の表示位置やサイズがおかしい、	532	HDMI接続した機器から音声が出力されない、	577
外部ディスプレイで画面が流れるように表示される、	533	音楽CDの再生音を調節したい、	579
外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい、	534	音楽CDが再生されない、	580
HDMI接続したテレビや外部ディスプレイに映像が表示されない、	535	音楽CDの再生中に音飛びする、	581
HDMIでテレビに接続すると、画面の周りがかみ出してしまう、表示されない部分がある、	536	印刷	582
文字入力	537	はじめに確認してください、	583
はじめに確認してください、	538	プリンタから印刷が正しくできない、	584
キーボードのキーを押しても、何も反応しない、	539	PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない、	585
記号などで入力できない文字がある、	540	セキュリティチップ機能	586
別売のキーボードを接続したが、キーを押しても反応しない。使えないキーがある、	541	パスワードを忘れてしまった、	587
文字入力中に、NXパッドのタップ機能が動作したり、マウスカーソルが移動してしまう、	542	「Security Platform サービスとの接続に失敗しました。」と表示される、	588
ファイル保存	543	ハードディスク	589
はじめに確認してください、	544	ハードディスクの動作速度が遅い、	590
ハードディスクに保存できない、	545	ハードディスクに障害が起きた、	591
SSDに保存できない、	546	ハードディスクに保存できない、	592
DVD、CDにデータを書き込めない(保存できない)	547	ハードディスクから異常な音がする、	593
モデム	548	ハードディスクの空き領域が足りない、	594
ダイヤルアップ接続できない、接続が切れる、	549	領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない、	595
自動切断されない、	551	複数のパーティションを利用したい、	596
ATコマンドについて知りたい、	552	ハードディスクをメンテナンスする方法を知りたい、	598
海外でモデムを使用したい、	553	SSD	599
LAN機能	554	SSDに障害が起きた、	600
はじめに確認してください、	555	SSDに保存できない、	601
ネットワークに接続できない、	556	SSDの空き領域が足りない、	602
ドライブやフォルダが共有できない、	557	領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない、	603
ネットワークブートができない、	560	複数のパーティションを利用したい、	604
動作が不安定になった、	561	SSDをメンテナンスする方法を知りたい、	606
無線LAN機能	562	光学ドライブ	607
はじめに確認してください、	563	はじめに確認してください、	608
通信ができない、	564	「コンピューター」に光学ドライブが表示されない	609
通信がとぎれる、または通信速度が遅い、	566	光学ドライブのディスクトレイを出し入れできない、	610
「ネットワーク」で相手のコンピューターが表示されない、	568	DVD、CDをセットしても自動再生しない、	611
「ネットワーク」上のコンピューターのアイコンをダブルクリックしても内容が表示されない、	569	DVD、CDからデータを読み出せない、	612
接続している無線LANアクセスポイントから、一つのまにか切断されてしまう、	570	DVD、CDの読み取りエラーメッセージが表示された、	613
無線WAN機能	571	DVD、CDにデータを書き込めない(保存できない)	614
はじめに確認してください、	572	DVD、CDへの書き込み中にエラーになった、	615
通信ができない、	573	Roxio Creator LJBでデータディスクを作成できない、	616
		ドライブ文字がおかしい、	617
		光学ドライブから異常な音がする、	618
		添付されていたDVD、CDが使えなくなった、壊れた、	619

Windows Media PlayerでDVDが再生できない.	620	アプリケーションを強制的に終了させたい.	649
Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない.	621	アプリケーションが本機で使用できるか知りたい	650
Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる.	622	使用しているWindowsへの対応が明記されていないWindows用アプリケーションを使用したい. . .	651
Corel WinDVDでDVDが再生できない.	624	Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術情報について知りたい.	652
Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない.	625	再セットアップ	653
Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる.	626	「再セットアップをすることはできません。」と表示される.	654
音楽CDの再生中に音飛びする.	628	「再セットアップ用ディスク」を要求する画面が繰り返し表示され、先に進めない.	655
音楽CDが再生されない.	629	その他	656
周辺機器	630	日付や時刻が正しく表示されない.	657
はじめに確認してください.	631	クリップなどの異物が本体内部に入ってしまった	658
別売の周辺機器を取り付けたが動作しない、周辺機器を取り付けたら本機が起動しなくなった、他の機能が使えなくなった.	632	本機が動かなくなった（フリーズした）.	659
周辺機器のドライバをインストールできない、ドライバを更新できない.	635	Windows 7 SP1をアンインストールしたい.	660
アプリケーション	636	マニュアルをなくしてしまった.	661
はじめに確認してください.	637	アフターケア、改造について	662
起動しなくなった、動作が遅い、動かなくなることがある.	638	保守サービスについて.	663
Windows Media PlayerでDVDが再生できない.	640	添付品の再入手方法について.	664
Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない.	641	消耗品と有寿命部品について.	665
Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる.	642	24時間以上の連続使用について.	666
Corel WinDVDでDVDが再生できない.	644	本製品の改造、修理について.	667
Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない.	645	譲渡、廃棄について	668
Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる.	646	本製品の譲渡について.	669
アプリケーションをインストールできない.	648	本製品の廃棄方法について.	670
		パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意.	671
		パソコンの廃棄・譲渡時のSSD上のデータ消去に関するご注意.	673
		ハードディスクのデータ消去.	675
		仕様一覧など (Web専用コンテンツ)	678
		仕様一覧など (Web専用コンテンツ)	679

はじめに

[010000-27]

▶ はじめに.....	8
▶ 本マニュアルの表記について.....	9
▶ 「ユーザー アカウント制御」について.....	12
▶ デバイス マネージャの開き方.....	13
▶ サポート技術情報について.....	14
▶ ご注意.....	15

はじめに

[010001-00]

本マニュアルには、本機の機能についての説明、添付またはインストールされているアプリケーションの情報、トラブル発生時などの対応方法を記載したQ&A、アフターケアやサポートに関する情報など、本機を利用する上での情報が記載されています。

本マニュアルは、Windowsの基本的な操作がひと通りでき、アプリケーションなどのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に記載されています。

もし、あなたがコンピュータに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などでひと通り経験してから、本マニュアルをご利用になることをおすすめします。

本機の仕様、アプリケーションについては、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、下記のリンクよりお使いのモデルの「仕様一覧」をご覧ください。




<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

本マニュアルの表記について

[010003-27]

本マニュアルで使用しているアイコンや記号、アプリケーション名などの正式名称、表記について、下記をご覧ください。

■ 本マニュアルで使用しているアイコンの意味

アイコン	意味
 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
 参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれているところを示しています。

■ 本マニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、Windows 7	次のいずれかを指します。 <ul style="list-style-type: none">● Windows® 7 Professional 64ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows® 8 Proダウングレード)● Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows® 8 Proダウングレード)● Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1)
Windows 7 Professional	次のいずれかを指します。 <ul style="list-style-type: none">● Windows® 7 Professional 64ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows® 8 Proダウングレード)● Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows® 8 Proダウングレード)● Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1)
Windows 7 Professional 32ビット	<ul style="list-style-type: none">● Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows® 8 Proダウングレード)● Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1)
Windows 7 SP1	Windows® 7 Service Pack 1 (SP1)

Internet Explorer、Internet Explorer 10	Internet Explorer 10
Microsoft IME	Microsoft® IME
Windows Media Player	Microsoft® Windows Media® Player 12
Office Personal 2013	Microsoft Office Personal 2013
Office Home and Business 2013	Microsoft Office Home and Business 2013
Office Professional 2013	Microsoft Office Professional 2013
ウイルスバスター	ウイルスバスター クラウド™
Adobe Reader	Adobe® Reader® XI
NASCA	NEC Authentication Agent
Corel WinDVD	Corel® WinDVD®
PROSet/Wireless	インテル® PROSet/Wireless 接続ユーティリティ
インテル® AMT	インテル® Active Management Technology
YouCam 5 BE	CyberLink YouCam 5 BE

■ 本マニュアルで使用している表記の意味

本文中の表記	意味
本機、本体	本マニュアルの対象機種を指します。 特に周辺機器などを含まない対象機種を指す場合、「本体」と表記します。
光学ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ、またはDVD-ROMドライブを指します。書き分ける必要のある場合は、そのドライブの種類を記載します。
光学ドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブ、またはDVD-ROMドライブが搭載、または添付されているモデルを指します。
DVDスーパーマルチドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブが搭載、または添付されているモデルを指します。
DVD-ROMドライブモデル	DVD-ROMドライブが搭載、または添付されているモデルを指します。
SSDモデル	ハードディスクの代わりに、SSDが搭載されているモデルを指します。
無線LANモデル	無線LANが搭載されているモデルを指します。
無線WANモデル	docomo LTE「Xi（クROSSイ）」に接続可能な無線WANが搭載されているモデルを指します。
インテル® vPro テクノロジー対応モデル	次のモデルを指します。 ● 以下の型番の無線LANモデル VK27M/B-G、VJ27M/B-G
内蔵指紋センサ（ライン型）モデル	内蔵指紋センサ（ライン型）が搭載されているモデルを指します。

Office Personal 2013モデル	Office Personal 2013のセットアップ モジュールがあらかじめインストールされているモデルを指します。
Office Home and Business 2013モデル	Office Home and Business 2013のセットアップ モジュールがあらかじめインストールされているモデルを指します。
Office Professional 2013モデル	Office Professional 2013のセットアップ モジュールがあらかじめインストールされているモデルを指します。
アプリケーションディスク	Windows 7用の次のいずれかのディスクを指します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「アプリケーションディスク (64bit)」 ● 「アプリケーションディスク (32bit)」 利用しているOS用のディスクをご使用ください。
Corel WinDVD ディスク	「Corel WinDVD ディスク」または「Corel WinDVD / Roxio Creator LJB ディスク」を指します。
Roxio Creator LJB ディスク	「Corel WinDVD / Roxio Creator LJB ディスク」を指します。
BIOSセットアップユーティリティ	本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「Aptio Setup Utility」と表示されます。
「スタート」 ボタン	Windowsのタスク バーにある  を指します。
「スタート」 ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」	「スタート」 ボタンをクリックし、表示されたスタートメニューから「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」を順にクリックする操作を指します。
「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」	「スタート」 ボタンをクリックし、表示されたスタートメニューから「コントロール パネル」をクリックする操作を指します。また、コントロール パネルはカテゴリ表示された状態を指します。
【 】	【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。 【Ctrl】 + 【Y】と表記してある場合は、【Ctrl】 キーを押したまま【Y】 キーを押すことを指します。
『 』	『 』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。
ECOボタン	【Fn】 + 【F4】を指します。

■ 本マニュアルで使用している画面、記載内容について

- 本マニュアルに記載の図や画面は、モデルによって異なることがあります。
- 本マニュアルに記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

「ユーザー アカウント制御」について

[010005-07]

アプリケーションを起動したり、本機を操作したりしているときに「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。

「ユーザー アカウント制御」は、コンピュータウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」によって、本機のシステムに影響を及ぼす可能性のある操作が行われるのを防ぐため、これらの操作がユーザーが意図して行った操作によるものかを確認するためのものです。

「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、表示された内容をよく確認し、操作を行ってください。



チェック

「ユーザー アカウント制御」画面で管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーのパスワード入力が求められる場合があります。その場合は、画面の内容を確認し入力を行ってください。

デバイス マネージャの開き方

[010006-07]

デバイス マネージャを開く場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリック

3 「システム」の「デバイス マネージャ」をクリック

「デバイス マネージャ」が表示されます。

サポート技術情報について

[062900-00]

マイクロソフトで確認された問題の説明や解決方法がサポート技術情報として公開されています。
サポート技術情報を参照するには、「マイクロソフト サポート」にアクセスし該当する文書番号を入力して検索してください。

マイクロソフト サポート
<http://support.microsoft.com/>



チェック

サポート技術情報のタイトルや内容は変更される場合があります。

ご注意

[010004-27]

1. 本マニュアルの内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
2. 本マニュアルの内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 本マニュアルの内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、または121コンタクトセンターへご連絡ください。
4. 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、3項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
5. 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
6. 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス [UltraCareサービス] 対象機種に限り、当社の定めるサービス対象地域から日本への引取修理サービスを行います。
サービスの詳細や対応機種については、以下のホームページをご覧ください。

<http://121ware.com/navigate/rescue/ultracare/jpn/index.html>

7. 本機の内蔵ハードディスク（またはSSD）にインストールされているWindowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のDVD-ROM、CD-ROMは、本機のみでしかご使用になれません（詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください）。
8. ソフトウェアの全部または一部を著作権者の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
9. ハードウェアの保守情報をセーブしています。
10. 本製品には、Designed for Windows[®] programのテストにパスしないソフトウェアを含みます。
11. 本マニュアルに記載されている内容は制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

■ 輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。（ただし、海外保証サービス [UltraCareサービス] 対象機種については、日本への引取修理サービスを実施致します。）

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.

NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.

NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan. (Only some products which are eligible for Ultracare Services can be provided with acceptance service of repair inside Japan.)

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.

Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1:NEC Personal Computers, Ltd.

* * *

Microsoft、Windows、Aero、Internet Explorer、Windows MediaおよびWindowsのロゴは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

インテル、Intel、Celeron、Intel SpeedStep、インテル Core、およびインテル vProはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

Corel、WinDVD は Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。

© 2013 Corel Corporation. All Rights Reserved.

Adobe、およびReaderは合衆国およびその他の国におけるAdobe Systems Incorporatedの商標または登録商標です。

HDMI、High-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi CERTIFIEDロゴ、Wi-Fi CERTIFIED、WPAおよびWPA2は、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。

PS/2は、IBM社が所有している商標です。

DeviceProtector、SecureRedirectorおよびUltraLiteはNECパーソナルコンピュータ株式会社の登録商標です。

WebSAMは日本電気株式会社の登録商標です。

Access Connectionsは、米国とその他の国々のいずれかまたはその両方におけるLenovoの商標です。

「Xi」、「Xi/クロスシィ」および「Xi」ロゴは、株式会社NTTドコモの商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Personal Computers, Ltd. 2013

NECパーソナルコンピュータ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

各部の名称	18
電源	27
省電力機能	45
バッテリー	55
キーボード	72
NXパッド	78
マウス	89
液晶ディスプレイ	96
外部ディスプレイ	102
Webカメラ	131
ハードディスク	134
SSD	138
光学ドライブ	142
SDメモリーカードスロット	152
サウンド機能	157
LAN機能	161
無線LAN機能	173
無線WAN機能	207
モデム	232
USBコネクタ	249
PCカード	253
メモリ	258
セキュリティ機能	266
マネジメント機能	285

各部の名称

[020100-27]

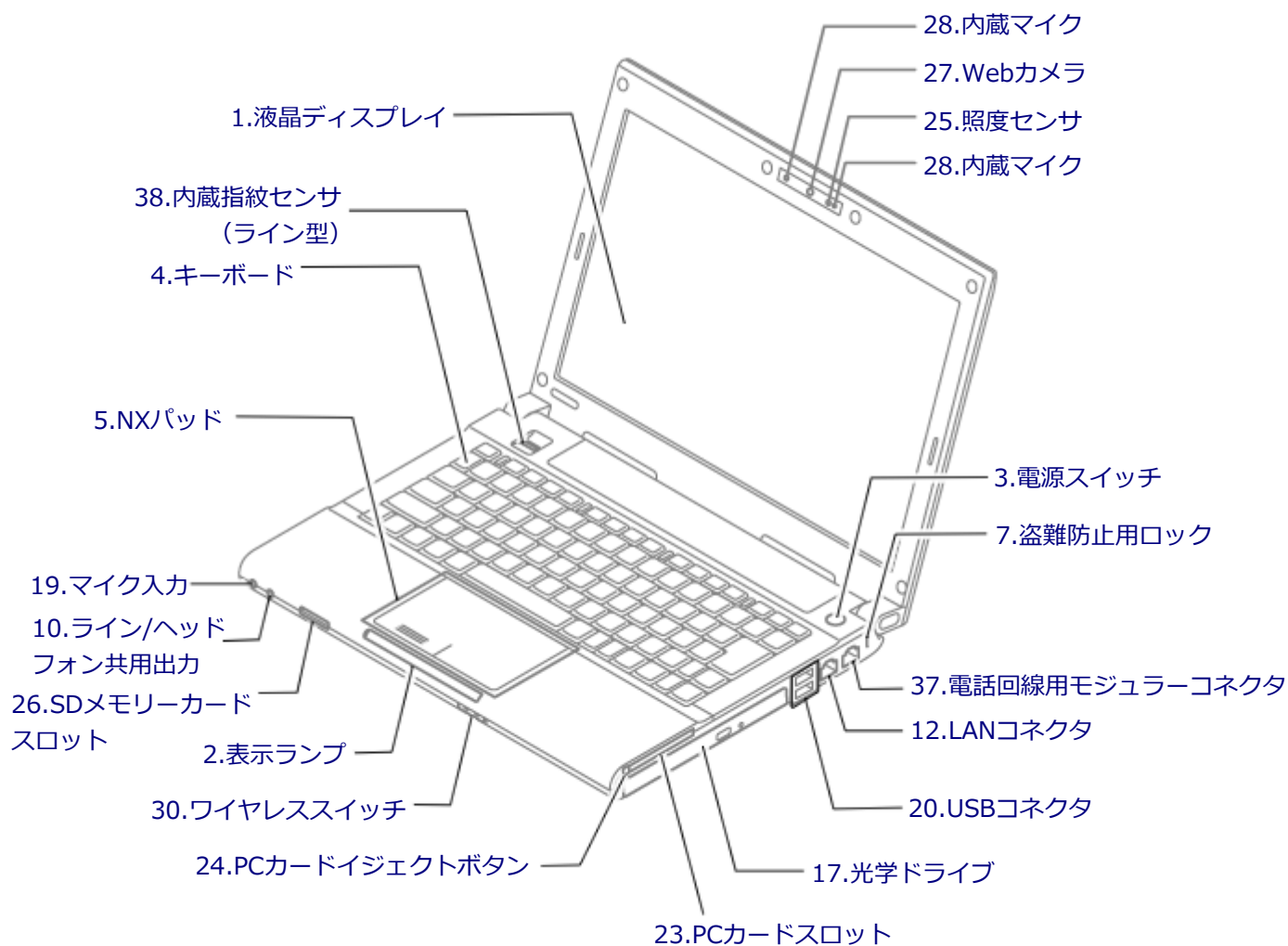
各部の名称と説明.....	19
表示ランプ.....	25

各部の名称と説明

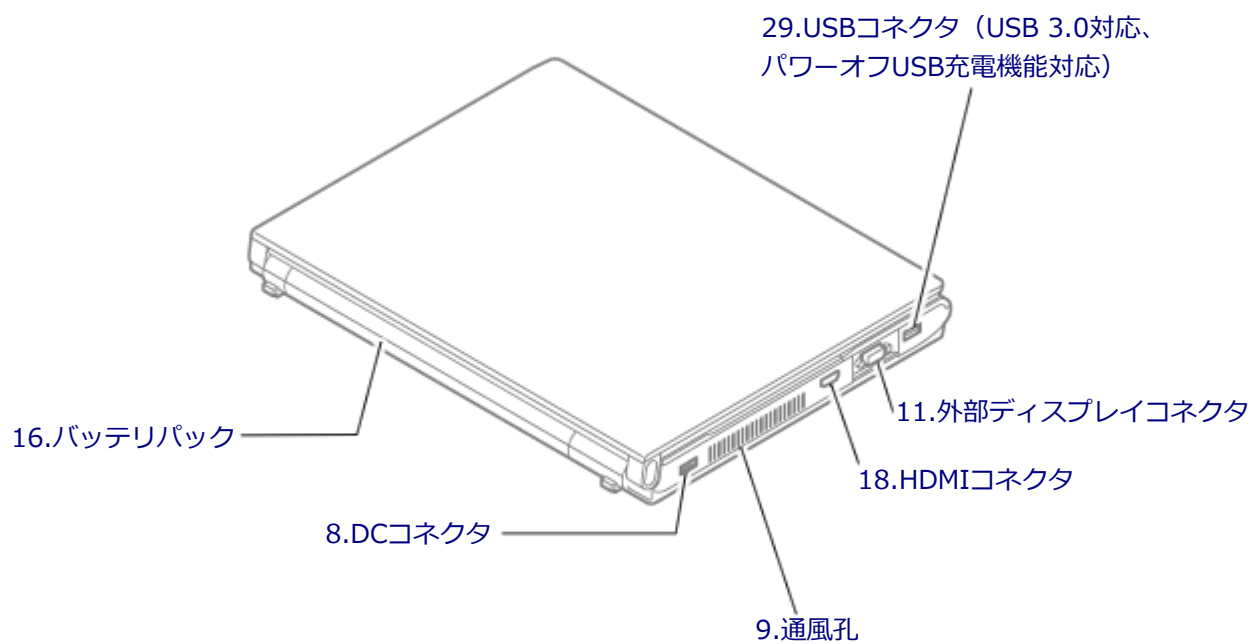
[020101-27]

各部の名称

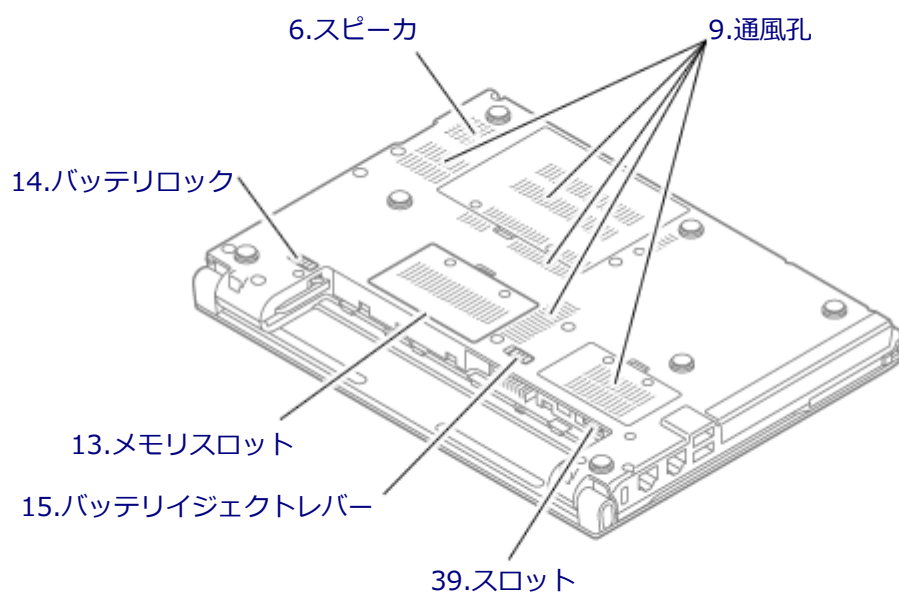
本体前面／右側面



本体背面／左側面



本体底面



■ 各部の説明

1.液晶ディスプレイ

本機のディスプレイです。
→「液晶ディスプレイ (P. 96)」

2.表示ランプ

本機の動作状態を表します。
→「表示ランプ (P. 25)」

3.電源スイッチ (⏻)

電源のオン/オフや電源状態の変更などで使用するスイッチです。
→「電源 (P. 27)」

4.キーボード

文字の入力や画面の操作をします。
→「キーボード (P. 72)」

5.NXパッド

Windowsでマウスカーソルの移動やクリックなどの操作をする際に使用します。
→「NXパッド (P. 78)」

6.スピーカ

内蔵のモノラルスピーカです。
→「サウンド機能 (P. 157)」

7.盗難防止用ロック (🔒)

別売のセキュリティケーブルを取り付けることができます。
→「セキュリティ機能 (P. 266)」

8.DCコネクタ (==)

添付のACアダプタを接続するための端子です。

9.通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔です。



チェック

布や手などでふさがないようにしてください。

10.ライン/ヘッドフォン共用出力 (🔊)

市販のヘッドフォンやオーディオ機器を接続し、音声を出力するための端子です。

→「サウンド機能 (P. 157)」

11.外部ディスプレイコネクタ (🖥️)

市販のディスプレイやプロジェクタを接続し、本機の画面を出力するための端子です。

→「外部ディスプレイ (P. 102)」

12.LANコネクタ (📶)

LAN (ローカルエリアネットワーク) に接続するための端子です。

→「LAN機能 (P. 161)」

13.メモリスロット

別売の増設RAMボード (メモリ) を取り付けるためのスロットです。

→「メモリ (P. 258)」

14.バッテリーロック (🔒🔋)

バッテリーパックが外れないように固定しているロックです。バッテリーパックを取り外すときはここを操作します。

→「バッテリー (P. 55)」

15.バッテリーイジェクトレバー (🔑🔋)

バッテリーパックを取り外す際に使用します。バッテリーロックを解除してから、ここを操作してください。

→「バッテリー (P. 55)」

16.バッテリーパック

AC電源が無い場所で本機を使用するための充電式電池です。

→「バッテリー (P. 55)」

17.光学ドライブ (光学ドライブモデルのみ)

お使いのモデルにより、DVDスーパーマルチドライブが内蔵されています。

DVD、CDなどのデータを読み出す装置で、モデルによってはDVD-RやCD-Rなどのディスクにデータを書き込むことができます。

→「光学ドライブ (P. 142)」

18.HDMIコネクタ (HDMI)

HDMI対応の大画面テレビや、HDMI端子を持つ外部ディスプレイなどを接続するためのコネクタです。
→「外部ディスプレイ (P. 102)」

19.マイク入力 (🎤)

市販のマイクロフォンを接続し、音声を入力するための端子です。
→「サウンド機能 (P. 157)」

20.USBコネクタ (🔌)

USB機器を接続するコネクタです。このUSBコネクタは、USB 2.0およびUSB 1.1の機器に対応しています。USB 2.0の転送速度を出すためには、USB 2.0対応の機器を接続する必要があります。
→「USBコネクタ (P. 249)」

23.PCカードスロット

市販のPCカードを使用するためのスロットです。
→「PCカード (P. 253)」

24.PCカードイジェクトボタン

PCカードスロットから、PCカードを取り出すときに使用します。
→「PCカード (P. 253)」

25.照度センサ

輝度の自動調整機能を使用するときに、周辺の明るさを検知するためのセンサです。
→「液晶ディスプレイ (P. 96)」

26.SDメモリーカードスロット (📁)

「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を読み書きするためのスロットです。
→「SDメモリーカードスロット (P. 152)」

27.Webカメラ

テレビ電話をするときなどに使用します。Webカメラ使用時は、Webカメラ横のランプが点灯します。
→「Webカメラ (P. 131)」

28.内蔵マイク

テレビ電話をするときなどに使用するマイクです。



チェック

このマイクを使用して録音している場合、録音している音を同時にスピーカなどで再生することはできません。

29.USBコネクタ（USB 3.0対応、パワーオフUSB充電機能対応）

USB機器を接続するコネクタです。このUSBコネクタは、USB 3.0、USB 2.0およびUSB 1.1の機器に対応しています。USB 3.0の転送速度を出すためには、USB 3.0対応の機器を接続する必要があります。

→「[USBコネクタ \(P. 249\)](#)」

またこのUSBコネクタは、パワーオフUSB充電機能に対応しています。USBケーブルを使って充電できる機器を充電するとき、このUSBコネクタでは電源が切れた状態でも充電できます。

この機能を使用するには、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューで設定が必要です。



参照

「Advanced」メニューの設定について

「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[Advanced](#)」メニュー (P. 303)」

30.ワイヤレススイッチ （無線LANモデル、または無線WANモデルのみ）

本機のワイヤレス機能（無線LAN機能、無線WAN機能）のオン/オフをするためのスイッチです。

→「[無線LAN機能 \(P. 173\)](#)」

37.電話回線用モジュラーコネクタ

電話回線に接続し、データ通信などを行うための端子です。

→「[モデム \(P. 232\)](#)」

38.内蔵指紋センサ（ライン型）（内蔵指紋センサ（ライン型）モデルのみ）

指紋認証機能で使用する内蔵指紋センサ（ライン型）です。

→「[指紋認証機能 \(P. 271\)](#)」

39.スロット（無線WANモデルのみ）

ドコモUIMカードを取り付けるためのスロットです。

→「[無線WAN機能 \(P. 207\)](#)」

表示ランプ

[020102-27]

🔌 電源ランプ

ランプの状態		本機の状態
青	点灯	電源が入っている
	点滅	スリープ状態
オレンジ	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅※1	スリープ状態でバッテリー容量が少ない
	速い点滅※2	バッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

※1 約3秒に1回点滅

※2 約2秒に1回点滅

🔋 バッテリー充電ランプ

ランプの状態		本機の状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー※1
消灯		ACアダプタが接続されていない、またはバッテリー充電完了※2

※1 バッテリー充電時のエラー、バッテリーの寿命、または劣化時にエラーとなります。

※2 すでにバッテリーが満充電されている場合や、満充電に近い状態の場合は、ランプが点灯せず、それ以上充電できない場合があります。

📁 SDメモリーカードスロットアクセスランプ

ランプの状態	本機の状態
緑点灯	SDメモリーカードスロットにセットしたメモリーカードにアクセス中
消灯	アクセスしていない

📁 ディスクアクセスランプ

ランプの状態	本機の状態
緑点灯	ハードディスク（またはSSD）や光学ドライブにアクセス中
消灯	ハードディスク（またはSSD）や光学ドライブにアクセスしていない

🏠 キャップスロックキーランプ

ランプの状態	本機の状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている（英字を入力すると大文字になります。）
消灯	【Caps Lock】がロックされていない（英字を入力すると小文字になります。）

🏠 スクロールロックキーランプ

ランプの状態	本機の状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

🏠 ニューメリックロックキーランプ

ランプの状態	本機の状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている (キーボードの一部がテンキーとして機能します。)
消灯	【Num Lock】がロックされていない

本機の電源の入れ方と切り方、スリープ状態や休止状態などについて説明しています。

▶ 電源の入れ方と切り方.....	28
▶ 電源の状態.....	30
▶ スリープ状態／休止状態使用上の注意.....	31
▶ スリープ状態.....	33
▶ 休止状態.....	36
▶ クイックパワーオン.....	38
▶ 電源の設定.....	41
▶ 電源の自動操作.....	44

電源の入れ方と切り方

[020301-27]

電源を入れる

電源を入れる際は、次の手順に従って正しく電源を入れてください。



チェック

- 光学ドライブなどにディスクがセットされた状態で電源を入れると、Windowsが起動しない場合があります。その場合は、セットされているディスクを取り出してから、電源を入れなおしてください。
- いったん電源を切った後で、電源を入れなおす場合は、電源を切ってから5秒以上間隔をあけて電源を入れてください。
- メモリを変更した場合、メモリの組み合わせによっては、初期化のために電源を入れてから画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- ユーザー選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

1 周辺機器の電源を入れる

2 本機の電源スイッチを押す

電源を切る

電源を切る際は、次の手順に従って正しく電源を切ってください。



チェック

- Windowsやアプリケーションの起動中や、アクセスランプなどが点灯している場合は、本機の電源を切らないでください。
- アプリケーションのエラーなどでWindowsの操作ができない場合の電源の強制切断方法については、「トラブル解決Q&A」の「電源」 - 「電源が切れない」 - 「強制的に電源を切る (P. 483)」をご覧ください。
- 通信を行っている場合は、通信が終了していることを確認してから電源を切ってください。通信中に電源を切ると、通信中のデータが失われる場合があります。

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 「スタート」ボタンをクリック

3 「シャットダウン」ボタンをクリック

シャットダウン処理終了後、電源が自動で切れます。



チェック

シャットダウン処理中は、電源スイッチを押さないでください。また、シャットダウン処理中に液晶ディスプレイを閉じると設定によってはスリープ状態または休止状態に移行してしまう場合があります。

4

電源ランプが消灯し、本機の電源が切れたことを確認したら、周辺機器の電源を切る



メモ

本機では、次回の起動を高速化するための機能「クイックパワーオン」が使用できます。クイックパワーオンを使用して本機を終了すると、次回の起動を高速化するためログオフしてから休止状態に移行します。



参照

- **クイックパワーオンについて**
「クイックパワーオン (P. 38)」
- **休止状態について**
「休止状態 (P. 36)」

電源の状態

[020302-27]

本機の電源の状態には次のように「電源が入っている状態」「スリープ状態」「休止状態」「電源が切れている状態」の4つの状態があります。

- **電源が入っている状態**

通常、本機を使用している状態です。

- **スリープ状態**

作業中のメモリの状態を保持したまま、ハードディスク（またはSSD）やディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリには電力が供給され、メモリの状態を保持しているため、すぐに作業を再開できます。

- **ハイブリッドスリープ**

スリープ状態に移行する際に、ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報をすべて保存するスリープ状態です。ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報が保存されているため、スリープ状態中に電源が切れた場合でもハードディスク（またはSSD）から復帰することができます。

- **休止状態**

メモリの情報をすべてハードディスク（またはSSD）に保存してから、本機の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元します。

- **電源が切れている状態**

本機の電源を完全に切った状態です。

電源の状態は、本機の電源ランプで確認することができます。



参照

電源ランプについて

「各部の名称」の「[表示ランプ \(P. 25\)](#)」

スリープ状態または休止状態を使用する場合の注意

- 本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがありますので、次のような場合は、スリープ状態または休止状態にしないでください。
 - プリンタへ出力中
 - 通信を行うアプリケーションを実行中
 - LANまたは無線LANを使用して、ファイルコピーなどの通信動作中
 - 音声または動画の再生中
 - ハードディスク（またはSSD）、DVD、CDなどにアクセス中
 - 「システムのプロパティ」画面を表示中
 - Windowsの起動／終了処理中
 - スリープ状態または休止状態に対応していないUSB機器、PCカード、コンパクトフラッシュカードなどの周辺機器やアプリケーションを使用中
- ハイブリッドスリープを使用しない設定にしている場合、スリープ状態のときに次のことが起きると、作業中のデータが失われますので、ご注意ください。
 - バッテリーのみで使用している状態で、バッテリーが切れた
 - バッテリー駆動に十分なバッテリー残量が無いときに、停電やACアダプタが抜けるなどの理由で、バッテリーのみで使用している状態になった
 - 電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切った
- スリープ状態または休止状態への移行、復帰などの電源状態の変更は、5秒以上の間隔をあけてから行ってください。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスリープ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめ、お使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。
- 通信を行うアプリケーションを使用中の場合は、通信を行うアプリケーションを終了させてから、休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。
- バッテリーのみで使用する場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー残量が少なくなってきた場合の本機の動作について設定しておくこともできます。



参照

バッテリーについて

「バッテリー」の「[バッテリーの使い方と設定 \(P. 63\)](#)」

- スリープ状態または休止状態への移行中は、各種ディスク、PCカード、SDメモリーカードなどの各種メモリーカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スリープ状態または休止状態中に、周辺機器の取り付けや取り外しなどの機器構成の変更を行うと、正常に復帰できなくなることがあります。

- PCカードを使用している場合、PCカードと接続されている機器の組み合わせによっては、正しく復帰できない場合があります。復帰後正しく認識されなかった場合は、PCカードの抜き差しまたは再起動を行ってください。スリープ状態または休止状態にする前にPCカードを取り外すことをおすすめします。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器（マウスまたはキーボード以外）を外してください。USB機器を接続した状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。
- スリープ状態時または休止状態時、スリープ状態または休止状態への移行中、スリープ状態または休止状態からの復帰中は、USB機器を抜き差ししないでください。
- 「電源オプション」で各設定を変更する場合は、管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。
- 光学ドライブにディスクをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにディスクから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、ディスクを取り出してください。
- 光学ドライブにPhoto CDをセットしたままスリープ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。
- スリープ状態または休止状態から復帰したときに、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイが逆になったり、外部ディスプレイの設定情報を読み込めない場合があります。外部ディスプレイを再設定してください。
- スリープ状態または休止状態からの復帰を行った場合、本体は復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合は、NXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- 次のような場合には、復帰が正しく実行されなかったことを表しています。
 - アプリケーションが動作しない
 - スリープ状態または休止状態にする前の内容を復元できない
 - NXパッド、キーボード、電源スイッチを操作しても復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用しているときは、スリープ状態または休止状態にしないでください。電源スイッチを押しても復帰できなかったときは、電源スイッチを4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。

この場合、BIOSセットアップユーティリティの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再度設定してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

スリープ状態

[020304-27]

作業中のメモリの内容を保持したまま、ハードディスク（またはSSD）やディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリには電力が供給され、内容が保持されているので、すぐに作業を再開できます。



チェック

- スリープ状態への移行およびスリープ状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔を空けて行ってください。
- 本機を長時間使用しない場合は電源を切るか、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続したうえでスリープ状態にしてください。バッテリーのみで長時間スリープ状態にしておくと、バッテリー残量がなくなることがあります。
- ハイブリッドスリープを使用しない設定にしている場合、スリープ状態でバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われたり、データが壊れたりすることがあります。

スリープ状態にする


工場出荷時の設定で、電源が入っている状態から手動でスリープ状態にするには、次の方法があります。

「スタート」ボタンからスリープ状態にする

1

「スタート」ボタンをクリック

2

「シャットダウン」ボタンの横の  をクリックし、表示されたメニューから「スリープ」をクリック

Windowsが終了し、スリープ状態になります。Windowsの終了処理中は電源スイッチを押さないでください。本機がスリープ状態になると、電源ランプが点滅します。

液晶ディスプレイを閉じる

電源スイッチを押す



チェック

電源スイッチでスリープ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れて、保存していないデータは失われてしまいます。

スリープ状態から復帰する

スリープ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するためには、次の方法があります。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。
- スリープ状態で長時間経過した場合やバッテリー残量が少なくなった場合、自動的に本機が休止状態になっている場合があります。その場合は、電源スイッチで復帰させてください。
- USBキーボードから復帰する際、復帰のために押したキーが複数回入力され、正しくパスワードが入力されずログオンできない場合があります。詳しくは、「トラブル解決Q&A」の「電源」-「USBキーボードから復帰する際に使用したキーが復帰後に入力されていることがある (P. 495)」をご覧ください。

電源スイッチを押す



チェック

電源スイッチを押して復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けしないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源が切れ、保存していないデータが失われます。

液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイを閉じてスリープ状態にした場合は、液晶ディスプレイを開くことでスリープ状態から復帰できます。

USBマウスを操作する

設定を行うことで、USBマウス接続時、USBマウスを操作することでスリープ状態から復帰できます。



チェック

USBマウス操作でスリープ状態から復帰できない場合は、他の方法でスリープ状態から復帰を行ってください。



参照

USBマウスでスリープ状態から復帰する/しないようにする設定について

「トラブル解決Q&A」の「電源」-「USBマウスでスリープ状態から復帰する/しないを設定したい (P. 494)」

ハイブリッドスリープ

スリープ状態に移行する際に、ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報をすべて保存するスリープ状態です。ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報が保存されているため、スリープ状態中に電源が切れた場合でもハードディスク（またはSSD）から復帰することができます。



チェック

- 工場出荷時は、ハイブリッドスリープを使用しない設定になっています。使用するには設定の変更が必要です。
- ハイブリッドスリープを使用する設定にした場合、「休止状態」の「休止状態にする」の手順で休止状態にできなくなります。ハイブリッドスリープを使用する設定のときに、直接、休止状態にしたい場合は、「電源の設定」の「[電源の状態を変更する操作の設定 \(P. 43\)](#)」の手順で休止状態にする操作を設定し、その操作により休止状態にしてください。



参照

電源プランの設定の変更について
「[電源の設定 \(P. 41\)](#)」

休止状態

[020305-27]

メモリの情報をすべてハードディスク（またはSSD）に保存し、本機の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元しますので、本機での作業を長時間中断する場合、消費電力を抑えるのに有効です。



チェック

休止状態への移行および休止状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔をあけて行ってください。



メモ

本機では、次回の起動を高速化するための機能「クイックパワーオン」が使用できます。クイックパワーオンを使用して本機を終了すると、次回の起動を高速化するためログオフしてから休止状態に移行します。



参照

クイックパワーオンについて
「クイックパワーオン (P. 38)」

休止状態にする

工場出荷時の設定で、電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の手順で行います。

1 「スタート」 ボタンをクリック

2 「シャットダウン」 ボタンの横の をクリックし、表示されたメニューから「休止状態」をクリック

休止状態への移行処理後、電源が自動で切れます。電源スイッチを押さないでください。本機が休止状態になると、電源ランプが消灯します。



チェック

ハイブリッドスリープを使用する設定にした場合、この方法で休止状態にすることはできません。直接、休止状態にしたい場合は、「電源の設定」の「[電源の状態を変更する操作の設定 \(P. 43\)](#)」の手順で休止状態にする操作を設定し、その操作により休止状態にしてください。



参照

電源プランの設定の変更について
「[電源の設定 \(P. 41\)](#)」

■ 休止状態から復帰する

休止状態から手動で電源が入っている状態に復帰するには、電源スイッチを押してください。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

クイックパワーオン

[020308-27]

本機では、次回の起動を高速化するための機能「クイックパワーオン」が使用できます。



チェック

- クイックパワーオンは、工場出荷時にはインストールされていません。
- インストールには光学ドライブが必要です。



参照

「クイックパワーオン」のインストールについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「クイックパワーオン (P. 432)」

使用上の注意

- クイックパワーオンを使用して本機を終了すると、次回の起動を高速化するためログオフしてから休止状態に移行します。クイックパワーオンを使用する場合は、休止状態の使用上の注意もあわせてご覧ください。



参照

休止状態の使用上の注意について

「スリープ状態/休止状態使用上の注意 (P. 31)」

- メモリやバッテリーパックの交換など、電源を切って行う作業のときや、本機の電源を切るように促された場合は、クイックパワーオンを使用せず、通常の手順で本機の電源を切ってください。
- Windows® Update、またはMicrosoft® Updateによる更新や、ドライバ、アプリケーションのインストールなどの操作を行った後に、本機の再起動が促された場合は、クイックパワーオンを使用せず、通常の手順で本機を再起動してください。
- 本機の状態、ハードウェアの構成によっては、クイックパワーオンを使用しても、起動が高速化されない場合があります。

クイックパワーオンを使用する

クイックパワーオンを使用し、次回の起動を高速化するには、次の手順で行います。

1

作業中のデータ、ファイルなどを保存し、アプリケーションを終了する



チェック

クイックパワーオンを実行すると、起動中のアプリケーションは終了されます。

2 「スタート」ボタン→「クイックパワーオンモード」をクリック

3 「クイックパワーオンモード 確認メッセージ」画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリック



メモ

- 「次回からこのメッセージを表示しない」にチェックを付けると、次回から「クイックパワーオンモード 確認メッセージ」画面は表示されません。
- 「クイックパワーオンモード 確認メッセージ」画面を再度、表示する場合は、「クイックパワーオンの設定を変更する (P. 39)」をご覧ください、設定を変更してください。



チェック

何度か画面が切り替わることがありますが、電源ランプが消灯するまで、そのままお待ちください。また、電源ランプが消灯するまでは、電源スイッチを押さないでください。

これで、次回の起動が高速化されます。

本機を起動する場合は、通常の手順と同様、電源ボタンを押してください。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

クイックパワーオンの設定を変更する

「スタート」メニューに「クイックパワーオンモード」を追加する

「スタート」メニューに「クイックパワーオンモード」がない場合は、次の手順で追加できます。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「クイックパワーオンモード」→「スタートメニューに追加」をクリック

確認画面が表示されます。

2 「OK」ボタンをクリック

「スタート」メニューに「クイックパワーオンモード」が追加されます。

クイックパワーオン使用時の確認メッセージを再度表示するように設定する

クイックパワーオンを使用するときに表示される確認メッセージを非表示にした場合、次の手順でメッセージを再度表示するように設定できます。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「クイックパワーオンモード」→「メッセージ再表示」をクリック**

確認画面が表示されます。

- 2 「OK」ボタンをクリック**
-

電源の設定

[020306-27]

電源の設定は、Windowsの「電源オプション」で行います。

「電源オプション」では、あらかじめ設定されている電源プランから使用するプランを選択するほか、新規のプランを作成することができます。

また、プランごとに電源の状態を変更する操作の設定や、電源の状態が変更されるまでの時間を設定することができます。

電源プランの選択

設定されている電源プランから選択する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 表示されているプランから使用したいプランを選択する

表示されているプラン以外から選択したい場合は、「追加のプランを表示します」をクリックし、表示されたプランから選択してください。

4  ボタンをクリック

以上で電源プランの選択は完了です。

電源プランの設定の変更

すでに登録されている電源プランの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 設定を変更したいプランの「プラン設定の変更」をクリック

4 表示された画面で設定を行う

電源の種類ごとに設定できます。

項目	説明
ディスプレイを暗くする	指定した時間、何も入力がない場合、ディスプレイの輝度を下げます。

ディスプレイの電源を切る	指定した時間、何も入力がない場合、ディスプレイの電源を切ります。
コンピューターをスリープ状態にする	指定した時間、何も入力がない場合、本機がスリープ状態になります。
プランの明るさを調整	ディスプレイの輝度を設定します。



チェック

設定時間を変更したときに、「コンピューターをスリープ状態にする」時間が「ディスプレイの電源を切る」時間よりも短くならないように、設定時間が自動的に変更される場合があります。個別に設定する場合は「詳細な電源設定の変更」をクリックして設定してください。



メモ

- 「詳細な電源設定の変更」をクリックすると、電源プランごとに詳細な設定が行えます。
- 「このプランの既定の設定を復元」を選択すると、設定値が既定の値に戻ります。

5 「変更の保存」 ボタンをクリック

以上で電源プランの設定の変更は完了です。

電源プランの作成

新規の電源プランを作成する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」 をクリック

2 「システムとセキュリティ」 をクリックし、「電源オプション」 をクリック

3 左のメニューから「電源プランの作成」 をクリック

4 表示される電源プランから作成したいプランに近いプランを選択する

5 「プラン名」 欄に作成する電源プラン名を入力し、「次へ」 ボタンをクリック

6 表示される画面で設定を行う

7 「作成」 ボタンをクリック

以上で電源プランの作成は完了です。

作成した電源プランは、「[電源プランの選択 \(P. 41\)](#)」の手順で選択できます。

電源の状態を変更する操作の設定

電源スイッチを押す、液晶ディスプレイを閉じるなどの操作により移行する電源の状態を変更する場合は、次の手順で行います。



チェック

この手順で設定を行った場合、現在登録されているすべての電源プランの設定が変更されます。電源プランごとに設定を行いたい場合は、それぞれの電源プランの設定画面の「詳細な電源設定の変更」から行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」の「電源ボタンの動作の変更」をクリック

3 「電源ボタンとカバーの設定」欄で、動作を設定する

- 電源スイッチを押すことで移行する電源の状態を設定する場合
「電源ボタンを押したときの動作」欄で設定します。
- 液晶ディスプレイを閉じることで移行する電源の状態を設定する場合
「カバーを閉じたときの動作」欄で設定します。



チェック

工場出荷時の設定は次のようになっています。

- 「電源ボタンを押したときの動作」：「スリープ状態」
- 「カバーを閉じたときの動作」：「スリープ状態」

4 「変更の保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

電源の自動操作

[020307-27]

タイマ、LANからのアクセス（WoL）、電話回線からのアクセス（リング機能）によって、自動的に電源の操作を行うことができます。



チェック

タイマ、FAXモデムの自動操作によるスリープ状態からの復帰を行った場合、本体はスリープ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、NXパッドなどのポインティングデバイス进行操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

タイマ機能（電源オプション）

設定した時間を経過しても、NXパッドやキーボードからの入力やハードディスク（またはSSD）へのアクセスなどが無い場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スリープ状態、休止状態にすることができます。

工場出荷時は次のように設定されています。

使用している電源	電源プランの名称	ディスプレイの電源を切る	ハードディスク（またはSSD）の電源を切る	スリープ状態にする	休止状態にする
ACアダプタ	標準	約10分	約10分	約25分	なし
バッテリー		約2分	約3分	約5分	約15分



メモ

工場出荷時は、省電力のためスリープ状態になるように設定してあります。

WoL（LANによる電源の自動操作）

LAN経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。



参照

WoLについて

「LAN機能」の「リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能（P. 169）」

リング機能（FAXモデムによる電源の自動操作）

本機では、FAXや電話を受信した場合にスリープ状態から復帰することができます。

本機の省電力機能について説明しています。

▶ 省電力機能について.....	46
▶ ECOモード機能.....	47
▶ ピークシフト機能.....	51
▶ Intel SpeedStep® テクノロジー.....	54

省電力機能について

[020401-27]

Windowsには、一定時間本機を使用していない場合などに電源の状態を変更し、消費電力を抑えるように設定できる電源管理機能があります。

また、Windowsの電源管理機能に加え、本機には次の省電力機能があります。

- **ECOモード機能**

ECOボタン を押すことで、簡単にECOモード機能のモードを切り替えることができます。

- **ピークシフト機能**

設定した時間帯の間、バッテリーにより動作し、AC電源の使用を抑えることで、電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を他の時間帯に移行することができます。

また、お使いのモデルによっては次の機能があります。

- **Intel SpeedStep® テクノロジー**

処理の負荷などによって、CPUの動作性能を切り替える機能です。対応したCPUが搭載されているモデルでのみ利用できます。



参照




- **Windowsの電源管理機能について**
「電源 (P. 27)」
- **ECOモード機能について**
「ECOモード機能 (P. 47)」
- **ピークシフト機能について**
「ピークシフト機能 (P. 51)」
- **Intel SpeedStep® テクノロジーについて**
「Intel SpeedStep® テクノロジー (P. 54)」

ECOモード機能

[020402-27]

本機では、3つの省電力設定から利用シーンにあわせて、最適な設定に切り替えることができます。工場出荷時の設定では、ECOモード機能で切り替えることのできるモードには次の3つがあり、「標準」が選択された状態になっています。

◆モードの種類

モード	通知領域のアイコンおよび色	説明
高性能	 (青)	CPU速度を高速に保ち、時間が経過してもスリープ状態に移行しないモードです。電源プランは「高性能」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は56%に設定されています。
「標準」	 (水色)	本機のを速度を優先させる設定ですが、操作がない状態で一定の時間が経過した場合、スリープ状態に移行します。電源プランは「標準」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は56%に設定されています。
ECO	 (緑)	電力をもっとも節約する設定で、標準よりも早い時間でスリープ状態に移行します。電源プランは「ECO」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は10%に設定されています。



チェック

- 表中のアイコンは工場出荷時の設定のもので、実際に表示されるアイコンはモードに割り当てている電源プランにより異なります。
- Windowsのログオン画面が表示されている場合、ECOボタン、または設定したホットキーを押してもモードは変更されません。
- 電源プランの自動切替の実行中は、ECOボタンや設定したホットキーでの電源モードの切り替えはできません。
- 省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。

モードを切り替える

1 ECOボタンを押す

設定されているモードが表示され、以後、ECOボタンを押すごとに、モードが切り替わります。




参照

キーの使い方について

「キーボード」の「キーの使い方 (P. 75)」



チェック

- 現在のモードは、タスクバーの通知領域のをクリックすると表示されるアイコンで確認できます。また、通知領域に表示されたアイコンを選択し、クリックをしてもモードを切り替えることができます。
- 指定したホットキーに、モードの切り替えの機能を割当てすることもできます。
「ホットキーの設定 (P. 49)」

ECOモード機能の設定

モードの設定の変更

ECOモード機能で切り替える各モードの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

2 表示される画面で設定を行う

- **電源プラン**
それぞれのモードに割り当てる電源プランを選択します。
- **「詳細設定」ボタン**
モードごとの電源プランをカスタマイズできます。
「詳細設定」画面の「初期設定に戻す」ボタンをクリックすることで、各モードの設定を工場出荷時の状態に戻せます。
- **「初期設定に戻す」ボタン**
3つのモードと電源プランの組み合わせを、工場出荷時の設定に戻します。

3 「OK」ボタンをクリック



チェック

- ECOボタンの各モードに設定している電源プランを削除した場合、削除した電源プランを選択していたモードには「設定なし」が設定されます。
- ディスプレイの自動輝度調整を有効にしている場合、ECOボタンの「詳細設定」で設定したディスプレイの明るさが、実際の明るさと異なることがあります。
- 「初期設定に戻す」ボタンで工場出荷時の設定に戻したときに、工場出荷時の設定で使用している電源プランが削除されていた場合も「設定なし」が設定されます。

以上で設定は完了です。

自動切替設定

電源プランを自動的に切り替える期間と時間帯の設定ができます。
設定した時間帯に応じて、本機の電源プランを変更し、消費電力を抑えることができます。



チェック

電源プランの自動切替の実行中は、ECOボタンや設定したホットキーでの電源モードの切替はできません。


1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

2 「電源モード自動切替の設定」ボタンをクリック

「ECOモード設定ツール(自動切り替え設定)」画面が表示されます。

3 自動切替の設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
時間帯によりモード2またはモード3に切り替える	チェックを付けると、時間帯に応じて、電源プランを切り替えます。
使用期間	電源プランの自動切り替えを使用する期間の開始日、終了日を設定します。それぞれの欄の▼をクリックし、表示されるカレンダーから日付を選択してください。 さらに、各モードに時間帯を設定して電源プランの自動切替を実行します。設定した時間帯は、使用できる電源プランが制限されます。  をクリックし、開始時刻、終了時刻を設定します。

4 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

ホットキーの設定

ECOボタンとは別に、モードの切り替えに使用するホットキーを1つ設定できます。ホットキーの設定は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

2 「ホットキーの設定」ボタンをクリック

3 使用するホットキーを選択し、「OK」ボタンをクリック



メモ

- ホットキーには、次のキーが設定できます。
 - 【Alt】 + 【F1】 ~ 【F3】
 - 【Alt】 + 【F5】 ~ 【F12】
 - 【Ctrl】 + 【F1】 ~ 【F12】
- 「初期設定に戻す」ボタンをクリックすると、ホットキーの設定を工場出荷時の状態に戻します。

以上で設定は完了です。

ピークシフト機能

[020405-27]

電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を、他の時間帯に移行することをピークシフトといいます。本機は、「ピークシフト設定ツール」で設定を行うことで「ピークシフト機能」を使用できます。

■ 使用上の注意

- ピークシフト機能の実行には、ACアダプタおよびバッテリーパックが接続されている必要があります。
- ピークシフト機能の実行には、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」がインストールされている必要があります。
- ピークシフト機能実行中に ACアダプタまたはバッテリーパックを取り外したり、本機をスリープ状態や、休止状態にする、シャットダウンを行うとピークシフト機能は中断します。
- ピークシフト機能の設定はユーザーごとに設定可能ですが、同時に実行できるピークシフト機能は1つのみです。ユーザーの切り替えを使用して複数のユーザーがログオンしている状態で、いずれかのユーザーが設定したピークシフト機能が実行中の場合、他の設定によるピークシフト機能は正常に動作しません。
- ピークシフト機能実行中に「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」でバッテリーのリフレッシュを実行すると、ピークシフト機能が正常に動作しないことがあります。
- 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」で、著しい劣化と診断され「警告」と表示されたバッテリーは充電できません。ただちに新しいバッテリーパックに交換してください。また、劣化したバッテリーのまま、ピークシフト機能を使用しないでください。
- テキストやその他の項目の大きさを変更している場合、「ピークシフト設定ツール」の設定項目が表示されない場合があります。その場合は、次の手順でテキストなどの大きさを変更してから、設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「デスクトップのカスタマイズ」をクリック

3 「ディスプレイ」の「テキストやその他の項目の大きさの変更」をクリック

4 「小-100%」を選択し「適用」ボタンをクリック

5 ログオフを促すメッセージが表示されたら、「今すぐログオフ」ボタンをクリック

Windowsからログオフします。

ログオン画面が表示されたら、ログオンしなおしてください。

- 「バッテリー駆動に切り換える」「バッテリーへの充電を控える」の時間帯を長時間に設定した場合、バッテリーの充電量が不足します。バッテリーの充電時間が最低5時間は確保されるように「バッテリー駆動に切り換える」「バッテリーへの充電を控える」の時間帯を19時間以上には設定しないようにしてください。
- バッテリーへの充電を行わない時間の開始・終了は、本機の運用状況により若干の誤差が発生する場合があります。

ピークシフト機能の設定






ピークシフト設定ツールで、ピークシフト機能に関する各種設定を行うことができます。
ピークシフト機能の設定は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ピークシフト設定ツール」→「ピークシフト設定ツール」をクリック

「ピークシフト設定ツール」が表示されます。

2 ピークシフト機能の設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
使用期間	ピークシフト機能を使用する期間の開始日、終了日を設定します。 それぞれの欄の  をクリックし、表示されるカレンダーから日付を選択してください。
バッテリー駆動に切り換える (更にバッテリー充電を控える)	チェックを付けると、時間帯を指定してピークシフト機能を使用します。 ● 「開始」「終了」  をクリックし、開始時刻、終了時刻を設定します。「バッテリーへの充電を控える」にチェックを付けている場合、設定可能な時間帯は「バッテリーへの充電を控える」で設定している時間帯の範囲内になります。
バッテリーの残容量が次を切ったら、AC電源駆動に切り換えます。	ピークシフト実施中に、バッテリー駆動からAC電源による駆動に切り換えるバッテリーの残容量を10%~100%の間で設定します。  をクリックし、設定を行ってください。
バッテリー駆動する開始時間をランダムに分散させる。	チェックを付けると、バッテリー駆動を開始/終了する時間を分散させます。  チェック 終了時間の分散により設定画面で設定した終了時間を越えることがあります。
バッテリーへの充電を控える	チェックを付けると、設定した時間帯はバッテリー充電を行いません。 ● 「開始」「終了」  をクリックし、バッテリーへの充電を控える時間帯の開始時刻、終了時刻を設定します。
スリープ、電源オフ中に、AC電源からバッテリーへ充電を行なわない。	チェックを付けると、ピークシフト実施中に本機がスリープ状態や休止状態、電源オフになってもバッテリーの充電を行いません。
バッテリーへの充電スピードをゆっくりにします。	チェックを付けると、ピークシフト実施中にバッテリーの充電を行う際（スリープ状態や休止状態、電源オフ時）の充電電流を控えます。
ECOモードの設定を起動	ECOモード設定ツールが表示されます。 供給電力不足が予想される時間帯に、本機の電源プランをECOモードに切り替えて、PCの消費電力を抑えるように設定できます。

設定変更には管理者権限が必要

チェックを付けると、管理者（Administrator）権限を持つユーザーのみが、ピークシフト機能の設定を変更できるようになります。



参照

ECOモード自動切替設定について
「ECOモード機能 (P. 47)」

3 「OK」 ボタンをクリック

設定が保存され、「ピークシフト設定ツール」が閉じます。





メモ

「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を変更しないで「ピークシフト設定ツール」画面を閉じます。

以上でピークシフト機能の設定は完了です。

ピークシフト機能の動作状況は、ピークシフトの実施時間になるとタスクバーの通知領域に表示されるアイコンで確認できます。

通知領域のアイコン	説明
	ピークシフトが実施され、バッテリーのみで動作しています。
	バッテリー残量が「ピークシフト停止バッテリー残容量」以下、またはバッテリーパックが取り付けられていないなどの理由で、AC電源で動作しています。

Intel SpeedStep® テクノロジー

[020404-27]

Intel SpeedStep® テクノロジーに対応したCPUが搭載されているモデルでは、電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。

Intel SpeedStep® テクノロジーへの対応については、下記のリンクよりお使いのモデルの「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

設定を変更する場合は、「電源プランの設定の変更」の手順3で「詳細な電源設定の変更」をクリックし、表示される画面の「プロセッサの電源管理」の各項目で設定を行います。



参照

電源プランの設定の変更について

「電源の設定」 - 「電源プランの設定の変更 (P. 41)」

本機のバッテリーパック（二次電池）の使い方やバッテリーリフレッシュ、バッテリーパックの取り付け／取り外しなどについて説明しています。

▶ バッテリーパック（二次電池）について.....	56
▶ 使用上の注意.....	57
▶ バッテリーパックの取り付け／取り外し.....	58
▶ バッテリーの充電.....	62
▶ バッテリーの使い方と設定.....	63
▶ バッテリーリフレッシュ.....	65
▶ バッテリー・リフレッシュ&診断ツール.....	67

バッテリーパック（二次電池）について

[020501-27]

- 本機に使用しているリチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。不要になった二次電池は、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。
- バッテリーについてはJEITA（一般社団法人 電子情報技術産業協会）の「バッテリー関連Q&A集」（<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14>）もあわせてご覧ください。
- 二次電池をリサイクルとして排出するまでのご注意
 - 電池パックは分解しないでください。
 - 雨など水にぬれないように保管してください。
 - 炎天下に放置しないでください。
- 不要となった二次電池は、回収拠点へお持ちください。詳しくは、NEC環境ホームページ（<http://jpn.nec.com/eco/ja/product/recycle/battery/index.html>）をご覧ください。



使用上の注意

[020502-27]

- バッテリーが十分に充電されている場合は、特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
- ハードディスク（またはSSD）などへの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスク（またはSSD）などのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。
- 充電を行う際にはできるだけ満充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- バッテリー残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリーリフレッシュを実行してください。
- 満充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態）にしても使用できる時間が短くなった場合は、バッテリーリフレッシュを行ってください。



参照

バッテリーリフレッシュについて

「[バッテリーリフレッシュ \(P. 65\)](#)」

- 本機を長期間使用しない場合は、バッテリー残量を50%程度にしてバッテリーパックを取り外し、涼しいところに保管しておくことでバッテリーの寿命を長くすることができます。
- バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、スリープ状態や休止状態を利用したり、本機の省電力機能を使用してください。



参照

- **スリープ状態／休止状態について**

「[電源 \(P. 27\)](#)」

- **省電力機能について**

「[省電力機能 \(P. 45\)](#)」

- バッテリーは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2~3か月に一度は充電することをおすすめします。

交換の目安

バッテリーリフレッシュを行っても、満充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態）から使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。



チェック

バッテリーは消耗品です。充放電を繰り返すと、充電能力が低下します。



参照

バッテリーパックの交換について

「[バッテリーパックの取り付け／取り外し \(P. 58\)](#)」

バッテリーパックの取り付け／取り外し

[020503-27]



チェック

- バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因になります。
- 電源が入っているときや、スリープ状態にバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ (🔌) が点滅しているときには、一度スリープ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。
- 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

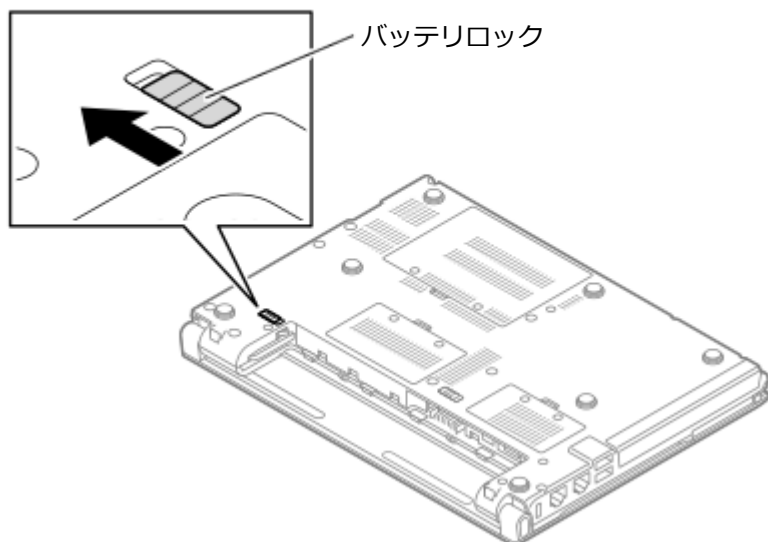
本機で使用できるバッテリーパック

本機で使用できるバッテリーパックは次の通りです。

- PC-VP-BP90 (バッテリーパック (M) (リチウムイオン))
- PC-VP-BP91 (バッテリーパック (L) (リチウムイオン))

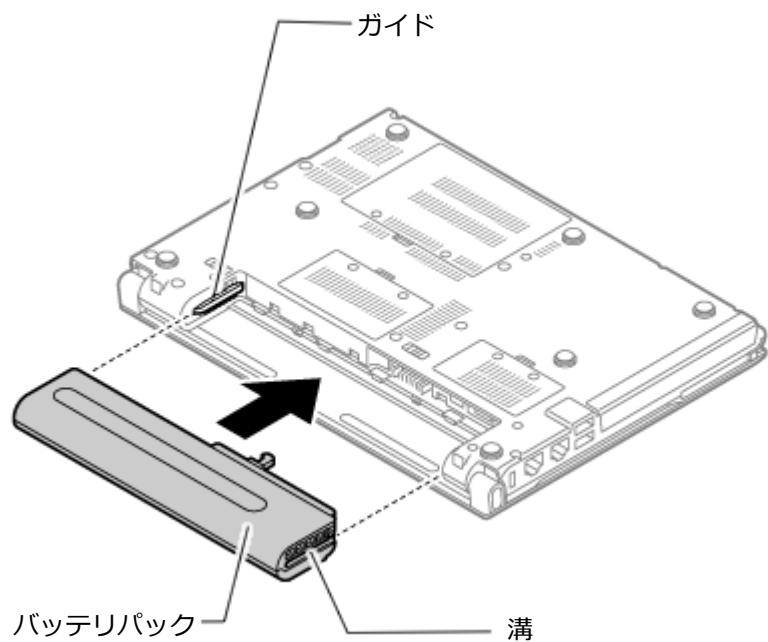
バッテリーパックの取り付け

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリロックを矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除した状態にする

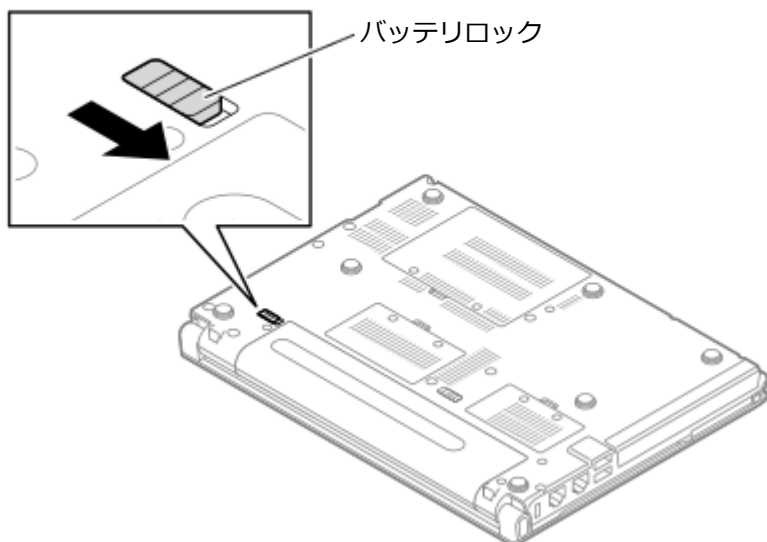


5 バッテリーパックの両側の溝と本体のガイドを合わせて、矢印の方向にゆっくりとスライドさせ、カチッと音がするまでしっかりと取り付ける

取り付けるときは、バッテリーパックの向きに注意してください。



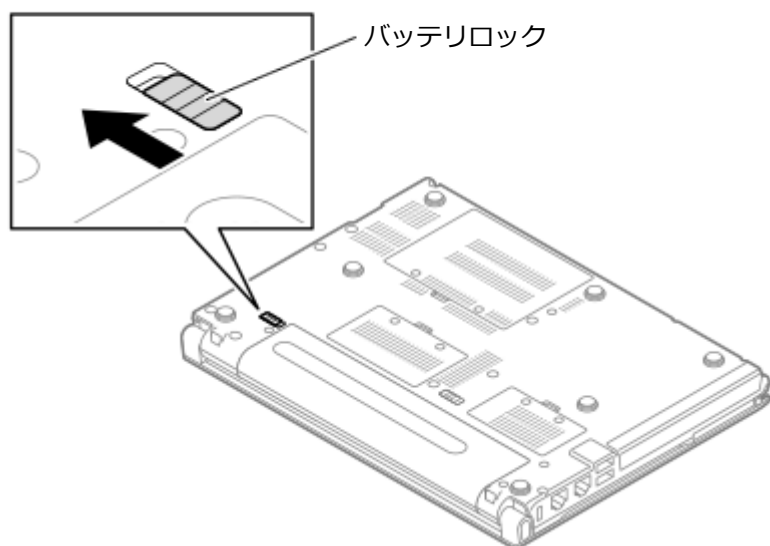
6 バッテリーロックを矢印の方向にスライドさせ、バッテリーパックをロックする



以上でバッテリーパックの取り付けは完了です。

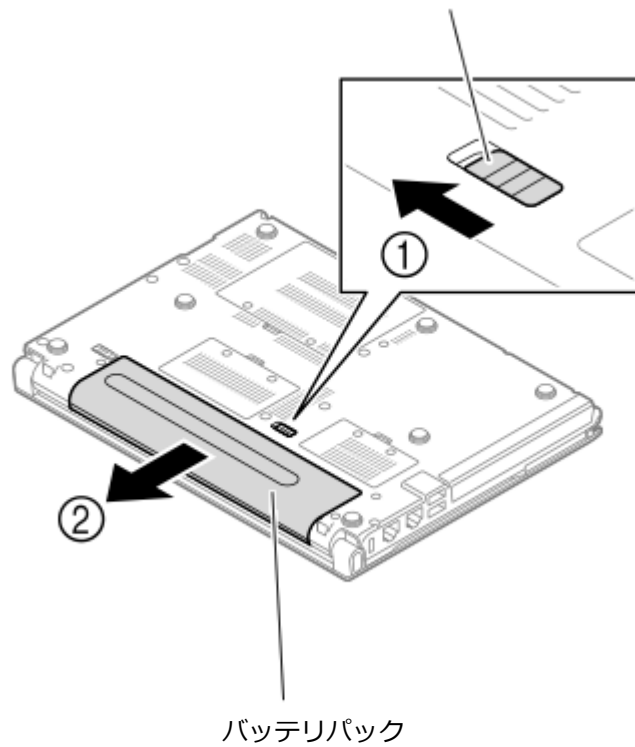
■ バッテリーパックの取り外し

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4** バッテリーロックを矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除する



5 バッテリJECTレバーを矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせ取り外す

バッテリーJECTレバー



以上でバッテリーパックの取り外しは完了です。

バッテリーの充電

[020504-27]



チェック

- バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- 購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ず満充電してから使用してください。

バッテリーの充電のしかた

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。本機の電源を入れて使用していても充電されます。



メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

バッテリーの充電時間については、下記のリンクよりご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプで確認することができます。



参照

バッテリー充電ランプについて
「表示ランプ (P. 25)」



バッテリーの使い方と設定

[020505-27]

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は次の方法で確認できます。

タスクバーの通知領域で確認する

タスクバーの通知領域の  または  の上にマウスポインタを合わせると、現在のバッテリー残量と電源プランが表示されます。

電源ランプで確認する

電源ランプの状態で、バッテリー残量を確認できます。



参照

電源ランプについて

「表示ランプ (P. 25)」

バッテリー残量による動作の設定

バッテリー残量が一定の値以下になったときに通知したり、自動的にスリープ状態や休止状態になるように設定できます。



チェック

- 工場出荷時の状態では、バッテリー残量が10%以下になったときに通知し、5%以下になったときに再度通知し、自動的に休止状態になるように設定されています。
- バッテリー残量による動作は、電源プランごとに設定します。

バッテリー残量による動作の設定を変更するには、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 設定を変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリック

4 「詳細な電源設定の変更」をクリック

5 「バッテリー」をダブルクリック

6 「バッテリー」以下に表示される項目で設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
バッテリー切れの操作	バッテリー残量が「バッテリー切れのレベル」以下になったときに行う動作を設定します。
バッテリー低下のレベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、「バッテリー低下の操作」を開始します。
バッテリー切れのレベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、「バッテリー切れの操作」を開始します。
バッテリー低下の通知	バッテリー残量が「バッテリー低下のレベル」以下になったときに通知するかどうかを設定します。
バッテリー低下の操作	バッテリー残量が「バッテリー低下のレベル」以下になったときに行う操作を設定します。
省電源移行バッテリー レベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、Windowsが省電源モードで動作するようになります。

7 「OK」 ボタンをクリック

以上で設定の変更は完了です。

■ バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなった場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。バッテリー充電ランプが点灯し、バッテリーの充電が始まります。また、バッテリーを充電しながら本機を使用できます。

ACコンセントが使えない場合

本機を休止状態にするか、使用中のアプリケーションを終了して本機の電源を切ってください。

バッテリー残量が少ない状態で、ACコンセントから電源を供給しないまま本機を使用していると、バッテリー残量に応じて電源プランで設定されている動作が実行されます。

バッテリーリフレッシュ

[020506-27]

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のような場合には、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- バッテリーでの駆動時間が短くなった
- 購入直後やバッテリーパック交換直後、また長期間バッテリーを使用しなかったため、バッテリーの性能が一時的に低下している
- バッテリーの残量表示に誤差が生じている

バッテリーリフレッシュの実行



メモ

本機は、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」でWindows上からバッテリーリフレッシュを実行することができます。



参照

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールについて
「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール (P. 67)」

BIOSセットアップユーティリティからバッテリーリフレッシュを実行するには、次の手順で行います。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**
- 2 バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける**
- 3 本機にACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードのプラグをACコンセントに接続する**
- 4 バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリーパックを本体から外して、再度取り付ける**
- 5 バッテリーを満充電（バッテリー充電ランプが消灯した状態）する**
- 6 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す**

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

7 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

8 「Exit」メニューの「Battery Refresh」を選択し、【Enter】を押す

9 「Do you want to refresh battery?」と表示されたら、「Yes」を選択し【Enter】を押す
バッテリーリフレッシュが始まります。



チェック

バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。

バッテリーリフレッシュが完了しバッテリー内の電力がなくなると、自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

以上でバッテリーリフレッシュは完了です。

■ バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断するには、次の方法があります。

- **【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 を押す**

本機が再起動します。

- **電源スイッチを押す**

本機の電源が切れます。

- **【Esc】 を押す**

選択画面が表示されるので、【↑】【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選択し、【Enter】を押してください。
バッテリーリフレッシュが中断し、本機が再起動します。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツール

[020507-27]

「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を使用することで、バッテリーリフレッシュと性能診断、バッテリーリフレッシュと診断の自動実行ができます。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの起動

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの起動は次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」→「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」をクリック

2 バッテリーリフレッシュや性能診断についての概要を説明する画面が表示された場合は、「次へ」ボタンをクリック



メモ

- 「起動時にこの画面を表示しない」にチェックを付けてから「次へ」ボタンをクリックすると、概要説明画面を次の起動時から表示しなくなります。
- 概要説明画面は、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を起動して、「はじめにお読みください」ボタンをクリックしても表示されます。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールや診断結果については、バッテリー・リフレッシュ&診断ツールを起動し、「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されるヘルプをご覧ください。

バッテリーリフレッシュと性能診断を実行する

バッテリーリフレッシュと性能診断は、次の手順で行います。



チェック

バッテリーリフレッシュと性能診断を行う場合には、本機にバッテリーパックとACアダプタが接続されている必要があります。

1 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を起動する

2 「開始」ボタンをクリック

確認画面が表示されます。

3 内容を確認し、「はい」ボタンをクリック

バッテリーリフレッシュが開始されます。
バッテリーリフレッシュ終了後、性能診断が行われます。



メモ

確認画面、および実行中の画面で「終了後、自動的にスリープ状態にする」にチェックを付けると、バッテリーリフレッシュと性能診断が終了した後、本機がスリープ状態になります。



チェック

- バッテリーリフレッシュを中断する場合は、「中止」ボタンをクリックし、画面の指示に従ってください。また、バッテリーリフレッシュを中断した場合、性能診断は行われません。
- 「バッテリー状態」に「劣化」と表示された場合、バッテリーパックの交換をおすすめします。
- 「バッテリー状態」に「警告」と表示された場合、バッテリーパックを交換してください。また、バッテリーパックへの充電やバッテリーリフレッシュは、安全のため行えなくなります。

バッテリーリフレッシュと性能診断を自動実行する

バッテリーリフレッシュと性能診断の自動実行は、次の手順で設定します。



チェック

バッテリーリフレッシュと性能診断を自動実行する場合には、設定した時間に本機が以下の状態であることが必要です。

- ACアダプタとバッテリーパックが接続されている。
- 電源がシャットダウンされていない（起動中、スリープ状態、休止状態の場合は実行可能です）。
- 管理者（Administrator）権限を持たないユーザーで自動実行を設定した場合、設定したユーザーでログオンしている。
- 管理者（Administrator）権限を持ち、Windows パスワードを持たないユーザーで自動実行を設定した場合、設定したユーザーでログオンしている。

1 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を起動する

2 「次回開始日時の設定」ボタンをクリック

3 「次回の実行日時を指定する」を選択し、実行時間を設定する

必要に応じて以下の項目も設定してください。

- 「Windows パスワード」
Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、この欄にパスワードを入力する
- 「終了後、自動的にスリープ状態にする」
自動実行終了後、本機をスリープ状態にする場合にはチェックを付ける



チェック

管理者（Administrator）権限を持たないユーザーで設定を行っている場合、「Windows パスワード」欄は表示されません。

4 「OK」ボタンをクリック

以上でバッテリーリフレッシュと性能診断の自動実行の設定は完了です。

バッテリーパックの充電モードを設定する

バッテリーパックの充電モードを設定できます。



チェック

充電モードの設定は、バッテリー・リフレッシュ&診断ツールでのみ変更可能です。



メモ

現在取り付けているバッテリーパックの充電モードは、バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの「現在のモード」欄で確認できます。

1 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を起動する

2 「充電モードの設定」ボタンをクリック

3 設定するモードを選択する

設定可能なモードは次のとおりです。

モード	説明
フル充電モード	100%まで充電する通常モードです。
8割充電モード	充電を80%までにすることで、バッテリーパックの劣化を抑えるモードです。
5割充電モード	50%まで充電します。バッテリーパックを取り外して保管する場合に使用します。

4 「OK」ボタンをクリック

以上で充電モードの設定は完了です。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールのアンインストール

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールのアンインストールは、次の手順で行います。



チェック

アンインストールは管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック
- 3 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック
- 4 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツールをアンインストールしますか？」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリック

以上でバッテリー・リフレッシュ&診断ツールのアンインストールは完了です。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの再インストール

アンインストールした「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を再インストールする場合は、次の手順で行います。



チェック

- インストールには光学ドライブが必要です。
- インストールは管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。

- 1 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥NECBATT¥Setup.exe



メモ

光学ドライブがDドライブ以外の場合は、先頭の「D」を、お使いの光学ドライブのドライブ文字に置き換えて入力してください。

- 4 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール セットアップ ウィザードへようこそ」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

5 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツールファイル使用中」画面が表示された場合は、「NEC Battery Refresh Utility-Scheduler (Process Id: XXXX)」をクリックし、「継続」ボタンをクリック

6 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、「はい」ボタンをクリック

Windowsが自動的に再起動します。



チェック

メッセージが表示されない場合は、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動してください。

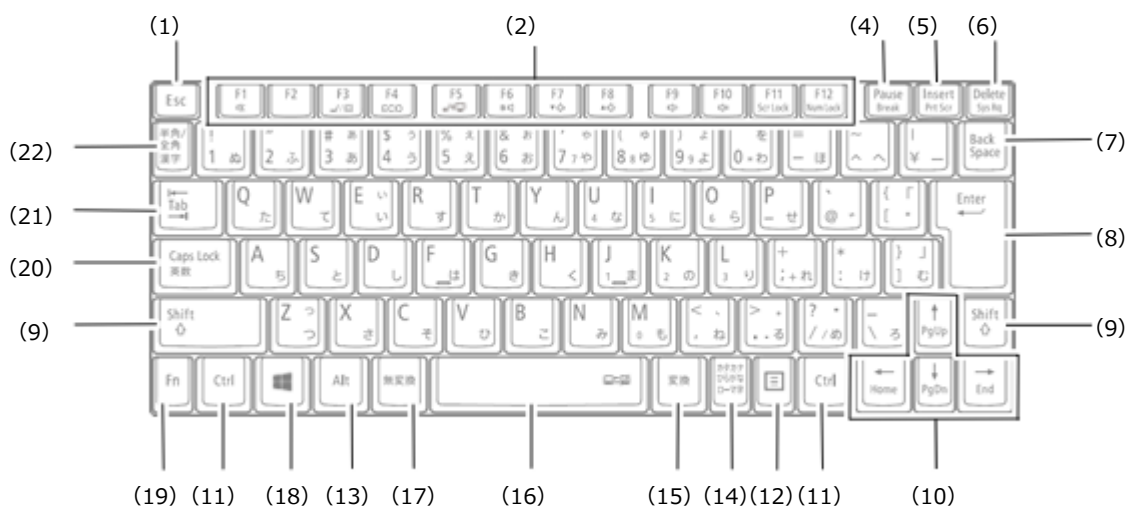
以上で「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」の再インストールは完了です。

本機のキーボードのキーの名称や、キーの使い方について説明しています。

▶ キーの名称.....	73
▶ キーの使い方.....	75
▶ キーボードの設定.....	77

キーの名称

[020603-27]



番号	マニュアルでの表記	名称
(1)	【Esc】	エスケープキー
(2)	【F1】～【F12】	ファンクションキー
(4)	【Pause】	ポーズキー
(5)	【Insert】	インサートキー
(6)	【Delete】	デリートキー
(7)	【Back Space】	バックスペースキー
(8)	【Enter】	エンターキー（リターンキー）
(9)	【Shift】	シフトキー
(10)	【↑】【↓】【→】【←】	カーソルキー
(11)	【Ctrl】	コントロールキー
(12)	【  】	アプリケーションキー
(13)	【Alt】	オルトキー
(14)	【カタカナ ひらがな】	かなキー
(15)	【変換】	変換キー
(16)	スペースキー	スペースキー
(17)	【無変換】	無変換キー
(18)	【  】	Windowsキー
(19)	【Fn】	エフエヌキー
(20)	【Caps Lock】	キャップスロックキー

(21)	【Tab】	タブキー
(22)	【半角/全角】	半角/全角キー

日本語入力のオン/オフ

本機は、工場出荷時、日本語入力システムとしてMicrosoft IMEが設定されています。工場出荷時の状態で日本語入力のオン/オフを切り替えるには【半角/全角】または【Caps Lock】を押してください。また、入力を行う際の操作方法については、Microsoft IMEのヘルプをご覧ください。

● Microsoft IMEのヘルプ



Microsoft IMEの言語バーの「ツール」→「ヘルプ」→「目次とキーワード」をクリック

ホットキー機能（【Fn】の使い方）

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは【Fn】と同じ色でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機能	説明
【Fn】 + 【F1】	音声のオン/オフ (ミュート機能) (🔇)	音声のオン/オフを切り替えます。
【Fn】 + 【F3】 ※1 ※4	画面表示先の切り替え (🖥️/🖨️)	外部ディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、画面の表示先を切り替えます。詳しくは「画面出力先切替ツール (P. 126)」をご覧ください。
【Fn】 + 【F4】 ※9	ECOボタン (ECO)	キーを押すごとにECOモードを切り替えます。詳しくは「ECOモード機能 (P. 47)」をご覧ください。
【Fn】 + 【F5】 ※4 ※10	Intel® WiDiでの外部ディスプレイの接続/切断、および機能の無効化 (🖥️🔌)	Intel® WiDiでの外部ディスプレイの接続/切断、および機能の無効化を行います。詳しくは「外部ディスプレイ」の「Intel® WiDi (P. 111)」をご覧ください。
【Fn】 + 【F6】 ※2	ビープ音の調節 (🔊)	ビープ音のオン/オフを設定します。
【Fn】 + 【F7】	輝度を下げる (🔻🌞)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が下がります (11段階)。
【Fn】 + 【F8】	輝度を上げる (🔼🌞)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が上がります (11段階)。
【Fn】 + 【F9】	音量を下げる (🔊🔇)	スピーカの音量を下げます。
【Fn】 + 【F10】	音量を上げる (🔊🔊)	スピーカの音量を上げます。
【Fn】 + 【F11】 ※2	スクロールロック	【Scr Lock】として機能します。
【Fn】 + 【F12】	ニューメリックロック	キーを押すごとに、ニューメリックロックキーランプの点灯/消灯が切り替わります。

		ニューメリックロックキーランプが点灯しているときは、キーボードの一部がテンキーとして機能します。
【Fn】 + 【Insert】	プリントスクリーン	【Prt Scr】として機能します。
【Fn】 + 【Pause】	Break	【Break】として機能します。
【Fn】 + 【Delete】	システムリクエスト	【Sys Rq】として機能します。
【Fn】 + 【↑】	Page Up	【PgUp】として機能します。
【Fn】 + 【↓】	Page Dn	【PgDn】として機能します。
【Fn】 + 【←】	Home	【Home】として機能します。
【Fn】 + 【→】	End	【End】として機能します。
【Fn】 + スペースキー ※11	NXパッドのオン/オフ (☐:☑)	NXパッドのオン/オフを切り替えます。
【Fn】 + 	右Windows	右  として機能します。

※1 外部ディスプレイを接続していない場合は動作しません。

※2 本機の電源を切ったり、再起動を行った場合、設定した内容は解除されます。

※4 「画面出力先切替ツール」をアンインストールした場合は動作しません。

※9 「ECOモード設定ツール」をアンインストールした場合は動作しません。

※10 「Intel® WiDi」をインストールする必要があります。

※11 NXパッドのドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に変更した場合は動作しません。

キーボードの設定

[020605-27]

Windowsでキーボードをより使いやすく設定することができます。



参照

キーボードの設定について

Windowsのヘルプ

本機のNXパッドの使い方や拡張機能の設定、NXパッドのドライバを変更する方法などについて説明しています。

➤ NXパッドの使い方.....	79
➤ NXパッドの設定.....	80
➤ NXパッドのドライバを変更する.....	84
➤ NXパッドドライバへ戻す.....	86

NXパッドでの操作

工場出荷時の状態で使用できるNXパッドでの操作には、次のようなものがあります。

操作名称	操作説明
マウスポインタの移動	パッドに触れ、マウスポインタを動かしたい方向に指を動かします。
クリック	パッドの右下以外の部分を押し込んで、すぐに離します。
右クリック	パッドの右下部分を押し込んで、すぐに離します。または、パッドの2カ所に触れた状態でパッドを押し込み、すぐに離します。
ダブルクリック	アイコンやフォルダなどの上にポインタを合わせてからクリックの操作を2回続けてすばやくクリックします。
ドラッグ	アイコンやフォルダなどの上にポインタを合わせ、パッドを押し込んだままパッド上で指を動かします。
スクロール	スクロールバーが表示されているアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。触れる位置は少し離してください。 そのまま、スクロールバーを動かしたい方向に2本の指を動かします。
ズーム	拡大／縮小の操作を行いたいアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。 そのまま、指先の間を広げたり狭めたりすることで、拡大／縮小ができます。
回転	回転の操作を行いたいアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。 そのまま、2つの指をひねるように回転させます。



チェック

スクロールやズーム、回転は、対応していないアプリケーションでは使用できません。



メモ

- パッドを指先で軽くたたくとクリックと同じ操作になります。また、2回続けてすばやくパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。パッドを軽くたたいてクリックやダブルクリックの操作をすることを「タップ」や「ダブルタップ」と呼びます。
- クリックボタンを使わずに、ポインタを合わせた状態でパッドを軽くたたき、もう一度パッドに触れた状態で指を動かしてもドラッグの操作になります。

NXパッドの設定

[020803-27]

NXパッドのボタンやポインタの動作などの設定は「マウスのプロパティ」で行います。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」の各タブをクリックし、NXパッドの設定ができます。

マルチタッチやジェスチャーなどの機能の設定

マルチタッチやジェスチャー、スクロールなどの機能の設定は、「マウスのプロパティ」の「デバイス設定」タブから「デバイス設定」画面を表示して行います。

「デバイス設定」画面の表示は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

3 「デバイス設定」タブをクリック

4 「デバイス」欄で「Synaptics ClickPad V8.1 / PS/2 ポート」を選択し、「設定」ボタンをクリック

NXパッドの「デバイス設定」画面が表示されます。


設定できる項目


「デバイス設定」画面では、次の項目の設定ができます。

項目	説明
複数の指によるジェスチャー	有効にすると、複数の指を使って行うスクロールやズームなどの操作が使用可能になります。それぞれの機能の有効/無効については、以下の項目で設定してください。
2本指でのスクロール	有効にすると、2本指を使ったスクロール機能が使用できます。設定画面では、水平、垂直スクロールの有効/無効やスクロール方向、速度などが設定できます。

つまみズーム	有効にすると、2本指を使ったズーム機能が使用できます。 設定画面ではズーム速度が設定できます。
回転	有効にすると、2本指を使った回転機能が使用できます。 設定画面では回転を行うジェスチャーの設定ができます。
3本指で押す	有効にすると、3本指でパッドに触れたままにすることで、アプリケーションを起動することができます。 起動するアプリケーションは設定画面で指定できます。
3本指で弾く	有効にすると、3本指でパッドを弾くジェスチャーが使用できます。このジェスチャーがどのように機能するかは、アプリケーションにより異なります。
4本指で弾く	有効にすると、4本指でパッドを弾くジェスチャーが使用できます。このジェスチャーは次のように機能します。 <ul style="list-style-type: none"> ● デスクトップ画面で上に弾くとアプリケーション選択画面が表示されます。 ● 下に弾くとデスクトップ画面が表示されます。 ● 水平方向に弾くとアプリケーションが切り替わります。
スクロール	有効にすると、パッドの右端や下端をなぞることでスクロールができるスクロール領域が使用できます。 設定画面ではスクロール領域の設定やスクロール速度などが設定できます。
ポインティング	ヘルプのみです。
感度	設定画面でパッドの感度が設定できます。
Momentum (モーメントム)	有効にすると、指を払うように動かしたときに、マウスポインタが大きく動くようになります。 設定画面では、移動距離や画面端での動作を設定できます。
エッジ モーション	有効にすると、指がパッドの端に達してもマウスポインタが動き続けるようになります。 設定画面ではエッジ モーションが有効になる領域や操作、速度が設定できます。
ユーザー補助	マウスポインタが動く範囲の制限や、マウスポインタの速度や動く方向を制限するキーを設定できます。
SmartSense	誤って手がパッドに触れた時などに、ポインタが誤動作しないようにする感度を設定できます。
タップ	有効にすると、タップ操作が使用できます。 設定画面ではタップによるドラッグ操作やパッドの4隅をタップして特定の動作をさせるタップゾーンの設定ができます。
クリック	有効にすると、パッドを押し込む操作がクリックとして機能します。 設定画面では、複数の指で触れて押し込んだときの動作や右下を押したときの動作を設定できます。
クリック & ドラッグ	ヘルプのみです。クリックやドラッグなどの操作のヘルプを表示します。
概要	ヘルプのみです。この設定画面のヘルプを表示します。
特許内容	ヘルプのみです。特許や商標などの情報を表示します。


項目によっては、選択すると操作イメージなどが右側に表示されます。

それぞれの項目の設定画面を表示するには、設定画面を表示する項目を選択し、 をクリックしてください。

項目のヘルプを見る場合は、項目を選択し、 をクリックしてください。また、設定画面のヘルプは、設定画面の「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されます。



メモ

- 右側に表示されている操作イメージの動画をダブルクリックすると、操作イメージの動画が全画面表示されます。全画面表示を元に戻す場合は【Esc】を押してください。
- 項目を有効にしていない場合は、設定画面は表示できません。
- 選択しても、 が表示されない場合、その項目に設定画面はありません。

工場出荷時の設定に戻す

NXパッドの設定を工場出荷時の状態に戻す場合は、次の手順で行います。

1 「デバイス設定」画面の「デバイス」欄で「Synaptics ClickPad V8.1 / PS/2 ポート」を選択し、「設定」ボタンをクリック

NXパッドの「デバイス設定」画面が表示されます。

2 「デフォルト」ボタンをクリック

確認の画面が表示されます。



メモ

「3本指で押す」機能で指定したアプリケーションは変更されません。必要に応じて指定をしておいてください。

NXパッドのオン/オフ

[Fn] + スペースキーを押すことで、NXパッドのオン/オフを切り替えることができます。

また、USBマウスを接続しているときに、NXパッドが自動的に無効になるように設定できます。

設定する場合は、次の手順で行ってください。



メモ

工場出荷時の状態では、「USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」にチェックは付いていません。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

3 「デバイス設定」タブをクリック

4 「USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」にチェックを付ける

5 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

NXパッドのドライバを変更する

[020804-27]

他社製のUSBマウスを使用する際など、NXパッドのドライバをOS標準のドライバ（標準 PS/2 ポート マウス、または標準 PS/2 互換マウス）に変更する場合は、次の手順で行ってください。



チェック

- 管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。
- 使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く

2 「マウスとそのほかのポインティング デバイス」をダブルクリック

3 「NX PAD」をダブルクリック

4 「ドライバー」タブをクリックし、「ドライバーの更新」ボタンをクリック

「ドライバー ソフトウェアの更新 - 「NX PAD」」が表示されます。

5 「コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します」をクリック

6 「コンピューター上のデバイス ドライバーの一覧から選択します」をクリック

7 「モデル」欄から「標準 PS/2 ポート マウス」または「標準 PS/2 互換マウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

必要なファイルがコピーされます。

「ドライバー ソフトウェアが正常に更新されました。」と表示されます。



チェック

- 「モデル」欄に「標準 PS/2 ポート マウス」または「標準 PS/2 互換マウス」が表示されない場合
「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外し、「製造元」欄から「(標準マウス)」を選択し、「モデル」欄から「標準 PS/2 ポート マウス」または「標準 PS/2 互換マウス」を選択してください。
- 「モデル」欄に「標準 PS/2 ポート マウス」または「標準 PS/2 互換マウス」が複数表示されている場合
一番上の「標準 PS/2 ポート マウス」または「標準 PS/2 互換マウス」を選択してください。

8 「閉じる」 ボタンをクリック

9 「閉じる」 ボタンをクリック

「システム設定の変更」が表示されます。

10 「はい」 ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でNXパッドのドライバの変更は完了です。

NXパッドドライバへ戻す

[020805-27]

他社製のUSBマウスを使用する際など、NXパッドのドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に変更した場合、NXパッドの拡張機能を使用するには、次の手順でドライバをNXパッドドライバへ戻してください。



チェック

- 管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。
- 使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く
- 2 「マウスとそのほかのポインティング デバイス」をダブルクリック
- 3 「標準 PS/2 ポート マウス」をダブルクリック
- 4 「ドライバー」タブをクリックし、「ドライバーの更新」ボタンをクリック
- 5 「コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します」をクリック
- 6 「コンピューター上のデバイス ドライバーの一覧から選択します」をクリック
- 7 「モデル」欄から「NX PAD」を選択する



チェック

- 「モデル」欄に「NX PAD」が表示されていない場合は、次の手順を行ってください。

1 「ディスク使用」ボタンをクリック

2 参照から次のフォルダを開く

- Windows 7 Professional 64ビットをお使いの場合

「C:¥DRV¥NXPADS¥WinWDF¥x64」

- Windows 7 Professional 32ビットをお使いの場合

「C:¥DRV¥NXPADS¥WinWDF¥x86」

3 「OK」ボタンをクリック

4 「NX PAD」を選択する

- 「モデル」欄に「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

8 「次へ」ボタンをクリック

必要なファイルがコピーされます。

この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。コピーが完了すると、「ドライバー ソフトウェアが正常に更新されました。」と表示されます。

9 「閉じる」ボタンをクリック

10 「閉じる」ボタンをクリック

「システム設定の変更」画面が表示されます。

11 「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

再起動後、NXパッドの拡張機能が有効になります。



チェック

再起動後、ポインタが動かない場合は、次の手順で、キーボードを使用して本機を再起動してください。

1 (Windowsキー) を押す

「スタート」メニューが表示されます。

2 を2回押す

3 で表示されたメニューから「再起動」を選択し、 を押す

本機でマウスを使用する場合の設定について説明しています。

▶ マウスを使用する.....	90
▶ マウスを接続するための設定方法.....	92
▶ マウスを接続する前の設定に戻す.....	94

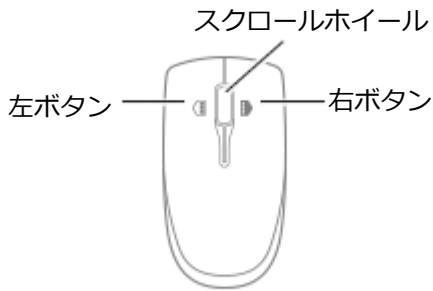
マウスを使用する

[020902-27]

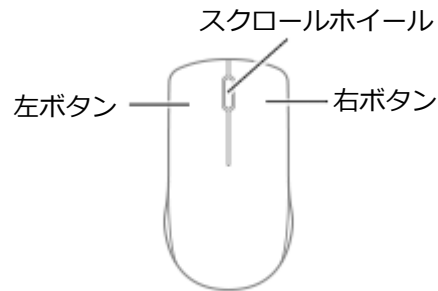
本機では、USB接続のマウスを使用することができます。使用するマウスによっては、設定が必要になる場合がありますので、「マウスを接続するための設定方法」をご覧ください。

購入時に、マウスを選択した場合に添付されるマウスを例として説明します。

USBレーザーマウス



USB光センサーマウス



チェック

USBレーザーマウスやUSB光センサーマウスは、マウス底面に光源があり、それをセンサーで検知することでマウスの動きを判断しています。次のような表面では正しく動作しない（操作どおりにマウスポインタが動かない）場合があります。

- 反射しやすいもの（鏡、ガラスなど）
- 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの（雑誌や新聞の写真など）
- 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの
- USB光センサーマウスの場合、光沢があるもの（透明、半透明な素材を含む）



参照

- **マウスを接続するための設定方法**
「本機の機能」の「マウス」 - 「マウスを接続するための設定方法 (P. 92)」
- **マウスの使い方**
Windowsのヘルプ

スクロールホイールの使い方



チェック

スクロールホイールの機能に対応していないアプリケーションでは使用できません。

USBレーザーマウスの場合

- **垂直スクロール機能**

スクロールホイールを奥または手前方向に回転させることで、画面を上下にスクロールさせることができます。

- **水平スクロール機能**

スクロールホイールを左または右側に傾けると、画面を左右にスクロールさせることができます。

- **オートスクロール機能**

スクロールホイールをクリックしたり、押し続けるとスクロールアイコンが表示されます。

その状態で、三角マークの方向にマウスを動かして、画面を上下、または左右にスクロールさせることができます。

スクロールホイールを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

USB光センサーマウスの場合

- **垂直スクロール機能**

スクロールホイールを奥または手前方向に回転させることで、画面を上下にスクロールさせることができます。

- **オートスクロール機能**

スクロールホイールをクリックしたり、押し続けるとスクロールアイコンが表示されます。

その状態で、三角マークの方向にマウスを動かして、画面を上下、または左右にスクロールさせることができます。

スクロールホイールを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

マウスを接続するための設定方法

[020903-27]

当社製USBマウス（添付または別売）を使用する

当社製USBマウス（添付または別売）を使用する場合は、特に設定を行う必要はありません。そのままUSBコネクタに接続してください。

工場出荷時の状態では、当社製USBマウスとNXパッドを同時に使用できます。



メモ

- USBマウス接続時にNXパッドが無効になるようにする場合は、「マウスのプロパティ」→「デバイス設定」タブで「USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」にチェックを付けてください。
- NXパッドを使用しない場合は、BIOSの設定でNXパッドを無効にできます。「[他社製のUSBマウスを使用する \(P. 92\)](#)」を参照してください。

他社製のUSBマウスを使用する

他社製のUSBマウスを使用する場合は、NXパッドのドライバをOS標準のドライバ（標準 PS/2 ポート マウス）へ変更してから、他社製USBマウスに添付のマニュアルをご覧ください。手順に従ってUSBマウスを接続してください。



チェック

- NXパッドドライバをOS標準のドライバに変更することで、他社製のUSBマウスとNXパッドを同時に使用できますが、NXパッドの拡張機能や【Fn】 + スペースキーでのNXパッドのオン/オフは利用できません。
- ドライバの変更を行う場合は、次の点に注意してください。
 - 管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。
 - 使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。
 - マウスポインタが動かない場合は、次の手順で、キーボードを使用して本機を再起動してください。

1 (Windowsキー) を押す

「スタート」メニューが表示されます。

2 を2回押す

3 で表示されたメニューから「再起動」を選択し、 を押す



メモ

NXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニュー→「Device Configuration」の「Internal Mouse」を「Disabled」に設定してください。



参照

- **NXパッドのドライバを変更する**
「NXパッド」の「[NXパッドのドライバを変更する \(P. 84\)](#)」
- **NXパッドを無効にする**
 - 「システム設定」の「[BIOSセットアップユーティリティについて \(P. 296\)](#)」
 - 「システム設定」の「[設定項目一覧](#)」 - 「[「Advanced」メニュー \(P. 303\)](#)」

マウスを接続する前の設定に戻す

[020904-27]

マウスを取り外すとき、「マウスを接続するための設定方法 (P. 92)」で変更する前の設定に戻す (NXパッドの拡張機能を使用する) 場合は、次の操作を行ってください。

当社製USBマウス (添付または別売) を使用している場合

そのままUSBコネクタから取り外してください。



メモ

BIOSの設定でNXパッドを無効にした場合は、「他社製のUSBマウスを使用している場合」と同様に、NXパッドを有効に戻してください。

他社製のUSBマウスを使用している場合



チェック

ドライバの変更を行う場合は、次の点に注意してください。

- 管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。
- 使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。
- マウスポインタが動かない場合は、次の手順で、キーボードを使用して本機を再起動してください。

1 (Windowsキー) を押す

「スタート」メニューが表示されます。

2 を2回押す

3 で表示されたメニューから「再起動」を選択し、 を押す



メモ

- BIOSの設定でNXパッドを無効にした場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューで次の設定を行い、NXパッドを有効に戻してください。「Device Configuration」の「Internal Mouse」を「Enabled」に設定する
- NXパッドのドライバをOS標準のドライバ (標準 PS/2 ポート マウス) から、NXパッドドライバに戻すと、NXパッドの拡張機能が利用できるようになります。



参照

- **NXパッドドライバへ戻す**
「NXパッド」の「NXパッドドライバへ戻す (P. 86)」
- **NXパッドを有効にする**
 - 「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」
 - 「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「Advanced」メニュー (P. 303)」

液晶ディスプレイ

[021100-27]

本機の液晶ディスプレイの表示の調整や表示できる解像度と表示色、表示に関する機能の設定などについて説明しています。

▶ 使用上の注意.	97
▶ 画面表示の調整.	98
▶ 表示できる解像度と表示色.	100
▶ ディスプレーストレッチ機能.	101

使用上の注意

[021101-27]

- 液晶ディスプレイは非常に高精度な技術で作られていますが、色調のズレなど個体差が発生する場合があります。これは液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。
- OpenGLのアプリケーションを使用した場合、アプリケーションによっては、画面が表示されない、または画面の表示が乱れることがあります。
- DVDの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音切れ、およびデスクトップ上のアイコンのちらつきが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。
- DVDの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVDの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。
- Windowsの状態によっては、スクリーンセーバー動作時に液晶ディスプレイの電源がオフにならない場合があります。
- 各種ベンチマークが正常に実行できない場合があります。
- DVDや動画の再生中は、休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 解像度、表示色、または画面の出力先の変更を行う場合は、動画や音楽を再生するアプリケーションを起動したまま行わないでください。
- 動画を再生するアプリケーションによっては、画質が低下する場合があります。
- 本機の液晶ディスプレイを開閉すると、画面がちらつくことがありますが、故障ではありません。

表示を調整する

本機では、キーボードから、一時的に輝度を調整できます。輝度は11段階で調整することができます。

機能	キー操作	説明
輝度を下げる (▼☀)	【Fn】 + 【F7】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が下がります。
輝度を上げる (▲☀)	【Fn】 + 【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が上がります。

輝度の自動調整

本機には、照度センサで感知した周囲の明るさに応じて画面の輝度を自動で調整する機能があります。輝度の自動調整を使用する場合は、照度センサを有効に設定し、自動輝度調整を有効に設定する必要があります。

●照度センサを有効にする

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」→「位置センサーとその他のセンサー」をクリック

照度センサを有効にするための、チェックボックスが表示されます。

3 「Light Sensor」にチェックを付ける

4 「適用」ボタンをクリック

●輝度の自動調整を有効にする

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」→「電源オプション」をクリック

3 いずれかの電源プランの「プラン設定の変更」をクリック

4 「詳細な電源設定の変更」をクリック

「電源オプション」画面が表示されます。

5 「ディスプレイ」→「自動輝度調整を有効にする」をクリック

6 「バッテリー駆動」または、「電源に接続」をクリック

- **バッテリー駆動**
バッテリー電源で動作しているときの自動輝度調整を有効または無効にします。
- **電源に接続**
電源に接続しているときの自動輝度調整を有効または無効にします。

7 プルダウンメニューを表示し、「オン」を選択する

8 「適用」ボタンをクリック

9 「OK」ボタンをクリック



チェック

輝度の自動調整を使用するときは、照度センサをふさぐなどして周辺光をさえぎらないようにしてください。



参照

照度センサの位置について

「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 19)」

表示できる解像度と表示色

[021103-27]



チェック

- 設定により、次の表に記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ず記載されている解像度で使用してください。
- モニタの設定で、画面のリフレッシュレートを40ヘルツに変更できますが、40ヘルツに設定すると、マウスカーソル移動の飛び、表示性能の低下や表示のみだれ、ちらつき、および動画再生のコマ落ちなどが発生する場合があります。
そのような場合は、画面のリフレッシュレートを60ヘルツに戻して使用してください。

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	本機の液晶ディスプレイのみに表示
800×600	65,536色	拡大表示（ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替え可能※2）
	1,677万色※1	
1,024×768	65,536色	
	1,677万色※1	
1,280×768	65,536色	
	1,677万色※1	
1,280×800	65,536色	フルスクリーン表示可能
	1,677万色※1	

※1 本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現します。

※2 拡大表示では文字や線などの太さが不均一になることがあります。実サイズ表示では画面中央に実サイズで表示され、まわりは黒く表示されます。



参照

外部ディスプレイ使用時の解像度と表示色、機能、設定について
「外部ディスプレイ (P. 102)」

ディスプレイストレッチ機能

[021104-27]

ディスプレイストレッチ機能とは、液晶ディスプレイの解像度よりもWindowsの解像度設定が低い場合に、液晶ディスプレイに画面イメージを拡大して表示する機能です。

ディスプレイストレッチ機能を使う場合は次の手順で行います。



チェック

ディスプレイストレッチ機能を使用して拡大表示を行っている場合、表示される文字などの線の太さが不均一になることがあります。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック
- 3 「詳細設定」をクリック
- 4 「インテル(R) グラフィック/メディア・コントロール・パネル」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」ボタンをクリック
- 5 「ディスプレイ」の「一般設定」をクリック
- 6 「スケーリング」欄で「全画面のスケールにする」を選択し、「OK」ボタンをクリック
確認の画面が表示されます。
- 7 「OK」ボタンをクリック
- 8 「OK」ボタンをクリック
- 9 「OK」ボタンをクリック

設定が有効になり、ディスプレイストレッチ機能が使用できます。

外部ディスプレイ

[021200-27]

外部ディスプレイで表示可能な解像度や表示色、画面の表示先の切り替えなどについて説明しています。

▶ 使用上の注意.....	103
▶ 外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色.....	105
▶ 外部ディスプレイコネクタ.....	108
▶ HDMIコネクタ.....	109
▶ Intel® WiDi.....	111
▶ 外部ディスプレイ接続時の表示機能.....	122
▶ 表示先、表示機能の設定.....	123
▶ 画面出力先切替ツール.....	126
▶ ディスプレイに合わせた設定.....	129

使用上の注意

[021201-27]

- 本機の電源が入っている状態、スリープ状態、および休止状態のときは、外部ディスプレイコネクタへのディスプレイケーブルの取り付け、取り外しを行わないでください。
- DVDや動画の再生中は、休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 解像度、表示色、または画面の出力先の変更を行う場合は、動画や音楽を再生するアプリケーションを起動したまま行わないでください。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を行っている場合、オーバーレイを使用して再生する動画は、プライマリ側のディスプレイにのみ表示されます。
- デュアルディスプレイ機能使用時に動画を再生し、表示が乱れた場合、デュアルディスプレイ機能を使用せずに本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみで動画の再生をしてください。
- 高解像度で外部ディスプレイに表示している場合、DVD-Videoの種類によっては、コマ落ち、映像の乱れが発生する場合があります。その場合は、より低い解像度に設定することをおすすめします。
- 外部ディスプレイに表示している状態で、本機の液晶ディスプレイを開閉すると、画面がちらつくことがあります。故障ではありません。
- 外部ディスプレイ接続時にアイコンがメインディスプレイに正しく表示されない場合があります。



参照

外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい場合

「トラブル解決Q&A」の「表示」 - 「外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい (P. 534)」

HDMIコネクタ使用時の注意

- すべてのHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしておりません。そのため、HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビによっては正しく表示されない場合があります。
- HDMIケーブルは、別途市販のものをお買い求めください。
- 本機の電源が入っている状態、スリープ状態、および休止状態のときは、HDMIコネクタへのHDMIケーブルの取り付け、取り外しを行わないでください。
- 著作権保護されたコンテンツなどは出力されない場合があります。
- HDMIディスプレイ接続時、リフレッシュレートが30Hz（インターレース）に設定されていると、本機の操作中にちらつく場合があります。その場合はリフレッシュレートを60Hz（プログレッシブ）に変更してください。
- 使用環境によっては、60Hz（プログレッシブ）に変更するか解像度を低くしないと描画性能が上がらない場合があります。
- HDMIディスプレイのタイプによっては、解像度を変更しないと、60Hz（プログレッシブ）に変更できない場合があります。
- HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビに表示する際に、解像度によっては表示色の変更ができないことがあります。その場合は、いったん別の解像度に変更した後、表示色の変更を行ってから解像度を変更してください。

HDMIコネクタを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、HDMIコネクタからの出力を制限することができます。



参照

I/O制限について

「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 270)」

Intel® WiDi使用時の注意

Intel® WiDi使用時の注意事項については、「[Intel® WiDi \(P. 111\)](#)」をご覧ください。

外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色

[021202-27]



チェック

- お使いになる外部ディスプレイによっては、次の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。外部ディスプレイをご使用の際は、外部ディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。
- 初回接続時の外部ディスプレイやテレビは、本機の液晶ディスプレイとのクローンモードに設定されます。
- 設定により、マニュアルに記載されていない解像度や周波数を選択できる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度や周波数で使用してください。
- 外部ディスプレイによっては、特定の解像度やリフレッシュレートに設定できないことがあります。

外部ディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

外部ディスプレイコネクタ使用時の解像度と表示色

解像度 (ドット)	表示色	外部ディスプレイのみに表示※1	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイ での同時表示※1 ※2	
800×600	65,536色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hz/75Hzです)	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表 示との切り替え可能※4)	
	1,677万色			
1,024×768	65,536色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hz/75Hzです)		
	1,677万色			
1,280×768	65,536色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hzです)		
	1,677万色			
1,280×800	65,536色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hzです)		拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表 示との切り替え可能※4)
	1,677万色			
1,280×1,024	65,536色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hz/75Hzです)		表示不可※3
	1,677万色			
1,440×900	65,536色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hzです)		表示不可※3
	1,677万色			
1,600×1,200	65,536色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hzです)	表示不可※3	
	1,677万色			
1,680×1,050	65,536色	フルスクリーン表示可能 (表示可能な垂直走査線周波数は 60Hzです)	表示不可※3	
	1,677万色			

※1 外部ディスプレイによっては、特定の解像度やリフレッシュレートに設定できないことがあります。

※2 外部ディスプレイ未接続時は、本機の液晶ディスプレイのみに表示されます。

※3 デュアルディスプレイ機能時、外部ディスプレイで表示可能です。

※4 拡大表示では文字や線などの太さが不均一になることがあります。実サイズ表示では画面中央に実サイズで表示され、まわりは黒く表示されます。



メモ

高解像度 (1,920×1,080<フルHD>、1,920×1,200<WUXGA>) の対応状況については、<http://www.nec.co.jp/bpc/versapro/> でお使いの機種をクリックし、スペック詳細をご覧ください。また、<http://121ware.com> の「サービス&サポート」→「商品情報検索」からお使いの機種を検索して、仕様をご確認ください。

HDMIコネクタ使用時の解像度と表示色

解像度(ドット)	表示色	映像信号形式	HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビのみに表示※3 ※4 ※5 ※6	本機の液晶ディスプレイとHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビでの同時表示※1 ※3			
720×480	65,536色	480p 720p 1080i 1080p	拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替えが可能※7)	表示不可※2			
	1,677万色						
800×600	65,536色			拡大表示 (ディスプレイストレッチ機能で、実サイズ表示との切り替えが可能※7)	表示不可※2		
	1,677万色						
1,024×768	65,536色					フルスクリーン表示可能	表示不可※2
	1,677万色						
1,280×720	65,536色					表示不可※2	
	1,677万色						
1,280×1,024	65,536色			表示不可※2			
	1,677万色						
1,920×1,080	65,536色			表示不可※2			
	1,677万色						

※1 別売の外部ディスプレイやテレビ未接続時は、本機の液晶ディスプレイのみに表示されます。

※2 デュアルディスプレイ機能時は、別売の外部ディスプレイやテレビで表示が可能です。

※3 すべてのHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしておりません。
したがって、HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビによっては正しく表示されない場合があります。

※4 別売の外部ディスプレイやテレビによっては、選択できない解像度もあります。

※5 メニューには、59Hzと60Hzの2つのリフレッシュレートが表示されますが、どちらを選択しても実際のリフレッシュレートは同じです。

また、ご使用のシステム環境によっては、59Hzまたは60Hzに固定される場合があります。

※6 「インテル(R) グラフィック/メディア・コントロール・パネル」ではリフレッシュレートの表記に●●pHz/●●iHzと表記されます。

●●pHz時はプログレッシブ表示、●●iHz時はインターレース表示となります。

※7 実サイズ表示では画面中央に実サイズで表示され、まわりは黒く表示されます。

外部ディスプレイコネクタ

[021203-27]

外部ディスプレイコネクタへの接続

1 本機と接続する外部ディスプレイの電源を切る

2 ディスプレイ用ケーブルを本機の外部ディスプレイコネクタ () に接続する



チェック

ディスプレイ用ケーブルは、コネクタ両端のネジを締め、しっかりと固定してください。



参照

外部ディスプレイコネクタの位置について


「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 19)」

3 外部ディスプレイと本機の電源を入れる

詳しくは外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。

プロジェクタの接続

本機の外部ディスプレイコネクタ () には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。別売のプロジェクタの接続のしかたは、プロジェクタのマニュアルをご覧ください。また、使用する場合はプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度 (ドット)、垂直走査周波数 (Hz) などを確認してください。

HDMIコネクタへの接続

1 本機と接続する外部ディスプレイやテレビの電源を切る

2 HDMIケーブルで、HDMIコネクタとHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビなど接続する



参照

HDMIコネクタの位置について

「各部の名称」の「[各部の名称と説明 \(P. 19\)](#)」

3 外部ディスプレイやテレビと、本機の電源を入れる

詳しくは外部ディスプレイやテレビのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。

HDMIコネクタ使用時の音声出力について

HDMIコネクタに映像を出力すると、接続したHDMI機器が音声出力に対応している場合には音声を出力することができます。

自動で切り換わる場合もありますが、自動的に音声切り替わらない場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 サウンドデバイスを使用しているすべてのソフトを終了する

2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

3 「ハードウェアとサウンド」をクリック

4 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。

5 「再生」タブをクリック

6 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」を選択して、「既定値に設定」ボタンをクリック

7 「OK」 ボタンをクリック

音声 HDMI 経由で出力されるようになります。



チェック

HDMIコネクタに映像を出力しているときに音声が出られなくなった場合は、本機を再起動すると改善されることがあります。

Intel® WiDi (インテル® ワイヤレス・ディスプレイ) は、Intel® WiDi用アダプターを取り付けた外部ディスプレイやテレビに、無線LAN機能を利用して接続し、本機の画面を表示する機能です。



チェック

- Intel® WiDiを使用できるのは、Intel(R) Coreiシリーズ搭載モデルのみです。Celeron搭載モデルは使用できません。
- 外部ディスプレイやテレビに、別売のIntel® WiDi用アダプターを取り付ける必要があります。
- Intel® WiDiを使用するには、インストールが必要です。

必要な機器について

Intel® WiDiを使用するには、別売のIntel® WiDi用アダプターが必要です。

また、表示先の外部ディスプレイやテレビには、HDMI入力端子またはコンポジット映像・音声入力端子が搭載され、Intel® WiDi用アダプターが取り付け可能であることが必要です。



チェック

- お使いの外部ディスプレイやテレビで、Intel® WiDi用アダプターが使用可能かどうかについては、ご購入前にメーカーなどにご確認ください。
- 外部ディスプレイやテレビとIntel® WiDi用アダプターは、HDMIで接続することをおすすめします。コンポジット映像・音声入力端子での接続の場合、表示情報が読み取れないことがあります。詳しくはIntel® WiDi用アダプターの仕様をご確認ください。
- お使いの外部ディスプレイやテレビの仕様によっては、Intel® WiDiでの接続時に、外部ディスプレイやテレビの電源が自動でオンになる場合があります。
- 本機を無線LANアクセスポイントに接続していない場合、IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) の1~11chでのみIntel® WiDi用アダプターと接続します。
- 本機を無線LANアクセスポイントに接続している場合、Intel® WiDi用アダプターとの接続は、無線LANアクセスポイントと接続している通信規格のチャンネルでのみ使用できます。通信規格と使用できるチャンネルは次の通りです。
 - IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) : 1~13ch
 - IEEE802.11a (5GHz)、またはIEEE802.11n (5GHz) : W52 (36、40、44、48ch) のみIEEE802.11a (5GHz)、またはIEEE802.11n (5GHz) で無線LANアクセスポイントに接続している場合、IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) の規格にのみ対応したIntel® WiDi用アダプターとは接続できません。

使用上の注意

- Intel® WiDiは、無線LAN機能を利用しています。また、高解像度の画面を転送するためには、高速で安定した無線LANの通信環境が必要です。ご使用前に「無線LAN機能」をご覧ください。無線LAN機能使用時の注意事項や通信環境についてご確認ください。



参照

無線LAN機能について

「無線LAN機能 (P. 173)」

- 通信速度や通信処理の負荷によっては、外部ディスプレイやテレビの映像や音声が乱れる場合があります。
- Intel® WiDi使用中に、インテル® My WiFi ダッシュボードで他の機器を使用すると、機器によっては接続できない場合や、映像が乱れる場合があります。
- 動画を表示する場合、カクツキやコマ落ちなどが目立つ場合があります。特にHD画質（1280×720p/毎秒30フレーム以上）の動画の場合、画質の低下が見られます。
- 外部ディスプレイやテレビに表示している映像と音声は、本機の映像や音声から約0.3秒の遅延があります。そのため、マウスでの操作や、キーボードでの操作、文字入力が行いにくい場合があります。
- Intel® WiDiはHDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）規格に対応しています。
- コンテンツが採用している著作権保護方式によっては、再生できない場合があります。
- Intel® WiDi利用時に「表示画面を複製する」を選択した場合、選択可能な解像度が制限されます。本機の液晶ディスプレイの最大解像度に設定してご利用ください。
- Intel® WiDiで外部ディスプレイやテレビに接続中は、サウンドの設定を変更することができません。出力先を変更した場合、接続が切断されます。
- Intel® WiDiで外部ディスプレイやテレビに接続中、画面の表示先を本機の液晶ディスプレイのみに切り替えた場合、外部ディスプレイやテレビには何も表示されませんが、Intel® WiDiがCPUおよび無線LAN機能を使用したままの状態になっています。Intel® WiDiで接続した外部ディスプレイやテレビに表示する必要がない場合は、接続を切断することをおすすめします。
- Intel® WiDiで外部ディスプレイやテレビに接続中は、スリープ状態や休止状態に自動で移行しません。また、画面を暗くする設定をしても、接続している外部ディスプレイやテレビには適用されません。
- Intel® WiDi接続中に手動でスリープ状態、ハイブリッドスリープ状態、休止状態などに移行する場合、またはWindowsのユーザーアカウントを切り替えたい場合は、一度WiDiアプリケーションを終了させ、WiDiを切断してください。

Intel® WiDiのインストール



チェック

- Intel® WiDiを使用するには、Microsoft .NET Framework 4が必要です。
- 工場出荷時の状態では、Intel® WiDi、Microsoft .NET Framework 4はインストールされていません。
- 既にPROSet/Wirelessをインストールしている場合は、「無線LAN機能」の「PROSet/Wirelessのアンインストール (P. 196)」をご覧ください。一度PROSet/Wirelessをアンインストールしてください。
- Intel® WiDiをインストールすると、PROSet/Wirelessも同時にインストールされるため、Windows標準の無線LAN機能でサポートしていない認証機能（LEAPなど）も利用可能になります。
- ここに記載の手順でインストールしたIntel® WiDiおよびPROSet/Wirelessをアンインストールする場合は、必ず「Intel® WiDiのアンインストール (P. 115)」に記載の手順で行ってください。
- 管理者（Administrator）権限を持つユーザー（ユーザー名は半角英数字）で行ってください。

Microsoft .NET Framework 4のインストール

Microsoft .NET Framework 4のインストールは次の手順で行います。



チェック

本機の使用状況によっては、Microsoft .NET Framework 4が既にインストールされている場合があります。「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「プログラム」→「プログラムと機能」をクリックして表示される一覧に、

- 「Microsoft .NET Framework 4 Client Profile」
- 「Microsoft .NET Framework 4 Client Profile Language Pack - 日本語」

または、

- 「Microsoft .NET Framework 4 Extended」
- 「Microsoft .NET Framework 4 Extended Language Pack - 日本語」

が表示されていれば、Microsoft .NET Framework 4はインストール済みです。その場合は、「Intel® WiDiのインストール (P. 114)」に進んでください。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

3 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WiDi¥dotNetFx40_Full_x86_x64.exe¥/q¥/norestart

※¥は半角スペースを意味しています。

インストールが始まります。
そのまま1分ほどお待ちください。メッセージなどは表示されません。

4 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WiDi¥dotNetFx40LP_Full_x86_x64ja.exe△/q△/norestart

※△は半角スペースを意味しています。

インストールが始まります。
そのまま1分ほどお待ちください。メッセージなどは表示されません。

6 インストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上でMicrosoft .NET Framework 4のインストールは完了です。
続けて、Intel® WiDiのインストールを行ってください。

Intel® WiDiのインストール

Intel® WiDiのインストールは次の手順で行います。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

3 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WLINSEV¥UTILITY¥APPS¥Setup.exe△/qn△ADDLOCAL=WIFI_MWT_Software

※△は半角スペースを意味しています。

インストールが始まります。
そのまま1分ほどお待ちください。操作や確認を促すメッセージなどは表示されません。

4 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WiDi¥CCD¥Setup.exe△/qn

※△は半角スペースを意味しています。

インストールが始まります。

そのまま1分ほどお待ちください。操作や確認を促すメッセージなどは表示されません。

6 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

7 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WiDi¥Setup.exe△/S△/v/qn△/v"WIDIAPP_DESKTOP_SHORTCUT=0"

※△は半角スペースを意味しています。

インストールが始まります。

そのまま1分ほどお待ちください。操作や確認を促すメッセージなどは表示されません。

8 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

9 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

regedit.exe△/s△C:¥DRV¥WiDi¥Ge_WiDi_V3.reg

※△は半角スペースを意味しています。

10 インストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上でIntel® WiDiのインストールは完了です。

Intel® WiDiのアンインストール



チェック

- Intel® WiDiをアンインストールすると、PROSet/Wirelessも同時にアンインストールされます。Windows標準の無線LAN機能でサポートしていない認証機能（LEAPなど）を利用する場合は、アンインストール後に「無線LAN機能」の「PROSet/Wirelessのインストール (P. 195)」をご覧ください。PROSet/Wirelessを再インストールしてください。
- 管理者（Administrator）権限を持つユーザー（ユーザー名は半角英数字）で行ってください。

Intel® WiDiのアンインストールは次の手順で行います。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

3 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WiDi¥Setup.exe△/x△/s△/v/qn

※△は半角スペースを意味しています。

アンインストールが始まります。

アンインストール完了後、Windowsが自動的に再起動します。

4 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

5 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WiDi¥CCD¥Setup.exe△/x△/qn

※△は半角スペースを意味しています。

アンインストールが始まります。

そのまま1分ほどお待ちください。メッセージなどは表示されません。

6 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

7 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WLINSEV¥UTILITY¥APPS¥Setup.exe△/x△/qn

※△は半角スペースを意味しています。

アンインストールが始まります。

そのまま1分ほどお待ちください。メッセージなどは表示されません。

以上でIntel® WiDiのアンインストールは完了です。

外部ディスプレイやテレビとの接続

Intel® WiDiで外部ディスプレイやテレビに接続するには、次の手順で行います。

1 Intel® WiDi用アダプターを外部ディスプレイやテレビに取り付ける

2 Intel® WiDiの待ち受け画面が表示されるように準備する



参照

Intel® WiDi用アダプターのマニュアル

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Intel(R) WiDi」をクリック

初回起動時のみ「INTEL® WiDiソフトウェア使用許諾契約」が表示されるので、内容を確認し「この使用許諾の条件に同意する」ボタンをクリックしてください。

「Intel® WiDi」画面が表示されます。



チェック

「アプリケーションに問題があります。アプリケーションを閉じて再起動するかIntel(R) WiDiヘルプで多くの問題の一般的な解決方法を参照してください」や「WiDiAppは動作を停止しました」などと表示された場合は、プログラムを終了し、時間をおいてからIntel® WiDiを起動しなおしてください。

4 「使用可能なアダプターをスキャンする」ボタンをクリック



チェック

何も検出されない場合は「使用可能なアダプターをスキャンする」を何度かクリックして、表示内容を更新してください。

5 「検出されたアダプター」欄から接続したいアダプターを選択し、「接続」ボタンをクリック

初めて接続するアダプターの場合は、手順6に進んでください。

接続したことのあるアダプターの場合、以上で接続は完了です。

6 「セキュリティ・コードを入力してください」と表示されたら、外部ディスプレイやテレビの画面に表示されているセキュリティコード（数字4桁または8桁）を半角英数文字で入力し、「続行」ボタンをクリック

7 「アダプター名の変更」画面が表示された場合は、必要に応じてアダプター名を入力し、「続行」ボタンをクリック

8 「アダプターが正常に設定されました」画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリック

接続が完了し、外部ディスプレイやテレビに本機の画面が表示されます。



チェック

初回接続時、Intel® WiDi用アダプターのファームウェアアップデートが必要となる場合があります。ファームウェアアップデートを促す画面が表示された場合は、次の手順で行ってください。

1 「はい」 ボタンをクリック

現在とアップデート後のファームウェアのバージョンが表示されます。

2 「アップデート」 ボタンをクリック

ファームウェアのアップデートが開始します。

3 ファームウェアのアップデートが完了したら、「OK」 ボタンをクリック

Intel® WiDi用アダプターが再起動します。
アダプターの再起動が完了してから、接続の手順をやり直してください。



参照

「Intel® WiDi」について

「Intel® WiDi」のヘルプ、およびヘルプ中の「トラブルシューティング」および「よくあるお問い合わせ (FAQ)」

(ヘルプ記載中の「インテル(R) My WiFi テクノロジー」は「インテル(R) My WiFi ダッシュボード」に読み替えてください。)

外部ディスプレイやテレビの解像度の変更

初回接続時の外部ディスプレイやテレビの解像度は、本機の液晶ディスプレイと同じ解像度に設定されます。外部ディスプレイやテレビの解像度を変更する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック

「ディスプレイ表示の変更」画面が表示されます。

3 「複数のディスプレイ」欄で表示したい設定を選択する

「表示画面を複製する」に設定した場合、選択可能な解像度が制限されます。

4 「適用」 ボタンをクリック

確認のメッセージが表示されます。

5 「変更を維持する」 ボタンをクリック

設定が変更されます。

「元に戻す」ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

6 「ディスプレイ」欄で、接続した外部ディスプレイやテレビを選択する

7 「解像度」欄で、外部ディスプレイやテレビの解像度を設定する

「推奨」と表示されている解像度に設定してご利用ください。

8 「OK」ボタンをクリック

確認のメッセージが表示されます。

9 「変更を維持する」ボタンをクリック

設定が変更されます。

「元に戻す」ボタンをクリックすると、変更前の設定に戻ります。

以上で設定は完了です。



メモ

- 「表示色」や「リフレッシュレート」は変更できません。そのまま使用してください。
- 解像度変更後、外部ディスプレイやテレビの画面サイズと、表示されているサイズがあていない場合は、次の手順で調整してください。

1 「Intel® WiDi」画面の「プロパティ」ボタンをクリック

2 「アダプター」タブをクリック

3 「オーディオ/ビジュアル調整」欄にある「テレビの画像サイズの変更」ボタンをクリック

4 で表示サイズを調整する

5 「OK」ボタンをクリック

6 「OK」ボタンをクリック

外部ディスプレイやテレビの切断

外部ディスプレイやテレビとの接続を切断するには、次の手順で行います。

1 「Intel® WiDi」画面の「切断」ボタンをクリック

「画面出力先切替ツール」でIntel® WiDiの操作を行う

「画面出力先切替ツール」を使用することで、キーボードで、Intel® WiDiの起動／終了、外部ディスプレイの接続ができます。

【Fn】 + 【F5】を押すと、Intel® WiDiに関する操作が画面上にアイコンで表示され、【Fn】 + 【F5】を押すごとに実行する操作を選択できます。また、アイコンをクリックすることでも操作を実行できます。



チェック

- 「接続する」を実行すると、外部ディスプレイやテレビへの接続が完了するまで【Fn】 + 【F5】での操作はできません。接続が完了してから操作してください。
- 自動接続の設定をしている場合、「接続する」を実行してから、接続が完了するまでに時間がかかる場合があります。
- 「Intel® WiDi」がインストールされていない場合、「接続する」を実行するとインストールを促すメッセージが表示されます。



(1)



(2)



(3)

(1)	「Intel® WiDi」を起動します。 また、自動接続の設定をしている場合は接続処理を開始します。
(2)	外部ディスプレイやテレビに接続している場合は、接続を切断し、「Intel® WiDi」を終了します。終了を確認する画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。 接続していない場合は、「Intel® WiDi」を終了します。
(3)	「Intel® WiDi」を終了します。 外部ディスプレイやテレビと接続中に、この項目を実行した場合、「切断する」が実行されません。

自動接続の設定

【Fn】 + 【F5】で「接続する」を選択したときに、自動で接続処理を行うように設定できます。次の手順で設定を行ってください。

1 自動接続を行うIntel® WiDi用アダプターに接続した状態で、「Intel® WiDi」画面の「プロパティ」ボタンをクリック

2 「アダプター」タブをクリック

3 「このアダプターに自動的に接続する」にチェックを付ける

4 「動作」タブをクリック

5 「接続後 Intel® WiDi アプリケーションを自動的に非表示にする」にチェックを付ける

6 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

「切断する」選択時の確認画面の表示／非表示

【Fn】 + 【F5】で「切断する」を選択したときに表示される、確認画面の表示／非表示を設定できます。次の手順で設定を行ってください。

1 「Intel® WiDi」画面の「プロパティ」ボタンをクリック

2 「動作」タブをクリック

3 次の設定を行う

- **確認画面を表示する場合：**
「接続中にアプリケーションを終了した場合、接続の切断を警告するメッセージを表示する」にチェックを付ける
- **確認画面を表示しない場合：**
「接続中にアプリケーションを終了した場合、接続の切断を警告するメッセージを表示する」のチェックを外す

4 「OK」ボタンをクリック



メモ

【Fn】 + 【F5】で「切断する」を選択したときの確認画面で、「次回このメッセージを表示しない」にチェックを付けても、確認画面を非表示に設定できます。

外部ディスプレイ接続時の表示機能

[021205-27]

外部ディスプレイを接続して使用する場合、本機の液晶ディスプレイ、または接続した外部ディスプレイのみに表示する他、次の表示機能が使用できます。

デュアルディスプレイ

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使用して、ひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるため、表示できる範囲が広がります。

クローンモード

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時表示を行います。表示される内容は同じものですが、選択した解像度によっては本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイが異なる表示状態になる場合があります。



チェック

接続している外部ディスプレイやプロジェクタによっては、これらの機能の選択時に、画面の解像度が変更される場合があります。その場合は、解像度を設定しなおしてください。



参照

表示先や表示機能の設定について
「表示先、表示機能の設定 (P. 123)」

表示先、表示機能の設定

[021206-27]

外部ディスプレイなどを接続した場合、次の方法で表示先、表示機能の設定ができます。



チェック

動画再生のソフトウェアを起動中は、設定の変更を行わないでください。設定の変更を行った場合は、動画再生のソフトウェアを再起動してください。

「インテル(R) グラフィック/メディア・コントロール・パネル」で設定する



チェック

- DVDの再生中に設定を変更する場合は、DVDの再生を停止し、DVD再生のソフトウェアを終了させてから行ってください。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示している場合、DVDの種類によっては、映像の乱れが発生する場合があります。本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示させる設定にすることをおすすめします。
- 「拡張デスクトップ」から「クローンディスプレイ」へ、または「クローンディスプレイ」から「拡張デスクトップ」へ、設定を直接変更できない場合があります。その場合は、一度「シングルディスプレイ」に変更してから、「拡張デスクトップ」または「クローンディスプレイ」への変更を行ってください。
- デュアルディスプレイ機能を使用中は、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの交換はできません。一度、本機の液晶ディスプレイのみの表示などに設定を変更してから、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイを設定しなおしてください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック

3 「詳細設定」をクリック

4 「インテル(R) グラフィック/メディア・コントロール・パネル」タブをクリックし、「グラフィック プロパティ」ボタンをクリック

5 「ディスプレイ」の「マルチ ディスプレイ」をクリック

6 「動作モード」欄で表示したい設定を選択する

選択できる表示先、表示機能の設定は次の通りです。

項目	設定される表示先、表示機能
シングル ディスプレイ	「メイン ディスプレイ」に選択したモニタのみに表示

クローン ディスプレイ	クローンモード
拡張デスクトップ	デュアルディスプレイ

7 「メイン ディスプレイ」欄、「2番目のディスプレイ」欄で、使用するモニタを選択する

一覧には「内蔵ディスプレイ」「PCモニター」などが表示されます。



メモ

「シングル ディスプレイ」を選択した場合、「2番目のディスプレイ」欄は表示されません。

8 「OK」ボタンをクリック

設定の保存を確認するメッセージが表示されます。

9 「OK」ボタンをクリック

10 「OK」ボタンをクリック



11 「OK」ボタンをクリック

以上で表示先、表示機能の設定は完了です。

■ キーボードで設定を切り替える

本機では、キーボードで表示先や表示機能の設定を切り替えることができます。設定を切り替えるには、次の方法があります。

【】 + 【P】を押す

【】 + 【P】を押すと、選択できる表示先、表示機能が画面上に表示されます。【】 + 【P】を押すごとに、表示先、表示機能が切り替わります。選択できる表示先、表示機能は次の通りです。

項目	設定される表示先、表示機能
「コンピューターのみ」または「プロジェクターの切断」	本機の液晶ディスプレイのみに表示
複製	クローンモード
拡張	デュアルディスプレイ
プロジェクターのみ	外部ディスプレイまたはプロジェクターのみに表示

「画面出力先切替ツール」で切り替える

「画面出力先切替ツール」を使用することで、キーボードで表示先や表示機能の設定の切り替えや、解像度の変更が行えます。



参照

「画面出力先切替ツール」について

[「画面出力先切替ツール \(P. 126\)」](#)

画面出力先切替ツール

[021207-27]

本機は、画面出力先切替ツールを使用することで、キーボードから画面の出力先の切り替えや解像度の変更を行うことができます。

画面の出力先を切り替える

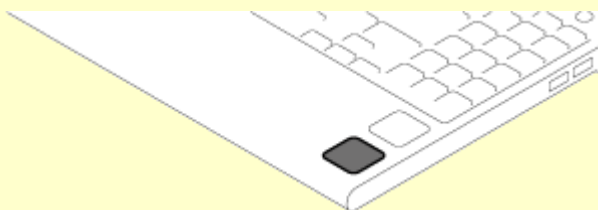
【Fn】 + 【F3】 を押すと、選択できる出力先が画面上にアイコンで表示され、【Fn】 + 【F3】 を押すごとに、出力先が次のように切り替わります。

切り替えたときの動作は、搭載されているCPUによって次のように異なります。



チェック

- 画面に表示される出力先は、接続しているディスプレイのみです。
- お使いのモデルに搭載されているCPUの種類については、本体に貼られているステッカーをご確認ください。



CPUがCore iの場合

Core iのCPUが搭載されているモデルでは、外部ディスプレイの接続にIntel® WiDiを使用できます。詳しくは「Intel® WiDiの操作を行う（Core iが搭載されているモデルのみ）（P. 128）」をご覧ください。



(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)

(1)	本機の液晶ディスプレイ※1
(2)	HDMIコネクタまたはIntel® WiDiで接続した外部ディスプレイまたはテレビ※2
(3)	本機の液晶ディスプレイと、HDMIコネクタまたはIntel® WiDiで接続した外部ディスプレイまたはテレビ※2でのクローンモード
(4)	本機の液晶ディスプレイと、HDMIコネクタまたはIntel® WiDiで接続した外部ディスプレイまたはテレビ※2でのデュアルディスプレイ（本機の液晶ディスプレイがプライマリ）
(5)	本機の液晶ディスプレイと、HDMIコネクタまたはIntel® WiDiで接続した外部ディスプレイまたはテレビ※2でのデュアルディスプレイ（本機の液晶ディスプレイがセカンダリ）

(6)	外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイ
(7)	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイでのクローンモード
(8)	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイでのデュアルディスプレイ (本機の液晶ディスプレイがプライマリ)
(9)	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイでのデュアルディスプレイ (本機の液晶ディスプレイがセカンダリ)

※1 Intel® WiDiで接続している外部ディスプレイやテレビがある場合、切断されます。

※2 HDMIコネクタとIntel® WiDiの両方の接続を使用している場合、先に検出された外部ディスプレイやテレビのみに表示されます。表示させたい外部ディスプレイやテレビのみを接続してください。

CPUがCeleronの場合



(1)	本機の液晶ディスプレイ
(2)	HDMIコネクタに接続した外部ディスプレイまたはテレビ
(3)	本機の液晶ディスプレイとHDMIコネクタに接続した外部ディスプレイまたはテレビでのクローンモード
(4)	本機の液晶ディスプレイとHDMIコネクタに接続した外部ディスプレイまたはテレビでのデュアルディスプレイ (本機の液晶ディスプレイがプライマリ)
(5)	本機の液晶ディスプレイとHDMIコネクタに接続した外部ディスプレイまたはテレビでのデュアルディスプレイ (本機の液晶ディスプレイがセカンダリ)
(6)	外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイ
(7)	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイでのクローンモード
(8)	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイでのデュアルディスプレイ (本機の液晶ディスプレイがプライマリ)
(9)	本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイでのデュアルディスプレイ (本機の液晶ディスプレイがセカンダリ)

画面の解像度を切り替える

キーボードを使用して画面の解像度を切り替えるには次の手順で行います。



チェック

- 画面の出力先が、外部ディスプレイコネクタに接続した外部ディスプレイとのクローンモードに設定されていないと、解像度の切り替えはできません。
- 画面比が4：3以外の解像度に切り替えて、表示が乱れる場合は、画面比が4：3の解像度に切り替えてください。

1 【Fn】 + 【F3】 を押し、画面の出力先をクローンモードに設定する

2 クローンモードに設定後、もう一度【Fn】 + 【F3】 を押す

画面の出力先のアイコンの下に解像度切り替えのアイコンが表示されます。

3 【Fn】 + 【F3】 を押し、変更したい解像度のアイコンを選択する

アイコンを選択した状態で、3秒経過すると、解像度が切り替わります。

■ Intel® WiDiの操作を行う（Core iが搭載されているモデルのみ）

CPUがCore iの場合、【Fn】 + 【F5】 で、Intel® WiDiでの外部ディスプレイやテレビの接続／切断、機能のオフを行うことができます。

CPUがCeleronの場合、本機能は使用できません。



参照

Intel® WiDiの操作について

「Intel® WiDi」の「[画面出力先切替ツール](#)」でIntel® WiDiの操作を行う (P. 120)」

ディスプレイに合わせた設定

[021208-27]

外部ディスプレイ使用時に、表示が適切でない場合やプラグ&プレイに対応していないディスプレイを使用しているときは、次の操作を行ってください。



チェック

プラグ&プレイに対応したディスプレイを使用しても、ディスプレイの情報が反映されない場合があります。その場合も、次の操作を行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されている場合

ディスプレイのマニュアルをご覧ください、ドライバのインストールを行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されていない場合

次の手順で設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック
- 3 外部ディスプレイのモニタアイコンをクリックし、「詳細設定」をクリック
- 4 「モニター」タブをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリック
- 5 「ドライバー」タブをクリックし、「ドライバーの更新」ボタンをクリック
「ドライバー ソフトウェアの更新」が表示されます。
- 6 「コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します」をクリック
- 7 「コンピューター上のデバイス ドライバーの一覧から選択します」をクリック
- 8 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外す
- 9 「製造元」と「モデル」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニターの種類)」を選択し、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

10 「閉じる」 ボタンをクリック

11 「閉じる」 ボタンをクリック

12 「OK」 ボタンをクリック

13 「OK」 ボタンをクリック

以上でディスプレイの設定は完了です。

[023600-27]

本機のWebカメラやWebカメラアプリケーション「YouCam 5 BE」について説明しています。Webカメラモデルをお使いの場合のみご覧ください。

▶ Webカメラについて.....	132
-------------------	-----

Webカメラについて

[023602-27]

- ▶ 「YouCam 5 BE」 でできること (P. 132)
- ▶ 「YouCam 5 BE」 のインストール (P. 132)
- ▶ 「YouCam 5 BE」 のアンインストール (P. 133)

「YouCam 5 BE」 でできること

本機のWebカメラでは、動画・静止画の撮影や、本機に添付されているWebカメラアプリケーション「YouCam 5 BE」と組み合わせて以下のような機能を使用することができます。

- カメラに顔が写らなくなったときに、自動で画面オフ、休止状態、スリープ状態へ移行する (Face-out)
- コンピュータを監視カメラとして使う
- プレゼンテーションビデオを作成する
- Webカメラ映像にフリーハンドで描画を追加し、インスタントメッセージャーを利用して、テレビ電話で共有する



参照

Webカメラの位置について

「各部の名称」 - 「各部の名称と説明 (P. 19)」

「YouCam 5 BE」 のインストール

「YouCam 5 BE」 を使用するには、インストールが必要です。
次の手順でインストールしてください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたときは、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

1 本機の電源を入れる

2 光学ドライブに「CyberLink YouCam 5 BE ディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

<光学ドライブ名>:¥YouCam¥Setup.exe

以降は画面の指示に従ってください。

「YouCam 5 BE」のアンインストール

「YouCam 5 BE」のアンインストールは次の手順で行います。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[「ユーザー アカウント制御」について \(P. 12\)](#)」

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

3 「CyberLink YouCam 5」を選択し、「アンインストール」をクリック

アンインストールの確認ダイアログが表示されます。

4 「はい」ボタンをクリック

以上で、「YouCam 5 BE」のアンインストールは完了です。

ハードディスク

[021300-27]

本機のハードディスクの使用上の注意などについて説明しています。

SSDモデルでは、ハードディスクの代わりにSSDが内蔵されています。SSDモデルをお使いの場合は、「[SSD \(P. 138\)](#)」をご覧ください。

➤ 使用上の注意.....	135
➤ ハードディスクのメンテナンス.....	136

使用上の注意

[021301-27]

ハードディスクは非常に精密に作られています。次の点に注意して使用してください。

- ハードディスクのデータを破損させる外的な要因には次のようなものがあります。
 - 過度な振動
 - 高熱
 - 落雷
- データの読み書き中（アクセスランプの点灯中）には、少しの衝撃が故障の原因になる場合があります。
- ハードディスクが故障すると、記録されているデータが使用できなくなる場合があります。特に、お客様が作成したデータは再セットアップしても元には戻りません。定期的なバックアップをとることをおすすめします。
- ハードディスクの領域の作成や削除、フォーマットは「コンピューターの管理」の「ディスクの管理」から行います。



参照

ドライブ構成の変更、および「ディスクの管理」の起動について
「トラブル解決Q&A」の「ハードディスク」 - 「複数のパーティションを利用したい (P. 596)」

- 本機のハードディスクには、「ディスクの管理」でドライブ文字が割り当てられていない領域が表示されます。この領域には、再セットアップ時に必要になる再セットアップ用データが格納されています。なお、再セットアップ用データの保存されていた領域を削除することはできません。

ハードディスクのデータを保護する

SMART機能

本機のハードディスクは、S.M.A.R.T. (Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology) に対応しているため、ハードディスクの異常を検出し、ハードディスクの故障が予見された場合は警告をします。

ハードディスクセーバー



チェック

ハードディスクセーバーは、工場出荷時にはインストールされていません。

落下や振動によるハードディスク損傷の危険性を軽減することができます。



参照

ハードディスクセーバーについて
「セキュリティ機能」の「ハードディスクセーバー (P. 406)」

ハードディスクのメンテナンス

[070200-27]

▶ バックアップ.....	136
▶ 復元.....	136
▶ その他のメンテナンス.....	137

ハードディスク内の大切なデータを守り、トラブルを予防するには、データのバックアップが重要です。また、突然のトラブルを予防するために、定期的にメンテナンスを行うことも大切です。ここでは、ハードディスクのバックアップ方法、およびハードディスクのメンテナンスについて説明しています。

■ バックアップ

[070201-27]

Windowsではファイルとフォルダ、またはコンピュータ全体をバックアップすることができます。大切なデータを保護するには、定期的にバックアップしてください。バックアップの方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。

■ 復元

[070202-27]

◆ ファイルの復元

お客様が作成したファイル（データファイル）を紛失、あるいは損傷してしまった場合、ファイルの復元を行うことにより、ファイルをバックアップした時の状態に戻すことができます。また、ファイルの復元は個別、グループ単位で復元することができます。ファイルの復元の方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック

ファイルの復元を行うときは、すべてのアプリケーションを終了してください。

◆ システムの復元

本機の動作が不安定になるなど、システムにトラブルが起きてしまった場合には、「システムの復元」を実行すると、もとの状態に戻すことができます。システムの復元の方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック

- システムの復元を行うときは、すべてのアプリケーションを終了してください。
- システムの復元では、お客様が作成したファイル（データファイル）を復元することはできません。

ハードディスク内のデータの障害をチェックし、効率的に利用するために、次のメンテナンスツールがインストールされています。

これらのツールについて詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

◆ チェック ディスク

ハードディスクやハードディスク内のデータの障害を検査するためのツールです。

ファイルシステムやFAT（ファイルアロケーションテーブル）、クラスタ、ディレクトリツリー構造、ハードディスクの物理表面の不良セクタなどをチェックすることができます。

◆ ディスク デフラグ

ハードディスクのデータの並び替えを行い、データへのアクセスをしやすくするためのツールです。

◆ ディスク クリーンアップ

不必要なファイルを削除し、ハードディスクの空き容量を増やすためのツールです。

[021400-27]

▶ 使用上の注意.....	139
▶ SSDのメンテナンス.....	140

使用上の注意

[021401-27]

SSDは非常に精密に作られています。次の点に注意して使用してください。

- SSDのデータを破損させる外的な要因には次のようなものがあります。
 - 高熱
 - 落雷
- SSDが故障すると、記録されているデータが使用できなくなる場合があります。特に、お客様が作成したデータは再セットアップしても元には戻りません。定期的にバックアップをとることをおすすめします。
- SSDの領域の作成や削除、フォーマットは「コンピューターの管理」の「ディスクの管理」から行います。



参照

ドライブ構成の変更、および「ディスクの管理」の起動について
「トラブル解決Q&A」の「SSD」 - 「複数のパーティションを利用したい (P. 604)」

- 本機のSSDには、「ディスクの管理」でドライブ文字が割り当てられていない領域が表示されます。この領域には、再セットアップ時に必要になる再セットアップ用データが格納されています。
なお、再セットアップ用データの保存されていた領域を削除することはできません。

SSDのデータを保護する

SMART機能

本機のSSDは、S.M.A.R.T. (Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology) に対応しているため、SSDの異常を検出し、SSDの故障が予見された場合は警告をします。

SSDのメンテナンス

[070300-27]

▶ バックアップ.....	140
▶ 復元.....	140
▶ その他のメンテナンス.....	141

SSD内の大切なデータを守り、トラブルを予防するには、データのバックアップが重要です。また、突然のトラブルを予防するために、定期的にメンテナンスを行うことも大切です。ここでは、SSDのバックアップ方法、およびSSDのメンテナンスについて説明しています。

■ バックアップ

[070301-27]

Windowsではファイルとフォルダ、またはコンピュータ全体をバックアップすることができます。大切なデータを保護するには、定期的にバックアップしてください。バックアップの方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。

■ 復元

[070302-27]

◆ ファイルの復元

お客様が作成したファイル（データファイル）を紛失、あるいは損傷してしまった場合、ファイルの復元を行うことにより、ファイルをバックアップした時の状態に戻すことができます。また、ファイルの復元は個別、グループ単位で復元することができます。ファイルの復元の方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック

ファイルの復元を行うときは、すべてのアプリケーションを終了してください。

◆ システムの復元

本機の動作が不安定になるなど、システムにトラブルが起きてしまった場合には、「システムの復元」を実行すると、もとの状態に戻すことができます。システムの復元の方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック

- システムの復元を行うときは、すべてのアプリケーションを終了してください。
- システムの復元では、お客様が作成したファイル（データファイル）を復元することはできません。

SSD内のデータの障害をチェックし、効率的に利用するために、次のメンテナンスツールがインストールされています。これらのツールについて詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

◆チェック ディスク

SSDやSSD内のデータの障害を検査するためのツールです。
ファイルシステムやFAT（ファイルアロケーションテーブル）、クラスタ、ディレクトリツリー構造などをチェックすることができます。

◆ディスク クリーンアップ


不必要なファイルを削除し、SSDの空き容量を増やすためのツールです。

本機の光学ドライブの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

▶ 使用上の注意.	143
▶ 外付け光学ドライブの取り付け.	144
▶ 各部の名称と役割.	146
▶ 使用できるディスク.	147
▶ 読み込みと再生.	148
▶ 書き込みとフォーマット.	150
▶ 非常時のディスクの取り出し方.	151

使用上の注意

[021601-27]

- 光学ドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
 - アクセスランプの点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。データの破損や本機の故障の原因になります。
 - イジェクトボタンを押してからディスクトレイが排出されるまで数秒かかることがあります。
 - ディスクの信号面（文字などが印刷されていない面）に傷を付けないように注意してください。
 - 本機で、次のような形式や規格、異なった形やサイズのディスクは使用できません。無理に使用した場合、再生や作成ができないだけでなく、破損の原因になる場合があります。
 - AVCHD形式またはAVCREC形式のDVD
 - 名刺型、星型などの円形ではない、異形ディスク
 - 厚さが1.2mmを大きく越える、または大きく満たないディスク
 - 規格外に容量の大きな書き込みディスク
- また、特殊な形状のディスクや、ラベルがはってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、ディスク使用時に異音や振動が発生する場合があります。このようなディスクは故障の原因になるため、使用しないでください。
- 光学ドライブにディスクをセットすると、「自動再生」画面が表示される場合があります。その場合は、実行したい操作をクリックしてください。実行したい操作がない場合は、ウィンドウの右上の  をクリックしてください。
 - ディスクに飲み物などをこぼした場合、そのディスクは使用しないでください。

光学ドライブを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、光学ドライブの有効/無効を設定して、使用を制限することができます。

また、添付のDeviceProtectorでも、光学ドライブの有効/無効の設定や、書き込みを制限することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 270)」
- **DeviceProtectorについて**
「セキュリティ機能」の「DeviceProtector (P. 284)」

外付け光学ドライブの取り付け

[021608-27]

接続のしかた

外付け光学ドライブを選択した場合に添付される光学ドライブをお使いになるには、次の手順で本機に接続してください。



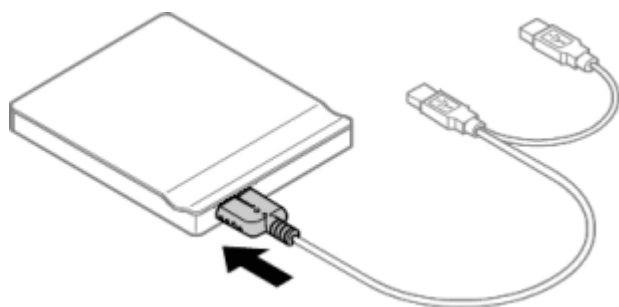
メモ

添付される光学ドライブは次の通りです。

- DVD-ROMドライブ (PC-VP-BU48) (DVD-ROM (外付け、USB接続) 選択時)
- DVDスーパーマルチドライブ (PC-VP-BU49) (DVDスーパーマルチドライブ (外付け、USB接続) 選択時)

1 光学ドライブ背面に、光学ドライブ用ケーブルの○マークのある方のプラグを接続する

プラグの向きに注意して、差し込んでください。



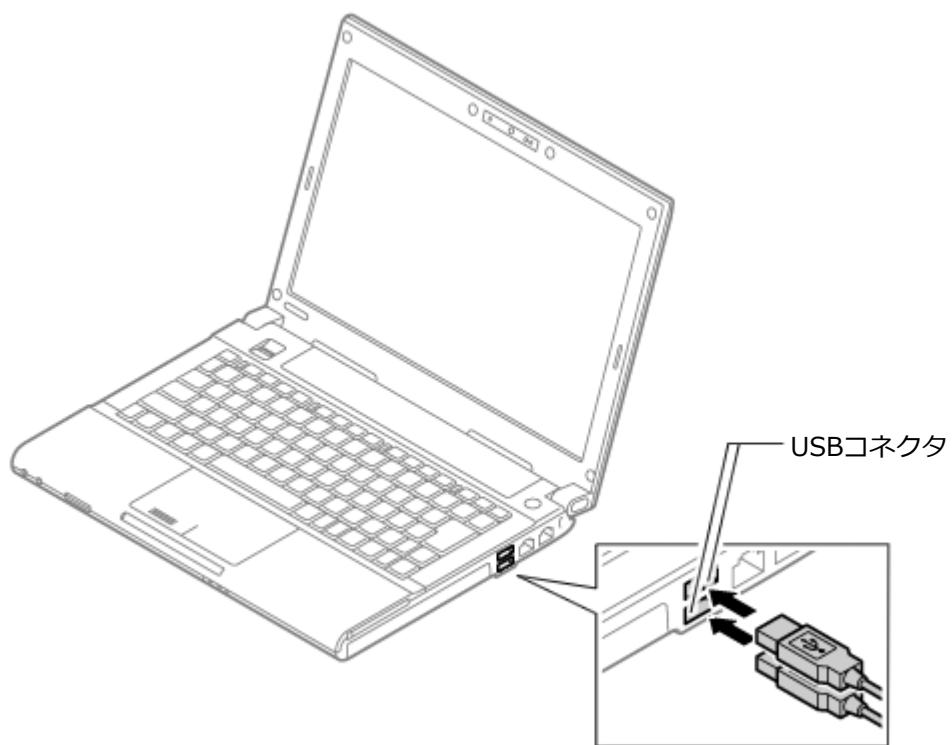
2 図のように、光学ドライブ用ケーブルを、本機のUSBコネクタ () に接続する

プラグの向きに注意して差し込んでください。



チェック

光学ドライブ用ケーブルのプラグは、2つとも、必ず本機のUSBコネクタに接続してください。



参照

USBコネクタ使用時の注意
「[USBコネクタ \(P. 249\)](#)」

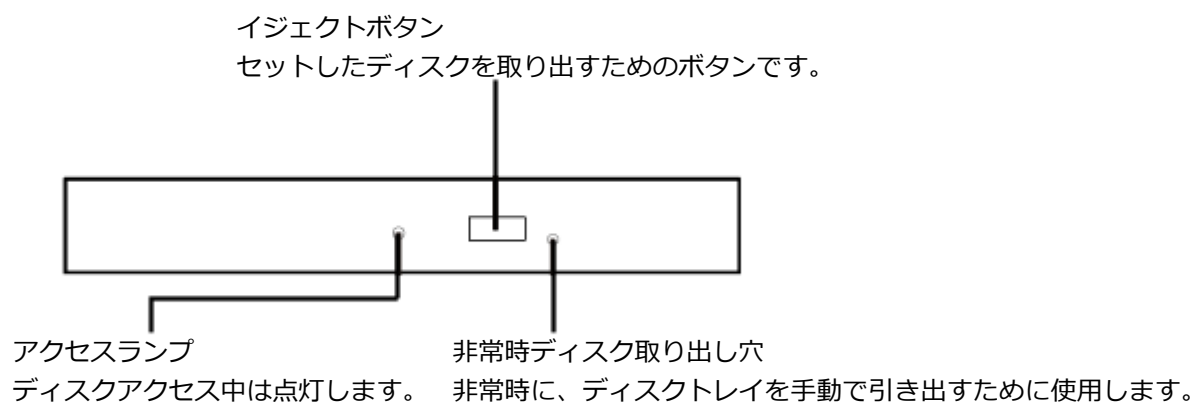
各部の名称と役割

[021602-27]



チェック

アクセスランプ点灯中は電源スイッチやイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因になります。



メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、図と多少異なることがあります。

また、アクセスランプがないものもあります。

使用できるディスク

[021603-27]

お使いのモデルの光学ドライブで使えるディスクは異なります。使用できるディスクについては、下記のリンクよりお使いのモデルの「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

■ ディスク利用時の注意

- 記録用のDVDには、録画用（for Video）とデータ用（for Data）とがありますので、ご購入の際にはご注意ください。
- DVD-RAMには、カートリッジなしのディスクと、TYPE1（ディスク取り出し不可）、TYPE2（ディスク取り出し可能）、TYPE4（ディスク取り出し可能）の4種類があります。本機の光学ドライブでは、カートリッジなし、またはカートリッジからディスクを取り出せるタイプ（TYPE2、TYPE4）のみご利用になることができます。ご購入の際には、ご注意ください。
- 片面2.6GBのDVD-RAMおよび両面5.2GBのDVD-RAMは使用できません。
- 両面9.4GBのDVD-RAMは面ごとに4.7GBの記録／再生が可能です。同時に両面への記録／再生はできません。ディスクを取り出して、裏返して使用してください。

読み込みと再生

[021604-27]

本機の光学ドライブで、読み込みや再生ができるディスクについては、下記のリンクよりお使いのモデルの「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

また、本機でDVDを再生するには、添付の「Corel WinDVD」を使用してください。



チェック

- Corel WinDVDは、工場出荷時にはインストールされていません。
- Corel WinDVDでは音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Audioは再生できません。




参照

Corel WinDVDについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「Corel WinDVD (P. 442)」

ディスク再生時の注意

本機でDVD、CDの読み込みや再生を行うときは、次のことに注意してください。

- 本機で記録したDVD、CDを他の機器で使用する場合、フォーマット形式や装置の種類などにより使用できない場合があります。
- 他の機器で記録したDVD、CDは、ディスク、ドライブ、記録方式などの状況により、本機では再生および再生性能を保証できない場合があります。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や取り込みができないことがあります。
- 本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示す  (CD規格マーク) マークの入ったディスクを使用してください。
- CD (Compact Disc) 規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。
- CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。
- 本機では、リージョンコード (国別地域番号) が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。
- 本機で再生できるCDまたはDVDのディスクサイズは8センチと12センチです。
- DVDや動画を再生する際は、再生に使用するアプリケーション以外のソフトウェアを終了することをおすすめします。本機での動画再生には高い処理能力が必要とされ、お使いのモデルや設定によっては、複数のアプリケーションを実行している状態で動画再生を行うと、映像の乱れやコマ落ちが発生する場合があります。詳しくは、「トラブル解決Q&A」の「表示 (P. 513)」をご覧ください。
- 「ECOモード機能」で、省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVDや動画の再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「省電力機能」の「ECOモード機能 (P. 47)」

- 本機でDVDを再生する場合、次のことに注意してください。
 - デュアルディスプレイ機能使用時に動画を再生し、表示が乱れた場合、デュアルディスプレイ機能を使用せずに本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみで動画の再生をしてください。
 - DVDの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音飛びが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。DVDの再生中は、再生画面の上に他のウィンドウを重ねないでください。
 - DVDの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVDの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。

書き込みとフォーマット

[021605-27]

DVDスーパーマルチドライブモデルで、DVD、CDへの書き込み、書き換え、およびフォーマットをするには、「Roxio Creator LJB」を使用してください。



参照

Roxio Creator LJBについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「[Roxio Creator LJB \(P. 438\)](#)」



メモ

DVD、CDへの書き込みはWindowsの機能でも行うことができます。選択可能な各フォーマットの説明についてはWindowsのヘルプをご覧ください。

ご注意

- 書き込みに失敗したDVD、CDは読み込みできなくなります。書き込みに失敗したディスク、およびディスクに記録されていたデータの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうかを確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他の光学ドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項に従ってください。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。

非常時のディスクの取り出し方

[021606-27]

停電やソフトウェアの異常動作などにより、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



チェック

- 強制的にディスクを取り出す場合は、本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
- 光学ドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこないといった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使用して取り出さないようにしてください。

SDメモリーカードスロット

[022700-27]

SDメモリーカードスロットの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

- ▶ 使用上の注意..... 153
- ▶ セットのしかた／取り出し方..... 155

使用上の注意

[022701-27]

- Windows上で「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」のフォーマットやディスクデフラグを行わないでください。各メモリーカード対応機器との互換性や性能などで問題が生じる場合があります。
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所では「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を使わないでください。
- 「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」などの取り扱いについては、各メモリーカードに添付のマニュアルの指示に従ってください。
- 本機や「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」の不具合により、音楽データの録音ができなかったり、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の補償はいたしかねます。
- お客様が画像、音楽、データなどを記録（録画・録音などを含む）したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 大切なファイルはコピーして、バックアップを取ることをおすすめします。
- 本機のハードディスク（またはSSD）以外から「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」にデータを保存する場合は、一度、本機のハードディスク（またはSSD）にデータを保存し、そこから「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」にデータを保存してください。
- データの保存中にスリープ／休止状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。
- 本機がスリープ／休止状態にあるときは、メモリーカードを抜き挿ししないでください。また、スリープ／休止状態から復帰する際は、Windowsのログオン画面またはデスクトップ画面が表示されるまでメモリーカードを抜き挿ししないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になる場合があります。
- すべての「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」の動作を保証するものではありません。
- さまざまな規格のメディアがありますので、本機のSDメモリーカードスロットで使えるメディアかどうかや、メディアの使用方法をお確かめになり、お使いください。
- メモリーカードの端子面が汚れていると、メモリーカードを認識しなかったり、データの読み込み、書き出しができないことがあります。端子面が汚れた場合は、メモリーカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードにデータを保存中、または読み込み中に、PCカードなどの周辺機器を接続しないでください。
- DVD、CDを再生中にメモリーカードへの読み書きを行ったり、メモリーカード内の音声や動画ファイルを再生中にファイルのコピーを行うと、音声や動画がとぎれるなどの影響が出る場合があります。

「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を使用するときの注意

- 「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」は、標準フォーマットとして、それぞれ「SDメモリーカード」規格、「SDHCメモリーカード」規格、「SDXCメモリーカード」規格に準拠したフォーマットで出荷されており、すぐにお使いになれます。
- フォーマットが必要な場合は、デジタルカメラやSD Audio Playerなど「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」や「SDXCメモリーカード」に対応した機器や、SD規格、SDHC規格、SDXC規格に対応したソフトウェアでフォーマットを行ってください。
- 「miniSDカード」「miniSDHCカード」「microSDカード」「microSDHCカード」を使用するときは、必ず使用するメモリーカードに対応した、SD/SDHC変換アダプタに装着してからセットしてください。詳しくはお使いのメモリーカードの取扱説明書をご覧ください。

- 「microSDカード」「microSDHCカード」をご使用の際、miniSD/miniSDHC変換アダプタに装着し、さらにSD/SDHC変換アダプタに装着しての動作は保証していません。
- 本機では、2Gバイトまでの「SDメモリーカード」、32Gバイトまでの「SDHCメモリーカード」および64Gバイトまでの「SDXCメモリーカード」で動作確認を行っています。2Gバイトを超える容量の「SDメモリーカード」、32Gバイトを超える容量の「SDHCメモリーカード」および64Gバイトを超える容量の「SDXCメモリーカード」での動作は保証していません。
- 本機では、「マルチメディアカード (MMC)」には対応していません。
- 本機は、SDIOには対応していません。
- 裏面に通電性（電気を通す性質）がある金属が使用されている「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」や変換アダプタは使用しないでください。本機内部のコネクタと接触し本機やメモリーカードの故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。
- 変換アダプタを利用した場合、高速転送規格「UHS-I」はサポートしていません。

SDメモリーカードスロットを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、SDメモリーカードスロットの有効/無効を設定して、使用を制限することができます。

また、添付のDeviceProtectorで、SDメモリーカードスロットへの書き込みを制限することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「[I/O制限 \(P. 270\)](#)」
- **DeviceProtectorについて**
「セキュリティ機能」の「[DeviceProtector \(P. 284\)](#)」

セットのしかた

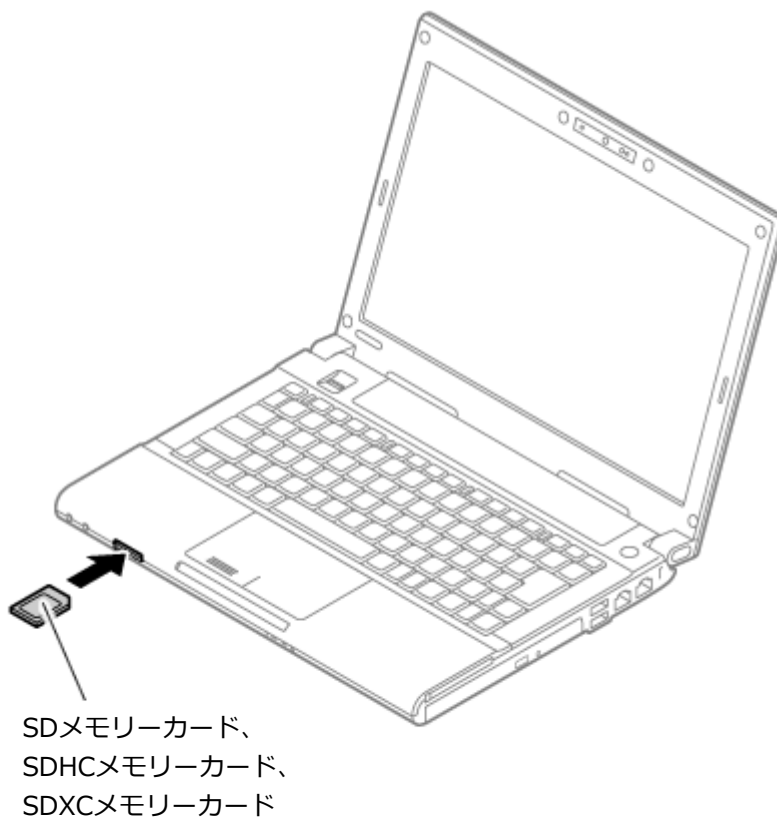


チェック

- ダミーカードがセットされている場合は、セットをする前に「取り出し方」をご覧ください。ダミーカードを取り出してください。
- miniSDカード、miniSDHCカード、microSDカード、およびmicroSDHCカードも使用できます。ただしSD/SDHC変換アダプタが必要になります。詳しくは、「[使用上の注意 \(P. 153\)](#)」をご覧ください。
- 「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」には表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」に添付のマニュアルをご覧ください。

1 「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を向きに注意して、SDメモリーカードスロットに奥までしっかり差し込む

表面を上にして差し込んでください。





取り外し方



チェック

SDメモリーカードスロットアクセスランプ点灯中は、絶対に「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を取り出さないでください。スロットやカードの故障、データの破損の原因となります。

1 タスクバーの通知領域の  をクリックし、 または  をクリック

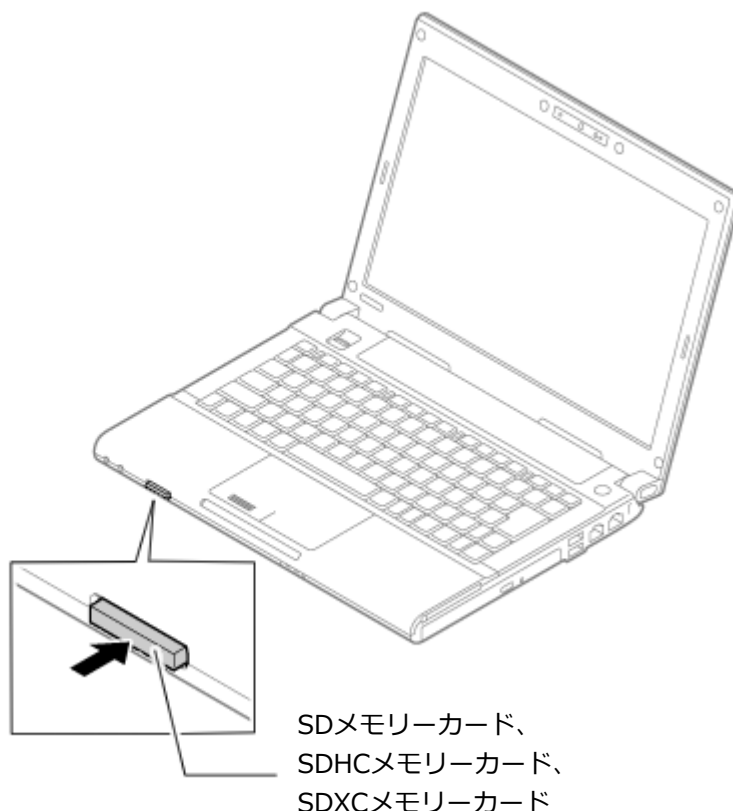
2 表示される「××××の取り出し」から、取り外す周辺機器をクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。

表示される「××××の取り出し」に取り外す周辺機器がない場合は手順3に進んでください。

3 「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を押す

「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」が飛び出します。



4 「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を水平に引き抜く

本機の音量の調節や、サウンド機能に関する設定などについて説明しています。

▶ 音量の調節.....	158
▶ マイクの設定.....	160

音量ミキサーを使う

Windowsの「音量ミキサー」で音量を調節することができます。

1 タスク バーの通知領域の  (音量) をクリック

2 表示されたウィンドウから「ミキサー」をクリック

「音量ミキサー」が表示されます。

3 調節したいデバイスやアプリケーションのスライドで音量を調節する



参照

音量ミキサーについて
Windowsのヘルプ

キーボードで調節する

【Fn】 + 【F10】 を押すと音量を大きく、【Fn】 + 【F9】 を押すと音量を小さく調節することができます。

音声のオン/オフ (ミュート機能)

【Fn】 + 【F1】 を押すと、音声のオン/オフを切り替えることができます。



参照

【Fn】 について
「キーボード」の「キーの使い方 (P. 75)」

ビープ音のオン/オフを切り替える

【Fn】 + 【F6】 を押すと、システムブザーのビープ音のオン/オフを切り替えることができます。



参照

【Fn】 について
「キーボード」の「キーの使い方 (P. 75)」

録音音量の調節

本機で録音音量を調節する場合は次の手順で行ってください。

1 マイクなどの録音機器を接続する

2 タスクバーの通知領域の (音量) を右クリックし、表示されたメニューから「録音デバイス」をクリック

3 使用する録音デバイスをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリック



チェック

- 使用する録音デバイスが表示されていない場合は「次のオーディオ録音デバイスがインストールされています」の枠内を右クリックし、「無効なデバイスの表示」にチェックを入れ、表示されたデバイスを有効にしてください。
- 録音デバイスが複数ある場合は、使用するデバイスをクリックし、「既定値に設定」ボタンをクリックしてください。

4 「レベル」タブをクリックし、表示される画面で録音音量を調節する

5 「OK」ボタンをクリック

6 「OK」ボタンをクリック



チェック

「内蔵マイクのプロパティ」や「ステレオミキサーのプロパティ」の「聴く」タブで「このデバイスを聴く」にチェックを入れないでください。チェックを入れると、常時ハウリングが発生します。

「Realtek HD オーディオマネージャ」で設定する

「Realtek HD オーディオマネージャ」でマイクの設定を行うことができます。マイクの設定では、マイクでの録音時のノイズ抑制やエコーの軽減、ビームフォーミング機能の設定などが行えます。マイクの設定は、次の手順で行ってください。

1 マイク入力端子にマイクロフォンを差し込む（外付けマイクを使用する場合）

2 タスクバーの通知領域の をクリックし、（Realtek HD オーディオマネージャ）をダブルクリック

「Realtek HD オーディオマネージャ」が表示されます。

3 「外付けマイク」タブ、または「内蔵マイク」タブをクリック

4 設定する機能にチェックを付ける

設定できる機能には次のものがあります。

機能	説明
ノイズ抑制	録音時のノイズ抑制を行います。
音響エコーキャンセル	録音時にスピーカが引き起こすエコーを軽減します。
ビームフォーミング（指向性録音）	ステレオマイク使用時に、マイクを向けていない方向からの雑音を軽減します。

5 設定が完了したら「OK」ボタンをクリック

以上でマイクの設定は完了です。

本機のLAN（ローカルエリアネットワーク）機能を使用する際の注意や設定などについて説明しています。

➤ 本機を安全にネットワークに接続するために.	162
➤ 使用上の注意.	164
➤ LANへの接続.	165
➤ LAN機能の設定.	167
➤ リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能.	169
➤ ネットワークブート機能（PXE機能）.	172

本機を安全にネットワークに接続するために

[021801-27]

コンピュータウイルスやセキュリティ上の脅威を避けるためには、お客様自身が本機のセキュリティを意識し、常に最新のセキュリティ環境に更新する必要があります。

本機のLAN機能や無線LAN機能を使用して、安全にネットワークに接続するために、次の対策を行うことを強くおすすめします。



チェック

稼働中のネットワークに接続する場合は、接続先のネットワークの管理者の指示に従って接続を行ってください。



メモ

Windowsのセキュリティ機能（アクションセンター）では、ファイアウォールの設定、自動更新、マルウェア対策ソフトウェアの設定、インターネットセキュリティの設定、ユーザーアカウント制御の設定などの、コンピュータ上のセキュリティに関する重要事項の状態をチェックすることができます。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

ウイルス対策アプリケーションの利用

コンピュータウイルスから本機を守るために、ウイルス対策アプリケーションをインストールすることをおすすめします。

本機を利用する環境で、使用するウイルス対策アプリケーションが定められている場合は、そのアプリケーションを使用してください。

また、本機にはウイルスを検査・駆除するアプリケーションとしてウイルスバスターが添付されています。



参照

ウイルスバスターについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「ウイルスバスター (P. 409)」

ファイアウォールの利用

コンピュータウイルスによっては、ネットワークに接続しただけで感染してしまう例も確認されています。このようなコンピュータウイルスから本機を守るためにファイアウォール（パーソナルファイアウォール）を利用することをおすすめします。

本機を利用する環境で、ファイアウォールの利用についての規則などがある場合は、そちらの規則に従ってください。また、本機にインストールされているOSでは、標準で「Windows ファイアウォール」機能が有効になっています。「Windows ファイアウォール」について、詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

■ Windows® Update、またはMicrosoft® Update

最新かつ重要な更新プログラムが提供されています。

Windowsを最新の状態に保つため、ネットワークに接続後、定期的にWindows® Update、またはMicrosoft® Updateを実施してください。



チェック

本機には更新プログラムがインストールされています。更新プログラムをアンインストールすると、修正されていた問題が発生する可能性がありますので、更新プログラムのアンインストールは行わないでください。

使用上の注意

[021802-27]

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- システム運用中は、LANケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にLANケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windowsを再起動してください。
- LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ネットワークの通信中にはスリープ状態または休止状態にしないでください。
- ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。
あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。
- 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE（米国電気電子技術者協会）で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。次のコマンドを入力することで、LANまたは無線LANのユニバーサル管理アドレスを確認することができます。

コマンド プロンプトで次のいずれかのコマンドを入力し、【Enter】を押してください。

コマンド	確認方法
net config workstation	アダプタがアクティブな場合、「アクティブなネットワーク（ワークステーション）」という項目の（ ）内に表示されます。
ipconfig /all	アダプタごとに「物理アドレス」として表示されます。

本機には、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T（ギガビットイーサネット）対応のLAN機能が搭載されています。

LANの設置

初めてネットワークシステムを設置するためには、配線工事などが必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、当社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

本機をネットワークに接続するには、別売のLANケーブルが必要です。LANケーブルは、10BASE-Tで接続するにはカテゴリ3以上、100BASE-TXで接続するにはカテゴリ5以上、1000BASE-Tで接続するにはエンハンスドカテゴリ5以上のLANケーブルを使用してください。また、ネットワーク側のコネクタに空きがない場合、ハブやスイッチでコネクタを増やす必要があります。LANケーブルの接続は次の手順で行います。



チェック

- 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定とLANケーブルの接続を行ってください。
- 搭載されているLANアダプタは、接続先の機器との通信速度（1000Mbps/100Mbps/10Mbps）を自動検出して最適な通信モードで接続するオートネゴシエーション機能をサポートしています。なお、セットアップが完了したときに、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、「ネットワークのプロパティ」で通信モードを接続先の機器の設定に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重（Half Duplex）に設定してください。
- オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器でリンク速度を固定して接続する場合、「速度とデュプレックス（Speed & Duplex）」の設定は「半二重（Half Duplex）」を選択してください。「全二重（Full Duplex）」を選択すると、通信速度が異常に遅かったり、通信ができないなどの問題が発生します。

1 本機の電源を切る

2 LANケーブルをLANコネクタ（品）に接続する



参照

LANコネクタの位置

「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 19)」

3 ハブなどのネットワーク機器に、LANケーブルのもう一方のコネクタを接続する

4 本機の電源を入れる

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。



参照

必要な構成要素の詳細について

Windowsのヘルプの中にあるネットワーク関連の項目

ネットワーク接続のセットアップ



チェック

工場出荷時は、ネットワークプロトコル（TCP/IP）が設定されています。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリック
- 3 左のメニューから「アダプターの設定の変更」をクリック
- 4 「ローカル エリア接続」を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック
- 5 「ネットワーク」タブで必要な構成要素の設定をする



メモ

必要な構成要素がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

- 6 「OK」ボタンをクリック

以上でネットワーク接続のセットアップは完了です。

続いて、コンピュータ名などの設定を行います。

接続するネットワークとコンピュータ名の設定

接続するネットワークに関する設定と、ネットワークで表示されるコンピュータ名を設定します。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリック

3 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」欄の「設定の変更」をクリック

4 「コンピューター名」タブの「変更」ボタンをクリック

5 「コンピューター名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に必要な情報を入力する



メモ

入力する情報がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

6 「OK」ボタンをクリック

確認のメッセージが表示されます。

7 「OK」ボタンをクリック

8 「閉じる」ボタンをクリック

9 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「今すぐ再起動する」ボタンをクリック

本機が再起動します。

以上でLANの設定は完了です。

リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能

[021805-27]

本機におけるLANによるリモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能 (以降、WoL) は次の通りです。

- 電源の切れている状態から電源を入れる
- スリープ状態や休止状態からの復帰

WoLを使うように本機を設定している場合、本機の電源が切れているときも、LANアダプタには通電されています。管理者のパソコンから本機にパワーオンを指示する特殊なパケット (Magic Packet) を送信し、そのパケットを本機の専用コントローラが受信するとパワーオン動作を開始します。

これにより、管理者のパソコンが離れた場所にあっても、LANで接続された本機の電源を入れたり、スリープ状態や休止状態から復帰させることができます。



チェック

- WoLを利用するためには、管理者パソコンにMagic Packetを送信するためのソフトウェア (WebSAM Client Managerなど) のインストールが必要です。
- 前回のシステム終了 (電源を切る、休止状態にする、スリープ状態にする) が正常に行われなかった場合、WoLを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindowsを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- サポートする速度が1000MbpsのみのハブではWoLは使用できません。10M/100M/1000M Auto-negotiation機能が搭載されたハブを使用してください。
- WoLの設定を行った場合は、工場出荷時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、WoLの設定は行わずに工場出荷時の設定で使用してください。
- WoLを使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機を休止状態または電源が切れている状態にしてください。

電源の切れている状態からWoLを利用するための設定

電源が切れている状態からのWoLを利用するには、次の設定を行ってください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

2 「Advanced」メニューの「Remote Power On」を「Enabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。



チェック

必要に応じて、起動時のパスワードの設定も行ってください。



参照

起動時のパスワードの設定

「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[「Security」メニュー \(P. 306\)](#)」

以上で設定は完了です。

スリープ状態または休止状態からWoLを利用するための設定



チェック

以下の設定を行う場合は、管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄の「Wake On Magic Packet」をクリック

6 「値」欄で「オン」を選択し、「OK」ボタンをクリック

7 再度表示されたLANアダプタをダブルクリック

8 「電源の管理」タブをクリック

9 次の項目を確認し、チェックが付いていない場合はチェックを付ける

- 「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

- 「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

10 「OK」 ボタンをクリック

11 をクリック

12 をクリック

以上で設定は完了です。

設定の解除

スリープ状態または休止状態からWoLを利用する設定を解除する場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」 を開く

2 「ネットワーク アダプター」 をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「電源の管理」 タブをクリック

5 下記の設定項目のチェックを外す

- 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

6 「詳細設定」 タブをクリック

7 「プロパティ」 欄の「Wake On Magic Packet」 をクリック

8 「値」 欄で「オフ」 を選択し、「OK」 ボタンをクリック

9 をクリック

10 をクリック

11 本機を再起動する

以上で設定は完了です。

ネットワークブート機能（PXE機能）

[021806-27]

ネットワークから起動して管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

- OSインストール
- BIOSフラッシュ（BIOS ROMの書き換え）
- BIOS設定変更

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「[BIOSセットアップユーティリティについて \(P. 296\)](#)」

2 「Advanced」メニューの「Network Boot Agent」を「Enabled」に設定する

3 「Boot」メニューの「Boot Device Priority」で、「1st Boot」を「Network」に設定する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でネットワークブートを使用するための設定は完了です。

本機の無線LAN機能の概要について説明しています。

➤ 概要.	174
➤ 本機を安全にネットワークに接続するために.	176
➤ 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意.	178
➤ 使用上の注意.	180
➤ 無線LAN機能のオン/オフ.	182
➤ 無線LANの設定と接続.	185
➤ PROSet/Wirelessのインストール.	195
➤ PROSet/Wirelessのアンインストール.	196
➤ ワイヤレスLANの設定.	197
➤ インテル® My WiFi ダッシュボード.	199
➤ 無線LANに関する用語一覧.	204

無線LAN機能でできること

無線LAN機能を使用することで、次のようなことができます。

無線LAN対応周辺機器との無線接続

本機と無線LANに対応した別売の周辺機器を使用すると、ケーブルで接続せずにLANを利用できます。例えば、無線LANに対応したルータやターミナルアダプタなどを利用してインターネットに接続できます。

他の無線LAN対応コンピュータとの無線通信

本機と無線LANに対応した他のコンピュータとの間で、ケーブル接続やメモリーカードなどの媒体を使用せずに、ファイルのコピーなどが行えます。



チェック

- 無線LAN機能は、周囲にあるIEEE802.11a (5GHz)、IEEE802.11b (2.4GHz)、IEEE802.11g (2.4GHz)、およびIEEE802.11n (2.4/5GHz) に対応した無線LAN機器を検出し、このうち1台を選択して接続できます。
- IEEE802.11n (2.4/5GHz) 対応無線LANモデルにおいて40MHz幅を利用するには、接続先の無線LAN機器も40MHz幅に対応している必要があります。
- IEEE802.11n (2.4/5GHz) 規格による無線通信を行う際は、暗号化方式をAESに設定してください。それ以外の方式に設定した場合、IEEE802.11n (2.4/5GHz) 規格が利用できません。
- WPA - エンタープライズ、WPA2 - エンタープライズまたは認証機能 (IEEE802.1X) を使用した接続を行う場合は、各項目の設定内容をネットワークの管理者にお問い合わせください。
- IEEE802.11a (5GHz) モード、IEEE802.11n (2.4/5GHz) モードでのアドホック接続はサポートしていません。

無線LAN機能使用上の注意

- 通信速度・通信距離は、無線LAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
- 電波の性質上、通信距離が離れるに従って通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、無線LAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- 2.4GHz周波数帯を利用する機器（電子レンジなど）を同時に使用した場合、2.4GHz無線LAN対応機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。2.4GHz無線LAN対応機器と2.4GHz周波数帯を利用する機器（電子レンジなど）は離して使用することをおすすめします。
- Bluetooth機能やIntel® WiDiと、無線LAN機能を同時に使用した場合、それぞれの通信速度や通信距離が低下する場合があります。
- 2.4GHz無線LAN対応機器とBluetooth機器など、同じ周波数帯を利用する機器を同時に使用した場合、それぞれの機器の通信速度や通信距離が低下する場合があります。同じ周波数帯を利用する機器はいずれかをオフにするか、離して使用することをおすすめします。

- ネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントなどが必要です。
- 医療機関で使用する場合には、医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスリープ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認の上、スリープ状態または休止状態を使用してください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて

「無線LAN機能のオン/オフ (P. 182)」

無線LAN対応製品との接続

無線LAN対応製品

本製品と接続できる無線LAN対応製品には、無線LAN内蔵コンピュータ、無線LANアクセスポイント、無線LAN周辺機器などがあります。

無線LAN機器同士の接続互換性については、業界団体Wi-Fi Alliance による「Wi-Fi®」認定を取得している、同じ規格の製品をご購入されることをおすすめします。

本機を安全にネットワークに接続するために

[021801-27]

コンピュータウイルスやセキュリティ上の脅威を避けるためには、お客様自身が本機のセキュリティを意識し、常に最新のセキュリティ環境に更新する必要があります。

本機のLAN機能や無線LAN機能を使用して、安全にネットワークに接続するために、次の対策を行うことを強くおすすめします。



チェック

稼働中のネットワークに接続する場合は、接続先のネットワークの管理者の指示に従って接続を行ってください。



メモ

Windowsのセキュリティ機能（アクションセンター）では、ファイアウォールの設定、自動更新、マルウェア対策ソフトウェアの設定、インターネットセキュリティの設定、ユーザーアカウント制御の設定などの、コンピュータ上のセキュリティに関する重要事項の状態をチェックすることができます。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

ウイルス対策アプリケーションの利用

コンピュータウイルスから本機を守るために、ウイルス対策アプリケーションをインストールすることをおすすめします。

本機を利用する環境で、使用するウイルス対策アプリケーションが定められている場合は、そのアプリケーションを使用してください。

また、本機にはウイルスを検査・駆除するアプリケーションとしてウイルスバスターが添付されています。



参照

ウイルスバスターについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「ウイルスバスター (P. 409)」

ファイアウォールの利用

コンピュータウイルスによっては、ネットワークに接続しただけで感染してしまう例も確認されています。このようなコンピュータウイルスから本機を守るためにファイアウォール（パーソナルファイアウォール）を利用することをおすすめします。

本機を利用する環境で、ファイアウォールの利用についての規則などがある場合は、そちらの規則に従ってください。また、本機にインストールされているOSでは、標準で「Windows ファイアウォール」機能が有効になっています。「Windows ファイアウォール」について、詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

■ Windows® Update、またはMicrosoft® Update

最新かつ重要な更新プログラムが提供されています。

Windowsを最新の状態に保つため、ネットワークに接続後、定期的にWindows® Update、またはMicrosoft® Updateを実施してください。



チェック

本機には更新プログラムがインストールされています。更新プログラムをアンインストールすると、修正されていた問題が発生する可能性がありますので、更新プログラムのアンインストールは行わないでください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

[021902-27]

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピュータ等と無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者によって、電波を故意に傍受され、

- IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
- メールの内容

等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者によって、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスされ、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ 本機で設定できるセキュリティ

盗聴（傍受）を防ぐ

WEP機能を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間の無線LAN通信データを暗号化できるので、通信の盗聴や、関係のないコンピュータや機器からの接続を防ぐことができます。WEP機能には64bitWEP対応、128bitWEP対応、152bitWEP対応のものがあり、本機の無線LAN機能は、64bitWEPと128bitWEPに対応しています。ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをおすすめします。



チェック

WEP機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器もWEP機能に対応している必要があります。

不正アクセスを防ぐ

- 無線LANアクセスポイントに任意のネットワーク名（SSID）を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、同じSSIDを設定していない機器でも、そのネットワークがどんなSSIDを使用しているかは検出できてしまうため、SSIDを設定しただけではセキュリティを保てません。これを回避するには、無線LANアクセスポイント側でSSIDを通知しないようにSSIDの隠ぺいの設定をする必要があります。
- 接続するコンピュータなどのMACアドレス（ネットワークカードが持っている固有の番号）を無線LANアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外は無線LANアクセスポイントに接続できなくなります（MACアドレスフィルタリング）。

より高度なセキュリティ設定を行う

Wi-Fi Allianceが提唱するWPA（Wi-Fi Protected Access）やWPA2機能を利用します。IEEE802.1X/EAP（Extensible Authentication Protocol）規格によるユーザー認証、WEP機能に比べて大幅に暗号解読が困難とされる暗号化方式TKIP（Temporal Key Integrity Protocol）やAES(Advanced Encryption Standard)を使用することで、より高度なセキュリティ設定が行えます。



チェック

WPA機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器とネットワーク環境がWPA機能をサポートしている必要があります。WPA2機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器とネットワーク環境がWPA2機能をサポートしている必要があります。

使用上の注意

[021903-27]



- 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域（2.4GHz～2.4835GHz）を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域（2.427GHz～2.47075GHz）が回避可能です。変調方式としてDS-SS方式とOFDM方式を採用しており、与干渉距離は40mです。
- 本製品には、5GHz帯小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品に内蔵されている無線設備は、5GHz帯域（5.15GHz～5.35GHz、5.47GHz～5.725GHz）を使用しており、以下のチャンネルに対応しています。
 - W52 : Ch36 (5180MHz) ,Ch40 (5200MHz) ,Ch44 (5220MHz) ,Ch48 (5240MHz)
 - W53 : Ch52 (5260MHz) ,Ch56 (5280MHz) ,Ch60 (5300MHz) ,Ch64 (5320MHz)
 - W56 : Ch100 (5500MHz) ,Ch104 (5520MHz) ,Ch108 (5540MHz) ,Ch112 (5560MHz) ,Ch116 (5580MHz) ,Ch120 (5600MHz) ,Ch124 (5620MHz) ,Ch128 (5640MHz) ,Ch132 (5660MHz) ,Ch136 (5680MHz) ,Ch140 (5700MHz)
- IEEE802.11a/n (W52、W53) 無線LANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。
- 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。
分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。
また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- 本製品の電波出力は、一般社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格（RCR STD-38）」に基づく基準値を下回っています。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
- 自動ドアや火災報知機など、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります（本製品の電源を入/切することで影響の原因になっているかどうか判別できます）。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。
 - 本製品と影響を受けている装置の距離を離してください。
 - 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気系統のコンセントから、本製品の電力を供給してください。
 - 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。

- トラック無線（CB無線）やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。
詳しくは、ご使用場所管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- 他の無線機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。
- 電子レンジなど、本製品と同じ周波数帯域を使用する産業・科学・医療用機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。
- 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信速度が異なります。

無線LAN機能のオン/オフ

[021904-27]

無線LAN機能のオン/オフを切り替えるには、次の方法があります。

- ▶ [ワイヤレススイッチで切り替える](#)..... 183
- ▶ [「ワイヤレス ネットワーク接続」で切り替える](#)..... 183
- ▶ [「Access Connections」で切り替える](#)..... 183



メモ

無線LAN機能のオン/オフの設定は、電源を切った後も保存されます。



チェック

- 他の機器に影響を与える場合や無線LAN機能を使用しない場合は、無線LAN機能をオフにすることをおすすめします。
- 無線LAN機能をオフにすると、無線LAN機能を利用しているIntel® WiDiやインテル® My WiFi ダッシュボードも使用できなくなります。
- BIOSセットアップユーティリティでワイヤレスデバイスそのものを無効にしている場合、これらの方法で無線LAN機能を有効にすることはできません。BIOSセットアップユーティリティでワイヤレスデバイスを有効に設定してから操作を行ってください。
- 無線LAN機能のオン/オフは、Windows モビリティ センターから確認できます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック**
- 2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「Windows モビリティ センター」をクリック**
- 3 「ワイヤレス ネットワーク」を確認する**



参照

- **Intel® WiDiについて**
「外部ディスプレイ」の「[Intel® WiDi \(P. 111\)](#)」
- **インテル® My WiFi ダッシュボードについて**
「[インテル® My WiFi ダッシュボード \(P. 199\)](#)」
- **BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について**
「システム設定」の「[BIOSセットアップユーティリティについて \(P. 296\)](#)」および「[設定項目一覧 \(P. 301\)](#)」

ワイヤレススイッチで切り替える

本機のワイヤレススイッチで、無線LAN機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

この方法でオフにした場合、無線LAN機能を含むすべてのワイヤレス機能がオフになります。



参照

ワイヤレススイッチの位置について
「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 19)」

「ワイヤレス ネットワーク接続」で切り替える

Windows標準の無線LAN機能を使って、無線LAN機能のオン/オフを切り替えることができます。

オンにする場合

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック
- 3 左側の「アダプターの設定の変更」をクリック
- 4 「ワイヤレス ネットワーク接続」を右クリックし、表示されたメニューから「有効にする」をクリック

オフにする場合

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック
- 3 左側の「アダプターの設定の変更」をクリック
- 4 「ワイヤレス ネットワーク接続」を右クリックし、表示されたメニューから「無効にする」をクリック

「Access Connections」で切り替える

「Access Connections」を使って、無線LAN機能のオン/オフを切り替えることができます。



参照

Access Connectionsについて

「Access Connections」の「[Access Connectionsでの無線LAN機能のオン/オフ \(P. 416\)](#)」

無線LANの設定と接続

[021905-27]

➤ 無線LANの設定をする.	187
➤ セキュリティとデータの暗号化について.	191
➤ 設定済みの接続先に接続する.	193
➤ 接続を切断する.	193
➤ 接続の確認.	194



チェック

- ネットワーク上でファイルやフォルダを共有する場合は、アクセス権を設定してください。
- ドライバのプロパティの「電源の管理」タブの設定は変更しないでください。



メモ

- セキュリティ設定や周囲の無線環境によっては、接続までに時間がかかる場合や、通信速度が低下する場合があります。
- 工場出荷時の状態では、2.4GHzのみを使用できる設定になっています。5GHzを使用する場合は、「ワイヤレスLANの設定」で設定変更してください。
- WPS (Wi-Fi Protected Setup) に対応した無線LANアクセスポイントと接続する場合、PINの入力や、ルーターのボタンを押すことを要求する画面が表示されることがあります。これらの操作でも無線LANアクセスポイントと接続できますが、機器の組み合わせによっては接続に失敗することもありますので、その場合はセキュリティ キーを入力して接続を行ってください。
- WPSで接続する場合は、セキュリティが自動的に設定されます。設定されたセキュリティについては、無線LANアクセスポイントの設定画面かマニュアルなどで確認してください。
- PINの記載箇所については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- IEEE802.11n規格による無線LAN通信を行う場合、工場出荷時の設定では、2.4GHz帯は20MHz幅で接続されます。40MHz幅で接続する場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 「Intel(R) Centrino(R) Advanced-N 6205」をダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄で「バンド 2.4用 802.11n チャンネル幅」を選択する

6 「値」欄の▼をクリックし、「自動」を選択する

7 「OK」ボタンをクリック

- Windows標準の無線LAN機能でサポートしていない認証機能 (LEAPなど) をご利用になる場合は、PROSet/Wirelessをインストールする必要があります。
- 「Access Connections」を使用して、設定と接続を行う場合は「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「[Access Connections \(P. 415\)](#)」をご覧ください。



参照

- **ワイヤレスLANの設定について**
「[ワイヤレスLANの設定 \(P. 197\)](#)」
- **PROSet/Wirelessのインストールについて**
「[PROSet/Wirelessのインストール \(P. 195\)](#)」

無線LANの設定をする

接続する機器によって、設定手順が異なります。お使いの環境にあわせて設定を行ってください。

ネットワーク名（SSID）を通知する無線LANアクセスポイントに接続する場合

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 182)」

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック


4 「ネットワーク設定の変更」欄の「ネットワークに接続」をクリック

ネットワーク名（SSID）と信号状態の一覧が表示されます。

5 接続する無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）をクリック



チェック

- 選択した無線LANアクセスポイントに間違いがないか、ネットワーク名（SSID）を確認してください。
- ネットワーク名（SSID）の一覧に接続するネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、 ボタンをクリックしてください。それでもネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、無線LANアクセスポイントがネットワーク名（SSID）を通知しない設定になっている場合があります。無線LANアクセスポイントの設定を確認し、「ネットワーク名（SSID）を通知しない無線LANアクセスポイントに接続する場合 (P. 188)」の手順で設定を行ってください。

6 「自動的に接続する」にチェックが付いていることを確認して、「接続」ボタンをクリック



メモ

- 「自動的に接続する」のチェックを外した場合、設定は保存されません。
- 自動的に接続する設定は、後から変更できます。

7 「セキュリティ キー」の入力を要求する画面が表示された場合は、接続先に設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力して、「OK」 ボタンをクリック

これで設定は完了です。

ネットワーク名 (SSID) を通知しない無線LANアクセスポイントに接続する場合

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 182)」

2 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」 をクリック

3 「ネットワークとインターネット」 をクリックし、「ネットワークと共有センター」 をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」 欄の「新しい接続またはネットワークのセットアップ」 をクリック

5 「ワイヤレス ネットワークに手動で接続します」 を選択し、「次へ」 ボタンをクリック

ワイヤレス ネットワークの情報を入力する画面が表示されます。

6 「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」 にチェックを付ける

7 接続先の無線LANアクセスポイントにあわせて設定を行う

- 「ネットワーク名」
接続先の無線LANアクセスポイントのネットワーク名 (SSID) を入力します。
- 「セキュリティの種類」、 「暗号化の種類」
接続先の無線LANアクセスポイントの設定にあわせて選択します。
セキュリティと暗号化の種類については、「セキュリティとデータの暗号化について (P. 191)」をご覧ください。
- 「セキュリティ キー」
接続先の無線LANアクセスポイントに設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力します。
- 「この接続を自動的に開始します」
チェックを付けると、接続先が通信可能範囲にある場合、自動で接続するように設定されます。

8 「次へ」 ボタンをクリック

9 「正常に <ネットワーク名 (SSID) > を追加しました」と表示されたら、次の手順を行う

- **設定を変更しない場合**
手順10に進んでください。
- **設定を変更する場合**
「接続の設定を変更します」をクリックし、表示される画面で設定を行ってください。
設定が完了したら「OK」ボタンをクリックし、手順10へ進んでください。



チェック

接続先の無線LANアクセスポイントにWEPキーが設定されており、暗号化キー番号（キーインデックス）が「1」以外に設定されている場合は、ここで設定を変更する必要があります。「接続の設定を変更します」をクリックし、「セキュリティ」タブの「キー インデックス」で設定を行ってください。

10 「閉じる」ボタンをクリック

これで設定は完了です。

手順7で「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けなかった場合は、「[設定済みの接続先に接続する \(P. 193\)](#)」をご覧ください、手動で接続を行ってください。

コンピュータ同士で通信（アドホック通信）する場合



チェック

- 本機では、IEEE802.11a (5GHz) モード、IEEE802.11n (2.4/5GHz) モードでのアドホック接続はサポートしていません。
- アドホック接続の通信状況が不安定な場合は、一度接続を切断してから電波状況のよい場所にコンピュータを移動させ、再度接続設定を行ってください。

●他のコンピュータに本機を接続する場合

アドホック接続の設定が完了している他のコンピュータと本機を接続する場合は次の手順で行います。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください、無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「[無線LAN機能のオン/オフ \(P. 182\)](#)」

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」欄の「ネットワークに接続」をクリック

ネットワーク名（SSID）と信号状態の一覧が表示されます。

5 接続先のコンピュータのネットワーク名（SSID）を選択して、「接続」ボタンをクリック

6 「セキュリティ キー」または「パスフレーズ」の入力を要求する画面が表示された場合は、接続先に設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力して、「OK」ボタンをクリック

これで設定は完了です。

●他のコンピュータが本機に接続できるようにする場合

他のコンピュータが接続できるように本機を設定するには次の手順で行います。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて

「無線LAN機能のオン/オフ (P. 182)」

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」欄の「新しい接続またはネットワークのセットアップ」をクリック

5 「ワイヤレス アドホック(コンピューター相互) ネットワークを設定します」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

6 「次へ」ボタンをクリック

ワイヤレス ネットワークの情報を入力する画面が表示されます。

7 「ネットワーク名」欄にアドホック接続に使用するネットワーク名（SSID）を入力する

8 「セキュリティの種類」を設定する

9 「セキュリティ キー」欄にネットワーク セキュリティ キーを入力する

10 「このネットワークを保存します」にチェックを付けて、「次へ」ボタンをクリック

11 「閉じる」ボタンをクリック

接続設定が保存され、アドホック接続待ちの状態になります。

これで設定は完了です。

アドホック接続を接続待ちの状態にする場合

設定済みのアドホック接続を接続待ちの状態にする場合は次の手順で行います。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧になり、無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 182)」

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」欄の「ネットワークに接続」をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。

5 接続待ち状態にするアドホック接続のネットワーク名 (SSID) を選択し、「接続」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

セキュリティとデータの暗号化について

セキュリティと暗号化の方式は、無線LANアクセスポイントや接続する機器同士で設定をあわせる必要があります。本機の無線LAN機能で設定できる、セキュリティと暗号化の方式は次の通りです。

選択できるセキュリティと暗号化の方式

●無線LANアクセスポイントに接続する場合

セキュリティの種類	暗号化の種類
-----------	--------

認証なし（オープン システム）	なし、WEP
共有キー	WEP
WPA2 - パーソナル	TKIP、AES
WPA - パーソナル	
WPA2 - エンタープライズ	
WPA - エンタープライズ	
802.1X	WEP

●コンピュータ同士で通信（アドホック通信）する場合

セキュリティの種類	暗号化の種類
認証なし（オープン システム）	なし、WEP
WPA2 - パーソナル	AES



メモ

- セキュリティは設定することを強く推奨します。セキュリティの設定を行わない場合は、「無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意 (P. 178)」の内容をご確認の上、使用してください。
- WPA2 - エンタープライズ、WPA - エンタープライズ、および認証機能（IEEE802.1X）を使用した接続を行う場合は、各項目の設定内容をネットワークの管理者にお問い合わせください。

ネットワーク セキュリティ キー

データの暗号化を行う場合、ネットワーク セキュリティ キーを設定します。

ネットワーク セキュリティ キーは、通信を行う無線LANアクセスポイントや相手のコンピュータと同じ設定にします。

暗号化の方式と、ネットワーク セキュリティ キーとして使用できる文字種と文字数は以下の通りです。

●WEPの場合

キーの長さが長い（bit数が大きい）ほど、通信内容の解読がされにくくなり、安全性が高くなります。

入力形式	長さ	キーに使用する文字	説明
ASCIIテキスト	64bit	半角英数字で5文字	相手の機器が64bit暗号キーに対応している場合に使えます。64bitのうち40bitをユーザーが指定し、24bitはシステムが設定します。
16進数		16進数（0～9、A～Fの半角英数字）で10文字	
ASCIIテキスト	128bit	半角英数字で13文字	相手の機器が128bit暗号キーに対応している場合に使えます。128bitのうち104bitをユーザーが指定し、24bitはシステムが設定します。
16進数		16進数（0～9、A～Fの半角英数字）で26文字	

●WPA - パーソナル (TKIP、AES) またはWPA2 - パーソナル (TKIP、AES) の場合

入力されたネットワークセキュリティキーを元にして、一定時間ごとにキー自体が自動更新されるため、WEPよりも安全性が高くなります。

入力形式	キーに使用する文字
ASCIIテキスト	半角英数字で8文字以上63文字以下
16進数	16進数 (0~9、A~Fの半角英数字)で64文字



チェック

WPA - パーソナルやWPA2 - パーソナルによる暗号化を使用するには、接続する相手の機器も同じセキュリティ機能に対応している必要があります。

■ 設定済みの接続先に接続する

設定済みの接続先に接続するには、次の手順で行います。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 182)」

2 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

3 接続先をクリックし、「接続」ボタンをクリック

以上で接続は完了です。

■ 接続を切断する

接続中のネットワーク接続を切断するには、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 切断する接続先をクリックし、「切断」ボタンをクリック



メモ

現在接続中の接続先には「接続」と表示されています。



チェック

接続の状態の表示は、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

以上で切断は完了です。

接続の確認

接続の状態を確認するには、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 状態を確認したい接続先にマウスカーソルを合わせる

接続先の詳細な情報が表示されます。



参照

無線LANの設定について

Windows標準の無線LAN機能の詳細については、Windowsのヘルプをご覧ください。

PROSet/Wirelessのインストール

[021907-27]

本機の無線LANでは、PROSet/Wirelessを使用することで、Windows標準の無線LAN機能でサポートしていない認証機能（LEAPなど）をご利用になれます。



チェック

- Intel® WiDiを使用する場合は、インストールの手順が異なります。「外部ディスプレイ」の「Intel® WiDi (P. 111)」をご覧ください。
- PROSet/Wirelessは、ユーザー名が半角英数字のみのユーザーで使用してください。
- PROSet/Wirelessインストール後に、認証の種類で「EAP-AKA」、「EAP-SIM」を選択しても、本機では使用できません。

PROSet/Wirelessのインストールは次の手順で行います。



チェック

管理者（Administrator）権限を持つユーザー（ユーザー名は半角英数字）で行ってください。

1

Windowsを起動する

2

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

3

「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WLINSEV¥UTILITY¥APPS¥Setup.exe△/qn△/forcerestart

※△は半角スペースを意味しています。

インストールが始まります。



チェック

- インストール中は画面に何も表示されません。
- インストール完了後は自動的にWindowsが再起動します。

以上でPROSet/Wirelessのインストールは終了です。

PROSet/Wirelessのアンインストール

[021908-27]

PROSet/Wirelessのアンインストールは次の手順で行います。



チェック

- Intel® WiDiとあわせてPROSet/Wirelessをインストールしている場合、アンインストールの手順が異なります。「外部ディスプレイ」の「Intel® WiDi (P. 111)」をご覧ください、記載の手順に従ってIntel® WiDiとあわせてアンインストールを行ってください。
- 管理者 (Administrator) 権限を持つユーザー (ユーザー名は半角英数字) で行ってください。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

3 「名前」欄に以下のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥WLINSEV¥UTILITY¥APPS¥Setup.exe△/qn△/x△/forcerestart

※△は半角スペースを意味しています。

アンインストールが始まります。



チェック

- アンインストール中は画面に何も表示されません。
- アンインストール完了後は自動的にWindowsが再起動します。

以上でPROSet/Wirelessのアンインストールは終了です。

ワイヤレスLANの設定

[021909-27]

「ワイヤレスLANの設定」で、本機の無線LAN機能で使用する周波数帯を切り替えることができます。

「ワイヤレスLANの設定」を起動する

「ワイヤレスLANの設定」の起動は次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ワイヤレスLANの設定」→「ワイヤレスLANの設定」をクリック

「ワイヤレスLANの設定」画面が表示されます。



参照

「ワイヤレスLANの設定」について
「ワイヤレスLANの設定」のヘルプ



メモ

「ワイヤレスLANの設定」のヘルプは、「ワイヤレスLANの設定」を起動して、「ヘルプ」ボタンをクリックするか、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ワイヤレスLANの設定」→「ワイヤレスLANの設定ヘルプ」をクリックすることで表示できます。

無線LANの周波数帯を切り替える

本機の無線LAN機能で使用する周波数帯を切り替えるには、次の手順で行います。



チェック

インターネット接続中やファイルの転送中などに設定を変更しないでください。

1 「ワイヤレスLANの設定」を起動する

2 次の操作を行う

- 2.4GHzと5GHz（屋内モード）に設定する場合
「2.4GHzと5GHz（屋内モード）」
- 2.4GHz（屋外モード）に設定する場合
「2.4GHz（屋外モード）」



メモ

- **2.4GHzと5GHz（屋内モード）**

802.11/abgnで接続されるモードです（※802.11/abgnで設定されます。その他のモードでは設定されません）。

- **2.4GHz（屋外モード）**

802.11/bgnで接続されるモードです（※802.11/bgnで設定されます。その他のモードでは設定されません）。



チェック

IEEE802.11n（W52/W53）およびIEEE802.11a（W52/W53）無線LANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。「2.4GHzと5GHz（屋内モード）」は、屋外で使用しないでください。

3 「OK」 ボタンをクリック

以上で周波数帯の切り替えは完了です。

インテル® My WiFi ダッシュボード

[021916-27]

インテル® My WiFi ダッシュボードを使用することで、無線LANアクセスポイントがない環境でも、本機と無線LAN対応の周辺機器を接続したり、本機に接続した機器とインターネット接続やファイルの共有ができます。



チェック

工場出荷時の状態では、インテル® My WiFi ダッシュボードはインストールされていません。「外部ディスプレイ」の「Intel® WiDi (P. 111)」をご覧ください。記載の手順に従ってIntel® WiDiとあわせてインストールを行ってください。

接続可能な機器

本機の無線LAN機能が対応している通信規格と、同じ規格に対応した無線LAN機能が搭載された周辺機器と接続できます。



メモ

インテル® My WiFi ダッシュボード動作確認済み、またはWPS (Wi-Fi Protected Setup) とWPA2の両方に対応した機器をおすすめします。

使用上の注意

- 他のパソコンやスマートフォン、周辺機器を合計で8台まで接続することができますが、Intel® WiDi用アダプターなど、機器によっては複数台接続して利用できないものがあります。
- 複数の機器を同時に接続したり、通信負荷の高い機器を接続すると通信速度が低下したり切断する場合があります。
- 周辺機器の用途によっては、別途ソフトウェアやドライバのインストール、および設定変更が必要になります。
- 機器やソフトウェアによっては、正常に接続できないことや動作しないことがあります。ご購入前にメーカーなどにご確認ください。インテル® My WiFi ダッシュボードで正常に接続できなかったり、動作しない場合は、無線LANアクセスポイントを利用して接続してください。
- IEEE802.11b規格にのみ対応した機器は接続できません。
- 本機を無線LANアクセスポイントに接続していない場合、IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) の1~11chでのみ周辺機器と接続します。
- 本機を無線LANアクセスポイントに接続している場合は、無線LANアクセスポイントと接続している通信規格のチャンネルでのみ使用できます。
通信規格と使用できるチャンネルは次の通りです。
 - IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) : 1~13ch
 - IEEE802.11a (5GHz)、またはIEEE802.11n (5GHz) : W52 (36、40、44、48ch) のみ



チェック

IEEE802.11a (5GHz)、またはIEEE802.11n (5GHz) で無線LANアクセスポイントに接続している場合、IEEE802.11g (2.4GHz)、またはIEEE802.11n (2.4GHz) の規格にのみ対応した機器は接続できません。

- 見覚えのない機器が接続していないか注意してください。接続の必要がない場合は、接続している機器を切断し「ホットスポット」を「オフ」にすることをおすすめします。

機器の接続



メモ

インテル® My WiFi ダッシュボードをインストールしているパソコンとの接続は、インテル® My WiFi ダッシュボードのヘルプを参照してください。

インテル® My WiFi ダッシュボードをインストールしていないパソコン、および周辺機器との接続

ここでは、WPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応した機器を接続する場合の手順について説明します。接続の手順は、接続する機器がWPS（Wi-Fi Protected Setup）のPIN設定かプッシュボタン設定かで異なります。



チェック

手動で設定する場合は、無線LAN接続に関する詳しい知識が必要になります。接続する機器側で本機に接続設定を行ってください。

●PIN設定の場合

1 タスク バーの通知領域にある をクリックして表示される をクリック

「インテル® My WiFi ダッシュボード」が表示されます。

2 「Wi-Fi Direct™」が「オフ」になっている場合は、クリックして「オン」にする

3 「ホットスポット」が「オフ」になっている場合は、クリックして「オン」にする

4 「ホットスポットの設定」画面が表示された場合は、設定を確認し、「OK」ボタンをクリック

5 「オプション」をクリックし、「レガシーデバイスの追加」をクリック

6 「デバイスのPINを入力してデバイスを追加」を選択する

7 接続する機器側に記載、または画面などに表示されているPINを入力する

接続処理が開始されます。接続が完了するまでしばらく時間がかかる場合があります。詳細な手順については、接続する機器側のマニュアルなどを参照してください。

●プッシュボタン設定の場合

1 タスク バーの通知領域にある をクリックして表示される をクリック

「インテル® My WiFi ダッシュボード」が表示されます。

2 「Wi-Fi Direct™」が「オフ」になっている場合は、クリックして「オン」にする

3 「ホットスポット」が「オフ」になっている場合は、クリックして「オン」にする

4 「ホットスポットの設定」画面が表示された場合は、設定を確認し、「OK」ボタンをクリック

5 「オプション」をクリックし、「レガシーデバイスの追加」をクリック

6 「デバイスのボタンを押してデバイスを追加」を選択する

7 接続する機器側でWPS (Wi-Fi Protected Setup) ボタンを押す

接続処理が開始されます。接続が完了するまでしばらく時間がかかる場合があります。
詳細な手順については、接続する機器側のマニュアルなどを参照してください。

接続した機器からのインターネット接続

本機に、インターネット接続可能な機器を接続した場合、次の条件を満たせば、接続した機器からインターネットに接続することができます。

- 本機が、有線LANまたは無線LANでインターネットに接続している
- 「インテル® My WiFi ダッシュボード」の「ホットスポット」が「オン」になっている
- 「オプション」の「設定」-「ホットスポット」タブの「インターネット接続を自動的に共有(デバイスをホットスポットにした場合は常に)」にチェックが付いている



メモ

起動時や、スリープ状態や休止状態からの復帰後は「ホットスポット」は「オフ」になっています。
また「ホットスポット」を「オン」にしても、接続している機器がない場合、約5分後に自動で「ホットスポット」は「オフ」になります。

機器の切断（登録の削除）

本機に接続している機器を切断（登録の削除）する場合は、次の手順で行います。

1 タスクバーの通知領域にある  をクリックして表示される  をクリック

「インテル® My WiFi ダッシュボード」が表示されます。

2 切断したい機器を選択し、 (切断) をクリック



メモ

インテル® My WiFi ダッシュボードで接続したデバイスをすべて切断する場合は「ホットスポット」をクリックしてオフにします。

機器のブロック

ブロックの設定

接続している機器（デバイス）を一時的に切断し、接続できないようにするには、次の手順で機器のブロックを設定してください。

1 タスク バーの通知領域にある をクリックして表示される をクリック

「インテル® My WiFi ダッシュボード」が表示されます。

2 「近くのデバイス」タブ、または「お気に入りデバイス」タブをクリック

3 ブロックする機器をクリックし、 (設定) をクリック

4 (ブロック) をクリック

「デバイスをブロック」画面が表示されます。

5 「ブロック」ボタンをクリック

ブロックの解除

機器のブロックを解除し、再度接続できるようにするには、次の手順でブロックを解除してください。

1 タスク バーの通知領域にある をクリックして表示される をクリック

「インテル® My WiFi ダッシュボード」が表示されます。

2 「近くのデバイス」タブ、または「お気に入りデバイス」タブをクリック

3 ブロックを解除する機器をクリックし、 (設定) をクリック

4 (ブロック解除) をクリック

全ての機器をブロックする

一時的に全ての機器（デバイス）をブロックする場合は、「インテル® My WiFi ダッシュボード」の「受信拒否」をクリックし、「オン」にしてください。

解除する場合は、もう一度「受信拒否」をクリックし、「オフ」にしてください。

無線LANに関する用語一覧

[021913-27]

ここでは無線LANに関する用語について説明します。無線LANの設定をするときにご覧になると便利です。

用語	説明
AES	Advanced Encryption Standardの略。 米国政府内での情報処理用に採用された「次世代標準暗号化方式」のこと。規定の基準（暗号強度、処理速度など）を満足しており、その仕様も公開されていることから、広い分野での利用が行われている。IEEE802.11iの暗号化方式の1つに採用されている。
ANYプローブ応答禁止	SSIDの問い合わせを拒否する設定。
ANY接続拒否	SSIDを「ANY」にセットした無線LAN端末もしくはSSIDに任意の文字列を入れた端末からの接続を拒否する設定。
EAP	Extensible Authentication Protocolの略。 任意の認証機能を用いるための仕様。ダイヤルアップで用いられるPPP（Point-to-Point Protocol）の拡張として開発された。 ユーザー名・パスワード以外にもスマートカード（ICカード）やデジタル証明書などさまざまな認証方式をサポートできる。EAP-TLS、EAP-TTLSなどがある。
EAP-TLS	Transport Layer Security の略。 EAP方式の認証プロトコルの1つで、利用にはクライアント証明書とサーバ証明書が必要となる。
EAP-TTLS	Tunneled Transport Layer Security の略。 EAP方式の認証プロトコルの1つで、EAP-TLSとは異なり、クライアント証明書は必要とせず、代わりにユーザー名・パスワードが用いられる。
IEEE802.11a	IEEEが標準化した5GHz帯の電波を使い最大54Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11b	IEEEが標準化した2.4GHz帯の電波を使い最大11Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11g	IEEEが標準化した2.4GHz帯の電波を使い最大54Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11i	IEEEが標準化を進めている「無線LAN用セキュリティ規格」認証方式や暗号化方式、暗号化キーの取り扱いなどについて規定している。
IEEE802.11n	IEEEが標準化した2.4GHz、5GHz帯のいずれかの電波を使い最大600Mbps（理論値）の転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.1X	無線LAN上で認証と動的なキーの生成と配送を行う仕組み。 IEEE標準。有線LANでポートアクセス管理を行うためにも用いられる。EAPとRADIUSを用いる。
MACアドレスフィルタリング	無線LAN端末固有のMACアドレスを無線LANアクセスポイントに設定することで、無線LAN端末を無線LANアクセスポイントに接続するか否かを制御するセキュリティ方式。

PSK	Pre-Shared Keyの略。 暗号化キーを生成するために用いられる共有（秘密）鍵のこと。この鍵を用いて直接暗号化を行うものではなく、暗号鍵を生成するためのものであることから“事前共有鍵”と呼ばれる。PSKとは、事前共有鍵を用いる認証方式を表す場合がある。													
RADIUS	Remote Authentication Dial-in User Serviceの略。 ネットワークアクセス全般に対する認証、アクセス承認、課金管理を行うプロトコル。													
SSID	Service Set Identifierの略。 無線LANを構成する無線LANアクセスポイントと端末に付けられた識別子のこと。無線LANをグループ化するために用いられる。 無線LANアクセスポイントと端末に同じSSIDが設定されていないと通信できない。無線LANアクセスポイントを中心とした1つのグループであるBSS（Basic Service Set）が、802.11による無線LANのインフラストラクチャ通信の最小単位となるが、複数の無線LANアクセスポイントにまたがった際のローミングを考慮し、BSSを複数束ねたESS（Extended Service Set）が定義されている。このため、SSIDはESSIDと呼ばれることもある。 無線LAN接続ツールによっては、ネットワーク名と記載している場合もある。													
SSIDの隠ぺい	SSIDを無線LANアクセスポイントにより定期的送信されるビーコン中に含まないように設定すること。													
TKIP	Temporal Key Integrity Protocol の略。 暗号化方式の一種で、WPAの暗号化方式として採用されている。 PSKと呼ばれる“事前共有鍵”を元に暗号化キーを一定のデータ量また時間ごとに生成し、暗号化を行う。													
WEPキー	WEP暗号化方式で用いられる“暗号化キー”のこと。種類は共有（秘密）鍵である。													
WPA	① Wi-Fi Protected Accessの略。 Wi-Fi Alliance が規格化した、新しいセキュリティ規格のこと。 WEP方式よりセキュリティ強度が強化されている。暗号化方式と認証プロトコルにより、以下の4つに分類できる。 <table border="1" data-bbox="528 1368 1477 1606"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="2">認証</th> </tr> <tr> <th>PSK</th> <th>EAP</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="2">暗号</th> <th>TKIP</th> <td>(1)</td> <td>(2)</td> </tr> <tr> <th>AES</th> <td>(3)</td> <td>(4)</td> </tr> </tbody> </table> ※WPA仕様書では、暗号プロトコル「AES」は必須ではないため、WPAをサポートしていても、AESをサポートしていない場合がある。 ② WPAにて認証に外部サーバを用いる方式を表す。上記表内の（2）または（4）の方式。			認証		PSK	EAP	暗号	TKIP	(1)	(2)	AES	(3)	(4)
				認証										
		PSK	EAP											
暗号	TKIP	(1)	(2)											
	AES	(3)	(4)											
WPA - パーソナル	WPAにて認証に外部サーバも用いない方式を表す。上記表内の（1）または（3）の方式。													
アドホック（ad hoc）通信	無線LANアクセスポイントを使わず、無線LAN端末同士で通信を行うモードの通信。													
暗号化キー	暗号化を行う鍵のことで、暗号化方式により、公開鍵と共有（秘密）鍵の2種類ある。													

インフラストラクチャ通信	無線LAN端末と無線LANアクセスポイントを利用した形態の通信。
オープンシステム認証	無線LANの認証方式の1つ。無線LAN端末からは資格情報なしに無線LANアクセスポイントに認証依頼を行い、無線LANアクセスポイントは依頼された認証をそのまま受け入れる。そのため、ネットワークキーによる認証は行われていない(サーバ認証とは別)。
キーインデックス	WEP暗号化方式では、仕様上4つのWEPキーを切り替えることができる。WEP暗号化方式では、無線LANアクセスポイントと無線LAN端末の両方のキーインデックスを同じにしなければいけない。製品によってはキーインデックスの値が「0～3」のものや「1～4」のものがあり、設定に注意しなければならない。
キー更新間隔	暗号化キーを生成するデータ量間隔または時間間隔のこと。
共有キー認証	無線LANの認証方式の1つ。無線LANアクセスポイントと端末はネットワークキーを用いたチャレンジレスポンス認証を行う。
ネットワークキー	共有キー認証の「認証キー」と暗号化機能の「暗号化キー」または「PSK」の両方に用いられる「キー」のこと。
ネットワーク認証	無線LANの認証方式の総称。オープンシステム認証、共有キー認証、WPA、WPA - パーソナル、WPA2、WPA2 - パーソナルなどがある。
無線LANアクセスポイント	ネットワークに無線LAN端末を接続する機器であり、一般的には有線LANのHUBに相当する機能を持つ。

本機の無線WAN機能について説明しています。無線WANモデルをお使いの場合のみご覧ください。

▶ 概要.....	208
▶ 使用上の注意.....	209
▶ 無線WAN機能を使用する準備.....	210
▶ 無線WAN機能のオン／オフ.....	213
▶ 接続とセキュリティ.....	215
▶ その他の機能.....	226

無線WAN機能について

無線WAN（Wide Area Network）機能とは、本機を携帯電話、LAN（Local Area Network）や無線LANアクセスポイントに接続することなく、インターネットなどのデータ通信を行う機能です。

本機は「docomo LTE Xi（クロッシィ）」に接続可能な無線WAN機能が搭載されています。

これにより、受信時最大100Mbps/送信時最大37.5Mbps^{※1}の超高速データ通信が利用できます（^{※1}北海道、東北、信越、北陸、中国、四国、沖縄の一部に限ります。対応エリアの詳細は「ドコモのホームページ」でご確認下さい）。Xiエリア外でもFOMAハイスピード（受信時最大14Mbps）の高速データ通信に対応しています。利用可能なエリアは、NTTドコモの提供するXiエリア、FOMAハイスピードエリア、およびFOMAエリアです。FOMAネットワーク以外では、使用できません。



チェック

- 「docomo LTE Xi（クロッシィ）」を使用するためには、NTTドコモのXi回線契約済みのドコモUIMカードが必要です。FOMA回線契約のみのドコモUIMカードは、本機ではご使用になれません。またMVNOの提供するサービスをご使用の場合も、「docomo LTE Xi（クロッシィ）」に対応したカードが必要になります。
- Xiエリア外ではFOMAでデータ通信ができますのでFOMAエリア内であれば従来のFOMAと同様にご利用になれます。
- Xiエリア内でも、電波状況によりFOMAでの通信となる場合があります。
- 通信速度は、送受信時の技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。ベストエフォート方式による提供となり、実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。
- FOMAハイスピードエリア内であっても、場所によっては送受信ともに最大384kbpsの通信となる場合があります。FOMAハイスピードエリア外のFOMAエリアにおいては、送受信ともに最大384kbpsの通信となります。
- 料金形態、サービスエリアの詳細についてはNTTドコモのウェブサイト（<http://www.nttdocomo.co.jp/>）でご確認ください。
- MVNOの提供する、mopera.net以外のサービスあるいは閉域網で使用する場合は別途設定を行う必要があります。上記に該当する接続をご利用の場合は、弊社営業までお問い合わせください。

使用上の注意

[022802-27]

- 無線WAN機能をお使いになる前に、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- ネットワークとの通信中は、本機を休止状態やスリープ状態にしないでください。
- ネットワーク通信をすると、バッテリーのみで使用可能な時間が短くなります。長時間使用するときは、本機にACアダプタを接続し、コンセントからの電源を使用してください。
- 本製品の電波出力は、一般社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格（RCR STD-38）」に基づく基準値を下回っています。
- 本製品には、日本の電波法に基づき工事設計認証された無線設備が内蔵されています。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに無線WAN機能をオフにしてください。
- 自動ドアや火災報知機など、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 心臓ペースメーカー装着部位から30センチ以上離して使用してください。電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。
- 医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか、無線WAN機能を含むワイヤレス機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか、無線WAN機能を含むワイヤレス機能をオフにしてください。
- トンネル・地下・建物の中や陰などで電波が届かない場所、屋外でも電波の弱い場所、および「Xi」、FOMAのサービスエリア圏外では、無線WAN機能を使用できません。
- ビルの高層階など見晴らしの良い場所であっても、無線WAN機能を使用できない場合があります。
- 電波が強い場所で移動せずに使用している場合でも、通信が切れてしまう場合があります。
- 航空機内では無線WAN機能を含むワイヤレス機能をオフにしてください。機体の制御機器などに影響を及ぼし、運航の安全に支障をきたすおそれがあります。
- 分解や修理・改造をしないでください。本機内部に触ると感電の原因になります。
- ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所では、無線WAN機能を含むワイヤレス機能をオフにしてください。爆発や火災が発生するおそれがあります。
- スリープ状態、休止状態に移行する際、通信の切断処理が行われます。データ通信中に状態の移行が行われた場合は、通信中のデータを失うことがあります。
- その他、本製品から移動体識別用特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、ご購入元、またはNECまでご相談ください。



参照

- **無線WAN機能のオン/オフ**
「無線WAN機能のオン/オフ (P. 213)」
- **NECのお問い合わせ先について**
『保証規定&修理に関するご案内』

無線WAN機能を使用する準備

[022803-27]

ドコモUIMカードの取り付け／取り外し

ドコモUIMカードの取り付け



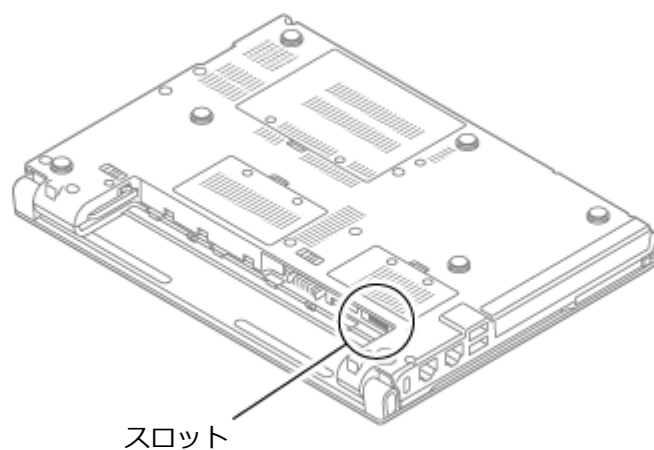
チェック

「docomo LTE Xi (クロッシィ)」を使用するためには、NTTドコモのXi回線契約済みのドコモUIMカードが必要です。FOMA回線契約のみのドコモUIMカードは、本機ではご使用になれません。またMVNOの提供するサービスをご使用の場合も、「docomo LTE Xi (クロッシィ)」に対応したカードが必要になります。

本機へのドコモUIMカードの取り付けは、次の手順で行います。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 本体を裏返す
- 4 バッテリパックを本体から取り外す

バッテリパックを取り外すと、スロットが見えます。





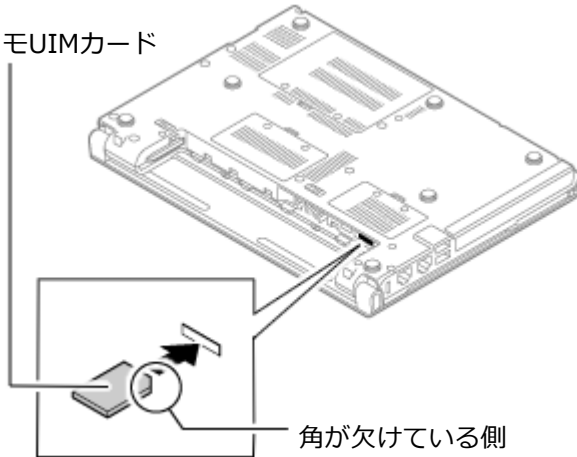
参照

バッテリーパックの取り外しについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 58)」

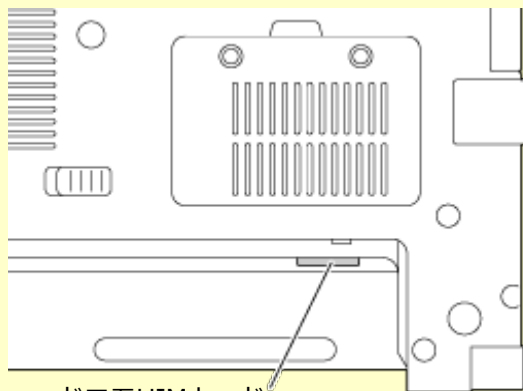
5 ドコモUIMカードの向きに注意してスロットに挿入する

ドコモUIMカード



チェック

- ドコモUIMカードの向きに注意して正しく取り付けてください。誤った向きに取り付けると、故障の原因になります。
- ドコモUIMカードは下図のように上から見て見える状態では挿入が不完全です。上から見て見えなくなるまで挿入してください。



6 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける



参照

バッテリーパックの取り付けについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 58)」

ドコモUIMカードの取り外し

長期間、無線WAN機能を使用しない場合などは、ドコモUIMカードを本機から取り外してください。ドコモUIMカードの取り外しは、次の手順で行います。

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3 本体を裏返す

4 バッテリパックを本体から取り外す



参照

バッテリーパックの取り外しについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 58)」

5 ドコモUIMカードを軽く押す

ドコモUIMカードが少し出てきます。

6 ドコモUIMカードを引き抜く

7 バッテリパックとACアダプタを取り付ける



参照

バッテリーパックの取り付けについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 58)」

無線WAN機能のオン/オフ

[022804-27]

無線WAN機能のオン/オフを切り替えるには、次の方法があります。

- ▶ [ワイヤレススイッチで切り替える](#)..... 213
- ▶ [「AirCard Watcher」で切り替える](#)..... 213



メモ

無線WAN機能のオン/オフの設定は、電源を切った後も保存されます。



チェック

他の機器に影響を与える場合や無線WAN機能を使用しない場合、無線WAN機能が使用できない環境で本機を使用する場合は、無線WAN機能をオフにしてください。



参照

[ワイヤレススイッチの位置について](#)
「各部の名称」の「[各部の名称と説明 \(P. 19\)](#)」

ワイヤレススイッチで切り替える

本機のワイヤレススイッチで、無線WAN機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

- この方法でオフにした場合、無線WAN機能を含むすべてのワイヤレス機能がオフになります。
- 無線WAN機能を含むワイヤレス機能のオン/オフは、タスクバーの通知領域のネットワークアイコンの表示により確認できます。

アイコン	状態
	ワイヤレス機能：オン。接続先を設定すればネットワーク通信できます。
	ワイヤレス機能：オフ。ワイヤレス機能がオフになっています。
	ワイヤレス機能：オン（接続中）。アンテナの本数で現在の受信感度の強さを表示しています。


「AirCard Watcher」で切り替える

「AirCard Watcher」を使って、本機の無線WAN機能のみのオン/オフを切り替えることができます。

オンにする場合

- 1 タスクバーの通知領域のWatcherアイコン () を右クリックし、表示されるメニューから「開く」をクリック


「AirCard Watcher」画面が表示されます。

- 2 「メニュー」ボタン () → 「無線をオンにする」をクリック

オフにする場合

- 1 タスクバーの通知領域のWatcherアイコン () を右クリックし、表示されるメニューから「開く」をクリック

「AirCard Watcher」画面が表示されます。

- 2 「メニュー」ボタン () → 「無線をオフにする」をクリック



チェック

タスクバーの通知領域にWatcherアイコンが表示されていない場合は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Sierra Wireless」→「AirCard Watcher」をクリックし、「AirCard Watcher」を起動してください。

インターネットへの接続／切断

ここでは、本機の無線WAN機能を使用して、インターネットへ接続、または切断する方法について説明します。



チェック

本機は海外での無線WANの使用をサポートしておりません。しかし、契約によっては、国際ローミングにより接続できる場合があります。

その際、データ通信料が非常に高額になる場合がありますので、ご利用の際は十分ご注意ください。

インターネットへの接続

インターネットへの接続は以下の手順で行います。

1 Xi対応ドコモUIMカードを本体にセットする



参照

ドコモUIMカードの取り付けについて
「ドコモUIMカードの取り付け／取り外し (P. 210)」

2 本機の電源を入れる

3 タスクバーの通知領域にあるワイヤレスアイコンで、無線WAN機能を含むワイヤレス機能がオンになっていることを確認する

オフになっている場合は、「無線WAN機能のオン／オフ」をご覧になり、ワイヤレス機能をオンにしてください。



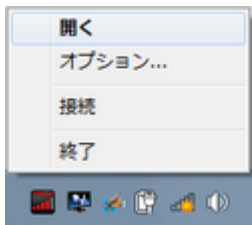
参照

無線WAN機能のオン／オフについて
「無線LAN機能」の「無線WAN機能のオン／オフ (P. 213)」

4 タスクバーの通知領域にあるWatcherアイコン (📶) をダブルクリック、またはタスクバーの通知領域にあるWatcherアイコン (📶) を右クリックして表示されるメニューから「開く」をクリック

「AirCard Watcher」画面が表示されます。背景色赤のアンテナが表示されていることを確認してください。


- アイコンが📶の場合、無線WAN通信を利用できません。無線WAN機能を有効にし、利用できる状態へ設定してください。



- アンテナ本数が多いほど受信感度が強いです。
- アンテナの背景色は待受時には赤に、接続時には緑に変わります。



チェック

- タスクバーの通知領域にWatcherアイコンが表示されていない場合は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Sierra Wireless」→「AirCard Watcher」をクリックし、「AirCard Watcher」を起動してください。
- アイコン  が表示され、無線WANを利用できない時は、表示モードを全画面モードに切り替えることで原因を特定できる場合があります。起動時の表示モードは任意に設定可能です。



メモ

- 全画面モード時、利用可能な最も上位の通信規格が表示されます。
- Xiエリアでは受信時最大100Mbps / 送信時最大 37.5Mbps^{※1}の超高速データ通信が可能です（※1北海道、東北、信越、北陸、中国、四国、沖縄の一部に限ります。対応エリアの詳細は「ドコモのホームページ」でご確認ください）。Xiエリア外でもFOMAハイスピード（受信時最大14Mbps）の高速データ通信が可能です（Xiエリアの一部に限ります）。
- 料金形態、サービスエリアの詳細についてはNTTドコモのウェブサイト（<http://www.nttdocomo.co.jp/>）でご確認ください。

5 「AirCard Watcher」画面の「接続」ボタンをクリック、または、タスクバーの通知領域のWatcherアイコン（）をクリックして表示されるメニューから「接続」をクリック

「AirCard Watcher」画面には実行時に利用可能な通信規格が表示されます。

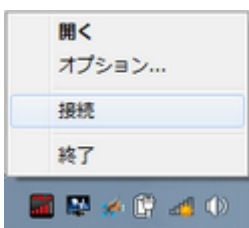
◆全画面モード



◆コンパクトモード



◆通知領域のアイコン右クリック時





メモ

接続先情報が存在しない場合、初回接続時に接続先を自動で作成します。
 接続を確立できなくなることもあるので既存の接続先情報については編集を行わないでください。

接続に成功すると、タスクバーの通知領域にポップアップが表示され、接続の確立と接続先を通知します。
 また、全画面モードの場合は、接続確立と同時に「AirCard Watcher」画面に、その接続における「データ通信量（送受信）」と「通信速度」が表示されます。

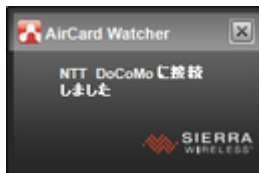
◆全画面モード



◆コンパクトモード



◆通知領域のポップアップ



メモ

接続先には、ネットワークから取得した文字列を表示します。固定ではありません。

以上でインターネットへの接続は完了です。

インターネットからの切断

確立したネットワークからの切断は、次の手順で行います。

- 1 「AirCard Watcher」画面の「切断」ボタンをクリック、または、タスクバーの通知領域の Watcherアイコン (📶) をクリックして表示されるメニューから「切断」をクリック

接続先との通信を切断し、待受状態になります。

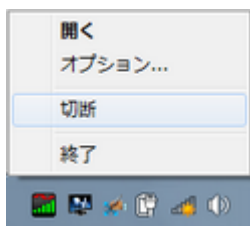
◆全画面モード



◆コンパクトモード



◆通知領域のアイコン右クリック時



以上で確立したネットワークからの切断は完了です。

セキュリティの設定

ドコモUIMカードには、第三者による無断使用を防ぐための「PIN1コード」とユーザー証明書利用時や発行申請、積算料金リセットを行う際に使用するための「PIN2コード」の、それぞれ4～8桁で設定できる2つの暗証番号が存在します。ここでは「PIN1コード」の設定、利用方法について説明します。



チェック

- セキュリティの設定は、データ通信が可能な状態で行ってください。
- 本ユーザーリテリではPIN2コードは使用しません。

セキュリティを有効にする

セキュリティを有効にする場合は次の手順で行います。

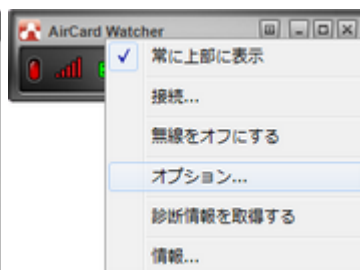
- 1 「AirCard Watcher」画面の「メニュー」ボタン (☰) → 「オプション」をクリック、または、タスクバーの通知領域のWatcherアイコン (📶) を右クリックして表示されるメニューから「オプション」をクリック

「ユーザーオプション」画面が表示されます。

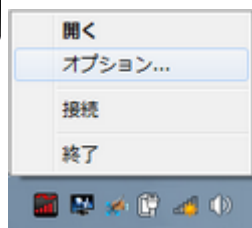
◆全画面モード



◆コンパクトモード

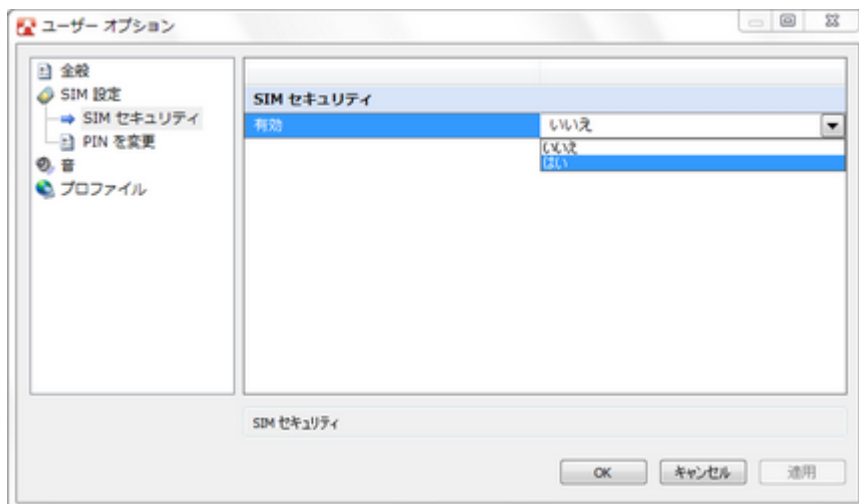


◆通知領域のアイコン右クリック時



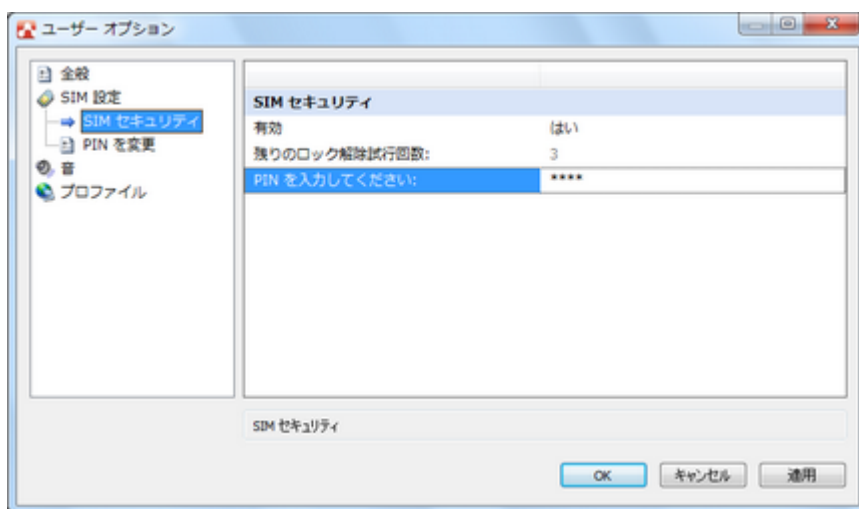
- 2 左のツリーの「SIM 設定」 → 「SIM セキュリティ」をクリック

- 3 「SIM セキュリティ」の「有効」欄の「いいえ」をクリックし、「はい」を選択する



「残りのロック解除試行回数」欄と「PIN を入力してください」欄が表示されます。

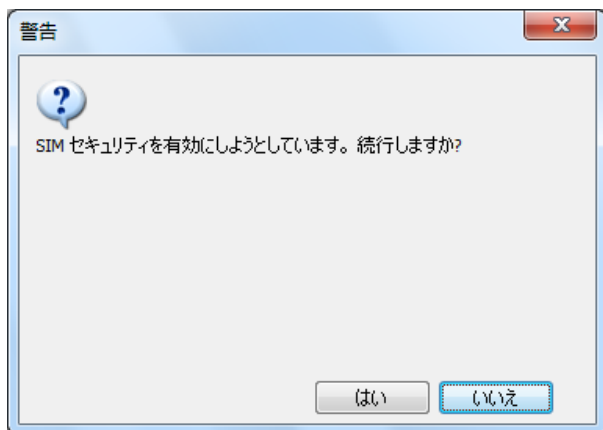
4 「PIN を入力してください」欄にPINコードを入力し、「OK」ボタンをクリック



チェック

- 「残りのロック解除試行回数」は、PINコード入力による、すべての認証処理の認証失敗の許容回数です。0になった時点で「SIMブロック (P. 225)」へ移行します。
- 「残りのロック解除試行回数」は、PINコード認証処理成功時に残り3回にリセットされます。

5 警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンをクリック



入力したPIN1コードの認証処理を行います。

全画面モードの場合、認証に成功すると「AirCard Watcher」画面に「PINは有効化されました」と表示されます。

◆ 認証成功



◆ 認証失敗



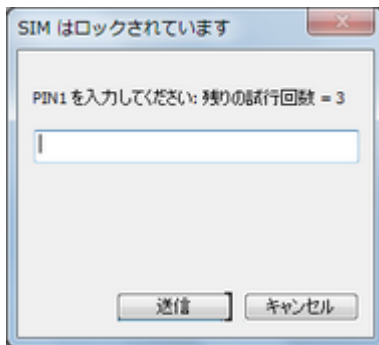
以上でSIMセキュリティの有効化は完了です。

次回以降、モジュールおよびSIMを認識した際に、PINコードによる認証を要求されるようになります。

表示されるダイアログから「残りの試行回数」の回数以内で認証を成功させてください。入力は半角数字4～8桁のみ可能です。

認証ダイアログの「キャンセル」ボタンをクリックすることで認証処理を回避することも可能ですが、あらゆる機能が制限されます。

◆ 認証ダイアログ



◆ 全画面モード



セキュリティを無効にする

セキュリティを無効にする場合は次の手順で行います。

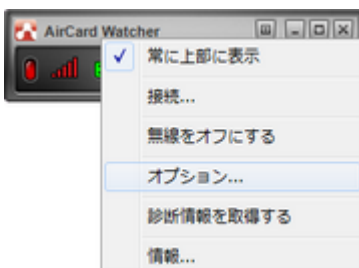
- 1 「AirCard Watcher」画面の「メニュー」ボタン (☰) → 「オプション」をクリック、または、タスクバーの通知領域のWatcherアイコン (📶) を右クリックして表示されるメニューから「オプション」をクリック

ユーザーオプション」画面が表示されます。

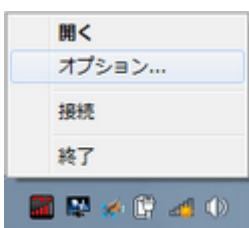
◆全画面モード



◆コンパクトモード

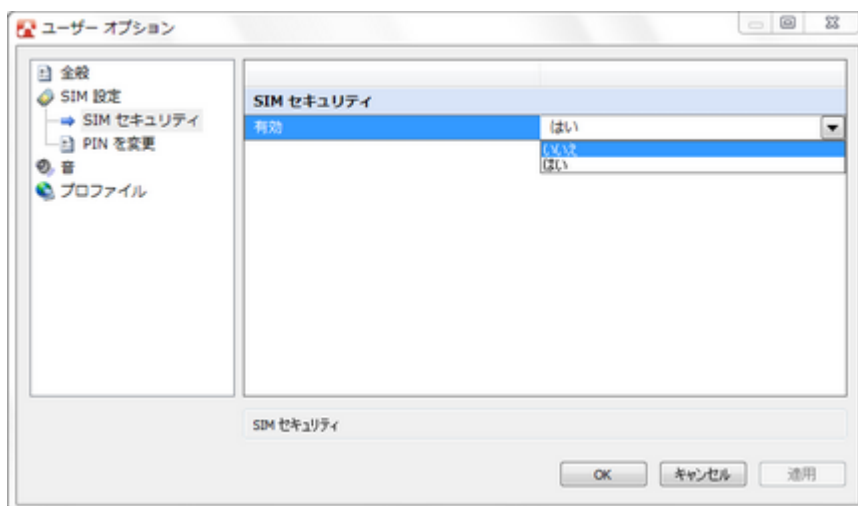


◆通知領域のアイコン右クリック時



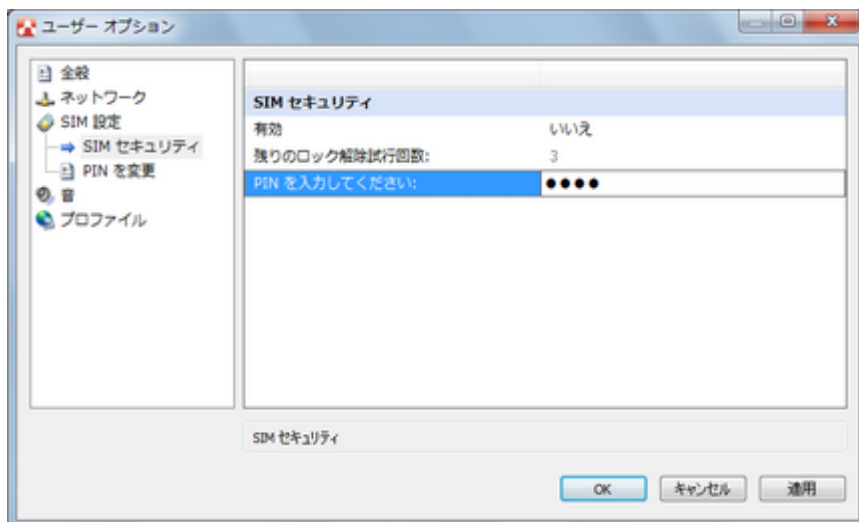
- 2 左のツリーの「SIM 設定」→ 「SIM セキュリティ」をクリック

- 3 「SIM セキュリティ」の「有効」欄の「はい」をクリックし、「いいえ」を選択する



「残りのロック解除試行回数」欄と「PIN を入力してください」欄が表示されます。

- 4 「PIN を入力してください」欄にPINコードを入力する



チェック

- 「残りのロック解除試行回数」は、PINコード入力による、すべての認証処理の認証失敗の許容回数です。0になった時点で「SIMブロック (P. 225)」へ移行します。
- 「残りのロック解除試行回数」は、PINコード認証処理成功時に残り3回にリセットされます。

5 「OK」 ボタンをクリック

全画面モードの場合、認証に成功すると「AirCard Watcher」画面に「PINは無効化されました」と表示されます。

◆ 認証成功



◆ 認証失敗



以上でセキュリティの無効化は完了です。

次回以降、モジュールおよびSIMを認識した際に、PINコードによる認証を要求されることはありません。すべての機能が有効な状態となりますのでご注意ください。

PINコードの変更

PINコードを変更する場合は次の手順で行います。



チェック

- PINコードの変更を行うには、セキュリティが有効になっている必要があります。「セキュリティを有効にする (P. 218)」をご覧ください、セキュリティを有効にしてください。
- 本ユーザーリテリティではPIN2は使用しません。ここでは、PIN1について記載します。

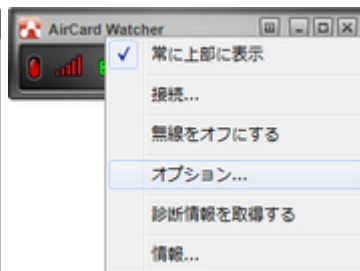
1 「AirCard Watcher」画面の「メニュー」ボタン (☰) → 「オプション」をクリック、または、タスクバーの通知領域のWatcherアイコン (📶) を右クリックして表示されるメニューから「オプション」をクリック

「ユーザーオプション」画面が表示されます。

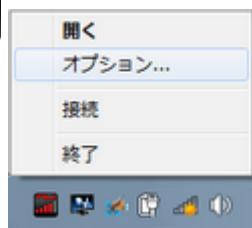
◆全画面モード



◆コンパクトモード

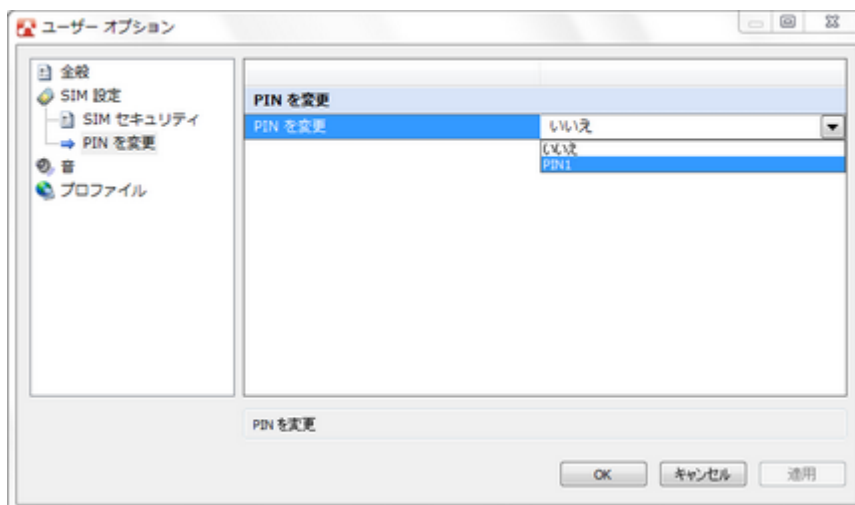


◆通知領域のアイコン右クリック時



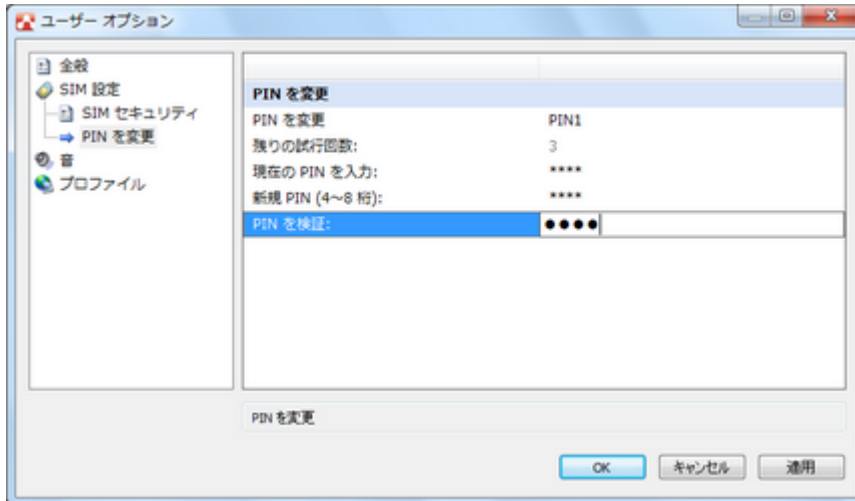
2 左のツリーの「SIM 設定」→ 「PIN を変更」をクリック

3 「PIN を変更」の「PIN を変更」欄の「いいえ」をクリックし、「PIN1」を選択する



「残りの試行回数」「現在のPINを入力」「新規PIN」「PINを検証」が表示されます。

- 4 「現在の PIN を入力」欄に変更前（現在）のPIN1コードを入力し、「新規 PIN (4~8桁)」欄と「PIN を検証」欄に新しく設定するPIN1コードを入力する

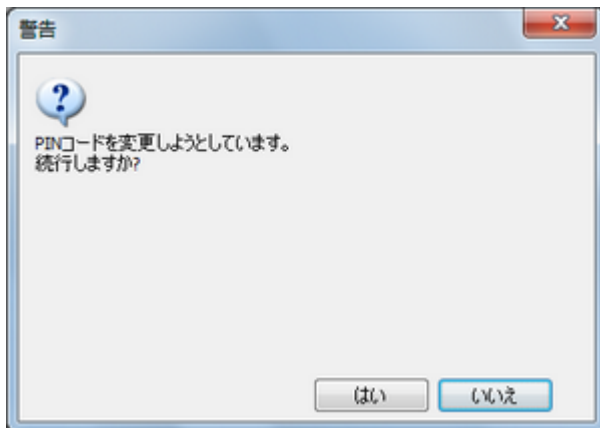


チェック

- 「残りの試行回数」は、PINコード入力による、すべての認証処理の認証失敗の許容回数です。0 になった時点で「SIMブロック (P. 225)」へ移行します。
- 「残りの試行回数」は、PINコード認証処理成功時に残り3回にリセットされます。

- 5 「OK」ボタンをクリック

- 6 警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンをクリック



入力したPIN1コードの認証処理を行います。

全画面モードの場合、認証に成功すると「AirCard Watcher」画面に「PINは変更されました」と表示されます。

◆ 認証成功

◆ 認証失敗



以上でPINコードの変更は完了です。

以降、PINコードによる認証処理が求められた場合、変更後のPINコードの入力が必要になるのでご注意ください。

SIMブロック

PINコードによる認証処理が求められた際に、許容回数以上、連続で認証に失敗するとSIMブロック状態になります。SIMブロック状態になると、SIMセキュリティ有効時に認証が求められるのと同じタイミングで、SIMブロック通知のダイアログが表示され、解除するまであらゆる機能が制限されます。



チェック

- PIN1コードを3回連続して間違えた際、自動的にかかる「PINロック」を解除するには、ご契約時に提供された「PINロック解除コード」が必要になります。
「PINロック解除コード」は契約時にお渡りする契約申込書（お客様控え）に記載されている8桁の数字となります。
※ドコモショップ以外で新規にご契約されたお客様は、My docomo、ドコモインフォメーションセンター、ドコモショップにてご確認くださいませ。
- 完全にロックされた場合にはドコモUIMカードと本人確認書類（運転免許証など）をお持ちのうえ、お近くのドコモショップまでご相談ください。
 - NTTドコモ ウェブサイト：<http://www.nttdocomo.co.jp/>
 - ドコモインフォメーションセンター：
受付時間：午前9：00～午後8：00
ドコモの携帯電話からの場合：（局番なし）151（無料）
※一般電話などからはご利用いただけません。
 - 一般電話などからの場合：0120-800-000（無料）
※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

その他の機能

[022806-27]

通信機能以外の機能について説明します。

画面構成

本ユーティリティには、次の3種類の表示モードがあります。

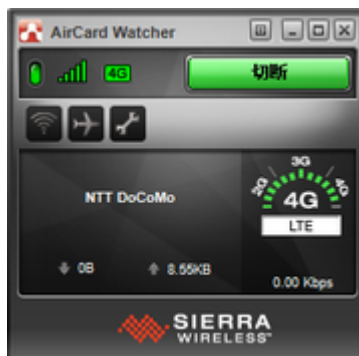
- **全画面モード：**
通信量やメッセージなど、詳細情報を表示するモードです。
- **コンパクトモード：**
必要最低限の情報（接続／切断）を表示するモードです。
- **最小化モード：**
「AirCard Watcher」画面を表示せず、タスクバーの通知領域のアイコンで管理するモードです。

ユーティリティ起動時の表示モードは任意に変更可能です。また、起動後に表示モードを切り替えることもできます。

◆全画面モード（待受中）



◆全画面モード（通信中）



◆コンパクトモード（待受中）



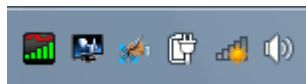
◆コンパクトモード（通信中）



◆最小化モード（待受中）






◆最小化モード（通信中）




全画面モード、コンパクトモードの共通オブジェクト

● メニューバーボタン


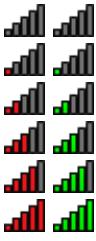
	メニューボタン	クリックするとメニューが表示されます。表示モードによるメニュー項目の差異はありません。
	最小化ボタン	クリックすると最小化し通知領域に格納します。最小化モードで起動した場合と同じ状態になります。
	表示モード切替ボタン	クリックするたびに「全画面モード」と「コンパクトモード」を切り替えます。

	終了ボタン	クリックすると「AirCard Watcher」を終了します。
---	-------	---------------------------------

● デバイスLED

	色により通信状態を表示します。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 灰色：通信不可 ● 赤：待受中 ● 緑：通信中



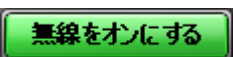
● アンテナ

	デバイスを認識できていない状態です。 通信はできません。
	バーの色は通信状態を表します。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 赤：通信可能な待受状態 ● 緑：通信確立中
	バーの本数（0～5本）は信号受信強度（RSSI）を表し、本数が多いほど安定した通信を行うことが可能です。 マウスカーソルをアンテナに合わせることで、信号受信強度（RSSI）をツールチップで表示します。

● 規格




	利用可能な上位の通信規格を表示します。 通信規格の任意変更はできません。
--	---

● ボタン

	待受時に表示 ボタンをクリックすると、デフォルトプロファイルで指定された接続先へ接続処理を行います。
	接続時に表示 ボタンをクリックすると、確立している接続を切断します。
	メニューから「無線をオフにする」を選択している場合に表示 ボタンをクリックすると、デバイスを有効にし、通信可能な状態にします。

全面モード時のオブジェクト


● アクションボタン

	クリックすると、「ユーザーオプション」のプロファイル情報を表示します。 接続時、「ユーザーオプション」-「プロファイル」-「デフォルトプロファイル」で設定された接続先に接続します。
	クリックすると、「無線オフ」「無線オン」を切り替えます。 この機能は本ユーティリティのみを対象にしています。無線LAN機能などへの影響はありません。
	クリックすると、「ユーザーオプション」の全般情報を表示します。


● ネットワーク名

SIMに記録されたネットワーク名、またはFW内部に持っているネットワーク名を参照して表示します。
--


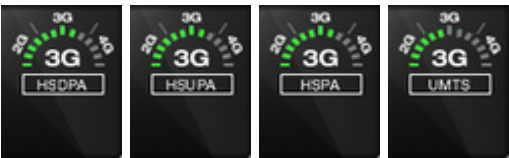
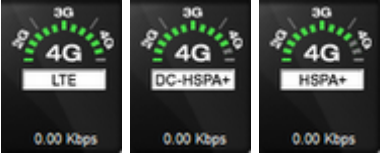
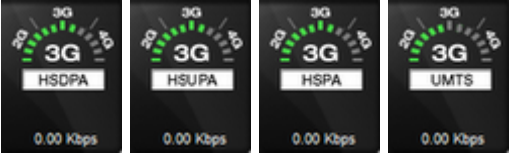
● ダウンリンク

	ダウンリンク発生時、白と灰色の矢印が明滅し、通信中であることを表します。矢印の右に表示される数値は、その接続における総ダウンリンク通信量です。
---	---

● **アップリンク**

	アップリンク発生時、白と灰色の矢印が明滅し、通信中であることを表します。矢印の右に表示される数値は、その接続における総アップリンク通信量です。
---	---

● **通信規格インジケータ、通信速度**

	4G	3G
待受		
接続確立		

利用可能な最も上位の通信規格を表示します。

待受時（通信可能な場合）は、通信規格を黒地に白で、接続確立時は、接続を確立している通信規格を白地に黒で表示します。

利用可能な最も上位の通信規格を表示していますが、利用する通信規格は任意に選択することはできません。

メニュー

本ユーティリティのメニューには、全画面モードまたはコンパクトモードでメニューボタンをクリックしたときに表示されるメニューと、タスクバーの通知領域のアイコンを右クリックしたときに表示されるメニューの2種類があります。

メニューから各機能に簡単にアクセスすることができます。

また、メニューの一部の項目には、通信状態により表示内容が変化したり、グレイアウト表示になりクリック不可となる項目があります。

◆ **全画面モード/コンパクトモードメニュー（待受/接続中）**

<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>常に上部に表示</p> <p>接続...</p> <p>無線をオンにする</p> <p>オプション...</p> <p>診断情報を取得する</p> <p>情報...</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ● 常に上部に表示 クリックすると、本ユーティリティのウィンドウを、管理可能な他のウィンドウよりも上位に表示するようにします。 ● 接続 「ユーザーオプション」画面の「プロファイル」項目を表示します。データ通信が不可能な場合は、グレイアウト表示になりクリックできません。 ● 無線をオフにする/無線をオンにする クリックすると、「無線オフ」「無線オン」を切り替えます。無線がオンの場合は「無線をオフにする」が、オフの場合は「無線をオンにする」が表示されます。この機能は本ユーティリティのみを対象にしています。無線LAN機能などへの影響はありません。また、デバイスを認識できない場合は、この項目は表示されません。
--	--

- **オプション**

「ユーザーオプション」画面の「全般」項目を表示します。

- **情報**

バージョンなどの情報を記載した「AirCard Watcherについて」画面を表示します。

◆タスクバーの通知領域のアイコン右クリック時のメニュー



- **開く**

クリックすると、全画面モード/コンパクトモードの「AirCard Watcher」画面を表示します。

- **オプション**

「ユーザーオプション」画面の「全般」項目を表示します。

- **接続/切断**

クリックすると、デフォルトプロファイルで設定した接続先への接続、または確立中の接続の切断を行います。
待受中は「接続」が、接続確立中は「切断」が表示されます。
無線がオフになっている場合やデバイスを認識できない場合は、項目が表示されません。

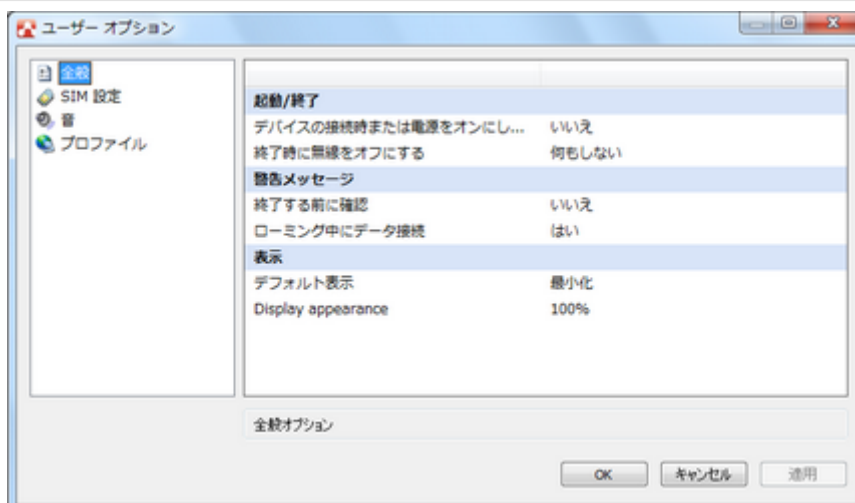
- **終了**

クリックすると、「AirCard Watcher」を終了します。

オプション

「ユーザーオプション」からユーティリティの動作などの設定ができます。
「プロファイル」の項目は、通信の確立に影響するおそれがあるので編集を行わないでください。
「SIM設定」については「[接続とセキュリティ \(P. 215\)](#)」をご覧ください。

「全般」



起動/終了

デバイスの接続時または電源をオンにした際に自動起動 【いいえ/はい】

- いいえ：デバイスを認識した際にユーティリティを自動起動しない
- はい：デバイスを認識した際にユーティリティを自動起動する

終了時に無線をオフにする 【何もしない/無線をオフにする】

- 何もしない：終了時の状態を起動時に引き継ぐ
- 無線をオフにする：起動時は無線オフの状態でも起動する（無線LAN機能など他の無線機能には影響しない）

警告メッセージ

終了する前に確認 【いいえ/はい】

- いいえ：終了選択時、確認せずに終了する
- はい：終了選択時、確認ダイアログを表示し確認後に終了する

ローミング中にデータ接続 【いいえ/はい】

- いいえ：ローミング中にデータ接続しない
- はい：ローミング中にデータ接続する

表示

デフォルト表示 【全画面/コンパクト/最小化】

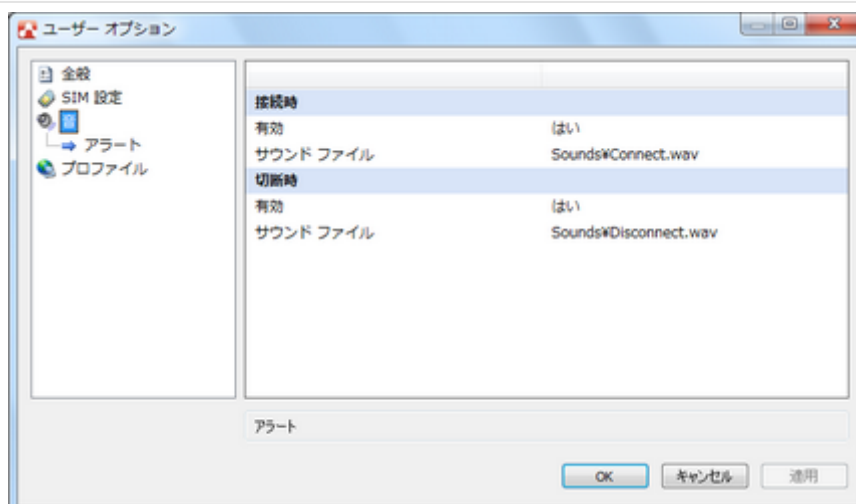
- 全画面：全ての情報を表示するモード（全画面モード）でユーティリティを起動
- コンパクト：必要最低限の情報を表示するモード（コンパクトモード）でユーティリティを起動
- 最小化：「AirCard Watcher」画面を表示せず、タスクバーの通知領域のアイコン状態（最小化モード）でユーティリティを起動

Display appearance

※ユーティリティの表示倍率を変更します。

- 100%
- 125%
- 150%
- 200%

「音」



接続時

有効 【いいえ／はい】

- いいえ：接続確立時、「接続時」 - 「サウンドファイル」で指定したwavファイルを再生しない
- はい：接続確立時、「接続時」 - 「サウンドファイル」で指定したwavファイルを再生する

サウンドファイル

接続時に再生するファイルを指定します。「接続時」 - 「有効」を「はい」に設定した場合にファイルが再生されます。

切断時

有効 【いいえ／はい】

- いいえ：接続切断時、「切断時」 - 「サウンドファイル」で指定したwavファイルを再生しない
- はい：接続切断時、「切断時」 - 「サウンドファイル」で指定したwavファイルを再生する

サウンドファイル


切断時に再生するファイルを指定します。「切断時」 - 「有効」を「はい」に設定した場合にファイルが再生されま
す。

本機のFAXモデム機能について説明しています。

▶ 使用上の注意.....	233
▶ 電話回線との接続と設定.....	235
▶ 海外でのモデムの使用.....	238
▶ 通信環境を切り替える.....	240
▶ ATコマンド.....	241

使用上の注意

[022901-27]

- 内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。一般電話回線以外に接続すると、本体の故障、発熱の原因になることがありますので注意してください。
- ダイヤル方法を選択するときは、プッシュ回線を使用する場合は「トーン」、ダイヤル回線を使用する場合は「パルス」に設定します。加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- 「電話とモデムのオプション」または「ダイヤルのプロパティ」では、「市外局番」欄に使用する場所の0を除いた市外局番を入力し、携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は「000」を入力します。また、外線発信番号が必要な場合は、外線発信番号も入力してください。
- 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ダイヤルアップネットワーク接続の場合、Internet Explorerを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する場合は、タスクバーの通知領域にあるをクリックし、「接続済み」と出ている項目をクリックして表示される「切断」ボタンをクリックしてください。
- コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使用している場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- 電話局の交換機の種類によっては、14,400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9,600bpsにしてください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- ITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。
- 回線を使用して通信中はスリープ状態、休止状態にしないでください。
- 分岐アダプタを使用して本機と電話機などの両方を電話回線に接続している場合、本機で回線を使用しているときは、電話機などの受話器をはずさないでください。本機の通信が妨害され、切断されることがあります。
- 接続する電話機などの種類によっては、動作しない機種があります。
- 接続する電話機などの種類によっては、内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合があります。内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合は、以下のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
 - 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなく。
 - 内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、電話機などを取り外す。
- 構内交換機（PBX）の種類によっては内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- ダイヤルアップ接続中に【Fn】 + 【F3】、【F6】、【F9】、【F10】の操作を行わないでください。また、通信中に上記の操作を行うと通信が切れる場合があります。
- ターミナルソフトなどを使用して通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて

「ATコマンド (P. 241)」

- [新しい着信接続]を作成するには、ネットワーク接続環境が必要です。

接続可能な電話回線のモジュラーコンセントについて

- 本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。
- 電話回線のコンセントがモジュラージャック式以外の場合は、変換アダプタを使用するか加入電話回線の提供会社にモジュラーコンセントの取り付けをご相談ください。



チェック

内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムや本体を破損することがあります。

適用電話回線について

回線は、電話回線（以降、加入電話回線と呼びます）、総合デジタル通信網（ISDN）、ファクシミリ通信網、専用回線に区別することができます。内蔵FAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計され、端末機器の設計についての認証を受けています。

詳しくは『安全にお使いいただくために』の「技術基準等適合認定について」をご覧ください。加入電話回線以外と接続すると、内蔵FAXモデムや本体を破損させることがあります。

コードレスホンや親子電話、構内回線など、加入電話回線以外の回線をご使用のときは、正常なデータの送受信ができないことがあります。

内蔵FAXモデムは、ファクシミリ通信網には対応していません。

電話回線との接続



チェック

- 電話回線との接続は、本機の電源を切ってから行ってください。
- LANコネクタに電話回線用モジュラーケーブルを接続すると故障の原因になります。接続するコネクタを確認して接続を行ってください。

市販の電話回線用モジュラーケーブルを使用し、本機の電話回線用モジュラーコネクタと壁面などのモジュラーコンセントを接続してください。



メモ

1つの電話回線のモジュラーコンセントを本機以外の機器（電話機など）と共用で使用する場合は、使用ごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「表示方法」を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に変更する

3 「電話とモデム」をクリック

「電話とモデム」が表示されます。

4 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリック



メモ

- 工場出荷時の状態では、「所在地」に「所在値情報」、「市外局番」に「000」が設定されています。
- 新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックしてください。

5 「所在地の編集」で設定を行う

6 「OK」ボタンをクリック

外線発信番号「0」を使用しない場合は、これで設定は完了です。

会社など外線発信番号「0」を使用する電話回線を利用する場合は、続けて以下の手順7～10を行ってください。

7 「モデム」タブをクリックし、使用しているモデムを選択してから「プロパティ」ボタンをクリック

プロパティの画面が表示されます。

8 「モデム」タブをクリックし、「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外す

9 「OK」ボタンをクリック

10 「OK」ボタンをクリック

これでダイヤル設定は完了です。

ダイヤルアップの接続の設定

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」をクリック

3 「新しい接続またはネットワークのセットアップ」をクリック

4 「ダイヤルアップ接続をセットアップします」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

5 接続先の設定をし、「接続」ボタンをクリック

設定した接続先へ接続を行う画面が表示されます。

6 「スキップ」ボタンをクリック

7 「閉じる」ボタンをクリック

これでダイヤルアップの接続の設定は完了です。

接続先の設定

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」→「アダプターの設定の変更」をクリック

3 設定するダイヤルアップ接続を右クリックして表示されたメニューから「プロパティ」をクリック

プロパティの画面が表示されます。

4 「ダイヤル情報を使う」にチェックを付ける

5 「OK」 ボタンをクリック

これで接続先の設定は完了です。

海外でのモデムの使用

[022903-27]

対応国/地域に合わせて設定する必要があります。



メモ

本機に内蔵のモデムの対象国/地域については、以下のホームページを参照してください。

<http://121ware.com/navigate/rescue/ultracare/jpn/index.html>



チェック

- ホームページに記載されている国/地域以外は対応していません。
- 国/地域の設定が正しくない場合、電話回線網への損害を与えるおそれがあります。また、パソコンの故障の原因にもなりますので、回線接続を行う前に必ず国/地域の設定が正しいか確認してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「表示方法」を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に変更する

3 「電話とモデム」をクリック

「電話とモデム」が表示されます。

4 「モデム」タブをクリック

5 「プロパティ」ボタンをクリック

6 「詳細設定」タブをクリック

7 「国または地域の選択」の をクリックし、使用する国名を選択する

8 「OK」ボタンをクリック

9 「ダイヤル情報」タブをクリック

10 「新規」ボタンをクリック

11 「所在地」欄に任意の名前を入力する

12 「国/地域」の▼をクリックし、使用する国/地域を選択する

13 「市外局番」欄に、使用する発信元の番号を入力し、「OK」ボタンをクリック

14 「OK」ボタンをクリック

通信環境を切り替える

[022904-20]

本機は、Access Connectionsを使用することで、複数のダイヤルアップ接続の使い分けや、ダイヤルアップ接続とLAN接続の切り替えなどを簡単に行うことができます。



参照

Access Connectionsについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「[Access Connections \(P. 415\)](#)」

ATコマンドの概要

ATコマンドは米国Hayes社が開発したコマンド体系で、“AT”で始まることからこのように呼ばれています。DTE（パソコンなどの端末機器）から電話回線に対してATコマンドを発信することによって、自動発着信を行うことができます。

コマンド構成

ATコマンドセット（A/コマンドを除く）では、DTEが送る各コマンドラインはキャラクターシーケンスATで始まり、キャリッジリターン（以降☐（CR）と表記。本機で入力する場合は【Enter】を押します）で終了しなければなりません。ATシーケンスは、いくつものコマンドをその次に続けることができます。ただし、Z、D、Aに続くコマンド列は無視されます。コマンドラインの最大キャラクタ数は60です。コマンドライン中に構文エラーが見つかった場合、ラインの残りは無視されます。

AT	コマンド列	☐（CR）
----	-------	-------

コマンド一覧（内蔵モデム）

本機の内蔵モデム機能では、次のようなデータ通信を行うことができます。

基本ATコマンド

種類	ATコマンド	機能														
アンサーモードで回線接続	A	アンサーモードで回線に接続し、通信状態になる。自動応答にしていない状態で、応答する場合に使用する。														
コマンドの再実行	A/	直前に実行したコマンドを再実行する。このコマンドの前には「AT」は付けない。また、最後の☐（CR）も付けない。														
ダイヤルの実行	D	指定された電話番号にダイヤルし、接続する。 <table border="1"><tr><td>P</td><td>パルスダイヤル（ダイヤル回線）。</td></tr><tr><td>T</td><td>トーンダイヤル（プッシュ回線）。</td></tr><tr><td>W</td><td>第2ダイヤルトーンを検出する（DDXなどのダイヤルトーンを検出する）。</td></tr><tr><td>@</td><td>5秒間の無音時間を検出する。検出できない場合は「NO ANSWER」を返す。</td></tr><tr><td>,</td><td>S8レジスタで指定された時間、ダイヤルを待つ。構内交換機、ゼロ発信などでダイヤルを待つ場合に使用する。</td></tr><tr><td>0~9、*、#</td><td>相手の電話番号をダイヤルする。ダイヤル番号を見やすくするために、スペース、「-」、「()」、「[]」などが使用できる。なお、「*」、「#」はトーンダイヤルのみ使用できる。</td></tr><tr><td>;</td><td>ダイヤル後コマンドモードに戻る。</td></tr></table>	P	パルスダイヤル（ダイヤル回線）。	T	トーンダイヤル（プッシュ回線）。	W	第2ダイヤルトーンを検出する（DDXなどのダイヤルトーンを検出する）。	@	5秒間の無音時間を検出する。検出できない場合は「NO ANSWER」を返す。	,	S8レジスタで指定された時間、ダイヤルを待つ。構内交換機、ゼロ発信などでダイヤルを待つ場合に使用する。	0~9、*、#	相手の電話番号をダイヤルする。ダイヤル番号を見やすくするために、スペース、「-」、「()」、「[]」などが使用できる。なお、「*」、「#」はトーンダイヤルのみ使用できる。	;	ダイヤル後コマンドモードに戻る。
P	パルスダイヤル（ダイヤル回線）。															
T	トーンダイヤル（プッシュ回線）。															
W	第2ダイヤルトーンを検出する（DDXなどのダイヤルトーンを検出する）。															
@	5秒間の無音時間を検出する。検出できない場合は「NO ANSWER」を返す。															
,	S8レジスタで指定された時間、ダイヤルを待つ。構内交換機、ゼロ発信などでダイヤルを待つ場合に使用する。															
0~9、*、#	相手の電話番号をダイヤルする。ダイヤル番号を見やすくするために、スペース、「-」、「()」、「[]」などが使用できる。なお、「*」、「#」はトーンダイヤルのみ使用できる。															
;	ダイヤル後コマンドモードに戻る。															

		<table border="1"> <tr> <td>!</td> <td>0.3秒間、回線をオンフック（回線断）する。</td> </tr> <tr> <td>L</td> <td>最後にかけたダイヤルにリダイヤルする。</td> </tr> </table>	!	0.3秒間、回線をオンフック（回線断）する。	L	最後にかけたダイヤルにリダイヤルする。
!	0.3秒間、回線をオンフック（回線断）する。					
L	最後にかけたダイヤルにリダイヤルする。					
コマンドエコー有無の設定☆	E	<p>DTE（パソコン側）から送られたコマンドのエコー（文字をそのまま送り返す）の有無を指定する。</p> <table border="1"> <tr> <td>E0</td> <td>コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。</td> </tr> <tr> <td>E1</td> <td>コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す（初期値）。</td> </tr> </table>	E0	コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。	E1	コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す（初期値）。
E0	コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返さない。					
E1	コマンドモード時DTEから入力したコマンド文字をDTEに返す（初期値）。					
回線の接続/切断	H	<table border="1"> <tr> <td>H0</td> <td>回線を切断（オンフック）する。</td> </tr> <tr> <td>H1</td> <td>回線を接続（オフフック）する。</td> </tr> </table>	H0	回線を切断（オンフック）する。	H1	回線を接続（オフフック）する。
H0	回線を切断（オンフック）する。					
H1	回線を接続（オフフック）する。					
識別コード表示	I	<p>モデムの識別コードを表示する。</p> <table border="1"> <tr> <td>I3</td> <td>識別コードの表示</td> </tr> <tr> <td>I4</td> <td>モデム名称の表示</td> </tr> </table>	I3	識別コードの表示	I4	モデム名称の表示
I3	識別コードの表示					
I4	モデム名称の表示					
オンラインモードに戻る	O	<p>オンラインモード中にエスケープコマンド（+++）によってコマンドモードになったときに、再びオンラインモードに戻るために使用する。</p> <table border="1"> <tr> <td>O0</td> <td>オンラインモードに戻る。</td> </tr> <tr> <td>O1</td> <td>トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。</td> </tr> </table>	O0	オンラインモードに戻る。	O1	トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。
O0	オンラインモードに戻る。					
O1	トレーニングを再度実行して、オンラインモードに戻る。					
パルス回線（ダイヤル回線）モードの設定☆	P	ダイヤルをパルスで行うモードに設定する。				
リザルトコードの設定☆	Q	<p>リザルトコードをDTE（パソコン側）に返すか、返さないかのモードを指定する。</p> <table border="1"> <tr> <td>Q0</td> <td>リザルトコードをパソコンに返す（初期値）。</td> </tr> <tr> <td>Q1</td> <td>リザルトコードをパソコンに返さない。</td> </tr> </table>	Q0	リザルトコードをパソコンに返す（初期値）。	Q1	リザルトコードをパソコンに返さない。
Q0	リザルトコードをパソコンに返す（初期値）。					
Q1	リザルトコードをパソコンに返さない。					
Sレジスタの読み出し	Sr?	Sレジスタの内容を読み出す。ATS0?□ (CR) でS0レジスタの内容を読み出す。				
Sレジスタの設定	Sr=n	<p>Sレジスタを設定する。</p> <p>ATSr=n□ (CR) でrに設定したいレジスタの番号、nにレジスタの値を10進数で設定する。</p> <p>ATS2=43□ (CR) でS2レジスタに43（10進数）を設定する。</p>				
トーン回線（プッシュ回線）モードの設定☆	T	ダイヤルをトーンで行うモードに設定する。				
リザルトコードタイプの設定☆	V	<p>ATコマンドのリザルトコードの形式を指定する。</p> <table border="1"> <tr> <td>V0</td> <td>リザルトコードを数字表示に設定する。</td> </tr> <tr> <td>V1</td> <td>リザルトコードを文字表示に設定する（初期値）。</td> </tr> </table>	V0	リザルトコードを数字表示に設定する。	V1	リザルトコードを文字表示に設定する（初期値）。
V0	リザルトコードを数字表示に設定する。					
V1	リザルトコードを文字表示に設定する（初期値）。					

接続リザルトコード 拡張（エラー訂正）の 設定	W	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。	
		W0	接続時にDTEスピードのみを返す。（例 CONNECT 19200）
		W1	接続時にエラー訂正プロトコルとDTEスピードを返す。
		W2	接続時にDCEスピードのみを返す。（例 CONNECT 14400）
		W3	接続時にDCEスピードとエラー訂正プロトコルを返す。
接続時のリザルトコ ードの設定☆	X	モデム接続時のリザルトコードの拡張方法を指定する。	
		X0	拡張リザルトコード表示なし。ダイヤルトーン・話中音検出なし。
		X1	拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン・話中音検出なし。
		X2	拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン検出あり。話中音検出なし。
		X3	拡張リザルトコード表示あり。ダイヤルトーン検出なし。話中音検出あり。
モデムの初期化	Z	モデムを不揮発性メモリの保存内容で初期化する。	
		Z0	不揮発性メモリのプロファイル0の保存内容で初期化する。
キャリア検出信号 （CD）の動作☆	&C	CD信号（DCD）の動作を指定する。	
		&C0	CD信号を常にONにする。
		&C1	CD信号はキャリアが検出されるとONになる（初期値）。
データ端末レディ☆	&D	DTR信号がONからOFFに変化した場合の動作を指定する。	
		&D0	DTR信号は無視し、常にONとして扱う。
		&D1	DTR信号がOFFになると、コマンドモードになる。
		&D2	DTR信号がOFFになると、回線を切断しコマンドモードになる（初期値）。
パラメータの初期化	&F	各種パラメータを工場出荷時の設定に戻す。	
		&F0	工場出荷時の設定に戻す。
DTEのフロー制御	&K	DTE（パソコン側）のフロー制御（RTS/CTS, XON/XOFF）を指定する。	
		&K0	フロー制御しない。
		&K3	RTS/CTSフロー制御をする（初期値）。
		&K4	XON/XOFFフロー制御をする。
通信モードの設定	&M	通信モードを指定する（&Qの一部コマンドと同様）。	
		&M0	ダイレクト非同期モードで接続する。

ダイヤルパルススピードの設定☆	&P	ダイヤルパルスのスピードを指定する。	
		&P1	ダイヤルパルスをも10PPSにする（初期値）。
		&P2	ダイヤルパルスをも20PPSにする。
通信モードの設定☆	&Q	通信モードを指定する。	
		&Q0	ダイレクト非同期モードで接続する。
		&Q5	エラー訂正プロトコルで接続する（初期値）。
		&Q6	ダイレクト非同期モードで接続する。
モデムの設定状況の表示	&V	コマンドおよびSレジスタの設定状況を表示する。	
パラメータの書き込み	&W	現在の設定されている状態を、不揮発性メモリに書き込む。	
		&W0	不揮発性メモリのプロファイル0に書き込む。
		※この値は、電源を入れたとき、またはATZ n コマンドで初期化したときに使われる。各々のコマンドを参照。	
データ圧縮の指定	%C	データ圧縮の方法を指定する。	
		%C0	データ圧縮をしない。
		%C1	V.42bis/MNP5のデータ圧縮を行う。
リトレーニングなどの自動再実行☆	%E	回線の状態を監視して、状態が変化した場合や悪い場合に、トレーニングシーケンスの再実行（リトレーニング）、回線速度を変更するかどうかの指定をする。	
		%E0	リトレーニングを自動で再実行しない。
		%E2	リトレーニングを自動で再実行する。
		※データエラーが多い場合のリトライ動作を指定するものではない。	
通信モードの設定	¥N	エラー訂正プロトコルの動作を設定する。	
		¥N0	ノーマルモードで通信する。LAPM、MNPは使用しない。
		¥N1	¥N0と同じ
		¥N2	LAPM、MNPモードで接続する。 相手モデムがLAPMまたはMNPモードでない場合は接続しない。
		¥N3	LAPM、MNPモードで接続する（初期値）。 相手モデムがLAPMまたはMNPモードでない場合はノーマルモードで接続する。
		¥N4	LAPMモードで接続する。 相手モデムがLAPMでない場合は接続しない。
		¥N5	MNPモードで接続する。 相手モデムがMNPモードでない場合は接続しない。
		※LAPM、MNPの場合は、LAPM-MNPの順に相手モデムとの接続を試す。	
変調方式の指定	+MS	相手モデムとの通信方式、手順、スピードなどを指定する。	

+MS=	(変調方式) , (自動モード) , (最低送信スピード) , (最高送信スピード) , (最低受信スピード) , (最高受信スピード)
------	--

※2番目以降のパラメータは省略可能 (途中の省略は不可)。

(変調方式) :

V21	:	V.21	300bpsで接続される。
V22	:	V.22	1200bpsで接続される。
V22B	:	V.22bis	2400/1200bpsで接続される。
V32	:	V.32	9600/4800bpsで接続される。
V32B	:	V.32bis	14400~4800bpsで接続される。
V34	:	V.34	33600~2400bpsで接続される。
V90	:	V.90	56000~28000 (受信)、33600~2400 (送信) bpsで接続される。

(自動モード) : 接続時の自動ネゴシエーションの指定を行う。

0	:	自動モード (V.8) を使用しない。
1	:	自動モード (V.8) を使用する。

(最低スピード) :

75、300、600、1200、2400、4800、7200、9600、12000、14400、16800、19200、21600、24000、26400、28000、28800、29333、30667、31200、32000、33333、33600、34667、36000、37333、38667、40000、41333、42667、44000、45333、46667、48000、49333、50667、52000、53333、54667、56000

(最高スピード) :

75、300、600、1200、2400、4800、7200、9600、12000、14400、16800、19200、21600、24000、26400、28000、28800、29333、30667、31200、32000、33333、33600、34667、36000、37333、38667、40000、41333、42667、44000、45333、46667、48000、49333、50667、52000、53333、54667、56000

エスケープ	+++	オンラインモードのとき、パソコンから前後1秒間 (S12レジスタで設定可能) の時間をあけて、「+++」のコマンドが入力されると、回線を切断することなく、コマンドモードに移る。 「+++」の前後に他の文字が入力されるとエスケープコマンドと判断されないため、 <input type="checkbox"/> (CR) などは入力しないこと。
-------	-----	---

☆ AT&Wnでバックアップ可能



チェック

相手FAXが音声応答のFAXの場合、接続できないことがあります。その場合は次のコマンドによりBUSYトーン検出をオフにしてください。

コマンド構文 : ATX0

リザルトコード

数字	文字	内容
0	OK	コマンドラインの実行確認
1	CONNECT	接続
2	RING	リングング検出
3	NO CARRIER	キャリア及びリングバック検出せず
4	ERROR	コマンド構文ちがい及び存在しないコマンド
5	CONNECT 1200	1200bpsのポートまたはモデム速度で接続
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーン検出せず
7	BUSY	ビジートーン検出
8	NO ANSWER	S7タイマーが切れるまで連続的にリングバックを検出
9	CONNECT 600	600bpsで接続
10	CONNECT 2400	2400bpsで接続
11	CONNECT 4800	4800bpsで接続
12	CONNECT 9600	9600bpsで接続
13	CONNECT 7200	7200bpsで接続
14	CONNECT 12000	12000bpsで接続
15	CONNECT 14400	14400bpsで接続
16	CONNECT 19200	19200bpsで接続
17	CONNECT 38400	38400bpsで接続
18	CONNECT 57600	57600bpsで接続
19	CONNECT 115200	115200bpsで接続
24	DELAYED	接続は延期された。
32	BLACKLISTED	再ダイヤル規制によりダイヤルを実行できない。
59	CONNECT 16800	16800bpsで接続
61	CONNECT 21600	21600bpsで接続
62	CONNECT 24000	24000bpsで接続
63	CONNECT 26400	26400bpsで接続
64	CONNECT 28800	28800bpsで接続
84	CONNECT 33600	33600bpsで接続
91	CONNECT 31200	31200bpsで接続
165	CONNECT 32000	32000bpsで接続
167	CONNECT 36000	36000bpsで接続

169	CONNECT 40000	40000bpsで接続
171	CONNECT 44000	44000bpsで接続
173	CONNECT 48000	48000bpsで接続
175	CONNECT 52000	52000bpsで接続
177	CONNECT 56000	56000bpsで接続
180	CONNECT 28000	28000bpsで接続
181	CONNECT 29333	29333bpsで接続
182	CONNECT 30667	30667bpsで接続
183	CONNECT 33333	33333bpsで接続
184	CONNECT 34667	34667bpsで接続
185	CONNECT 37333	37333bpsで接続
186	CONNECT 38667	38667bpsで接続
187	CONNECT 41333	41333bpsで接続
188	CONNECT 42667	42667bpsで接続
189	CONNECT 45333	45333bpsで接続
190	CONNECT 46667	46667bpsで接続
191	CONNECT 49333	49333bpsで接続
192	CONNECT 50667	50667bpsで接続
193	CONNECT 53333	53333bpsで接続
194	CONNECT 54667	54667bpsで接続

Sレジスタ

Sレジスタは、モデムの動作条件を詳細に設定するために利用できます。

ATコマンドや、Sレジスタの直接操作（ATSr=n）により設定した動作条件をプロフィール・メモリに記憶させておく（&Wコマンド）、パソコンの電源オン時に、自動的に再現できます。

Sn	範囲	単位	初期値	機能
S0	0-8	回	0	自動着信のリングの回数
S1	0-255	回	0	受信しているリングの回数
S2	0-255	ASCII	43	エスケープ・シーケンスのコード
S3	0-127	ASCII	13	キャリッジリターン・コード
S4	0-127	ASCII	10	ラインフィード・コード
S5	0-255	ASCII	8	バックスペース・コード
S6	4-255	秒	4	ダイヤルトーン検出時間

S7	35-59	秒	50	相手モデムと接続するまでの許容時間
S8	1-255	秒	2	ダイヤル時の","によるポーズ時間
S12	0-255	0.02 秒	50	エスケープシーケンスのガードタイム

[022000-27]

➤ 使用上の注意.....	250
➤ USB機器の取り付け／取り外し.....	252

使用上の注意

[022001-27]

- 本機のUSBコネクタには、USB 1.1対応機器、USB 2.0対応機器、USB 3.0対応機器が取り付け可能です。ただし、対応する規格の異なるUSBコネクタにUSB機器を取り付けたときの、動作規格（転送速度）については次の表をご覧ください。

		本体側コネクタ	
		USBコネクタ (USB 1.1)	USBコネクタ (USB 3.0対応)
取り付ける機器	USB 1.1対応機器	USB 1.1 (12Mbps ^{※1})	
	USB 2.0対応機器	USB 2.0 ^{※2} (480Mbps ^{※1})	
	USB 3.0対応機器	USB 2.0 ^{※2} (480Mbps ^{※1})	USB 3.0 ^{※3} (5Gbps ^{※1})

※1 記載の速度は理論値（最大）です。

※2 USBハブ、USBケーブルもUSB 2.0に対応したものを使用する必要があります。

※3 USBハブ、USBケーブルもUSB 3.0に対応したものを使用する必要があります。

- USB機器の取り付け/取り外しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBコネクタにプラグをすばやく抜き差ししたり斜めに差したり半差しにしたりすると、正常に認識されないことがあります。その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、正しく差しなおしてください。
- 初めてUSB機器を取り付けたときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器（マウスまたはキーボード以外）を取り外してください。USB機器を取り付けた状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。
- 省電力状態（スリープ状態や休止状態）の時や、省電力状態への移行中、省電力状態からの復帰中は、USB機器の取り付け/取り外しをしないでください。
- 省電力状態への移行中は、取り付けしているUSB機器を操作しないでください。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、USBハブを本機に取り付けてから、USBハブにUSB機器を取り付けるようにしてください。USB機器を取り付けた状態でUSBハブを本機に取り付けると、USB機器が正常に認識されないことがあります。
- USB機器の有無にかかわらず「デバイス マネージャー」にある「ユニバーサル シリアル バス コントローラー」は削除、無効にしないでください。
- 印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに取り付けているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。なお、印刷中ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。



メモ

- 本機でのUSB機器の動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧くださいか、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB対応機器の情報は、NECの「ビジネスPC」サイト (<http://www.nec.co.jp/bpc/>) から、次の手順で確認してください。

1 「保守・保証/サポート情報（ダウンロード）」をクリック

2 「ご使用中のお客様」にある「製品検索一覧」をクリック

3 「旧モデル検索（最新機種も含む）」にある「PC本体型番検索」をクリック

お使いのモデルの型番で検索し、取り付け可能なUSB対応機器を確認してください。

- 取り付ける機器によっては、接続ケーブルが必要な場合があります。

USB機器を制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、USBコネクタの有効/無効を設定して、USB機器の使用を制限することができます。

また、添付のDeviceProtectorでも、取り付けているUSB機器単位で使用を制限することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 270)」
- **DeviceProtectorについて**
「セキュリティ機能」の「DeviceProtector (P. 284)」

USB機器の取り付け／取り外し

[022002-27]

取り付けの前に

機器によっては、使用するためにドライバやアプリケーションのインストール、設定の変更などが必要になる場合があります。

USB機器に添付のマニュアルなどをご覧になり、必要な準備を行ってください。



メモ

- 取り付けてすぐ使うことができるUSB機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性があります。必ず添付のマニュアルをよく読んでください。
- USB機器は、本機の電源を入れたままの状態でも取り付けることができます。取り付け前に電源を切る必要はありません。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、はじめにUSBハブを本機に取り付けてから、USBハブにUSB機器を取り付けるようにしてください。

USB機器の取り付け

1 USBコネクタ (USB 2.0対応) (🔌) またはUSBコネクタ (USB 3.0対応) (🔌) にプラグを差し込む

プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

取り付けしたUSB機器が正しく本機に認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、取り付けた後で別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB機器に添付のマニュアルなどをご確認ください。

USB機器の取り外し

1 タスクバーの通知領域の🔌をクリックし、🔌または🔌をクリック

このアイコンが表示されていない場合は手順3に進んでください。

2 表示された「××××の取り出し」から、取り外したいUSB機器をクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。

表示された「××××の取り出し」に取り外したいUSB機器がない場合は手順3に進んでください。

3 USB機器を取り外す

以上でUSB機器の取り外しは完了です。

[022100-27]

- 使用上の注意. 254
- PCカードのセットのしかた／取り出し方. 255
- PCカードの割り込みレベルの設定. 257

使用できるPCカードについて

- 使用できるPCカードについては、下記のリンクよりお使いのモデルの「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

- PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないカードを無理に押し込むと、故障の原因になります。

PCカードの取り扱いについて

- PCカードは精密にできています。カードまたはスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。
 - 高温多湿あるいは低温の場所に放置しない
 - ぬらさない
 - 重いものを載せたり、ねじ曲げたりしない
 - ぶつかけたり、落としたりして衝撃を与えない
 - PCカードの端子部分に金属などを差し込まない
- PCカードの取り扱いについては、必ず添付の『安全にお使いいただくために』をご覧ください。

PCカードスロットを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、PCカードスロットの有効/無効を設定して、使用を制限することができます。

また、添付のDeviceProtectorで、PCカードスロットの有効/無効の設定とPCカードを使用して接続されたメモリーカードやハードディスクドライブなどの外部記憶装置への書き込みを制限することができます。



チェック

BIOSセットアップユーティリティのI/O制限を使用してPCカードスロットを無効にした場合、SDメモリーカードスロットも無効になります。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「I/O制限 (P. 270)」
- **DeviceProtectorについて**
「セキュリティ機能」の「DeviceProtector (P. 284)」

PCカードのセットのしかた／取り出し方

[022102-27]

PCカードをセットする／取り出すときの注意

- PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロット、PCカードを破損するおそれがあります。
- 本機がスリープ状態または休止状態の場合は、セットや取り出しをしないでください。本機の機器構成を変更すると、データが消失してしまうことがあります。
- PCカードスロットにセットしたときにスロットからはみ出るPCカードは、本機を持ち運ぶ際には必ず取り出してください。PCカードや本機の故障の原因になります。
- PCカードを取り出すとき以外はイジェクトボタンを収納しておいてください。PCカードやPCカードスロットの故障の原因になります。
- PCカードを使用するアプリケーションの実行中は、PCカードのセットや取り出しをしないでください。

PCカードのセットのしかた

1 PCカードイジェクトボタンが収納されていることを確認する

PCカードイジェクトボタンが出ているときは、PCカードイジェクトボタンをカチッと音がするまで押し込んで、収納された状態にしてください。



チェック

PCカードイジェクトボタンが突き出た状態でカードを差し込むと、PCカードイジェクトボタンが出た状態のままになり、本機やPCカードの故障／破損の原因になるおそれがあります。

2 PCカードの差し込む向きを確認する



チェック

間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロット、PCカードを破損させるおそれがあります。

3 PCカードの向きに注意して、スロットに水平に静かに差し込む




参照

PCカードスロットの位置について

「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 19)」



チェック

PCカードスロットにカードをセットすると、「自動再生」画面が表示される場合があります。このような場合は、実行したい操作をクリックしてください。実行したい操作がない場合は、ウィンドウの右上の  をクリックしてください。

PCカードの取り出し方

1

タスク バーの通知領域の  をクリックし、 または  をクリック

2

表示される「×××××の取り出し」から、取り外すPCカードをクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。
表示される「×××××の取り出し」に取り外すPCカードがない場合は手順3に進んでください。

3

イジェクトボタンを押す

ボタンが手前に飛び出します。

4

もう一度イジェクトボタンを押す

5

PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

PCカードの割り込みレベルの設定

[022103-27]

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なっていると正しく動作しない場合があります。PCカードのマニュアルをご覧ください、本機の割り込みレベルと重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、「トラブル解決Q&A」の「周辺機器」 - 「別売の周辺機器を取り付けたが動作しない、周辺機器を取り付けたら本機が起動しなくなった、他の機能が使えなくなった (P. 632)」をご覧ください、重ならないように設定を変更してください。

本機の割り込みレベル、およびDMAチャンネルの割り当てについては、下記のリンクよりご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

別売の増設RAMボード（以降、メモリ）の取り付け方／取り外し方や増設後の確認方法について説明しています。

▶ 取り付け前の確認.....	259
▶ メモリの取り付け／取り外し.....	260
▶ メモリ変更時の確認.....	265

取り付けられるメモリ



チェック

- 増設RAMボード（メモリ）を本機に取り付ける場合、必ずNECの「ビジネスPC」サイト（<http://www.nec.co.jp/bpc/>）で取り付け可能となっているメモリをお使いください。
なお、市販のメモリに関する動作保証やサポートはNECでは行っていません。販売元にお問い合わせください。
- 最大16GBのメモリを搭載可能ですが、PCIデバイスなどのメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によって利用可能なメモリ容量は異なります。
- 増設できるメモリは1枚のみです。メモリが2枚搭載されているモデルをお使いの場合も、片方のメモリは取り外しできません。

本機に取り付け可能なメモリの情報は、NECの「ビジネスPC」サイト（<http://www.nec.co.jp/bpc/>）から次の手順で確認してください。

1 「保守・保証/サポート情報（ダウンロード）」をクリック

2 「ご使用中のお客様」にある「製品検索一覧」をクリック

3 「旧モデル検索（最新機種も含む）」にある「PC本体型番検索」をクリック

お使いのモデルの型番で検索し、取り付け可能なメモリを確認してください。

メモリの取り付け／取り外し

[022202-27]



チェック

- メモリは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態でメモリを扱っていると破損する原因になります。メモリに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- メモリのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- メモリを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部やメモリが故障する原因になります。取り付け方向に注意してください。
- 取り付け前に、本機で使用できるメモリであることを確認してください。
- メモリスロットのカバーのネジを外すため、プラスドライバーを用意してください。

メモリの取り付け

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

4 バッテリーパックを本体から取り外す

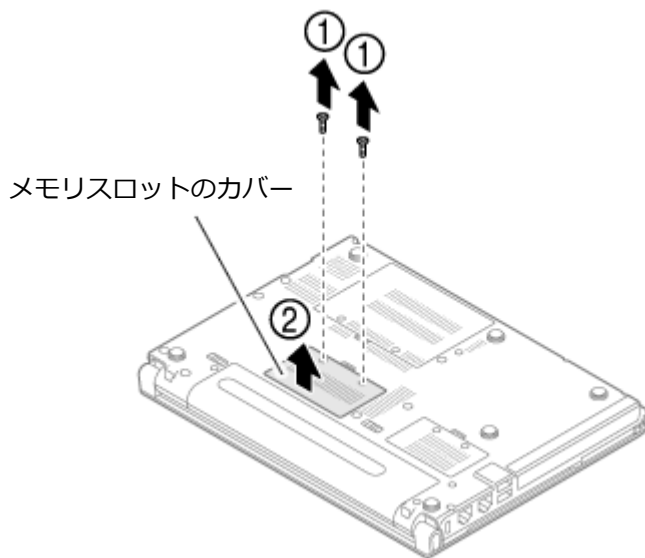


参照

バッテリーパックの取り外しについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 58)」

5 図のネジをプラスドライバーで取り外し、メモリスロットのカバーを取り外す

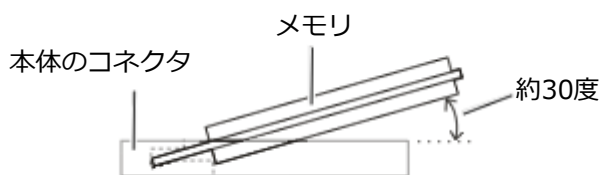
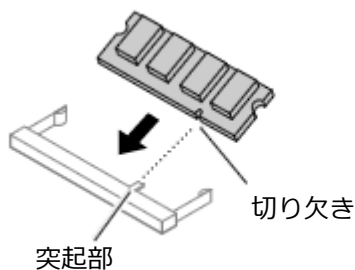


6 メモリの切り欠き部分を本体のコネクタの突起部に合わせ、本体のコネクタに対して約30度の挿入角度で、メモリの端子が当たるまで挿入する



チェック

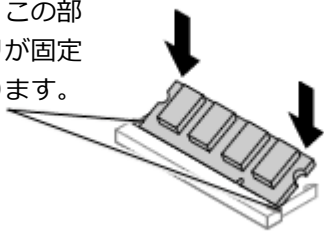
- メモリ上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。メモリを手を持つ際は、メモリの両端面を持つようにしてください。
- メモリの表と裏が逆の場合は、メモリの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。
- 挿入するときに、固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。
- メモリの基板は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。



※横から見たところ

7 カチッと音がする位置までメモリを本体のコネクタに強く押し込む

メモリを倒し込むとき、この部分が左右に開き、メモリが固定されると元の位置に戻ります。

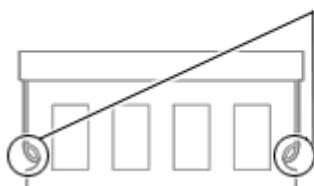


実物と図は多少異なる場合があります。



チェック

両方がロックされ、メモリがコネクタにしっかり固定されたことを確認してください。



8 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

9 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける



参照

バッテリーパックの取り付けについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 58)」

以上でメモリの取り付けは完了です。



メモ

メモリを取り付けた後は、「[メモリ変更時の確認 \(P. 265\)](#)」に従って、変更が正しく行われたかどうか確認してください。

メモリの取り外し

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

4 バッテリパックを本体から取り外す

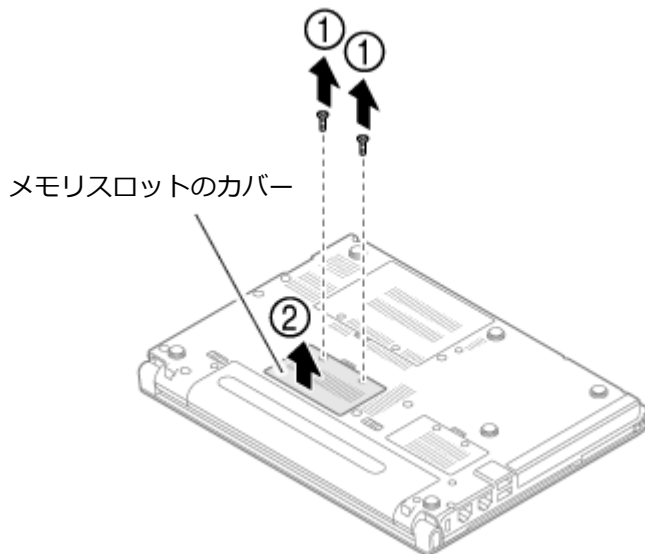


参照

バッテリーパックの取り外しについて

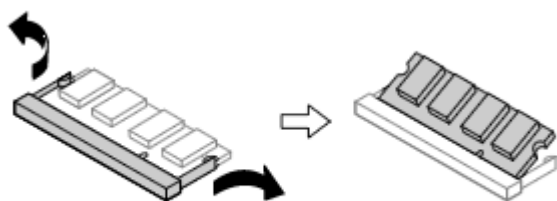
「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 58)」

5 図のネジをプラスドライバーで取り外し、メモリスロットのカバーを取り外す



6 コネクタの両端部分を左右に押し広げる

メモリが図のように起き上がります。



実物と図は多少異なる場合があります。



チェック

- メモリの基板は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。
- メモリ上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。引き抜くときは、両端面をつかんで引き抜いてください。

7 そのままメモリを斜めに引き抜く

8 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

9 バッテリパックとACアダプタを取り付ける



参照

バッテリーパックの取り付けについて

「バッテリー」の「バッテリーパックの取り付け／取り外し (P. 58)」

以上でメモリの取り外しは完了です。



メモ

メモリを取り外した後は、「[メモリ変更時の確認 \(P. 265\)](#)」に従って、変更が正しく行われたかどうか確認してください。

メモリ変更時の確認

[022203-27]

メモリの取り付け／取り外しが正しく行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリック

「システム」欄の「実装メモリ (RAM)」に表示されている「***GB」が総メモリ容量です。

メモリ容量が正しくない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、再度確認してください。



メモ

最大メモリ容量はご購入時のメモリ構成に依存します。

ご購入時のメモリ構成	最大メモリ
2GB	10GB (メモリスロットに8GBを増設)
4GB	12GB (メモリスロットに8GBを増設)
8GB	12GB (メモリスロットの4GBを8GBに交換)
16GB	16GB



チェック

- PCIデバイスなどのメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
- BIOSセットアップユーティリティの「Main」メニューでも、確認することができます。
- メモリを増設した後に休止状態の機能を使用する場合は、増設したメモリ容量分のハードディスク（またはSSD）の空き領域が必要です。

セキュリティ機能

[022500-27]

本機で利用可能なセキュリティ機能について説明しています。

➤ セキュリティ機能について.....	267
➤ スーパバイザパスワード/ユーザパスワード.....	268
➤ ハードディスクパスワード機能.....	269
➤ I/O制限.....	270
➤ 指紋認証機能.....	271
➤ インテル® アンチセフト・テクノロジー.....	274
➤ 盗難防止用ロック.....	276
➤ DEP (Data Execution Prevention) 機能.....	277
➤ 暗号化ファイルシステム (EFS)	278
➤ ウイルス検出・駆除.....	279
➤ セキュリティチップ機能.....	280
➤ ハードディスクセーバー.....	281
➤ SecureRedirector.....	282
➤ NASCA.....	283
➤ DeviceProtector.....	284

セキュリティ機能について

[022501-27]

本機には、機密データの漏えいや改ざんを防止したり、コンピュータウイルスの侵入を防ぐために、次のようなセキュリティ機能があります。



チェック

- お使いのモデルによっては使用できない場合があります。詳しくは各機能の説明をご覧ください。
- 工場出荷時にインストールされていない機能やアプリケーションのインストールには、光学ドライブが必要です。
- 本機の各種セキュリティ機能は、完全なセキュリティを保証するものではありません。セキュリティ機能を使用している場合でも、重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

➤ スーパーバイザパスワード/ユーザパスワード.....	268
➤ ハードディスクパスワード機能.....	269
➤ I/O制限.....	270
➤ 指紋認証機能.....	271
➤ インテル® アンチセフト・テクノロジー.....	274
➤ 盗難防止用ロック.....	276
➤ DEP (Data Execution Prevention) 機能.....	277
➤ 暗号化ファイルシステム (EFS).....	278
➤ ウイルス検出・駆除.....	279
➤ セキュリティチップ機能.....	280
➤ ハードディスクセーバー.....	281
➤ SecureRedirector.....	282
➤ NASCA.....	283
➤ DeviceProtector.....	284

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワード

[022502-27]

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードは、BIOSセットアップユーティリティの起動や設定、本機の使用を制限するためのパスワードです。

BIOSセットアップユーティリティの使用者の制限

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定すると、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示されます。スーパーバイザパスワードまたはユーザパスワードを入力しない限り、BIOSセットアップユーティリティは起動できません。

また、ユーザパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、設定可能な項目が制限されます。本機の管理者と使用者が異なるときに、使用者が設定変更してしまうことを防止する場合などに有効です。

本機の不正使用の防止（BIOS認証）

スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定し、BIOSセットアップユーティリティの「Security」メニューで「Password Check」を「Always」に変更してください。

本機の起動時にパスワード入力画面が表示され、本機を使用するにはスーパーバイザパスワードまたはユーザパスワードの入力が必要になります。



チェック

- ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていなければ設定できません。
- NECに本機の修理を依頼される際は、設定してあるパスワードは解除しておいてください。
- 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れてしまった場合、有償での解除処置となります。詳しくは「トラブル解決Q&A」の「電源」 - 「パスワードを忘れてしまった (P. 480)」をご覧ください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

ハードディスクパスワード機能

[022503-27]

本機のハードディスク（またはSSD）にハードディスクパスワードを設定することで、本機のハードディスク（またはSSD）を本機以外のパソコンに取り付けて使用するときパスワードの入力が必要になり、不正使用や重要なデータの漏えいを防止できます。

ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードの2つがあります。

■ ハードディスクマスタパスワード

ハードディスクユーザパスワードを解除するためのパスワードです。

■ ハードディスクユーザパスワード

本機とハードディスク（またはSSD）の認証を行うためのパスワードです。ハードディスクユーザパスワードを設定することで、本機のハードディスク（またはSSD）が本機以外のパソコンで不正使用されることを防止できます。



チェック

- ハードディスクユーザパスワードは、ハードディスクマスタパスワードが設定されていなければ設定できません。
- ハードディスクパスワードは、本機のハードディスク（またはSSD）が本機以外のパソコンで不正使用されることを防止するためのものであり、本機不正使用を防止するものではありません。本機のデータへの不正アクセスを防止するためにも、本機他のセキュリティ機能とあわせてお使いください。
- 購入元またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除または無効にしておいてください。また、起動できずにパスワードを解除または無効にできない場合は、修理から戻ってきた際に、使用していたマスタパスワードとユーザパスワードを再設定してください。
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックの解除はできません。ハードディスク（またはSSD）に保存されているデータは二度と使用できなくなり、ハードディスク（またはSSD）も有償で交換することになります。ハードディスクパスワードは忘れないように十分注意してください。



参照

ハードディスクパスワードの設定について

「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[Security] メニュー (P. 306)」

I/O制限

[022504-27]

本機では、BIOSセットアップユーティリティで、各種デバイスのI/O（データの入出力）を制限することができます。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスや、システムに影響を及ぼすアプリケーションのインストールを制限することができます。

本機では、次のデバイスのI/Oを制限することができます。

- 光学ドライブ※
- PCカードスロット
- SDメモリーカードスロット
- USBコネクタ
- HDMIコネクタ

※ 光学ドライブモデルの場合のみ。USB接続の光学ドライブを使用する場合は、USBコネクタを制限することで使用を制限します。



参照

I/O制限について

「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[「Advanced」メニュー \(P. 303\)](#)」



チェック

「指紋認証機能」は内蔵指紋センサ（ライン型）モデルのみ使用できます。

指紋認証機能とはパスワード入力の代わりに、内蔵指紋センサ（ライン型）を使用して指紋による認証を行うシステムです。

本機では、NASCAと連携して、Windowsのセキュリティを強化することができます。



参照

- **指紋センサ（ライン型）について**
『指紋センサ（ライン型） ユーザーズガイド』
- **NASCAについて**
「アプリケーションディスク」の「NASCA」フォルダの「NASCA User's Guide.chm」

指紋によるBIOS認証

本機起動時のBIOS認証を行うように設定した場合に、BIOSパスワード（スーパーバイザパスワード/ユーザパスワード）の入力の代わりに、指紋認証によって認証を行うことができます。

指紋によるBIOS認証を使用するためには、次の設定を行う必要があります。

- BIOSセットアップユーティリティで、本機起動時のBIOS認証を行うように設定する
- NASCAで、BIOS認証のBIOSパスワード入力を指紋認証で代用するための設定をする



チェック

BIOSセットアップユーティリティ起動時に要求されるBIOSパスワードの入力を指紋認証で代用することはできません。

設定方法

1

電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について
「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」および「設定項目一覧 (P. 301)」

2 「Security」メニューでスーパーバイザパスワードを設定する



メモ

本機能は、スーパーバイザパスワードが設定されていれば利用可能です。ユーザパスワードは必要に応じて設定してください。

3 「Password Check」を「Always」に設定する

4 「Boot」メニューで「Boot Mode」が「UEFI」に設定されている場合は、「Fast Boot」を「Disabled」に設定する

「Boot Mode」が「Legacy」に設定されている場合は手順5に進んでください。

5 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

6 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

これでBIOSセットアップユーティリティでの設定は完了です。

続けて、NASCAでBIOS認証のBIOSパスワード入力を、指紋認証で代用するための設定をしてください。



チェック

本機起動時のBIOS認証のために登録できる指紋の数は15です。



参照

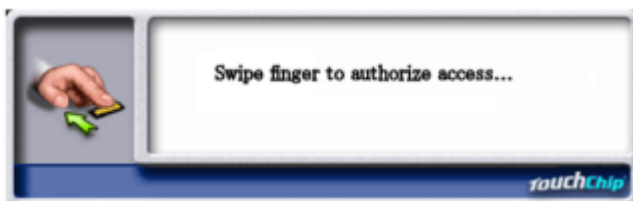
「NASCA」の設定について

「アプリケーションディスク」の「NASCA」フォルダの「NASCA User's Guide.chm」

認証方法

1 本機の電源を入れる

2 次の認証画面が表示されたら、登録済みの指紋を読み取らせる





チェック

- 指紋を登録した指を負傷したなどの理由で、指紋認証が行えない場合は【Esc】を押してください。パスワード入力画面に切り替わるので設定したBIOSパスワードを入力してください。
- 指紋の照合失敗や指紋の読み取りが約40秒以上なかった回数が、合計で3回に達した場合もパスワード入力画面に切り替わります。

設定の解除方法

起動時の指紋認証の設定を解除する場合は、NASCAでBIOS認証のBIOSパスワード入力を指紋認証で代用する設定を解除してください。



チェック

本機を再セットアップしても、指紋認証によるBIOS認証のBIOSパスワード入力の代用は無効になりません。



メモ

BIOSセットアップユーティリティで、BIOS認証そのものを無効にした場合は、指紋認証も行われなくなります。



参照

「NASCA」の設定について

「アプリケーションディスク」の「NASCA」フォルダの「NASCA User's Guide.chm」

インテル® アンチセフト・テクノロジー

[022517-27]

インテル® アンチセフト・テクノロジー（インテル® AT）に対応したセキュリティソフトウェアによる遠隔ロック機能を利用できます。



チェック

- インテル® ATにより実現できる機能は、セキュリティソフトウェアによって異なります。セキュリティソフトウェアの提供元にお問い合わせください。
- インテル® ATを利用する場合、別途、インテル® ATに対応したセキュリティソフトウェアやサービス契約が必要です。

インテル® ATは、インテル® ATに対応したセキュリティソフトウェアが動作することによって、自動的に有効になります。

インテル® ATの状態を確認する

インテル® ATの状態は、BIOSセットアップユーティリティで確認できます。



チェック

- BIOSセットアップユーティリティでの状態表示はWindowsの起動時に更新されます。最新の状態を確認するには、Windowsを再起動した後でBIOSセットアップユーティリティを実行してください。
- インテル® ATを有効にしている場合、再セットアップの際には、あらかじめインテル® ATを無効にしておく必要があります。
- インテル® ATを有効にしている場合、保守サービスをご依頼の際には、あらかじめインテル® ATを無効にしておく必要があります。「アフターケア、改造について」の「[保守サービスについて \(P. 663\)](#)」をご覧ください。



メモ

インテル® AMTを利用している場合、インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジーの「インテル AT」タブでもインテル® ATの状態を確認できます。

1

電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」および「設定項目一覧 (P. 301)」

2 「Advanced」メニューの「Intel Feature Configuration」で、「Intel(R) AT Status」を確認する

次の表示でインテル® ATの有効/無効がわかります (BIOSセットアップユーティリティからの変更はできません)。

- 「Inactive」：無効
- 「Active」：有効
- 「Suspend」：一時停止

3 【Esc】を押してメニュー画面に戻り、【←】【→】でメニューバーの「Exit」を選択する

メニューが表示されます。

4 【↓】で「Discard Changes and Reset」を選択し、【Enter】を押す

設定の保存についての確認画面が表示された場合は、「Yes」を選択して【Enter】を押してください。設定値を変更せずにBIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

盗難防止用ロック

[022505-20]

別売のセキュリティーケーブル（PC-VP-WS15/PC-VP-WS16）を利用することで、本機を机などに繋ぐことができ、本機の盗難防止に効果的です。



チェック

当社製セキュリティーケーブル（PK-SC/CA01）は、本機では使用できません。ご注意ください。



参照

盗難防止用ロックについて

「各部の名称」の「各部の名称と説明 (P. 19)」

DEP (Data Execution Prevention) 機能

[022507-27]

不正なプログラムやデータの実行をハードウェア的に防止する機能です。コンピュータウイルスが不正にプログラムコードを書き込んだり、実行しないようにすることができます。

暗号化ファイルシステム（EFS）

[022510-27]

EFS（Encrypting File System）は、Windows 7 Professionalの標準ファイルシステムであるNTFSが持つファイルやフォルダの暗号化機能です。暗号化を行ったユーザー以外、データ復号化が行えないため、高いセキュリティ効果をもたらすことが可能です。

ウイルス検出・駆除

[022508-27]



チェック

ウイルスバスターは、工場出荷時にはインストールされていません。

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うためのアプリケーションとして「ウイルスバスター」が添付されています。



参照

ウイルスバスターについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「[ウイルスバスター \(P. 409\)](#)」

セキュリティチップ機能

[022509-27]



チェック

セキュリティチップが搭載されたモデルのみ使用できます。

本機はTPM (Trusted Platform Module) と呼ばれるセキュリティチップを実装しており、セキュリティチップ内で暗号化や復号化、鍵の生成を行うことで、強固なセキュリティを実現します。

また、セキュリティチップ上に暗号化キーを持つため、ハードディスク（またはSSD）を取り外して持ち出されても、セキュリティチップ上の暗号化キーを用いて暗号化したデータは読み取られることはありません。



参照

セキュリティチップ機能について

「セキュリティチップ ユーティリティ」 - 「概要 (P. 330)」

ハードディスクセーバー

[022518-27]



チェック

- ハードディスクセーバーは、工場出荷時はインストールされていません。
- SSDモデルをお使いの場合は、ハードディスクセーバーをインストールしないでください。
- ハードディスクセーバーは、落下あるいは振動によるハードディスク損傷の危険性を軽減することができますが、ハードディスクを完全に保護するものではありません。

ハードディスクセーバーは、本機の落下などによる加速度や振動を内蔵センサーが検知し、ハードディスクのヘッドを安全な場所に退避してハードディスク損傷の危険性を軽減するユーティリティです。



参照

ハードディスクセーバーについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「ハードディスクセーバー (P. 406)」



チェック

- SecureRedirectorは、SecureRedirector選択時のみ添付されています。
- SecureRedirectorは、工場出荷時にはインストールされていません。

SecureRedirectorは、本機のハードディスク（またはSSD）へドキュメントファイルなどを保存しようとした場合に、自動的にファイルサーバに保存します。本機のハードディスク（またはSSD）にドキュメントファイルなどを保存しないため、情報の漏えい防止に効果があります。



参照

SecureRedirectorについて

添付の『SecureRedirectorモデルをお使いの方へ』



チェック

NASCAは、工場出荷時にはインストールされていません。

NASCAは、複数の認証方法を使用した高度な個人認証機能です。

認証情報を登録していない第三者が本機を使用することを防止したり、Webサイトへのアクセスやアプリケーションの実行に必要な情報（パスワードなど）を自動的に保存、入力することができます。

保存された情報は、セキュリティチップと連携することによって、安全に管理されます。



参照

NASCAについて

「アプリケーションディスク」の「NASCA」フォルダの「NASCA User's Guide.chm」



チェック

DeviceProtectorは、工場出荷時にはインストールされていません。

DeviceProtectorは、各種周辺機器の使用を制限することができるアプリケーションです。



参照

DeviceProtectorについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「[DeviceProtector \(P. 422\)](#)」

マネジメント機能

[022600-27]

本機で利用可能なマネジメント機能について説明しています。

▶ マネジメント機能について.....	286
▶ リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能.....	287
▶ ネットワークブート機能 (PXE機能).....	290
▶ インテル® vProテクノロジー.....	291
▶ インテル® AMT.....	292

マネジメント機能について

[022601-27]

本機には、システム管理者のパソコンからネットワークに接続された他のパソコンの電源やシステムを遠隔操作して管理するために、次のようなマネジメント機能があります。



チェック

- お使いのモデルによっては使用できない場合があります。詳しくは各機能の説明をご覧ください。
- 工場出荷時にインストールされていない機能やアプリケーションのインストールには、光学ドライブが必要です。

▶ リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能.	287
▶ ネットワークブート機能 (PXE機能)	290
▶ インテル® vProテクノロジー.	291
▶ インテル® AMT.	292

リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能

[021805-27]

本機におけるLANによるリモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能 (以降、WoL) は次の通りです。

- 電源の切れている状態から電源を入れる
- スリープ状態や休止状態からの復帰

WoLを使うように本機を設定している場合、本機の電源が切れているときも、LANアダプタには通電されています。管理者のパソコンから本機にパワーオンを指示する特殊なパケット (Magic Packet) を送信し、そのパケットを本機の専用コントローラが受信するとパワーオン動作を開始します。

これにより、管理者のパソコンが離れた場所にあっても、LANで接続された本機の電源を入れたり、スリープ状態や休止状態から復帰させることができます。



チェック

- WoLを利用するためには、管理者パソコンにMagic Packetを送信するためのソフトウェア (WebSAM Client Managerなど) のインストールが必要です。
- 前回のシステム終了 (電源を切る、休止状態にする、スリープ状態にする) が正常に行われなかった場合、WoLを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindowsを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- サポートする速度が1000MbpsのみのハブではWoLは使用できません。10M/100M/1000M Auto-negotiation機能が搭載されたハブを使用してください。
- WoLの設定を行った場合は、工場出荷時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、WoLの設定は行わずに工場出荷時の設定で使用してください。
- WoLを使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機を休止状態または電源が切れている状態にしてください。

電源の切れている状態からWoLを利用するための設定

電源が切れている状態からのWoLを利用するには、次の設定を行ってください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

2 「Advanced」メニューの「Remote Power On」を「Enabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。



チェック

必要に応じて、起動時のパスワードの設定も行ってください。



参照

起動時のパスワードの設定

「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[「Security」メニュー \(P. 306\)](#)」

以上で設定は完了です。

スリープ状態または休止状態からWoLを利用するための設定



チェック

以下の設定を行う場合は、管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄の「Wake On Magic Packet」をクリック

6 「値」欄で「オン」を選択し、「OK」ボタンをクリック

7 再度表示されたLANアダプタをダブルクリック

8 「電源の管理」タブをクリック

9 次の項目を確認し、チェックが付いていない場合はチェックを付ける

- 「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

- 「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

10 「OK」 ボタンをクリック

11 をクリック

12 をクリック

以上で設定は完了です。

設定の解除

スリープ状態または休止状態からWoLを利用する設定を解除する場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」 を開く

2 「ネットワーク アダプター」 をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「電源の管理」 タブをクリック

5 下記の設定項目のチェックを外す

- 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

6 「詳細設定」 タブをクリック

7 「プロパティ」 欄の「Wake On Magic Packet」 をクリック

8 「値」 欄で「オフ」 を選択し、「OK」 ボタンをクリック

9 をクリック

10 をクリック

11 本機を再起動する

以上で設定は完了です。

ネットワークブート機能（PXE機能）

[021806-27]

ネットワークから起動して管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

- OSインストール
- BIOSフラッシュ（BIOS ROMの書き換え）
- BIOS設定変更

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「[BIOSセットアップユーティリティについて \(P. 296\)](#)」

2 「Advanced」メニューの「Network Boot Agent」を「Enabled」に設定する

3 「Boot」メニューの「Boot Device Priority」で、「1st Boot」を「Network」に設定する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でネットワークブートを使用するための設定は完了です。



チェック

インテル® vPro テクノロジー対応モデルのみ使用できます。

高水準の運用管理性を提供するプラットフォーム技術です。

別途インテル® vProテクノロジーに対応した運用管理ソフトウェアが必要です。



参照

インテル® vProテクノロジーの設定について

- 「インテル® AMT (P. 292)」
- 「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[Advanced] メニュー (P. 303)」
- 「システム設定」の「ME BIOS Extensionについて (P. 314)」
- 「システム設定」の「ME BIOS Extensionの設定項目一覧 (P. 320)」

インテル® AMTに対応した運用管理ソフトウェアによる高水準の運用管理機能を利用できます。



チェック

- インテル® AMTはインテル® vPro テクノロジー対応モデルのみ使用できます。
- インテル® AMTを使用する場合、別途、インテル® AMTに対応した運用管理ソフトウェアが必要です。

インテル® AMTを利用するには、BIOSセットアップユーティリティでインテル® AMTを有効に設定し、インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジーをセットアップする必要があります。

インテル® AMTを有効にする

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

2 「Advanced」メニューの「Intel Feature Configuration」で、「Intel(R) ME BIOS Extension」を「Enabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でインテル® AMTが有効になりました。

次に「インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジーのセットアップ」に進んでください。

■ インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジーのセットアップ



チェック

インテル® AMTを使用する場合のみ、インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジーをセットアップしてください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

2 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥MEIA¥Setup.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。


3 セットアップが終了したら、本機を再起動する

以上でインテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジーのセットアップは終了です。



チェック

- インテル® AMTの詳細な設定方法については、運用管理ソフトウェアの提供元にお問い合わせください。
- インテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジーをセットアップすると、Windows起動時にタスクバーの通知領域にメッセージが表示されることがあります。
このメッセージを表示させないようにするには、次の手順を行ってください。

1 タスクバーの通知領域にある  をクリックして表示される「Intel® Management and Security Status」アイコンを右クリックし、表示されたメニューの「開く」をクリック

「Intel® Management and Security Status」が表示されます。

2 「次回 Windows* にログオンしたときに Intel® Management and Security Status を使用可能にする」のチェックを外す

3 「OK」ボタンをクリック



参照

インテル® AMTの設定について

- 「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[Advanced] メニュー (P. 303)」
- 「システム設定」の「ME BIOS Extensionについて (P. 314)」
- 「システム設定」の「ME BIOS Extensionの設定項目一覧 (P. 320)」

[030000-27]

➤ BIOSセットアップユーティリティについて.....	296
➤ 設定項目一覧.....	301
➤ ME BIOS Extensionについて.....	314
➤ ME BIOS Extensionの設定項目一覧.....	320
➤ 割り込みレベル・DMAチャンネル.....	328

BIOSセットアップユーティリティについて

[030100-27]

➤ BIOSセットアップユーティリティの起動.	297
➤ BIOSセットアップユーティリティの基本操作.	298
➤ BIOSセットアップユーティリティの終了.	299
➤ 工場出荷時の設定値に戻す.	300

BIOSセットアップユーティリティの起動

[030101-27]

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOSセットアップユーティリティが表示されない場合は、【F2】を押す間隔を変えてください。

BIOSセットアップユーティリティの基本操作

[030102-27]



チェック

BIOSセットアップユーティリティで設定を行っている間は、本機の電源スイッチで電源を切らないでください。

電源を切る場合は、必ずBIOSセットアップユーティリティを終了し、Windows起動後にWindows上から電源を切るか、設定を保存しても良い場合は「Exit」メニューから「Save Changes and Power Off」を選択して電源を切ってください。

BIOSセットアップユーティリティの操作、設定はキーボードで行います。BIOSセットアップユーティリティでの使用する主なキーについては次をご覧ください。

キー	機能・操作
【←】【→】	「Main」「Advanced」などのメニューバーの項目を選択します。
【↑】【↓】	<ul style="list-style-type: none">● 設定項目を選択します。● 設定可能な値を一覧表示している場合は、設定値を選択します。
【Enter】	<ul style="list-style-type: none">● 現在の項目に設定可能な値を一覧表示し、選択するメニューを表示します。また設定値を決定しメニューを閉じます。● ▶印が付いた設定項目でサブメニューを表示します。● 「System Time」「System Date」で設定する桁を移動します。
【Esc】	<ul style="list-style-type: none">● 設定を保存せず、BIOSセットアップユーティリティを終了します。● サブメニュー表示時、前の画面に戻ります。
【F9】	BIOSセットアップユーティリティの設定値を工場出荷時の状態に戻します。
【F10】	設定の変更を保存し、本機を再起動します。
【Tab】	「System Time」「System Date」で設定する桁を移動します。

BIOSセットアップユーティリティの終了

[030103-27]



チェック

BIOSセットアップユーティリティ終了後に電源を切る場合は、必ずBIOSセットアップユーティリティを終了し、Windows起動後にWindows上から電源を切るか、設定を保存しても良い場合は「Exit」メニューから「Save Changes and Power Off」を選択して電源を切ってください。

変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。中止したいときは【Esc】を押してください。

2 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。



メモ

メニューバーの「Exit」で「Save Changes and Reset」または「Save Changes and Power Off」を選択し、BIOSセットアップユーティリティを終了することもできます。「Save Changes and Power Off」を選択した場合は、BIOSセットアップユーティリティ終了後に本機の電源が切れます。

変更を保存せず終了する

1 キーボードの【←】【→】でメニューバーの「Exit」を選択する

メニューが表示されます。

2 キーボードの【↓】で「Discard Changes and Reset」を選択し、【Enter】を押す

設定の保存についての確認画面が表示された場合は、「Yes」を選択して【Enter】を押してください。設定値を変更せずにBIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

工場出荷時の設定値に戻す

[030104-27]



チェック

BIOSセットアップユーティリティ終了後に電源を切る場合は、必ずBIOSセットアップユーティリティを終了し、Windows起動後にWindows上から電源を切るか、設定を保存しても良い場合は「Exit」メニューから「Save Changes and Power Off」を選択して電源を切ってください。

設定を工場出荷時の値に戻すときは、次の手順で行ってください。

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する

2 【F9】を押す

確認の画面が表示されます。
中止したいときは【Esc】を押してください。

3 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

工場出荷時の設定値を読み込みます。

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。



メモ

メニューバーの「Exit」で「Save Changes and Reset」または「Save Changes and Power Off」を選択し、BIOSセットアップユーティリティを終了することもできます。「Save Changes and Power Off」を選択した場合は、BIOSセットアップユーティリティ終了後に本機の電源が切れます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上で設定は完了です。

設定項目一覧

[030200-27]

▶ 「Main」メニュー.....	302
▶ 「Advanced」メニュー.....	303
▶ 「Security」メニュー.....	306
▶ 「Boot」メニュー.....	310

「Main」メニュー

[030201-27]

設定項目	設定値	説明
BIOS Version	—	BIOSのバージョンを表示します。
EC Version	—	ECのバージョンを表示します。
ME FW Version	—	ME FWのバージョンを表示します。
Product Name	—	型番を表示します。
Serial Number	—	製造番号を表示します。
System Time ^{※1}	—	現在の時刻を「時：分：秒」（24時間形式）で設定します。
System Date ^{※1}	—	現在の日付を「曜日（表示のみ）月/日/年」（西暦）で設定します。
SATA Port 0	—	現在マザーボードのSATAインターフェイスに接続されているSATAデバイスを表示します。
SATA Port 1	—	現在マザーボードのSATAインターフェイスに接続されているSATAデバイスを表示します。
SATA Port 4	—	現在マザーボードのSATAインターフェイスに接続されているSATAデバイスを表示します。
CPU Type	—	CPUタイプを表示します。
CPU Speed	—	CPU速度を表示します。
System Memory	—	搭載されているメモリ容量と規格、速度を表示します。

※1 ユーザパスワードでBIOSセットアップユーティリティを起動した場合でも設定可能な項目です。

「Advanced」メニュー

[030202-27]



チェック

休止状態からBIOSセットアップユーティリティを起動した場合は、「Advanced」メニューの設定項目は変更しないでください。

設定値欄の【】で囲まれた値は、工場出荷時の設定です。

設定項目	設定値	説明
Fn/Left Ctrl key replacement※ ¹	【Disabled】 Enabled	「Enabled」に設定すると、本体キーボードの【Fn】と【Ctrl】の機能を入れ換えます。
Power Off USB Charge※ ¹	【Disabled】 AC AC/Battery	スリープ状態、休止状態、および電源オフ時のUSBポート充電の有効/無効を設定します。 <ul style="list-style-type: none">● Disabled : 無効● AC : 本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続している場合のみ有効● AC/Battery : 有効
No-Execute Memory Protection	Disabled 【Enabled】	No-Execute Memory Protection機能を有効にします。通常は「Enabled」で使用してください。
Total Graphics Memory	128MB 【256MB】 Max DVMT	ビデオデバイスが使用するビデオメモリを設定します。
SATA Controller Mode	IDE 【AHCI】	SATAコントローラの動作モードを設定します。
Network Boot Agent	【Disabled】 Enabled	ネットワークブート機能の有効/無効を設定します。
Remote Power On	【Disabled】 Enabled	「Enabled」に設定すると、LANによって電源をオンにすることができます。
Force Network Boot※ ⁵	【Disabled】 Enabled	「Enabled」に設定すると、LANによって電源がオンになったときに、起動順位の設定に関わらず、強制的にNetworkから起動します。
Legacy USB Support※ ²	Disabled 【Enabled】	USBレガシー機能の有効/無効を設定します。
USB Storage Device Support※ ² ※ ³	Disabled 【Enabled】	USBストレージデバイスのレガシーエミュレーションの有効/無効を設定します。
USB Storage Device Configuration※ ² ※ ³ ※ ⁴	—	接続されたUSBストレージデバイスのエミュレーションタイプを設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されるので、デバイスごとにエミュレーションタイプを設定してください。

		<p>い。</p> <p>設定できるエミュレーションタイプは次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Auto : 接続されているデバイスを自動で判別し、エミュレートします。 ● Forced FDD : 強制的にフロッピーディスクドライブとしてエミュレートします。 ● Hard Disk : ハードディスクドライブとしてエミュレートします。 ● CD-ROM : DVD/CDドライブとしてエミュレートします。
Intel Feature Configuration※10	—	<p>Intel社の各種技術の設定をします。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。</p> <p>設定については「Intel Feature Configuration (P. 304)」をご覧ください。</p>
Device Configuration	—	<p>周辺入出力機器の設定をします。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。</p> <p>設定については「Device Configuration (P. 305)」をご覧ください。</p>

※1 ユーザパスワードでBIOSセットアップユーティリティを起動した場合でも設定可能な項目です。

※2 「Device Configuration」の「USB Port」を「Disabled」に設定した場合は表示されません。

※3 「Legacy USB Support」を「Disabled」に設定した場合は表示されません。

※4 「USB Storage Device Support」を「Enabled」に設定し、起動時にUSBストレージデバイスを接続している場合のみ表示されます。

※5 「Network Boot Agent」または「Remote Power On」を「Disabled」に設定した場合は表示されません。

※10 対応しているCPUを選択した場合のみ表示されます。

■ Intel Feature Configuration

設定項目	設定値	説明
Intel(R) ME BIOS Extension※1	【Disabled】 Enabled	「Enabled」を選択すると、Intel® ME BIOS Extensionを有効にします。
Unconfigure ME※2	【Disabled】 Enabled	「Enabled」を選択すると、Intel® ME BIOS Extensionの設定をクリアします。
Intel(R) VT-x	Disabled 【Enabled】	「Enabled」を選択すると、Intel® VT-x機能を有効にします。
Intel(R) TXT※1 ※4 ※5	【Disabled】 Enabled	「Enabled」を選択すると、Intel® TXT機能を有効にします。
Intel(R) VT-d※1	【Disabled】 Enabled	「Enabled」を選択すると、Intel® VT-d機能を有効にします。
Intel(R) AT Status※1	Inactive Active Suspend	インテル® アンチセフト・テクノロジーの状態を表示します。
Intel(R) AT Suspend Mode※3	【Disabled】 Enabled	「Enabled」を選択すると、インテル® ATを一時的に無効にします。

- ※1 対応しているCPUを選択した場合のみ表示されます。
- ※2 「Intel(R) ME BIOS Extension」を「Enabled」に設定した場合のみ表示されます。
- ※3 「Intel(R) AT Status」が「Active」、または「Suspend」と表示されている場合のみ設定が可能です。
- ※4 「Intel(R) VT-x」と「Intel(R) VT-d」が「Enabled」の場合のみ設定可能です。
- ※5 本機能を有効にするには、セキュリティチップが利用可能である必要があります。

■ Device Configuration

設定項目	設定値	説明
Internal Mouse	Disabled 【Enabled】	USBマウスを使用するときなど、NXパッドを無効にしたい場合は、「Disabled」に設定します。
USB Port	Disabled 【Enabled】	「Disabled」に設定すると、USBコネクタ、USBコネクタ（USB 3.0対応）が使用できなくなります。
Internal Camera※4	Disabled 【Enabled】	「Disabled」に設定すると、内蔵のWebカメラが使用できなくなります。
Internal CD/DVD※3	Disabled 【Enabled】	「Disabled」に設定すると、内蔵の光学ドライブが使用できなくなります。
PC Card Slot	Disabled 【Enabled】	「Disabled」に設定すると、PCカードスロットが使用できなくなります。
SD Card Slot	Disabled 【Enabled】	「Disabled」に設定すると、内蔵のSDメモリーカードスロットが使用できなくなります。
Wireless LAN※2	Disabled 【Enabled】	「Disabled」に設定すると、内蔵の無線LANが使用できなくなります。
HDMI Port	Disabled 【Enabled】	「Disabled」に設定すると、HDMIポートが使用できなくなります。

- ※2 無線LANモデルを選択した場合のみ表示されます。通常は「Enabled」から設定を変更しないでください。
- ※3 光学ドライブモデルを選択した場合のみ表示されます。
- ※4 Webカメラが搭載されたモデルを選択した場合のみ表示されます。

「Security」メニュー

[030203-27]

設定値欄の【】で囲まれた値は、工場出荷時の設定です。

設定項目	設定値	説明
Supervisor Password	—	スーパーバイザパスワードが設定されているかどうかが表示されます。
User Password	—	ユーザパスワードが設定されているかどうかが表示されます。
Change Supervisor Password	—	スーパーバイザパスワードの設定、変更を行います。【Enter】を押すと設定画面が表示されます。
Change User Password ^{※1} ^{※2}	—	ユーザパスワードの設定、変更を行います。【Enter】を押すと設定画面が表示されます。
Password Check ^{※1}	Always 【Setup】	システム起動時にパスワードの入力を求めるかどうかを設定します。
Hard Disk Security		
SATA Port 0 : xxxxx	—	SATA Port 0に接続されたハードディスク（またはSSD）のパスワードの設定をします。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「 Hard Disk Security (P. 307) 」をご覧ください。 ハードディスク（またはSSD）が接続されていない場合は、本項目は表示されません。
SATA Port 1 : xxxxx	—	SATA Port 1に接続されたハードディスク（またはSSD）のパスワードの設定をします。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「 Hard Disk Security (P. 307) 」をご覧ください。 ハードディスク（またはSSD）が接続されていない場合は、本項目は表示されません。
Security Chip Configuration	—	セキュリティチップの設定をします。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。設定については「 Security Chip Configuration (P. 309) 」をご覧ください。

※1 スーパーバイザパスワードを設定すると表示されます。

※2 ユーザパスワードでBIOSセットアップユーティリティを起動した場合でも設定可能な項目です。

スーパーバイザパスワード、ユーザパスワードの設定

「Change Supervisor Password」または「Change User Password」にカーソルを合わせて【Enter】を押すと表示される設定画面で設定します。

新しくパスワードを設定する場合は、「Create New Password」欄に設定するパスワードを入力して【Enter】を押し、「Confirm New Password」欄に確認のために同じパスワードを入力して【Enter】を押してください。

設定済みのパスワードを変更する場合は、「Enter Current Password」欄に現在のパスワードを入力して【Enter】を押した後で、新しくパスワードを設定する場合と同様にパスワードを入力してください。



チェック

- パスワードは半角50文字以内で、以下の文字のみ使用することができます。大文字／小文字の区別はありません。
 - A～Z、a～z、0～9
 - -^@[;:],./+
 - 半角スペース
- スーパーバイザパスワードの場合、新しいパスワードに何も入力しないで【Enter】を押せば、スーパーバイザパスワード、ユーザパスワードの両方が解除されます。
- ユーザパスワードでBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、ユーザパスワードを解除することはできません。
- 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れてしまった場合、有償での解除処置となります。詳しくは「トラブル解決 Q&A」の「電源」-「パスワードを忘れてしまった (P. 480)」をご覧ください。

Hard Disk Security



チェック

ハードディスクパスワード設定が表示されない場合は、「Exit」メニューから「Save Changes and Power Off」を選択して電源を切り、再度BIOSセットアップユーティリティを起動して設定を行ってください。

ハードディスクパスワードの設定を行います。



メモ

本機では、内蔵ハードディスク（またはSSD）はSATA Port 0に接続されています。

設定項目	設定値	説明
Hard Disk Security		
HDD Password is	-	内蔵ハードディスク（またはSSD）にパスワードが設定されているかどうかが表示されます。
Set Master Password	-	内蔵ハードディスク（またはSSD）のマスタパスワードの設定、変更を行います。【Enter】を押すと設定画面が表示されます。
Set User Password※1	-	内蔵ハードディスク（またはSSD）のユーザパスワードの設定、変更を行います。【Enter】を押すと設定画面が表示されます。

※1 ユーザパスワードでBIOSセットアップユーティリティを起動した場合でも設定可能な項目です。

ハードディスクパスワードの設定

設定するパスワードの項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定画面が表示されます。

すでにパスワードが設定されている場合は「Enter Current Password」欄が表示されるので、現在のパスワードを入力し【Enter】を押します。

「Create New Password」欄に新しいパスワードを入力して【Enter】を押し、「Confirm New Password」欄に確認のために同じパスワードを入力して【Enter】を押すと設定されます。

ハードディスクパスワードを設定しても、設定したハードディスクマスタパスワードやハードディスクユーザパスワードを本機の起動時に入力する必要はありません。



チェック

- パスワードは半角32文字以内で、以下の文字のみ使用することができます。大文字/小文字の区別はありません。
 - A～Z、a～z、0～9
 - -^@[;:],./+
 - 半角スペース
- ハードディスクパスワードは必ずハードディスクマスタパスワード/ハードディスクユーザパスワードの両方を設定してください。
- ユーザパスワードは、マスタパスワードが設定されていなければ設定できません。
- 購入元またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除または無効にしておいてください。また、起動できずにパスワードを解除または無効にできない場合は、修理から戻ってきた際に、使用していたマスタパスワードとユーザパスワードを再設定してください。
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックの解除はできません。ハードディスク（またはSSD）に保存されているデータは二度と使用できなくなり、ハードディスク（またはSSD）も有償で交換することになります。ハードディスクパスワードは忘れないように十分注意してください。

ハードディスクのロックの解除

本機の起動時にハードディスク（またはSSD）がロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクパスワードを再設定し、ハードディスク（またはSSD）のロックを解除してください。

● ハードディスクユーザパスワードがわかる場合

本機の電源を切り、もう一度電源を入れてBIOSセットアップユーティリティを起動し、ハードディスクユーザパスワードを再設定してください。

● ハードディスクマスタパスワードがわかる場合

本機の電源を切り、もう一度電源を入れてBIOSセットアップユーティリティを起動し、ハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードを再設定してください。



チェック

- ハードディスク（またはSSD）がロックされたという内容のメッセージが表示された状態で、ハードディスクユーザパスワードまたはハードディスクマスタパスワードを入力すると一時的にロックを解除することができます。
- ロックを一時的に解除している状態では、スリープ状態および休止状態にしないでください。

ハードディスクパスワードの解除

パスワードを解除したいハードディスク（またはSSD）のマスタパスワードの項目にカーソルを合わせて【Enter】を押し設定画面を表示させます。

「Enter Current Password」欄に現在のパスワードを入力し【Enter】を押し、「Create New Password」欄および「Confirm New Password」欄に何も入力しないで【Enter】を押すとパスワードが解除されます。

Security Chip Configuration

セキュリティチップの設定を行うことができます。

設定項目	設定値	説明
TPM Support※1	Disabled 【Enabled】	「Enabled」に設定すると、セキュリティチップが利用可能になります。
Current TPM State	—	現在のセキュリティチップの設定状態を表示します。
Change TPM State※1 ※2	【No Change】 Enable&Activate Deactivate&Disable Clear	セキュリティチップの設定を変更します。 「Clear」（セキュリティチップの初期化）は、「Current TPM State」の表示が「Enabled&Activated」の場合のみ選択できません。また、初期化を行うと「Current TPM State」は「Disabled&Deactivated」になります。
Password Authentication ※3	【Disabled】 Enabled	「Enabled」に設定すると、セキュリティチップの状態を変更するときにスーパーバイザパスワードの入力が必要になります。

※1 ユーザパスワードでBIOSセットアップユーティリティを起動した場合でも設定可能な項目です。ただし、「Password Authentication」が「Enabled」に設定されている場合は変更できません。

※2 「TPM Support」を「Enabled」に設定している場合のみ設定可能となります。

※3 スーパーバイザパスワードが設定済みで、かつ「TPM Support」の設定が「Enabled」の場合のみ設定できます。



チェック

- 本機能を使用する場合は、スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを併用し、BIOSセットアップユーティリティのセキュリティを強化してお使いください。また、「Boot」メニューで、「1st Boot」に「Hard Disk」を設定することをおすすめします。
- 「Password Authentication」を「Enabled」に設定した場合、起動時にパスワードの入力画面が表示されます。設定の変更を有効にするには、スーパーバイザパスワードを入力してください。間違ったパスワードやユーザパスワードを入力した場合、設定の変更は無効になります。
- セキュリティチップ機能のユーザー情報を初期化すると、Windows上で保護したデータが参照できなくなりますので、必要なデータは参照可能な場所に退避してから初期化を行ってください。また、本機を廃棄する際には、ユーザー情報を初期化することで、データの漏えいを防ぐことができます。



参照

セキュリティチップ機能について

「セキュリティチップ ユーティリティ (P. 329)」

「Boot」メニュー

[030204-27]



チェック

「Boot」メニューは、ユーザパスワードで起動したときには変更できません。

設定値欄の【】で囲まれた値は、工場出荷時の設定です。

設定項目	設定値	説明
Boot Mode	【Legacy】 UEFI	Boot Modeの設定をします。この項目の設定は変更しないでください。
Boot Device Priority		
1st Boot	【CD/DVD】 USB CD/DVD USB Floppy Hard Disk USB HardDisk Network Disabled	<p>本機を起動するときに、OSを検索するデバイスの順番を設定します。</p> <p>「1st Boot」から順番に、設定したデバイスからの起動を試みます。設定できるデバイスは次の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">● CD/DVD : 光学ドライブ● USB CD/DVD : USB接続の光学ドライブ● USB Floppy : USB接続のフロッピーディスクドライブ● Hard Disk : ハードディスクドライブ● USB HardDisk : USB接続のハードディスクドライブ● Network : ネットワーク上のドライブ● Disabled
2nd Boot	CD/DVD 【USB CD/DVD】 USB Floppy Hard Disk USB HardDisk Network Disabled	
3rd Boot	CD/DVD USB CD/DVD 【USB Floppy】 Hard Disk USB HardDisk Network Disabled	
4th Boot	CD/DVD USB CD/DVD USB Floppy 【Hard Disk】 USB HardDisk Network Disabled	
5th Boot	CD/DVD USB CD/DVD USB Floppy Hard Disk	

	【USB HardDisk】 Network Disabled	
6th Boot	CD/DVD USB CD/DVD USB Floppy Hard Disk USB HardDisk 【Network】 Disabled	
CD/DVD Drive BBS Priorities ^{※6}	—	起動する光学ドライブの優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。 設定については「 CD/DVD Drive BBS Priorities (P. 311) 」をご覧ください。
Hard Disk Drive BBS Priorities ^{※1}	—	起動するハードディスク（またはSSD）の優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。 設定については「 Hard Disk Drive BBS Priorities (P. 312) 」をご覧ください。
USB Floppy Drive BBS Priorities ^{※2}	—	起動するUSB接続のフロッピーディスクドライブの優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。 設定については「 USB Floppy Drive BBS Priorities (P. 312) 」をご覧ください。
USB CD/DVD Drive BBS Priorities ^{※3}	—	起動するUSB接続の光学ドライブの優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。 設定については「 USB CD/DVD Drive BBS Priorities (P. 312) 」をご覧ください。
USB HardDisk Drive BBS Priorities ^{※4}	—	起動するUSB接続のハードディスクドライブの優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。 設定については「 USB HardDisk Drive BBS Priorities (P. 312) 」をご覧ください。
Network Device BBS Priorities ^{※5}	—	起動するネットワークデバイスの優先順位を設定します。【Enter】を押すとサブメニューが表示されます。 設定については「 Network Device BBS Priorities (P. 312) 」をご覧ください。

※1 ハードディスク（またはSSD）が接続されている場合に本項目は表示されます。

※2 USB接続のフロッピーディスクドライブが接続されている場合に本項目は表示されます。

※3 USB接続の光学ドライブが接続されている場合に本項目は表示されます。

※4 USB接続のハードディスクドライブが接続され、かつ「Advanced」メニューの「USB Storage Device Support」を「Enabled」に設定した場合に本項目は表示されます。

※5 「Advanced」メニューの「Network Boot Agent」を「Enabled」に設定している場合に本項目は表示されます。

※6 光学ドライブが接続されている場合に本項目は表示されます。

CD/DVD Drive BBS Priorities

設定項目	設定値	説明
------	-----	----

1st Boot※1	【XXXXXX】 Disabled	1st Bootに設定した光学ドライブから起動します。
------------	----------------------	-----------------------------

※1 複数のドライブが存在する場合は、「2nd Boot」、「3rd Boot」のように設定項目が追加されます。

■ Hard Disk Drive BBS Priorities

設定項目	設定値	説明
1st Boot※1	【XXXXXX】 Disabled	1st Bootに設定したハードディスク（またはSSD）から起動します。

※1 複数のドライブが存在する場合は、「2nd Boot」、「3rd Boot」のように設定項目が追加されます。

■ USB Floppy Drive BBS Priorities

設定項目	設定値	説明
1st Boot※1	【XXXXXX】 Disabled	1st Bootに設定したUSB接続のフロッピーディスクドライブから起動します。

※1 複数のドライブが存在する場合は、「2nd Boot」、「3rd Boot」のように設定項目が追加されます。

■ USB CD/DVD Drive BBS Priorities

設定項目	設定値	説明
1st Boot※1	【XXXXXX】 Disabled	1st Bootに設定したUSB接続の光学ドライブから起動します。

※1 複数のドライブが存在する場合は、「2nd Boot」、「3rd Boot」のように設定項目が追加されます。

■ USB HardDisk Drive BBS Priorities

設定項目	設定値	説明
1st Boot※1	【XXXXXX】 Disabled	1st Bootに設定したUSB接続のハードディスクドライブから起動します。

※1 複数のドライブが存在する場合は、「2nd Boot」、「3rd Boot」のように設定項目が追加されます。

■ Network Device BBS Priorities

設定項目	設定値	説明
1st Boot※1	【XXXXXX】 Disabled	1st Bootに設定したネットワークデバイスから起動します。

※1 複数のデバイスが存在する場合は、「2nd Boot」、「3rd Boot」のように設定項目が追加されます。

本機の起動時に、OSを起動するデバイスを手動選択する

本機の起動時に、OSを起動するデバイスを手動選択する場合は、次の手順で行います。



チェック

他の設定項目を変更している場合や、【F9】を押すなどで工場出荷時の設定値に戻した場合は、一度変更を保存してBIOSセットアップユーティリティを終了してから本機能を使用してください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す



チェック

- 「Security」メニューのスーパーバイザパスワード、ユーザパスワードを設定している場合、パスワード入力画面が表示されます。その場合は、スーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードを入力した場合、本機能は使用できません。
- BIOSセットアップユーティリティが表示されない場合は、【F2】を押す間隔を変えてください。

2 キーボードの【←】【→】でメニューバーの「Exit」を選択する

3 「Boot Override」から【↑】【↓】で起動するデバイスを選択し、【Enter】を押す

ME BIOS Extension(について

[030300-27]

- 使用上の注意. 315
- ME BIOS Extensionを使用する前に. 316
- ME BIOS Extensionの起動. 318
- 工場出荷時の設定値に戻す. 319

使用上の注意

[030301-27]

インテル® vPro テクノロジーのインテル® AMTの設定を行うME (Management Engine) BIOS Extensionの操作を行う際の注意事項について説明しています。

ME BIOS Extensionでの文字の入力

ME BIOS Extensionで特殊文字を入力する場合、キーボードのキーの表記どおりに特殊文字を入力できないキーがあります。特殊文字を入力する場合は次の表をご覧ください。

【Shift】を押しながら 押すキー	【1】	【2】	【3】	【4】	【5】	【6】	【7】	【8】	【9】	【0】
入力される特殊文字	!	@	#	\$	%	^	&	*	()

また、上記の特殊文字以外にもME BIOS Extension上ではキーボードのキーの表記と異なる文字が入力されるキーがあります。キーボードの表記と異なる文字が入力されるキーについては以下の図をご覧ください。グレーで示されたキーが、表記と異なる文字が入力されるキーです。

- 本機のキーボードの表記



- 実際に入力される文字



インテル® AMT使用時の電源について

インテル® AMTを使用する場合は、本機にACアダプタを接続し、コンセントからの電源で使用してください。バッテリー駆動の状態ではインテル® AMTは使用できません。

ME BIOS Extensionを使用する前に

[030302-27]

工場出荷時のパスワードからの変更

ME BIOS Extensionでの設定を行う前に、工場出荷時のパスワードからパスワードを変更する必要があります。次の手順でパスワードを変更してください。



チェック

- 工場出荷時のパスワードおよび運用管理ツールで利用するIDは「admin」に設定されています。
- 工場出荷時のパスワードが設定されたままの場合、パスワードの設定以外の設定の変更はできません。
- 工場出荷時のパスワードのままでは、第三者にインテル® AMTを利用されるおそれがあります。インテル® AMTを使用しない場合でも、パスワードを工場出荷時の設定から変更することをおすすめします。

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する

2 「Advanced」タブの「Intel Feature Configuration」を選択し、【Enter】を押す

3 「Intel(R) ME BIOS Extension」を選択し、「Enabled」に設定する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

6 すぐに【Ctrl】 + 【P】を数回押す

ME BIOS Extensionの「MAIN MENU」が表示されます。



チェック

【Ctrl】 + 【P】を押すタイミングによっては、ME BIOS Extensionの「MAIN MENU」に移行しにくい場合があります。
その場合は、「MAIN MENU」が表示されるまで、何度か繰り返してください。

7 「MEBx Login」を選択し、【Enter】を押す

8 「Intel(R) ME Password」と表示されたら、「admin」と入力し【Enter】を押す

9 「Intel(R) ME New Password」と表示されたら、新しく設定するパスワードを入力し【Enter】を押す

パスワードは次の条件をすべて満たす「強固なパスワード」に設定してください。

- 8文字以上32文字以下
- 1文字以上のアルファベット小文字および大文字を含むこと
- 1文字以上の数字（0～9）を含むこと
- 1文字以上の特殊文字（例：!、@、#など）を含むこと



チェック

- 「"」「,」「.」「:」はパスワードの文字として使用できません。
- ME BIOS Extensionでは、キーボードのキーの表記と異なる文字が入力されるキーがあります。パスワードの入力の際には「[使用上の注意 \(P. 315\)](#)」をご覧ください。

10 「Verify password」と表示されたら、もう一度同じパスワードを入力し【Enter】を押す

ME BIOS Extensionの起動

[030304-27]

1 電源を入れ、すぐに【Ctrl】 + 【P】を数回押す

ME BIOS Extensionの「MAIN MENU」が表示されます。



チェック

【Ctrl】 + 【P】を押すタイミングによっては、ME BIOS Extensionの「MAIN MENU」に移行しにくい場合があります。

その場合は、「MAIN MENU」が表示されるまで、何度か繰り返してください。

2 「MEBx Login」を選択し、【Enter】を押す

3 「Intel(R) ME Password」と表示されたら、ME BIOS Extensionのパスワードを入力し【Enter】を押す

工場出荷時の設定値に戻す

[030305-27]

ME BIOS Extensionの設定を工場出荷時の値に戻すときは、次の手順で行ってください。



チェック

次の手順を行っている際は、本機の電源を切らないでください。

1 BIOSセットアップユーティリティを起動する

2 「Advanced」メニューの「Intel Feature Configuration」で、「Intel(R) ME BIOS Extension」を「Enabled」に設定する

3 「Unconfigure ME」を「Enabled」に設定する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

6 再起動後、画面に「Found unconfigure of Intel(R) ME Continue with unconfiguration (Y/N)」と表示されたら【Y】を押す

「Unconfiguration in progress」と表示され、設定値を工場出荷時に戻す処理が始まります。処理が完了すると本機が再起動します。

以上で設定は完了です。

必要に応じて、BIOSセットアップユーティリティの設定の変更や、BIOSセットアップユーティリティの設定値を工場出荷時に戻す操作を行ってください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

ME BIOS Extensionの設定項目一覧

[030400-27]

➤ 使用上の注意.	321
➤ 「MAIN MENU」	322
➤ 「INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION」 メニュー.	323
➤ 「INTEL(R) AMT CONFIGURATION」 メニュー.	324

使用上の注意

[030401-27]

本機能はインテル® AMTの運用管理ソフトウェアを使用するための機能です。使用する際は、運用管理ソフトウェアの提供元にご相談の上、設定を行ってください。

「MAIN MENU」

[030402-27]

設定項目	設定値	説明
MEBx Login ^{※1}	—	MEBxへLoginします。
> Intel(R) ME General Settings	—	「INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION」メニュー (P. 323)に移動します。
> Intel(R) AMT Configuration	—	「INTEL(R) AMT CONFIGURATION」メニュー (P. 324)に移動します。
MEBx Exit	—	ME BIOS Extensionが終了し、本機が再起動します。

※1 ME BIOS Extensionにログインすると表示が消えます。

「INTEL(R) ME PLATFORM CONFIGURATION」メニュー

[030403-27]

設定値欄の【】で囲まれた値は、工場出荷時の設定です。

設定項目	設定値	説明
Change ME Password	—	ME BIOS Extensionのパスワードを設定します。 【Enter】を押すと設定変更の手順に進みます。
Local FW Update	Disabled 【Enabled】 Password Protected	MEファームウェアのアップデート機能の有効/無効を設定します。
> Power Control	—	「INTEL(R) ME POWER CONTROL (P. 323)」メニューに移動します。

INTEL(R) ME POWER CONTROL

設定項目	設定値	説明
Intel(R) ME ON in Host Sleep States※1	【Mobile: ON in S0】 Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5 (AC only)	スリープ状態、休止状態、および電源オフ時にME機能を有効にするかどうかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">● Mobile: ON in S0 OSが稼動している状態でのみME機能が有効になります。● Mobile: ON in S0, ME Wake in S3, S4-5 (AC only) OS稼動状態およびACアダプタ接続時のスリープ状態、休止状態、電源オフ状態の時にAMT機能が有効になります。 Idle Timeoutで設定した時間、MEへのアクセスが無い場合、MEは待機状態に移行します。
Idle Timeout	1 - 65535	ME無通信時に待機状態へ移行するまでの時間を設定します。 (単位：分)

※1 Intel(R) ME ON in Host Sleep Statesの設定を変更すると、リモートパワーオン機能が動作しない場合があります。

リモートパワーオン機能を使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティから、「Advanced」メニューの「Remote Power On」を「Enabled」に設定してください。

「INTEL(R) AMT CONFIGURATION」メニュー

[030404-27]

設定値欄の【】で囲まれた値は、工場出荷時の設定です。

設定項目	設定値	説明
Manageability Feature Selection	Disabled 【Enabled】	AMT機能の有効/無効を設定します。この設定項目は変更しないでください。
> SOL/IDER/KVM ^{※1}	—	「SOL/IDER/KVM (P. 324)」メニューへ移動します。
> User Consent ^{※1}	—	「USER CONSENT (P. 325)」メニューへ移動します。
Password Policy ^{※1}	Default Password Only During Setup And Configuration 【Anytime】	Password Policyを設定します。
> Network Setup ^{※1}	—	「INTEL(R) ME NETWORK SETUP (P. 325)」メニューに移動します。
Activate Network Access ^{※1}	—	ME BIOS Extension内で設定した値を反映させ、Intel MEをサービス提供状態にします。 ME BIOS Extension内の必要な設定を行った後でこの項目を選択すると、メッセージが表示されるので【Y】を押してください。 実行後は、この項目は表示されません。再度表示させるには、「Unconfigure Network Access」を選択し、「Full Unprovision」を実行してください。
Unconfigure Network Access ^{※1}	【Full Unprovision】 Partial Unprovision ^{※2}	Intel MEをサービス提供前の状態に戻し、ME BIOS Extensionの設定を出荷時状態に戻します。
> Remote Setup And Configuration ^{※1}	—	「INTEL(R) AUTOMATED SETUP AND CONFIGURATION (P. 326)」メニューに移動します。

※1 「Manageability Feature Selection」を「Enabled」に設定している場合のみ表示されます。

※2 「Activate Network Access」を実行後のみ表示されます。

SOL/IDER/KVM

設定項目	設定値	説明
Username and Password	Disabled 【Enabled】	SOL/IDE-R使用時にユーザー認証を行うかどうかを設定します。
SOL	Disabled 【Enabled】	Serial Over LAN機能の有効/無効を設定します。なお、本機能を有効にした場合、COMポートを占有します。
IDER	Disabled 【Enabled】	IDE Redirection機能の有効/無効を設定します。

KVM Feature Selection	Disabled 【Enabled】	KVM機能の有効／無効を設定します。
Legacy Redirection Mode	【Disabled】 Enabled	Intel AMT8.0より前のバージョンの機器と接続し、SOL/IDE-R/KVMを使用する場合にはこの設定を「Enabled」に変更してください。

USER CONSENT

設定項目	設定値	説明
User Opt-in	NONE 【KVM】 ALL	リモート接続を確立する際に、ローカルユーザーの同意が必要かを設定します。
Opt-in Configurable from Remote IT	Disabled 【Enabled】	リモートユーザがKVM Opt-inポリシーを変更できるかを設定します。

INTEL(R) ME NETWORK SETUP

設定項目	設定値	説明
> Intel(R) ME Network Name Settings	—	「 INTEL(R) ME NETWORK NAME SETTINGS (P. 325) 」メニューに移動します。
> TCP/IP Settings	—	「 TCP/IP SETTINGS (P. 325) 」メニューに移動します。

INTEL(R) ME NETWORK NAME SETTINGS

設定項目	設定値	説明
Host Name	(文字列)	本機AMTのコンピュータ名を設定します。
Domain Name	(文字列)	本機AMTのドメイン名を設定します。
Shared/Dedicated FQDN ※3	Dedicated 【Shared】	Intel MEのFQDN (完全修飾ドメイン名) をOSで認識されるドメイン名と共有するか、MEでのみ使用するかを設定します。
Dynamic DNS Update※3	【Disabled】 Enabled	DDNSプロトコルを使用しIPアドレスとFQDNをDNSに登録するかを設定します。

- ※3 「Shared/Dedicated FQDN」および「Dynamic DNS Update」の項目を設定する場合は、「Host Name」「Domain Name」よりも前に設定を行ってください。
「Shared/Dedicated FQDN」、「Dynamic DNS Update」の設定を変更する場合、設定がリセットされることがあります。

TCP/IP SETTINGS

設定項目	設定値	説明
> Wired LAN IPV4 Configuration	—	「 WIRED LAN IPV4 CONFIGURATION (P. 325) 」メニューに移動します。

◆ WIRED LAN IPV4 CONFIGURATION

設定項目	設定値	説明
------	-----	----

DHCP Mode	Disabled 【Enabled】	ネットワークのDHCP機能よりIP設定を自動で行うか設定します。
IPV4 Address※ ⁴	xxx.xxx.xxx.xxx	IPアドレスを設定します。
Subnet Mask Address※ ⁴	xxx.xxx.xxx.xxx	サブネットマスクを設定します。
Default Gateway Address ※ ⁴	xxx.xxx.xxx.xxx	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。
Preferred DNS Address※ 4	xxx.xxx.xxx.xxx	DNSサーバーのIPアドレスを設定します。
Alternate DNS Address※ 4	xxx.xxx.xxx.xxx	代替DNSサーバーのIPアドレスを設定します。

※⁴ 「DHCP Mode」が「Disabled」に設定されている場合のみ表示されます。

INTEL(R) AUTOMATED SETUP AND CONFIGURATION

設定項目	設定値	説明
Current Provisioning Mode	—	現在のプロビジョニングTLSモードを表示します。PKI、PSKまたはNoneが表示されます。
Provisioning Record	—	PKI/PSKプロビジョニング記録データを表示します。
Provisioning Server IPV4/IPV6	(文字列)	Intel AMTプロビジョニングサーバーのIPアドレスとポート番号を設定します。
Provisioning Server FQDN	(文字列)	Intel AMTプロビジョニングサーバーのFQDNを設定します。
> RCFG	—	「INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION (P. 326)」 メニュー(1)に移動します。
> TLS PSK	—	「INTEL(R) TLS PSK CONFIGURATION (P. 326)」 メニューに移動します。
> TLS PKI	—	「INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION (P. 327)」 メニュー(2)に移動します。

INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION (1)

設定項目	設定値	説明
Start Configuration (Halt Configuration)	Y / N	Remote Configuration を動作 (停止) 状態にします。

INTEL(R) TLS PSK CONFIGURATION

設定項目	設定値	説明
Set PID and PPS **	—	PID/PPSを設定します。設定については 「Set PID and PPS (P. 327)」 をご覧ください。

Delete PID and PPS **	—	設定したPID/PPSを削除します。この項目を選択すると確認のメッセージが表示されるので、削除する場合は【Y】を、キャンセルする場合は【N】を押してください。
-----------------------	---	---

◆Set PID and PPS

設定項目が順番に表示されます。項目ごとに設定値を入力してください。

設定項目	設定値	説明
Enter PID	xxxx-xxxx	PIDを設定します。
Enter PPS	xxxx-xxxx-xxxx- xxxx-xxxx-xxxx- xxxx-xxxx-	PPSを設定します。

INTEL(R) REMOTE CONFIGURATION (2)

設定項目	設定値	説明
Remote Configuration **	Disabled 【Enabled】	リモートでProvisioningを行うかどうかを設定します。
PKI DNS Suffix ^{※5}	(文字列)	PKIのDNS Suffixを設定します。
> Manage Hashes ^{※5}	—	詳細情報を表示、編集します。

※5 「Remote Configuration」が「Enabled」に設定されている場合のみ表示されます。

割り込みレベル・DMAチャンネル

[030501-20]

割り込みレベル、およびDMAチャンネルの割り当てについては、下記のリンクよりご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

セキュリティチップ ユーティリティ

[040000-27]

➤ 概要.....	330
➤ セキュリティチップ機能を利用する準備.....	332
➤ セキュリティチップ ユーティリティの使い方.....	348
➤ 利用できるセキュリティ機能.....	354
➤ セキュリティチップ機能のバックアップと復元.....	362
➤ その他の注意事項.....	371
➤ セキュリティチップ ユーティリティのアンインストール.....	375

概要

[040101-27]

セキュリティチップ ユーティリティでは、電子メールの保護機能や、ファイルとフォルダの暗号化 (EFS) 機能、Personal Secure Drive (PSD) 機能を利用することができます。

セキュリティチップ ユーティリティで保護されたファイルは、認証パスワードがないと開くことはできません。

本機は、本体にハードウェア的にTPM (Trusted Platform Module) と呼ばれるセキュリティチップを実装し、セキュリティチップ内で暗号化や復号化、鍵の生成を行うことで、強固なセキュリティを実現します。

また、セキュリティチップ上に暗号化キーを持つため、ハードディスク (またはSSD) を取り外して持ち出されても、セキュリティチップ上の暗号化キーを用いて暗号化したデータは読み取られることはありません。

セキュリティチップ ユーティリティをインストールすると、セキュリティチップ ユーティリティで暗号化したファイルを開くときなどに「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示されます。ここでパスワードを入力しなかった場合、暗号化されているファイルなどを開くことはできません。パスワードを入力し、認証されたユーザーだけがアクセスできます。

管理者はセキュリティポリシーを設定できるので、必要に応じてユーザーのアクセス権限を変更してセキュリティを管理できます。



機能や操作方法の詳細については、以下をご覧ください。

機能や操作方法の詳細

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ (セキュリティチップ ユーティリティを起動し、「Infineon Security Platform 設定ツール」画面にある「ヘルプ」ボタンをクリック)



参照

セキュリティチップ ユーティリティの起動について

「セキュリティチップ ユーティリティの使い方 (P. 348)」



チェック

- セキュリティチップ ユーティリティをインストールした場合は、Windows 7標準のセキュリティチップ機能は使用しないでください。
- セキュリティチップは、データやハードウェアの完全な保護を保証していません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意して、運用を行ってください。



メモ

本機に添付のセキュリティチップ ユーティリティは、Microsoft Office Personal 2013、およびMicrosoft Office Home and Business 2013に対応しています。

Microsoft Office Personal 2013、およびMicrosoft Office Home and Business 2013でセキュリティチップ ユーティリティの証明書を利用する方法については各Office アプリケーションのヘルプをご覧ください。

セキュリティチップ機能を利用する準備

[040200-27]

➤ セキュリティチップを有効にする.	333
➤ スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードの設定.	335
➤ セキュリティチップ ユーティリティのインストール.	336
➤ Security Platformの初期化.	338
➤ Security Platform ユーザーの初期化.	344

セキュリティチップを有効にする

[040201-27]

本機のセキュリティチップ機能を利用するには、BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップを有効にする必要があります。



チェック

- BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップ機能を有効にしていない場合、本機にセキュリティチップユーティリティをインストールすることはできません。
- 本機の再セットアップやOSの再インストールを行った場合、または別売のOSを利用する場合は、セキュリティチップ機能を有効にする前にセキュリティチップの初期化を行ってください。セキュリティチップの初期化手順については、「トラブル解決Q&A」の「セキュリティチップ機能」 - 「パスワードを忘れてしまった (P. 587)」をご覧ください。

セキュリティチップ機能を有効にするには、次の手順でBIOSセットアップユーティリティの設定をしてください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

2 「Security」メニューの「Security Chip Configuration」を選択し、【Enter】を押す

3 「TPM Support」が「Enabled」になっていることを確認する

「Disabled」の場合は「Enabled」に変更してください。

4 「Change TPM State」を「Enable&Activate」にする

5 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

6 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

これでセキュリティチップ機能が有効になりました。



チェック

本機のセキュリティチップ機能の設定は、「Change TPM State」を「Clear」にすることで初期化することができます。

このため、セキュリティチップ機能をご利用になる場合は、第三者にセキュリティチップの設定を初期化されないように、スーパーバイザパスワード/ユーザパスワードを設定して、セキュリティを強化することをおすすめします。

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードの設定

[040202-27]

本機でセキュリティチップ機能をお使いになる場合は、BIOSセットアップユーティリティにスーパバイザパスワード、またはユーザパスワードを設定して管理することをおすすめします。BIOSセットアップユーティリティにパスワードを設定しておくことで、第三者にセキュリティチップ機能を初期化、または無効化されることを防ぐことができます。

スーパバイザパスワード/ユーザパスワードの設定をしない場合は「[セキュリティチップ ユーティリティのインストール \(P. 336\)](#)」をご覧ください。



参照

スーパバイザパスワード、ユーザパスワードについて

「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[\[Security\] メニュー \(P. 306\)](#)」

セキュリティチップ ユーティリティのインストール

[040203-27]

本機のセキュリティチップ機能を利用するためには、セキュリティチップ ユーティリティのインストール、初期設定が必要になります。



チェック

- セキュリティチップ ユーティリティのインストールは必ず管理者 (Administrator) 権限を持つユーザー (ユーザー名は半角英数字) で行ってください。
- セキュリティチップ ユーティリティのインストールには光学ドライブが必要です。光学ドライブが内蔵、または添付されていないモデルをお使いの場合は、別売の光学ドライブが必要です。
- BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップ機能を有効にしていない場合、セキュリティチップ ユーティリティのインストールはできません。「[セキュリティチップを有効にする \(P. 333\)](#)」をご覧ください。設定してください。

次の手順で、セキュリティチップ ユーティリティをインストールしてください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)」について (P. 12)」

1

Windowsを起動する

2

光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」をクリック

4

「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

5

「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥TPM¥SETUP.EXE



メモ

光学ドライブがDドライブ以外の場合は、先頭の「D」を、お使いの光学ドライブのドライブ文字に置き換えて入力してください。

- 6** 「Infineon TPM Professional Package - InstallShield Wizard」画面が表示されたら「次へ」ボタンをクリック

- 7** 「使用許諾契約」と表示されたらライセンス契約を読み、「ライセンス契約の全条項に同意します」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

- 8** 「ユーザ情報」と表示されたら「ユーザー名」と「所属」を入力し、「次へ」ボタンをクリック

- 9** 「セットアップタイプ」と表示されたら「すべて」が選択されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリック

- 10** 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら「インストール」ボタンをクリック

- 11** 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら「完了」ボタンをクリック
「Readme ファイルを表示する」にチェックを付けていると、Readmeファイルが表示されます。

- 12** 再起動を促すメッセージが表示されたら「いいえ」ボタンをクリック

- 13** 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でセキュリティチップユーティリティのインストールは完了です。
「Security Platformの初期化 (P. 338)」に進んでください。

Security Platformの初期化

[040204-27]

セキュリティチップ ユーティリティのインストールが完了したら、次にSecurity Platformの初期化を行います。

Security Platformの初期化には、「[クイック初期化 \(P. 338\)](#)」と「[詳細設定初期化 \(P. 340\)](#)」の2つがあります。「クイック初期化」では、Security Platformの基本的な機能の設定を一度に行うことができます。より詳細な設定を行いたい場合は、「[詳細設定初期化](#)」を選択してください。



チェック

「[詳細設定初期化](#)」では、セキュリティチップ機能のバックアップに必要なファイルの設定、各機能のファイルの保存先の変更など、より詳細な設定を行うことができます。「[詳細設定初期化](#)」は、Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプをご覧ください。行うことをおすすめします。

クイック初期化

クイック初期化を行う場合は、次の手順で行ってください。



チェック

手順の途中で「[ユーザー アカウント制御](#)」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「[ユーザー アカウント制御](#)」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)」について (P. 12)」

1 タスク バーの通知領域の をクリック

2 を右クリックし、表示されたメニューから「 Security Platform の初期化」をクリック

「Security Platform クイック初期化ウィザード」が表示されます。

3 「クイック初期化」を選択する

4 「使用するドライブ」欄でシークレットデータの保存先を選択し、「次へ」ボタンをクリック

保存先にリムーバブルメディア以外を選択した場合は、確認のメッセージが表示されるので、内容を確認し「はい」ボタンをクリックしてください。



チェック

クイック初期化選択時に作成されるシークレットデータは、管理と緊急時に必要になります。データの保存先には、リムーバブルメディアの使用をおすすめします。保存先にリムーバブルメディアを選択しない場合、初期化設定完了時に追加のデータ保護が必要になります。詳しくはInfineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプをご覧ください。

5 「設定」画面が表示されたら、Security Platformで使用する機能にチェックを付ける

選択できる機能は次の通りです。

- ハードウェアによる暗号化ファイル システム (EFS)
- Personal Secure Drive (PSD)



参照

各機能の概要について

- 「利用できるセキュリティ機能 (P. 354)」
- Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

6 「基本ユーザー パスワードを設定してください。Security Platform 機能を使うために必要な基本ユーザー キーをこのパスワードで保護します」欄と「新しいパスワードの確認入力」欄にパスワードを入力し、「次へ」ボタンをクリック

「サマリー」画面が表示されます。

7 「次へ」ボタンをクリック

「ウィザードが正常に終了しました」と表示されます。

手順4でシークレットデータの保存先にリムーバブルメディアを選択した場合は、手順12へ進んでください。リムーバブルメディア以外を選択した場合は、手順8へ進んでください。

8 「詳細」ボタンをクリック

9 「プロトコル ファイル」画面が表示されたら、「保存」または「印刷」を選択し、作成したシークレットデータを保管する



チェック

シークレットデータを含んだプロトコル ファイルを保存、もしくは印刷して保管することをおすすめします。詳しくはInfineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプをご覧ください。

10 シークレットデータを含んだプロトコル ファイルを保存、もしくは印刷が完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

11 確認のメッセージが表示されたら、内容を確認し「OK」ボタンをクリック

12 「完了」ボタンをクリック

13 Windowsを再起動する

以上でSecurity Platformのクイック初期化は完了です。



チェック

- クイック初期化でSecurity Platformの初期化を行ったユーザーは、「Security Platform ユーザーの初期化」は完了しています。「Security Platform ユーザーの初期化」を行う必要はありません。クイック初期化完了後に詳細な設定を行いたい場合は、「Security Platform 設定ツール」から設定を行うことができます。
- Security Platformの初期化の途中でフリーズした場合は、本機の電源を切り、「トラブル解決Q&A」の「セキュリティチップ機能」-「パスワードを忘れてしまった (P. 587)」で、BIOSセットアップユーティリティからセキュリティチップを初期化してから、Security Platformの初期化をやりなおしてください。
- 初期化完了後は、設定ツールの「バックアップ」タブからバックアップを行ってください。バックアップについては詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。

詳細設定初期化

詳細設定初期化を行う場合は、次の手順で行ってください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。





参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「 Security Platform の初期化」をクリック

「Security Platform クイック初期化ウィザード」が表示されます。

3 「詳細設定初期化」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform 初期化ウィザードへようこそ」画面が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリック

5 「初期化」画面が表示されたら、「Security Platform の初期化」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

6 「Security Platform 所有者の作成」と表示されたら、「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄に所有者パスワードを入力し、「次へ」ボタンをクリック



チェック

「所有者パスワード」は、Security Platformの復元などの際に必要なパスワードです。パスワードを忘れてしまった場合、Security Platformの設定や、暗号化ファイルの復元などができなくなってしまいますので、忘れないように注意してください。

7 「Security Platform の機能を選択してください」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

「自動バックアップ」画面が表示されます。

8 「参照」ボタンをクリックし、自動バックアップを行う場所とファイル名を指定して「保存」ボタンをクリック

9 「スケジュール」ボタンをクリック

10 自動で緊急時復元用のバックアップ アーカイブを作成するスケジュールを設定し、「OK」ボタンをクリック

11 「次へ」ボタンをクリック

「緊急時復元」画面が表示されます。

12 「新しい復元用トークンを作成する」を選択する

13 復元用トークンを保存する場所を変更する場合は「参照」ボタンをクリックし、復元用トークンを保存する場所とファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリック



チェック

復元用トークンは、セキュリティチップが破損した場合など、緊急時のSecurity Platform復元の際に必要となります。USBメモリなどの外部メディアに保存し、紛失しないよう保管してください。



メモ

「ファイルの場所」には初期値として、「ドキュメント」の「Security Platform ¥SPEmRecToken.xml」が指定されています。

14 「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄に復元用トークンのパスワードを入力する

15 「次へ」ボタンをクリック

「パスワード リセット」画面が表示されます。

16 「新しいトークンを作成する」を選択する

17 パスワードリセットトークンを保存する場所を変更する場合は「参照」ボタンをクリックし、パスワードリセットトークンを保存する場所とファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリック



メモ

「ファイルの場所」には初期値として、「ドキュメント」の「Security Platform ¥SPPwdResetToken.xml」が指定されています。

18 「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄にパスワードリセットトークンのパスワードを入力する

19 「次へ」ボタンをクリック

「サマリー」画面が表示されます。

20 「次へ」ボタンをクリック

「ウィザードが正常に終了しました。」と表示されます。

21 「自動バックアップを今すぐ実行する」にチェックが付いていることを確認する

チェックが付いていない場合は、チェックを付けてください。



メモ

バックアップのファイル名は「SPSystemBackup_<コンピュータ名>.xml」です。このファイルおよび、同時に作成される「SPSystemBackup_<コンピュータ名>」フォルダ内のファイル「SPSystemBackupConfig.xml」、「SPSystemBackupData.xml」は復元処理に必要な不可欠のファイルです。

22 Security Platformの初期化終了後に、Security Platform ユーザー初期化ウィザードを起動する場合は、「Security Platform ユーザー初期化ウィザードを起動する」にチェックをつける

23 「完了」 ボタンをクリック

Security Platformの初期化終了と同時に自動でバックアップファイルが作成されます。

以上でSecurity Platformの初期化は完了です。

「Security Platform ユーザーの初期化 (P. 344)」に進んでください。



チェック

Security Platformの初期化の途中でフリーズした場合は、本機の電源を切り、「トラブル解決Q&A」の「セキュリティチップ機能」-「パスワードを忘れてしまった (P. 587)」で、BIOSセットアップユーティリティからセキュリティチップを初期化してから、Security Platformの初期化をやりなおしてください。

Security Platform ユーザーの初期化

[040205-27]

Security Platformの初期化が完了したら、次の手順でSecurity Platform ユーザーの初期化を行ってください。



チェック

- Security Platformの初期化を「クイック初期化」で行ったユーザーは、「Security Platform ユーザーの初期化」を行う必要はありません。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)」について (P. 12)」

1 タスク バーの通知領域の をクリック

2 を右クリックし、表示されたメニューから「Security Platform ユーザーの初期化」をクリック

「Security Platform クイック初期化ウィザード」が表示されます。

3 「詳細設定初期化」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform ユーザー初期化ウィザードへようこそ」画面が表示されます。



チェック

「クイック初期化」を選択した場合は、「[クイック初期化 \(P. 338\)](#)」の手順をご覧になり、ユーザーの初期化を行ってください。

4 「次へ」ボタンをクリック

「基本ユーザー パスワード」画面が表示されます。

5 「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄に基本ユーザー パスワードを入力し、「次へ」ボタンをクリック

「基本ユーザー パスワードのリセット」画面が表示されます。

6 「緊急時の基本ユーザー パスワードのリセットを有効にする」にチェックが付いていることを確認する

7 個人シークレットを保存する場所を変更する場合は「参照」ボタンをクリックし、個人シークレットを保存する場所とファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリック



メモ

「ファイルの場所」には初期値として、「ドキュメント」の「Security Platform¥SPPwdResetSecret_<コンピュータ名>_<ユーザー名>.xml」が指定されています。

8 「次へ」ボタンをクリック

「パスワードと認証」画面が表示されます。

9 「次へ」ボタンをクリック

「Security Platform の機能を選択してください」と表示されます。

10 Security Platformで使用する機能にチェックを付けて、「次へ」ボタンをクリック

選択できる機能は次の通りです。

- 電子メールの保護
- ファイルとフォルダの暗号化 - 暗号化ファイルシステム (EFS)
- ファイルとフォルダの暗号化 - Personal Secure Drive (PSD)



参照

各機能の概要について

- 「利用できるセキュリティ機能 (P. 354)」
- Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

11 電子メールの設定について確認する

手順10で「電子メールの保護」にチェックを付けた場合は、電子メールの保護の設定を確認する画面が表示されます。

必要に応じて、電子メールの設定についての確認を行ってください。

手順10で「電子メールの保護」のみにチェックを付けた場合は、「次へ」ボタンをクリックし手順21へ進んでください。

12 「次へ」ボタンをクリック

13 「暗号化証明書」と表示されたら、次の操作を行う

- **自動で新規に作成される証明書を使用する場合**
手順15に進んでください。
- **すでにある証明書を使用するなど、手動で証明書を選択する場合**
「変更」ボタンをクリックし、手順14に進んでください。

14 リストから使用する証明書を選択し、「選択」ボタンをクリック



チェック

利用できる証明書がない場合は、ドメイン内の証明機関へ証明書を要求したり、「作成」ボタンで自己署名付きの証明書を作成したりできます。また、「インポート」ボタンで別のファイルからインポートすることや外部の証明機関へ証明書を要求することもできます。証明書は「表示」ボタンで情報を確認できます。

詳しくは「ヘルプ」ボタンをクリックして表示されるヘルプをご覧ください。

15 「次へ」ボタンをクリック

手順10で「ファイルとフォルダの暗号化 - 暗号化ファイルシステム (EFS)」にチェックを付けた場合は、「暗号化ファイル システム (EFS) を設定してください」と表示されます。

手順16に進んで設定を行ってください。

チェックを付けていない場合は、手順17に進んでください。



チェック

「古い暗号証明書は既存の暗号化されたデータを復号化するために必要です。」と表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。

16 「EFS フォルダ」にチェックを付け、「次へ」ボタンをクリック

必要に応じて、「デスクトップ ショートカット」にもチェックを付けてください。

17 Personal Secure Driveに割り当てるドライブ文字とドライブラベルを設定する

手順10で「ファイルとフォルダの暗号化 - Personal Secure Drive (PSD)」にチェックを付けた場合は、「Personal Secure Drive を設定してください」と表示されます。

チェックを付けていない場合は、手順20に進んでください。



チェック

Personal Secure Driveに使用するドライブ文字は、既存のドライブ文字と重複しない未使用の文字を選択してください。

18 必要に応じて次の設定を行い、「次へ」ボタンをクリック

- **Personal Secure Driveをログオン時にロードする場合**
「Personal Secure Drive をログオン時にロードする」にチェックを付ける

- デスクトップにPersonal Secure Driveのショートカットを作成する場合
「デスクトップ ショートカットの作成」にチェックを付ける

19 Personal Secure Driveの容量と保存するドライブを設定して、「次へ」ボタンをクリック



チェック

Personal Secure Driveの実際の容量は、ここで設定した値よりも少なめになります。使用したい容量よりも多めの値を設定するようにしてください。

20 「設定の確認（ステップ 2）」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

21 「ウィザードが正常に終了しました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

22 Windowsを再起動する

以上でSecurity Platform ユーザーの初期化は完了です。



チェック

Security Platform ユーザーの初期化の途中でフリーズした場合は、本機の電源を切り、「トラブル解決 Q&A」の「セキュリティチップ機能」-「パスワードを忘れてしまった (P. 587)」で、BIOSセットアップユーティリティからセキュリティチップを初期化してから、「Security Platformの初期化 (P. 338)」からやりなおしてください。

セキュリティチップ ユーティリティの使い方

[040301-27]

セキュリティチップ ユーティリティの起動

セキュリティチップ ユーティリティを使うと、ファイルとフォルダの暗号化 (EFS) 機能、Personal Secure Drive (PSD) 機能のほか、ユーザーの管理や暗号化キー、証明書の発行や移行、復元などができます。

セキュリティチップ ユーティリティには、管理者特権がある状態と管理者特権のない状態があり、それぞれ次の手順で起動します。

管理者特権のある状態で起動する場合



チェック

- 管理者特権のある状態でセキュリティチップ ユーティリティを起動するには、Windowsに管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーでログオンしてください。標準ユーザーのアカウントでは、管理者特権のある状態でセキュリティチップ ユーティリティを起動することはできません。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。





参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

●通知領域から起動する場合

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「 Security Platformを管理する」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

「Infineon Security Platform 設定ツール」の左側に「管理者」と表示されます。

●「スタート」メニューから起動する場合

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」をクリック

2 「Infineon Security Platform ソリューション」→「Security Platform の管理」を右クリック

3 表示されたメニューから「 管理者として実行」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

「Infineon Security Platform 設定ツール」の左側に「管理者」と表示されます。



管理者特権のない状態で起動する場合



チェック

管理者特権のない状態でセキュリティチップ ユーティリティを起動した場合、設定可能な項目が制限されます。

● 通知領域から起動する場合

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「Security Platform を管理する」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

● 「スタート」メニューから起動する場合

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」をクリック

2 「Infineon Security Platform ソリューション」→「Security Platform の管理」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。



メモ

セキュリティチップ ユーティリティは、「コントロール パネル」から起動することもできます。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「システムとセキュリティ」をクリックし、「Infineon Security Platform」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

タブの機能、パスワードリセット

タブの機能

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面右下の「ヘルプ」ボタンをクリックすると、表示されているタブごとに設定できる機能や、関連した機能について説明しているオンラインヘルプが起動します。それぞれのタブにあるボタンや機能については、オンラインヘルプをご覧ください。

● 「全般」タブ

セキュリティチップの状態や、Infineon Security Platform 設定ツールのバージョンや設定内容を確認することができます。

● 「ユーザー設定」タブ

基本ユーザーのパスワード変更や、Security Platformの機能を設定できます。

● 「バックアップ」タブ

自動システムバックアップの設定や、システムバックアップからの復元、ユーザーごとの手動バックアップと復元を行うことができます。



チェック

管理者特権のない状態では、現在のユーザーの手動バックアップと復元のみ利用可能です。

● 「移行」タブ

Infineon Security Platform 設定ツールで設定した暗号化キーや証明書を、他のセキュリティチップ搭載コンピュータでも利用できるように移行や認証を行うことができます。



チェック

- 管理者特権のない状態では、Security Platformの情報の保存と移行の承認は行えません。
- 暗号化キーや証明書の移行ができるのは、Windows 7 Professionalをインストールしたコンピュータ同士のみです。

● 「パスワード リセット」タブ

各ユーザーのパスワードリセット トークンの作成や、パスワードのリセットを行うことができます。



チェック

管理者特権のない状態では、現在のユーザーに対しての、パスワードリセットの有効化とパスワードリセットのみ行えます。

● 「アドバンス」 タブ

Infineon Security Platform 設定ツールの所有者パスワードの変更や、各機能の設定の変更ができます。また、セキュリティポリシーの設定を変更することができます。

セキュリティポリシーを設定することで、利用可能な機能や設定を制限できます。



チェック

「アドバンス」タブは管理者特権がある場合のみ表示されます。管理者特権のない状態では設定できません。

パスワードのリセット

基本ユーザー パスワードを忘れてしまった場合、次の手順で基本ユーザー パスワードのリセットすることができます。ここでは、管理者に「Administrator」、一般ユーザーに「User1」がセットアップされている場合を例として説明します。



チェック

管理者ユーザーのパスワードリセット機能はサポートしていません。

1

「Administrator」としてログオンする

2

管理者特権のある状態で「Infineon Security Platform 設定ツール」を起動する

3

「パスワード リセット」タブをクリックし、「基本ユーザー パスワードのリセット」 - 「管理タスク」にある「準備」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform パスワード リセット ウィザード」が起動します。

4

パスワードをリセットするユーザーを選択する

「User1」を選択します。

5

「次へ」ボタンをクリック

6

「リセット トークンの場所」欄にファイルを指定し、「パスワード」欄にこのファイルへのパスワードを入力する

7

「次へ」ボタンをクリック

リセット承認コードとチェックサムが表示されます。

8 リセット承認コードおよびチェックサムをメモする、または「ファイルに保存」ボタンでファイルに保存する

デフォルト名は「SPPwdResetCode.xml」となります。

9 「次へ」ボタンをクリック

10 「完了」ボタンをクリック

ウィザードが終了します。

11 「閉じる」ボタンをクリック

12 Windowsをログオフする

以上で管理者の作業は終了です。

続いてパスワードをリセットするユーザー「User1」が作業を行います。

13 「User1」でWindowsにログオンする

14 「Infineon Security Platform 設定ツール」を起動する

15 「パスワード リセット」タブをクリックし、「基本ユーザー パスワードのリセット」 - 「ユーザータスク」にある「リセット」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform パスワード リセット ウィザード」が起動します。

16 「ファイルを参照するか、あるいは個人シークレットを入力してください」欄にファイルを指定し、「ファイルを参照するか、リセット承認コードを直接入力してください」欄に管理者から渡されたコードを直接入力する、または、「ファイルから取得」をクリックして、手順8で管理者が作成したファイルを指定して入力する

17 「次へ」ボタンをクリック

18 新しいパスワードを「パスワード」欄と「パスワードの確認入力」欄に入力し、「次へ」ボタンをクリック

「設定を確認してください」と表示されます。

19 「次へ」ボタンをクリック

基本ユーザーパスワードがリセットされます。

20 「完了」 ボタンをクリック

ウィザードが終了します。

21 「閉じる」 ボタンをクリック

利用できるセキュリティ機能

[040400-27]

➤ 電子メールの保護機能.	355
➤ ファイルとフォルダの暗号化（EFS）機能.	356
➤ Personal Secure Drive（PSD）機能.	359
➤ 辞書攻撃防御機能.	361

電子メールの保護機能

[040401-27]

お使いの電子メールソフトで、セキュリティチップ ユーティリティの証明書を利用して、暗号化による送受信メールの保護や、電子署名による安全な電子メールのやり取りをする機能です。

電子メールの保護機能について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

また、お使いの電子メールソフトで証明書を利用する方法については、電子メールソフトに添付のマニュアルなどをご覧ください。



メモ

本機に添付のセキュリティチップ ユーティリティは、Outlook 2013に対応しています。



参照

電子メールの保護機能について

[Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ](#)

ファイルとフォルダの暗号化（EFS）機能

[040402-27]

指定したファイルやフォルダを、AESやRSAなどのアルゴリズムを用いた高度な技術で暗号化する機能です。暗号化したファイルやフォルダは、Infineon Security Platform 設定ツールで認証されたユーザー以外は読み書きできなくなるので、第三者にファイルを盗み見られたり、改ざんされたりすることがなく、機密性と安全性が確保されます。

ファイルやフォルダの暗号化は、次の手順で設定できます。



チェック

- FAT32でフォーマットされたドライブでは、ファイルやフォルダの暗号化はできません。
- 次のフォルダは暗号化しないでください。
「C:¥Users¥<ユーザー名>¥AppData¥Local¥Microsoft」
「C:¥Users¥<ユーザー名>¥AppData¥Roaming¥Microsoft」
- デスクトップ (C:¥Users¥<ユーザー名>¥Desktop) にあるフォルダまたはショートカットの暗号化を行うと、Windowsログオン時に「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面を表示します。Windowsログオン時での基本ユーザーパスワードの入力を省きたい方は、デスクトップにあるフォルダまたはショートカットの暗号化を解除し、対象ファイルを個別に暗号化してください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- ファイルを個別に暗号化する場合は、エクスプローラーの詳細ウィンドウが非表示になっている必要があります。
エクスプローラーの「整理」→「レイアウト」メニューで、「詳細ウィンドウ」のチェックを外してください。



参照

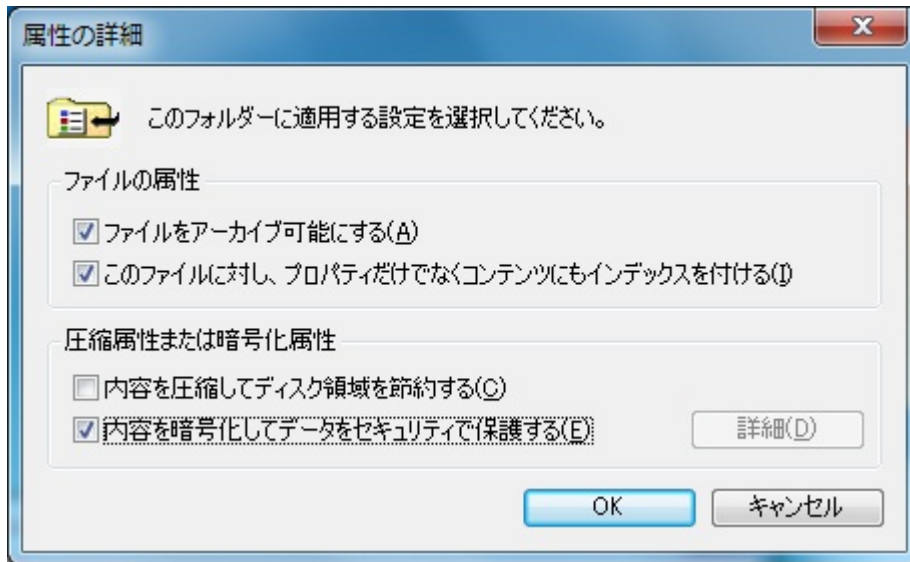
「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

1 暗号化したいファイルやフォルダを右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック

2 「全般」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリック

3 「内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する」にチェックを付ける



4 「OK」 ボタンをクリック

5 「OK」 ボタンをクリック

6 「暗号化に関する警告」画面または「属性変更の確認」画面が表示された場合は、動作を選択して「OK」 ボタンをクリック

7 「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示された場合は、「基本ユーザー パスワード」欄に基本ユーザーパスワードを入力し、「OK」 ボタンをクリック


暗号化したファイルをロックする

EFS機能を利用してファイルやフォルダを暗号化している場合でも、一度パスワードを入力して認証を行うと、以後は暗号化したファイルにアクセスが可能になります。

再度、暗号化したファイルやフォルダをロックするには次の手順でEFSからのログアウトを行います。

EFSからのログアウトの機能は、本機の再起動やWindowsからのログオフをせず、一時的に別の人に本機を使用させる際に、暗号化したファイルやフォルダへのアクセスを制限するのに有効です。

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「暗号化ファイル システム(EFS)からログアウトする」をクリック

また、EFSからログアウトする以外にも、次の場合に暗号化したファイルやフォルダがロックされ、アクセスするにはパスワードの入力が必要になります。

- 本機をシャットダウンする
- 本機を再起動する

- 本機をスリープ状態にする
- 本機を休止状態にする
- Windowsからログオフする

Personal Secure Drive (PSD) 機能

[040403-27]

Personal Secure Drive (PSD) 機能とは、ハードディスク（またはSSD）の一部に暗号化された仮想ドライブを作成して重要なデータを保護する機能のことです。ファイルやフォルダをPersonal Secure Driveに保存すると、自動的にデータが暗号化されます。

Personal Secure Driveは、Infineon Security Platform 設定ツールで認証されたユーザーが使用する場合、データの暗号化と復号化が自動的に行われるので、暗号化や復号化を意識することなく利用できます。

また、Personal Secure Driveは作成したユーザー以外には、ドライブ自体が見えなくなるため、第三者にアクセスされることがありません。

Personal Secure Drive (PSD) 機能は、保護したいファイルやフォルダをPersonal Secure Driveとして設定したドライブに移動、またはコピーすることで、自動的に暗号化され、パスワードを入力していないユーザーからはアクセスできなくなります。



チェック

- Personal Secure Drive機能を利用する設定にしていない場合は、Infineon Security Platform 設定ツールの「ユーザー設定」タブで、「Security Platform の機能」の「設定」ボタンをクリックし、Personal Secure Driveの設定を行ってください。設定方法については、「[Security Platform ユーザーの初期化 \(P. 344\)](#)」を参照してください。
- Personal Secure Driveを利用する設定にした場合は、Infineon Security Platform 設定ツールの「バックアップ」タブから手動バックアップを行い、PSD バックアップ イメージ ファイルを作成することをおすすめします。設定を行っただけではPSD バックアップ イメージ ファイルが作成されないため、復元時にPersonal Secure Driveが復元されません。
- Guestアカウントでログオンしている場合、Personal Secure Driveの作成はできません。

Personal Secure Drive のロード


Personal Secure Drive (PSD) をロードする方法は、必要なときにロードする方法とログオン時にロードする方法があります。

次にそれぞれのロード方法を説明します。

必要なときにロードする

次の手順に従って、PSDをロードします。

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「Personal Secure Drive」→「ロードする」をクリック

「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示されます。

3 「基本ユーザーパスワード」欄にパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリック

PSDがロードされます。

ログオン時にロードする

1 タスク バーの通知領域の  をクリック

2  を右クリックし、表示されたメニューから「Personal Secure Drive」→「ログオン時にロードする」を選択

次回ログオン時にPSDがロードされます。



メモ

ログオンからPSDをロードするまでの手順は次の通りです。

1 ログオンする

2 「Personal Secure Drive」画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform ユーザー認証」画面が表示されます。

3 「基本ユーザー パスワード」欄にパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリック

PSDがロードされます。

辞書攻撃防御機能

[040404-27]

パスワードで保護されたセキュリティを破るために用いられる「辞書攻撃」という手法から、本機を防御するための機能です。

セキュリティチップ ユーティリティやWindowsのBitLocker ドライブ暗号化など、セキュリティチップに関連する機能で、誤ったパスワードを10回入力すると一時的にパスワードの入力ができなくなります。

再度、パスワードの入力を行うには、本機の再起動と一定時間の経過が必要です。

なお、再度、パスワードの入力が可能になるまでの時間は、誤入力の回数によって決定され、誤入力の回数が多ければ多いほど、入力可能になるまでの時間も長くなります。



参照

辞書攻撃防御、辞書攻撃防御機能

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

セキュリティチップ機能のバックアップと復元

[040500-27]

➤ セキュリティチップ機能のバックアップ.....	363
➤ セキュリティチップ機能の復元.....	366

セキュリティチップ機能のバックアップ

[040501-27]

セキュリティチップ機能のバックアップに関する注意

セキュリティチップやハードディスク（またはSSD）の故障による修理後など、セキュリティチップ機能を故障前の状態に復元するためには、あらかじめ必要なデータ、ファイルのバックアップと情報の確認が必要です。

- 復元処理に必要なアーカイブファイル、バックアップファイルを必ず作成してください。バックアップについて、詳しくはオンラインヘルプをご覧ください。
- 復元を行うには、復元作業時に必要なファイルにアクセスできる環境が必要です。
ハードディスク（またはSSD）の故障などにより、復元に必要なファイルを破損、消去した場合や、復元作業時にアクセスできないメディアに保存されている場合は復元は行えませんのでご注意ください。復元に必要なファイルは、USBメモリなどアクセスが容易な外部メディアに保存しておくことをおすすめします。

アーカイブファイル、バックアップファイルなどに関する注意

セキュリティチップのバックアップを実行することにより、「アーカイブファイル」「バックアップファイル」「復元用トークン」などのファイルが作成されます。これらのファイルは、ハードウェアの故障やハードディスク（またはSSD）の故障などが発生した場合にセキュリティチップに格納されているユーザーキーや証明書などの復旧に利用します。そのため、これらのファイルを暗号化した場合、緊急時の復元ができなくなりますので、暗号化しないでください。

なお、バックアップファイルや復元用トークンなどのファイルは、バックアップ用のデータですので、サーバやリムーバブルメディアへの保存を強く推奨します。

下記のファイル名やフォルダ名は、詳細設定初期化を行った場合の初期設定の値です。

お使いの環境やSecurity Platformの初期化の方法によって内容が異なる場合がありますので、下記のファイルの詳細に関しては、オンラインヘルプをご覧ください。

- 【自動バックアップファイル】
ファイル名：SPSystemBackup_<コンピュータ名>.xml
- 【自動バックアップデータ格納フォルダ】
フォルダ名：SPSystemBackup_<コンピュータ名>
(自動バックアップファイル (SPSystemBackup_<コンピュータ名>.xml) が作成されるフォルダに、サブフォルダとして作成されます。)
- 【復元用トークン】
ファイル名：SPEmRecToken.xml
- 【パスワードリセットトークン】
ファイル名：SPPwdResetToken.xml
- 【パスワードリセットシークレットファイル】
ファイル名：SPPwdResetSecret_<コンピュータ名>_<ユーザー名>.xml
- 【キーと証明書用バックアップ】
ファイル名：SpBackupArchive.xml
- 【PSD バックアップ イメージ ファイル】
ファイル名：*-Personal Secure Drive.fsb (*には任意の文字が入ります)



参照

バックアップについて

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

復元に必要な情報とファイル

セキュリティチップ機能の復元には、次の情報とファイルが必要になります。

セキュリティチップの内容の復元に必要な情報・ファイル

- 所有者パスワード
- 緊急時復元用のバックアップ アーカイブ
セキュリティチップの内部情報やユーザー固有情報の一部を含む、重要なファイルです。
緊急時復元用のバックアップ アーカイブは、Infineon Security Platform 初期化ウィザードまたはInfineon Security Platform 設定ツールで設定した内容に従って、自動で作成されます。
- 復元用トークン
Infineon Security Platform 初期化ウィザードで作成した復元用トークンのファイルです。
- 復元用トークンのパスワード
Infineon Security Platform 初期化ウィザードで設定した、復元用トークンを使用するために必要なパスワードです。

ユーザー環境の復元に必要な情報・ファイル

- 基本ユーザー パスワード
- PSD バックアップ アーカイブ
Personal Secure Driveの内容を復元する場合は、PSD バックアップ イメージ ファイルが必要です。PSD バックアップ イメージ ファイルは、Infineon Security Platform 設定ツールの「バックアップ」タブで作成できます。

電子メールの保護機能を使用している場合、ハードディスク（またはSSD）故障時に受信済みの自分あての暗号メールも復号できる環境に復元するには、電子メールソフトのデータのバックアップも必要になります。

- 電子メールソフトのデータのバックアップ



チェック

- 復元に必要なファイルのうち、PSD バックアップ イメージ ファイルと電子メールソフトのデータのバックアップを除くファイルの保存に必要な容量は大きくても数10KB程度です。
- PSD バックアップ イメージ ファイルの容量は、Personal Secure Driveに設定した容量により異なります。
- 電子メールソフトのデータのバックアップは、環境にもよりますが数10MBから数100MBの容量が必要になる場合があります。
- 電子メールソフトのデータのバックアップについては、電子メールソフトに添付のマニュアルなどをご覧ください。

復元に必要な情報の確認とファイルのバックアップ

ここでは、セキュリティチップ機能の復元に必要な情報の確認とファイルのバックアップを行います。

設定、作成済みの情報、ファイルの確認

◆Infineon Security Platform 初期化ウィザードで設定済み、または作成済みのファイル

「復元に必要な情報とファイル」で説明した情報・ファイルのうち、次のものは、Infineon Security Platform 初期化ウィザードで設定済み、または作成済みのものです。

- 所有者パスワード
- 復元用トークン
- 復元用トークンのパスワード
- 基本ユーザー パスワード



チェック

- それぞれのパスワードは復元作業の際に入力が必要になる場合があります。
- 復元用トークンについては、復元用トークンのファイルを保存したUSBメモリなどの外部メディアを用意しておいてください。Security Platform初期化時にハードディスク（またはSSD）上に作成した場合は、外部メディアにコピーしておくことをおすすめします。

◆設定により自動で作成されるファイル

次のファイルはInfineon Security Platform 初期化ウィザードまたはInfineon Security Platform 設定ツールで設定した内容に従って自動的に作成されます。

- 緊急時復元用のバックアップ アーカイブ



チェック

自動で作成する設定にしていない場合は、Infineon Security Platform 設定ツールで設定を変更し、自動的に作成するように設定することをおすすめします。

◆Infineon Security Platform 設定ツールで作成するファイル

次のファイルはInfineon Security Platform 設定ツールで作成します。

- PSD バックアップ アーカイブ



参照

PSD バックアップ アーカイブの作成

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

お使いの電子メールソフトのデータのバックアップ

◆メールデータのバックアップ

お使いの電子メールソフトのメールデータやアドレス帳のバックアップを行ってください。



メモ

データのバックアップについては、電子メールソフトに添付のマニュアルなどをご覧ください。

セキュリティチップ機能の復元

[040502-27]

セキュリティチップ機能の復元に関する注意

- セキュリティチップやハードディスク（またはSSD）の故障による修理後など、セキュリティチップ機能を故障前の状態に復元するためには、あらかじめバックアップしたデータ、ファイルや情報が必要です。
- 復元作業は必ずSecurity Platformの「所有者」が行ってください。



メモ

ここでいう「所有者」とは、Security Platformの初期化を行ったユーザーを指します。



参照

復元について

Infinion Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

復元時のユーザー選択に関する注意

本機を複数のユーザーで利用している場合、復元処理実行中の「ユーザーの選択」で、セキュリティチップを利用しているユーザーをすべて選択し、復元を行う必要があります。

本機をドメインに接続した状態で運用している場合の注意

本機をドメインに接続した状態で運用している場合は、ドメインへの接続が可能な状態で復元作業を行ってください。

ネットワークに接続されていないなどドメインへの接続ができない状態で、ローカルの管理者でログオンして復元作業を行うと、「現在のユーザー」や「ユーザー名」にドメインのユーザーが表示されない場合があります。

その場合は、復元作業をキャンセルしドメインへの接続が可能な状態にしてください。

その後で、再度復元作業を開始し、ドメインのユーザー名が表示されることを確認してから、復元作業を継続してください。



チェック

ドメインのユーザーが表示されない状態のまま、復元作業を継続すると、ドメインのユーザーのセキュリティチップの設定が失われ、問題が発生します。

各ユーザーを復元する場合の注意

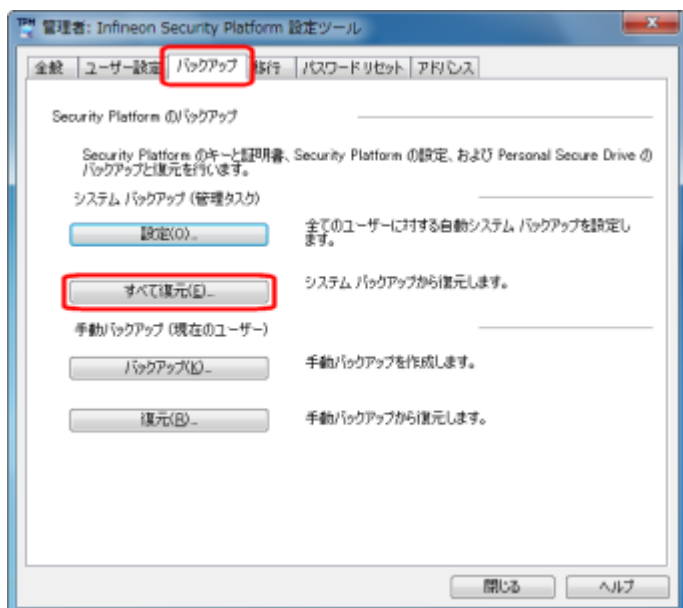
復元後にそれぞれのユーザーでログオンすると「基本ユーザーキーがロードできません」もしくは「キーと証明書及び設定を復元してください。」などのメッセージが表示されます。

その場合は、指示に従って復元を行ってください。

本機でセキュリティチップ機能を利用している、それぞれのユーザーでログオンして行ってください。

セキュリティチップ機能の復元方法

ここでは「Infineon Security Platform 設定ツール」の「バックアップ」タブの「すべて復元」ボタンからの復元方法を説明します。



復元手順



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

1 所有者のアカウントでログオンする

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Infineon Security Platform ソリューション」→「Security Platform の管理」を右クリックし、表示されたメニューから「管理者として実行」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

3 「バックアップ」タブをクリック

4 「Security Platform の状態は、[初期化未了]です。初期化を開始しますか？」と表示された場合は、「いいえ」ボタンをクリック

5 「すべて復元」ボタンをクリック

「Infineon Security Platform バックアップ ウィザード」が表示されます。

6 「参照」ボタンをクリックし、「復元するバックアップ データのあるファイルを指定してください」欄に、復元するバックアップファイルとして緊急時復元用のバックアップ アーカイブを指定して「次へ」ボタンをクリック

7 「所有者の設定」画面で「パスワード」欄、「パスワードの確認入力」欄にパスワードを入力して、「次へ」ボタンをクリック

8 「トークンの選択」画面が表示された場合は、「緊急時復元用トークンの場所を指定してください」欄に、復元用トークンを指定する

9 「パスワード」欄に、緊急時復元用トークンファイルを保護しているパスワードを入力し、「次へ」ボタンをクリック

「ユーザーの選択」画面が表示されます。

10 「バックアップ データからのユーザー」欄で現在のユーザーアカウントに対して復元するユーザーを選択して、「次へ」ボタンをクリック



チェック

Infineon Security Platform バックアップウィザードで「ユーザーの選択」画面の表示時、本機にユーザーアカウントが設定されており、セキュリティチップ機能を利用するユーザーに対して、バックアップアーカイブ内の対応するユーザーを選択する必要があります。



メモ

コンピュータの別のユーザーアカウントに対する追加ユーザーを復元する場合は、「ユーザー名」欄に表示されているユーザーアカウントに対して、復元する追加ユーザーを「バックアップ データからのユーザー」欄で選択してください。

11 「パスワード」欄に基本ユーザー パスワードを入力して、「次へ」ボタンをクリック

12 「復元プロセスが開始するまでは、パスワードまたはパスフレーズを確認することができないことに注意してください。」と表示された場合は、「OK」ボタンをクリック

13 「サマリー」画面が表示されるので、内容を確認し「次へ」ボタンをクリック

14 「ウィザードが正常に終了しました。」と表示されたら「完了」ボタンをクリック

15 「閉じる」ボタンをクリック

これで復元は完了です。

この作業の後、「電子メールの保護」、「EFS」、「PSD」機能の設定は、個別のユーザーによって行われる必要があります。



参照

復元について

Infineon Security Platform 設定ツールのオンラインヘルプ

再セットアップ時およびユーティリティ再インストール時の復元について

本機の再セットアップやセキュリティチップ ユーティリティを再インストールした後に復元を行う場合は、復元を行う前に「[セキュリティチップ機能を利用する準備 \(P. 332\)](#)」の「セキュリティチップを有効にする」から「セキュリティチップ ユーティリティのインストール」までの手順を行い、セキュリティチップ ユーティリティのインストールを完了させてください。

完了したら「Security Platformの初期化」は行わず、セキュリティチップ機能の復元を行ってください。



チェック

- 本機の再セットアップ時およびセキュリティチップ ユーティリティの再インストール時にトラブルが発生した場合、重要なデータの紛失につながります。
本機の再セットアップおよびセキュリティチップ ユーティリティの再インストールを行う場合は、セキュリティチップの初期化を行い、バックアップファイルから復元処理をすることを強く推奨します。
- セキュリティチップの初期化手順については、「[トラブル解決Q&A](#)」の「[セキュリティチップ機能](#)」 - 「[パスワードを忘れてしまった \(P. 587\)](#)」をご覧ください。

セキュリティチップ故障時の復元について

復元を行う前に、「[セキュリティチップ機能を利用する準備 \(P. 332\)](#)」の「セキュリティチップを有効にする」から「セキュリティチップ ユーティリティのインストール」までの手順を行い、セキュリティチップ ユーティリティのインストールを完了させてください。

完了したら「Security Platformの初期化」は行わず、セキュリティチップ機能の復元を行ってください。

ハードディスク（またはSSD）故障時の復元について

電子メールの保護機能を利用していなかった場合

復元を行う前に、「[セキュリティチップ機能を利用する準備 \(P. 332\)](#)」の「セキュリティチップを有効にする」から「セキュリティチップ ユーティリティのインストール」までの手順を行い、セキュリティチップ ユーティリティのインストールを完了させてください。

完了したら「Security Platformの初期化」は行わず、セキュリティチップ機能の復元を行ってください。

電子メールの保護機能を利用していた場合

セキュリティチップ ユーティリティのインストールを行う前に、メールアドレスやアドレス帳の復元を行ってください。



メモ

データの復元については電子メールソフトに添付のマニュアルなどをご覧ください。

その他の注意事項

[040600-27]

- 本機を修理に出す前の準備. 372
- 本機を修理に出した後. 373
- イベントビューアに記録される警告ログについて. 374

本機を修理に出す前の準備

[040601-27]

本機の故障などの理由で修理に出される場合、必ずBIOSセットアップユーティリティのスーパーバイザパスワード、およびユーザパスワードを解除し、情報の漏えい防止のため、セキュリティチップの初期化を行ってください。

修理後、セキュリティチップ機能を復元するためにはあらかじめ必要なデータ、ファイルのバックアップと情報の確認が必要になりますので、「[セキュリティチップ機能のバックアップ \(P. 363\)](#)」をご覧ください、バックアップを行ってください。

また、セキュリティチップ機能の復元を行う場合は、「[セキュリティチップ機能の復元 \(P. 366\)](#)」をご覧ください、復元を行ってください。



チェック

セキュリティチップの初期化手順については、「[トラブル解決Q&A](#)」の「[セキュリティチップ機能](#)」 - 「[パスワードを忘れてしまった \(P. 587\)](#)」をご覧ください。

本機を修理に出した後

[040602-27]

本機を修理に出し、「マザーボード交換」や「セキュリティチップ交換」、「ハードディスク（またはSSD）交換」、「再セットアップ」等が行われた場合には、セキュリティチップの初期化を行ってからセキュリティチップ機能を有効にしてください。

セキュリティチップ機能の復元を行う場合は、「[セキュリティチップ機能の復元 \(P. 366\)](#)」をご覧ください、復元を行ってください。



チェック

セキュリティチップの初期化手順については、「トラブル解決Q&A」の「セキュリティチップ機能」 - 「パスワードを忘れてしまった (P. 587)」をご覧ください。

イベントビューアに記録される警告ログについて

[040603-27]

イベントビューア内に以下のログが記録される場合がありますが、運用上問題はありません。

- 「ソース：TBS、イベントID：16385、レベル：エラー、内容：内部 TBS エラーが検出されました。エラーコードは 0x8007001fでした。これは通常、予期しない TPM またはドライバの動作が原因で発生するエラーで、一時的な現象である可能性があります。」
- 「ソース：TBS、イベントID：516、レベル：エラー、内容：TPM との通信中にエラーが発生しました。ドライバから 0x8007001f が返されました。」

また、スリープ状態や休止状態からの復帰時に、イベントビューア内に以下のログが記録される場合がありますが、運用上問題はありません。

- 「ソース：TBS、イベントID：541、レベル：警告、内容：実行中の操作は電源管理イベントにより中断されました。」
- 「ソース：TBS、イベントID：16385、レベル：エラー、内容：内部 TBS エラーが検出されました。エラーコードは 0x800703e3 でした。これは通常、予期しない TPM またはドライバの動作が原因で発生するエラーで、一時的な現象である可能性があります。」
- 「ソース：TBS、イベントID：516、レベル：エラー、内容：TPM との通信中にエラーが発生しました。ドライバから 0x800703e3 が返されました。」
- 「ソース：TPM、イベントID：15、レベル：エラー、内容：TPM ハードウェアでトラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) のデバイス ドライバーに回復不能なエラーが発生しました。このエラーのため、TPM サービス (データの暗号化など) は使用できません。詳細については、コンピューターの製造元に問合せください。」

セキュリティチップ ユーティリティのアンインストール

[040701-27]

次の手順で、セキュリティチップ ユーティリティをアンインストールできます。



チェック

- セキュリティチップ ユーティリティのアンインストールは必ず管理者 (Administrator) 権限を持つユーザー (ユーザー名は半角英数字)で行ってください。
- セキュリティチップ ユーティリティのアンインストールを実行する前に、セキュリティチップ ユーティリティで暗号化したファイルやフォルダの暗号化を解除し、Personal Secure Driveに保存したファイルやフォルダをバックアップしてください。
セキュリティチップ ユーティリティで保護されていたデータは、セキュリティチップ ユーティリティをアンインストールした後では、アクセスできなくなります。
- BIOSセットアップユーティリティで「Security Chip Configuration」メニューの「TPM Support」を「Disabled」に設定したときは、必ずセキュリティチップ ユーティリティをアンインストールしてください。

セキュリティチップ ユーティリティのアンインストール



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

1

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」をクリック

2

「Infineon Security Platform ソリューション」→「Security Platform の管理」を右クリック

3

表示されたメニューから、「 管理者として実行」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

4

「アドバンス」タブをクリックし、「Security Platform の状態」の「無効にする」ボタンをクリック

5

所有者のパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリック

6 「閉じる」 ボタンをクリック

7 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」 をクリック

8 「プログラム」 の「プログラムのアンインストール」 をクリック

9 「Infineon TPM Professional Package」 を選択し、「アンインストール」 ボタンをクリック

「Infineon TPM Professional Packageをアンインストールしますか？」と表示されます。

10 「はい」 ボタンをクリック

「Infineon Security Platform」 画面が表示されます。

11 「いいえ」 ボタンをクリック

アンインストールが始まります。

アンインストールが完了すると、再起動を促すメッセージが表示されます。

12 「はい」 ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

セキュリティチップ ユーティリティのアンインストール後、次の手順を行い、BIOSセットアップユーティリティから本機のセキュリティチップを無効にしてください。

セキュリティチップを無効にする

1 電源を入れ、すぐに【F2】 を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

2 「Security」 メニューの「Security Chip Configuration」 を選択し、【Enter】 を押す

3 「Change TPM State」 を「Deactivate&Disable」 にする

4 【F10】 を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でセキュリティチップ ユーティリティのアンインストールは完了です。



チェック

デスクトップ上にPersonal Secure Drive、もしくは暗号化ファイルシステム（EFS）のショートカットが残っている場合は、削除してください。

アプリケーションのインストール/アンインストール

[060000-27]

➤ 便利な機能とアプリケーション.	379
➤ インストール/アンインストールについて.	382
➤ ソフトウェア占有量について.	384
➤ 「Service Pack」について.	385
➤ Internet Explorer 10.	386
➤ Office Personal 2013.	388
➤ Office Home and Business 2013.	394
➤ Office Professional 2013.	400
➤ ハードディスクセーバー.	406
➤ ウイルスバスター.	409
➤ Access Connections.	415
➤ DeviceProtector.	422
➤ Adobe Reader.	426
➤ ECOモード設定ツール.	429
➤ ピークシフト設定ツール.	430
➤ クイックパワーオン.	432
➤ ワイヤレスLANの設定.	434
➤ 画面出力先切替ツール.	436
➤ Roxio Creator LJB.	438
➤ Corel WinDVD.	442

便利な機能とアプリケーション

[060100-27]

本機にインストール、または添付されているアプリケーションはモデルによって異なります。

標準でインストール、または添付されているアプリケーション

[060101-27]

アプリケーション	機能
Internet Explorer	インターネットへ接続する ファイルをダウンロードする
ウイルスバスター	コンピュータウイルスを検出して除去する
Access Connections	ネットワークの設定、接続、切り替えおよびロケーション・プロファイルのインポートとエクスポートをする
Adobe Reader	PDF形式のマニュアルを表示、閲覧、印刷する
ハードディスクセーバー※1	ハードディスクの損傷を防ぐ
DeviceProtector	周辺機器の使用を制限する
ECOモード設定ツール	ECOボタン、または設定したホットキーでモード（電源プラン）を切り替える
ピークシフト設定ツール	電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を他の時間帯に移行する
ワイヤレスLANの設定※2	ワイヤレスLANの接続周波数帯を切り替える
画面出力先切替ツール	キーボードで画面の出力先の切り替えなど
バッテリー・リフレッシュ&診断ツール※4	バッテリーリフレッシュと性能診断
NASCA※5	ID・パスワードの保護と管理
ハードディスクデータ消去ツール※6	ハードディスク（またはSSD）のデータを消去する
クイックパワーオン	コンピュータの起動を高速化する

※1 SSDモデルをお使いの場合は使用できません。

※2 無線LANモデルのみ工場出荷時にインストールされています。

※4 機能の詳細、使用方法については「本機の機能」-「バッテリー」の「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール (P. 67)」をご覧ください。

※5 インストール/アンインストールについては「アプリケーションディスク」の「NASCA」フォルダの「NASCA User's Guide.chm」をご覧ください。

※6 機能の詳細、使用方法については「ハードディスクのデータ消去 (P. 675)」をご覧ください。

モデルによってインストール、または添付されているアプリケーション

[060102-27]

◆Office Personal 2013モデル

アプリケーション	機能
Word 2013	文章を作成する HTMLを作成する
Excel 2013	表計算をする
Outlook 2013	予定やスケジュールを管理する 住所録を作る ファイルを管理する 電子メールを送受信する

◆Office Home and Business 2013モデル

アプリケーション	機能
Word 2013	文章を作成する HTMLを作成する
Excel 2013	表計算をする
Outlook 2013	予定やスケジュールを管理する 住所録を作る ファイルを管理する 電子メールを送受信する
PowerPoint 2013	プレゼンテーションや企画書を作成する
OneNote 2013	電子ノートブック機能

◆Office Professional 2013モデル

アプリケーション	機能
Word 2013	文章を作成する HTMLを作成する
Excel 2013	表計算をする
Outlook 2013	予定やスケジュールを管理する 住所録を作る ファイルを管理する 電子メールを送受信する
PowerPoint 2013	プレゼンテーションや企画書を作成する
OneNote 2013	電子ノートブック機能
Publisher 2013	印刷物や販促ツールを作成する
Access 2013	データベースを作成する

◆SecureRedirectorモデル

アプリケーション	機能
SecureRedirector※1	データファイルをサーバに自動保存する

※1 インストール/アンインストールについては添付の『SecureRedirectorモデルをお使いの方へ』をご覧ください。

◆Webカメラ搭載モデル

アプリケーション	機能
YouCam 5 BE※1	Webカメラを利用して省電力動作へ移行させたり、コンピュータを監視カメラとして使用する

※1 機能の詳細、使用方法については「本機の機能」の「Webカメラ」 - 「Webカメラについて (P. 132)」をご覧ください。

◆DVD-ROMドライブモデル

アプリケーション	機能
Corel WinDVD	DVDを再生する

◆DVDスーパーマルチドライブモデル

アプリケーション	機能
Corel WinDVD	DVDを再生する
Roxio Creator LJB	CD-Rなどにデータを保存する

インストール/アンインストールについて

[060200-27]

本機にインストールまたは添付されているアプリケーションの概要とインストール方法およびアンインストール方法について説明します。

インストールやアンインストールをする場合、Windowsおよびインストールされているアプリケーションについての知識が必要になります。

インストールについて

[060201-27]

本機にインストール、または添付されているアプリケーションをインストールする場合の手順を説明します。



チェック

- アプリケーションのインストールは、必ず管理者(ユーザー名は半角英数字)でログオンして行ってください。
- 再セットアップの後に続けてアプリケーションのインストールを行う場合は必ずWindowsの再起動後に行ってください。
- アプリケーションのインストールには別売の光学ドライブが必要な場合があります。光学ドライブが内蔵、または添付されていないモデルをお使いの場合は、別売の光学ドライブが必要です。
- 本マニュアルを表示しながらインストールの操作をすることができます。
【Alt】 + 【Tab】 で画面を切り替えてご利用ください。
- アプリケーションの修復インストールはできません。
いったんアンインストールしてから、インストールし直してください。



メモ

- 「管理者」とはAdministrator権限を持つユーザーを指し、コンピュータの全体的な構成を管理することができます。
ユーザーアカウントに関する詳細についてはWindowsのヘルプをご覧ください。
- 光学ドライブをDドライブとした場合の手順を説明します。
必要に応じて読み替えてください。

アンインストールについて

[060202-27]

本機にインストールされているアプリケーションまたは購入後にインストールされた本機添付のアプリケーションのアンインストールの手順を説明します。

ご自分でインストールされた別売のアプリケーションのアンインストールについては、そのアプリケーションに添付されたマニュアルをご覧ください。



チェック

- アプリケーションのアンインストールは、必ず管理者(ユーザー名は半角英数字)でログオンして行ってください。
- 「コントロール パネル」の「プログラムのアンインストール」で、アプリケーションを選択して「アンインストール」、または「アンインストールと変更」をクリックした後は、中断してもそのままではアプリケーションを使用できない場合があります。
その際にはWindowsを再起動後、アプリケーションを使用してください。
- アプリケーションをアンインストールした後に、システムの復元機能でアンインストール前の状態に復元しても、復元されたアプリケーションは正常に動作しない場合があります。
また、復元されたアプリケーションを「コントロール パネル」の「プログラムのアンインストール」からアンインストールしても、アンインストールできない場合があります。
その場合は、そのアプリケーションのマニュアルをご覧になり、インストールの操作を行ってください。
復元の状況によって、インストールもしくはアンインストールが開始されます。
アンインストールが開始されたら、画面の指示に従い、アンインストールを行ってください。
インストールが開始されたら、画面の指示に従ってインストールを行い、インストール完了後にマニュアルをご覧になり、アンインストールを行ってください。
- 本マニュアルを表示しながらアンインストールの操作をすることができます。
- アプリケーションのアンインストール中に、すでにアンインストールされている旨のメッセージが表示されることがあります。その場合でも正常にアンインストールは完了しており、動作に影響はありません。

ソフトウェア占有量について

[060300-00]

ソフトウェア占有量については、下記のリンクよりご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

「Service Pack」について

[063100-07]

- ▶ 概要..... 385
- ▶ アンインストール..... 385

■ 概要

[063101-07]

本機には「Windows 7 SP1」がインストールされています。
Windows 7 SP1は、Windows 7で発見された問題の改善および更新プログラムを集めたものです。

以下のWebサイトではWindows 7 のService Packについての最新情報などを提供しています。
定期的にアクセスしてください。

<http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows/downloads/service-packs>

■ アンインストール

[063102-07]



チェック

本機ではWindows 7 SP1をアンインストールすることはできません。

Internet Explorer 10

[063200-07]

概要.....	386
インストール.....	386
アンインストール.....	386

概要

[063201-07]

インターネットへの接続を行い、ホームページを表示します。
機能の詳細や操作方法については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

ヘルプ (Internet Explorer 10上で【Alt】を押し、「ヘルプ」→「Internet Explorer ヘルプ」をクリック)



チェック

Internet Explorer 10のヘルプやオンライン サポートなどを確認するには、インターネットに接続している必要があります。

●Internet Explorerの最新情報

<http://windows.microsoft.com/ja-JP/internet-explorer/products/ie/home>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

◆起動方法

1

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Internet Explorer」をクリック

Internet Explorer 10画面が表示されます。

インストール

[063202-07]



チェック

Internet Explorer 10をインストールする場合は、再セットアップを行うことをおすすめします。
『再セットアップガイド』をご覧ください。

アンインストール

[063203-07]



チェック

- Internet Explorer 10をアンインストールした場合、Internet Explorer 10、および更新プログラムで修正されていた問題が発生する可能性があります。
- Internet Explorer 10をアンインストールする場合は、購入時のセットアップ直後、または再セットアップ直後のいずれかの状態で行ってください。
なお、アンインストールするとWindows® Internet Explorer® 8 になります。
- Internet Explorer 10が起動している場合は、終了させてください。

◆Internet Explorer 10のアンインストール



チェック

- Internet Explorer 10のアンインストール後、お気に入りフォルダに以下のフォルダが追加されます。
 - 「Microsoft の Web サイト」
 - 「MSN の Web サイト」
 - 「Windows Live」
- Internet Explorer 10のアンインストール後は、Windows® Updateを行い、Windows® Internet Explorer® 8用の最新の更新プログラムを適用することをおすすめします。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 左側に表示されている「インストールされた更新プログラムを表示」をクリック

5 「更新プログラムのアンインストール」の「Microsoft Windows」配下にある「Windows Internet Explorer 10」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「今すぐ再起動する」ボタンをクリック

再起動を促すメッセージが表示されない場合は、Windowsを再起動してください。

以上でInternet Explorer 10のアンインストールは終了です。

Office Personal 2013

[060500-07]

▶ 概要.....	388
▶ 初回起動手順.....	388
▶ 使用上の注意.....	390
▶ インストール.....	390
▶ アンインストール.....	391

概要

[060501-07]

Word 2013、Excel 2013、Outlook 2013が同梱されています。
機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

Office Personal 2013に同梱されているマニュアル、および各Office アプリケーションのヘルプ

●Office Personal 2013の最新の情報

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

初回起動手順

[060502-07]

Office Personal 2013では、工場出荷時の状態で、Office Personal 2013のセットアップ モジュールがインストールされています。

初回起動によりライセンス認証を含めインストールを完了させる必要があります。

以下の初回起動手順を行ってください。

ライセンス認証については、Office Personal 2013に同梱されているマニュアル、各Office アプリケーションのヘルプ、または下記ホームページを参照してください。

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

- 初回起動はインターネットに接続した環境で行ってください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- 初回起動手順を実施中に「ライセンスを確認できませんでした」と表示される場合があります。

文書番号：2813348

「Office 2013 のインストール中にアプリケーションを起動すると "ライセンスを確認できませんでした" メッセージが表示される場合がある」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 14\)](#)」を参照してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」をクリック

2 「Office をお選びいただき、ありがとうございます。それでは始めましょう。」と表示されたら、「ライセンス認証」をクリック

3 「プロダクト キーを入力してください」と表示されたら、プロダクト キーを入力し、「インストール」ボタンをクリック

Office のインストールが開始されます。



チェック

プロダクト キーは添付されているOffice Personal 2013のパッケージに同梱されています。

4 「新しい Office へようこそ。」と表示されたら、「次へ」をクリック

5 「最初に行う設定です。」と表示されたら、「Office の品質向上に役立つ情報を Microsoft に送る」または「いいえ」のいずれかを選択する

6 画面右下にある「使用許諾契約書を読む」をクリックし、内容を確認後、「同意する」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。



チェック

以下の画面が表示されますので、内容の確認や設定を行ってください。

- 「サインインして Office を最大限に活用しましょう。」
- 「SkyDrive についての説明をご覧ください。」
- 「新機能に関する説明をご覧ください。」

7 「準備が整いました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上で初回起動手順は終了です。

使用上の注意

[060503-07]

◆Microsoft® Updateについて

Office の安定性と安全性を向上させるための更新プログラムが提供されています。

Office を最新の状態に保つために、Microsoft® Updateを定期的実施してください。



チェック

- Microsoft® Updateを行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft® Updateは必ずOfficeの「初回起動手順 (P. 388)」を済ませてから実施してください。

◆その他

- 以下の場合にイベントビューアに「警告」または「エラー」が表示されることがありますが、動作上問題ありません。
 - Office Personal 2013をインストールした時
 - 新規ユーザーでサインイン後、Office Personal 2013に含まれるアプリケーションのいずれかを初めて起動した時
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態ではスリープ状態にできない場合があります。その場合は、アプリケーションを終了させてから再度スリープ状態にしてください。
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態でWindowsを終了するとエラーが表示される場合があります。すべてのアプリケーションを終了してからWindowsを終了してください。
- カスタムテキストサイズの設定(DPI)を既定の100%から125%に変更した場合、以下の問題が発生しますが動作上問題ありません。
 - Word 2013の書式設定と編集の制限ウィンドウが表示不正となる
- Word 2013の「はがき印刷」を使用するにはMicrosoft® .NET Framework 4以上をインストールする必要があります。

インストール

[060504-07]

ここでは、工場出荷時と同じ状態にインストールする方法を説明します。
その他のインストール方法については、Office Personal 2013に同梱されているマニュアルをご覧ください。



チェック

インストールを行うには、インターネットへの接続環境が必要となります。

◆Office Personal 2013のインストール

Internet Explorerのお気に入りに登録されている「Office を再インストールする」へアクセスするか、Office Personal 2013に同梱されているマニュアルの説明に従って、再インストールを行ってください。

■アンインストール

[060505-07]



チェック

- Office Personal 2013のアンインストール後にInternet Explorerでの右クリックメニューに表示が残る問題が発生する場合があります。

文書番号：826917

「Internet Explorer で "Microsoft Excel にエクスポート" コマンドを使用しようとしても何も起こらない」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 14\)](#)」を参照してください。

- Office Personal 2013に含まれるアプリケーションを起動している場合は、終了させてください。

◆「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストール



チェック

Office Personal 2013をアンインストールする前に「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」をアンインストールする必要があります。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「OK」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

以上で「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストールは終了です。
次に「◆「Microsoft SkyDrive」のアンインストール (P. 392)」へ進んでください。

◆「Microsoft SkyDrive」のアンインストール



チェック

「プログラムのアンインストール」に「Microsoft SkyDrive」と表示されている場合は、以下の手順を行ってください。
表示されていない場合は、「◆Office Personal 2013のアンインストール (P. 392)」へ進んでください。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft SkyDrive」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で「Microsoft SkyDrive」のアンインストールは終了です。
次に「◆Office Personal 2013のアンインストール (P. 392)」へ進んでください。

◆Office Personal 2013のアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office」を選択し、「アンインストール」をクリック



チェック

「Microsoft Office Personal 2013 - ja-jp」と表示される場合もあります。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

再起動を促すメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

以上でOffice Personal 2013のアンインストールは終了です。

Office Home and Business 2013

[060600-07]

▶ 概要.	394
▶ 初回起動手順.	394
▶ 使用上の注意.	396
▶ インストール.	397
▶ アンインストール.	397

概要

[060601-07]

Word 2013、Excel 2013、Outlook 2013、PowerPoint 2013、OneNote 2013が同梱されています。
機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

Office Home and Business 2013に同梱されているマニュアル、および各Office アプリケーションのヘルプ

●Office Home and Business 2013の最新の情報

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

初回起動手順

Office Home and Business 2013では、工場出荷時の状態で、Office Home and Business 2013のセットアップ モジュールがインストールされています。

初回起動によりライセンス認証を含めインストールを完了させる必要があります。

以下の初回起動手順を行ってください。

ライセンス認証については、Office Home and Business 2013に同梱されているマニュアル、各Office アプリケーションのヘルプ、または下記ホームページを参照してください。

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>

[060602-07]



チェック

- 初回起動はインターネットに接続した環境で行ってください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- 初回起動手順を実施中に「ライセンスを確認できませんでした」と表示される場合があります。

文書番号：2813348

「Office 2013 のインストール中にアプリケーションを起動すると "ライセンスを確認できませんでした" メッセージが表示される場合がある」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 14\)](#)」を参照してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」をクリック

2 「Office をお選びいただき、ありがとうございます。それでは始めましょう。」と表示されたら、「ライセンス認証」をクリック

3 「プロダクト キーを入力してください」と表示されたら、プロダクト キーを入力し、「インストール」ボタンをクリック

Office のインストールが開始されます。



チェック

プロダクト キーは添付されているOffice Home and Business 2013のパッケージに同梱されています。

4 「新しい Office へようこそ。」と表示されたら、「次へ」をクリック

5 「最初に行う設定です。」と表示されたら、「Office の品質向上に役立つ情報を Microsoft に送る」または「いいえ」のいずれかを選択する

6 画面右下にある「使用許諾契約書を読む」をクリックし、内容を確認後、「同意する」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。



チェック

以下の画面が表示されますので、内容の確認や設定を行ってください。

- 「サインインして Office を最大限に活用しましょう。」
- 「SkyDrive についての説明をご覧ください。」
- 「新機能に関する説明をご覧ください。」

7 「準備が整いました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上で初回起動手順は終了です。

使用上の注意

[060603-07]

◆Microsoft® Updateについて

Office の安定性と安全性を向上させるための更新プログラムが提供されています。

Office を最新の状態に保つために、Microsoft® Updateを定期的の実施してください。



チェック

- Microsoft® Updateを行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft® Updateは必ずOfficeの「初回起動手順 (P. 394)」を済ませてから実施してください。

◆その他

- 以下の場合にイベントビューアに「警告」または「エラー」が表示されることがありますが、動作上問題ありません。
 - Office Home and Business 2013をインストールした時
 - 新規ユーザーでサインイン後、Office Home and Business 2013に含まれるアプリケーションのいずれかを初めて起動した時
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態ではスリープ状態にできない場合があります。その場合は、アプリケーションを終了させてから再度スリープ状態にしてください。
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態でWindowsを終了するとエラーが表示される場合があります。すべてのアプリケーションを終了してからWindowsを終了してください。
- カスタムテキストサイズの設定(DPI)を既定の100%から125%に変更した場合、以下の問題が発生しますが動作上問題ありません。
 - Word 2013の書式設定と編集の制限ウィンドウが表示不正となる
- Word 2013の「はがき印刷」を使用するにはMicrosoft® .NET Framework 4以上をインストールする必要があります。

インストール

[060604-07]

ここでは、工場出荷時と同じ状態にインストールする方法を説明します。
その他のインストール方法については、Office Home and Business 2013に同梱されているマニュアルをご覧ください。



チェック

インストールを行うには、インターネットへの接続環境が必要となります。

◆Office Home and Business 2013のインストール

Internet Explorerのお気に入りに登録されている「Office を再インストールする」へアクセスするか、Office Home and Business 2013に同梱されているマニュアルの説明に従って、再インストールを行ってください。

アンインストール

[060605-07]



チェック

- Office Home and Business 2013のアンインストール後にInternet Explorerでの右クリックメニューに表示が残る問題が発生する場合があります。

文書番号：826917

「Internet Explorer で "Microsoft Excel にエクスポート" コマンドを使用しようとしても何も起こらない」

文書番号：2212044

「Internet Explorer で [OneNote に送る] コマンドが機能しない」

詳しくは「サポート技術情報について (P. 14)」を参照してください。

- Office Home and Business 2013に含まれるアプリケーションを起動している場合は、終了させてください。

◆「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストール



チェック

Office Home and Business 2013をアンインストールする前に「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」をアンインストールする必要があります。

1

Windowsを起動する

2

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「OK」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

以上で「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストールは終了です。
次に「◆「Microsoft SkyDrive」のアンインストール (P. 398)」へ進んでください。

◆「Microsoft SkyDrive」のアンインストール



チェック

「プログラムのアンインストール」に「Microsoft SkyDrive」と表示されている場合は、以下の手順を行ってください。

表示されていない場合は、「◆Office Home and Business 2013のアンインストール (P. 398)」へ進んでください。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft SkyDrive」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で「Microsoft SkyDrive」のアンインストールは終了です。
次に「◆Office Home and Business 2013のアンインストール (P. 398)」へ進んでください。

◆Office Home and Business 2013のアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office」を選択し、「アンインストール」をクリック



チェック

「Microsoft Office Home and Business 2013 - ja-jp」と表示される場合もあります。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

再起動を促すメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

以上でOffice Home and Business 2013のアンインストールは終了です。

Office Professional 2013

[060700-07]

概要	400
初回起動手順	400
使用上の注意	402
インストール	403
アンインストール	403

概要

[060701-07]

Word 2013、Excel 2013、Outlook 2013、PowerPoint 2013、OneNote 2013、Publisher 2013、Access 2013が同梱されています。

機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

Office Professional 2013に同梱されているマニュアル、および各Office アプリケーションのヘルプ

●Office Professional 2013の最新の情報

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

初回起動手順

[060702-07]

Office Professional 2013では、工場出荷時の状態で、Office Professional 2013のセットアップ モジュールがインストールされています。

初回起動によりライセンス認証を含めインストールを完了させる必要があります。

以下の初回起動手順を行ってください。

ライセンス認証については、Office Professional 2013に同梱されているマニュアル、各Office アプリケーションのヘルプ、または下記ホームページを参照してください。

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

- 初回起動はインターネットに接続した環境で行ってください。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。
- 初回起動手順を実施中に「ライセンスを確認できませんでした」と表示される場合があります。

文書番号：2813348

「Office 2013 のインストール中にアプリケーションを起動すると "ライセンスを確認できませんでした" メッセージが表示される場合がある」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 14\)](#)」を参照してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Microsoft Office」をクリック

2 「Office をお選びいただき、ありがとうございます。それでは始めましょう。」と表示されたら、「ライセンス認証」をクリック

3 「プロダクト キーを入力してください」と表示されたら、プロダクト キーを入力し、「インストール」ボタンをクリック

Office のインストールが開始されます。



チェック

プロダクト キーは添付されているOffice Professional 2013のパッケージに同梱されています。

4 「新しい Office へようこそ。」と表示されたら、「次へ」をクリック

5 「最初に行う設定です。」と表示されたら、「Office の品質向上に役立つ情報を Microsoft に送る」または「いいえ」のいずれかを選択する

6 画面右下にある「使用許諾契約書を読む」をクリックし、内容を確認後、「同意する」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。



チェック

以下の画面が表示されますので、内容の確認や設定を行ってください。

- 「サインインして Office を最大限に活用しましょう。」
- 「SkyDrive についての説明をご覧ください。」
- 「新機能に関する説明をご覧ください。」

7 「準備が整いました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

以上で初回起動手順は終了です。

使用上の注意

[060703-07]

◆Microsoft® Updateについて

Office の安定性と安全性を向上させるための更新プログラムが提供されています。

Office を最新の状態に保つために、Microsoft® Updateを定期的実施してください。



チェック

- Microsoft® Updateを行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft® Updateは必ずOfficeの「初回起動手順 (P. 400)」を済ませてから実施してください。

◆その他

- 以下の場合にイベントビューアに「警告」または「エラー」が表示されることがありますが、動作上問題ありません。
 - Office Professional 2013をインストールした時
 - 新規ユーザーでサインイン後、Office Professional 2013に含まれるアプリケーションのいずれかを初めて起動した時
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態ではスリープ状態にできない場合があります。その場合は、アプリケーションを終了させてから再度スリープ状態にしてください。
- Office に含まれるアプリケーションを起動した状態でWindowsを終了するとエラーが表示される場合があります。すべてのアプリケーションを終了してからWindowsを終了してください。
- カスタムテキストサイズの設定(DPI)を既定の100%から125%に変更した場合、以下の問題が発生しますが動作上問題ありません。
 - Word 2013の書式設定と編集の制限ウィンドウが表示不正となる
 - Access 2013の新しいタスク作成メニューバーが表示不正となる
- Word 2013の「はがき印刷」を使用するにはMicrosoft® .NET Framework 4以上をインストールする必要があります。

インストール

[060704-07]

ここでは、工場出荷時と同じ状態にインストールする方法を説明します。
その他のインストール方法については、Office Professional 2013に同梱されているマニュアルをご覧ください。



チェック

インストールを行うには、インターネットへの接続環境が必要となります。

◆ Office Professional 2013のインストール

Internet Explorerのお気に入りに登録されている「Office を再インストールする」へアクセスするか、Office Professional 2013に同梱されているマニュアルの説明に従って、再インストールを行ってください。

アンインストール

[060705-07]



チェック

- Office Professional 2013のアンインストール後にInternet Explorerでの右クリックメニューに表示が残る問題が発生する場合があります。

文書番号：826917

「Internet Explorer で "Microsoft Excel にエクスポート" コマンドを使用しようとしても何も起こらない」

文書番号：2212044

「Internet Explorer で [OneNote に送る] コマンドが機能しない」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 14\)](#)」を参照してください。

- Office Professional 2013に含まれるアプリケーションを起動している場合は、終了させてください。

◆ 「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストール



チェック

Office Professional 2013をアンインストールする前に「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」をアンインストールする必要があります。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「OK」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

以上で「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストールは終了です。
次に「◆「Microsoft SkyDrive」のアンインストール (P. 404)」へ進んでください。

◆「Microsoft SkyDrive」のアンインストール



チェック

「プログラムのアンインストール」に「Microsoft SkyDrive」と表示されている場合は、以下の手順を行ってください。

表示されていない場合は、「◆Office Professional 2013のアンインストール (P. 404)」へ進んでください。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft SkyDrive」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で「Microsoft SkyDrive」のアンインストールは終了です。
次に「◆Office Professional 2013のアンインストール (P. 404)」へ進んでください。

◆Office Professional 2013のアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Microsoft Office」を選択し、「アンインストール」をクリック



チェック

「Microsoft Office Professional 2013 - ja-jp」と表示される場合もあります。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

再起動を促すメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

以上でOffice Professional 2013のアンインストールは終了です。

ハードディスクセーバー

[062500-27]

▶ 概要.....	406
▶ 使用上の注意.....	406
▶ インストール.....	407
▶ アンインストール.....	407

概要

[062501-27]

ハードディスクセーバーを使うと、本体の落下などによる加速度や振動を検知センサーが感知した場合に、ハードディスクのヘッドを安全な場所に退避させるのでハードディスク損傷の危険性を軽減することができます。

また、ハードディスクセーバー設定ユーティリティでは、ハードディスクセーバーのハードディスク保護機能を一時的に無効にしたり、検知センサーの感度を調節することができます。



チェック

SSDモデルをお使いの場合は使用できません。

機能の詳細や操作方法、制限事項については、以下を参照してください。

●機能の詳細や操作方法、制限事項

ハードディスクセーバーヘルプ（「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ハードディスクセーバー」→「ヘルプファイル」をクリック）

◆起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ハードディスクセーバー」→「ハードディスクセーバー」をクリック

「ハードディスクセーバー設定ユーティリティ」画面が表示されます。

使用上の注意

[062502-27]

- ハードディスクセーバーはパソコン本体の傾き・落下・衝撃を検出するとハードディスクのヘッドを退避し、ハードディスクが損傷する危険性を軽減するものです。
ただし、ハードディスクの無破損・無故障を完全に保証するものではありませんので、重要なデータはこまめにバックアップをとることをおすすめします。
- 衝撃を検知するとハードディスクのヘッドを退避するため、パソコンを操作することができません。ヘッドの退避が解除されるまでしばらくお待ちください。

◆ハードディスクセーバーのインストール



チェック

SSDモデルをお使いの場合、ハードディスクセーバーは使用できませんので、インストールしないでください。

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 4 「名前」に「D:¥Nxsetup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「ハードディスクセーバー(タイプVB用)」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 6 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック
- 7 「ハードディスクセーバーのInstaller 情報」画面で「いいえ」ボタンをクリック
- 8 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する



チェック

ハードディスクセーバーをはじめて利用する前に、検知センサーの初期化をする必要があります。検知センサーの初期化が完了するまでは、ハードディスク保護機能は有効となりません。検知センサーの初期化については、ハードディスクセーバーヘルプをご覧ください。

以上でハードディスクセーバーのインストールは終了です。

◆ハードディスクセーバーのアンインストール



チェック

検知センサーを初期化してから、アンインストールを行ってください。検知センサーの初期化については、ハードディスクセーバーヘルプをご覧ください。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「ハードディスクセーバー」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 「ハードディスクセーバーに対する設定変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でハードディスクセーバーのアンインストールは終了です。

ウイルスバスター

[061100-27]

➤ 概要.....	409
➤ 使用上の注意.....	410
➤ インストール.....	413
➤ アンインストール.....	414

概要

[061101-07]

ウイルスバスターはコンピュータウイルスの検出、識別、および除去を行うウイルス対策ソフトです。機能の詳細、操作方法、制限事項、および最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

定期的にウイルスを検索する予約スキャン、ネットワークや外付けドライブを経由したウイルスの侵入を常に見張る機能やウイルスを駆除する機能などがあります。

ヘルプ(「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ウイルスバスター クラウド」→「ウイルスバスター ヘルプ」をクリック)



チェック

ウイルスバスターのヘルプやサポート情報を確認するには、インターネットに接続している必要があります。

●動作環境、制限事項に関する情報

Readme(「アプリケーションディスク」内の「VB」フォルダにある「readme.htm」をダブルクリック)

●ウイルスバスターの最新の情報

<http://www.trendmicro.co.jp>



チェック

- ウイルスバスターに関する緊急アップデート等の重要な製品情報が掲載されますので、トレンドマイクロのホームページにて定期的に最新情報を確認することをおすすめします。
- コンピュータウイルスを検出した場合は、「トラブルの予防と解決のヒント」の「ウイルスから守る (P. 461)」をご覧ください。
- 本製品に添付のウイルスバスター「迷惑メール対策」機能は、Outlook 2013環境でご利用頂く際、制限事項があります。
詳しい対応状況については、トレンドマイクロの下記Q&Aページをご覧ください。

http://tmqa.jp/Ti6faq_office2013/

◆起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ウイルスバスター クラウド」→「ウイルスバスターの表示」をクリック

ウイルスバスターの画面が表示されます。

■使用上の注意

[061102-07]

◆ウイルスバスターについて

本機に添付のウイルスバスターではパターンファイルの大半をインターネット上に配置しており、インターネット経由で常に最新の防御情報を得ることによりクライアント上の安全性維持を実現しています。
インターネット上のパターンファイルを利用することで、最新の脅威に対抗し安全性をより高めることができるため、インターネットに常時接続した環境でウイルスバスターをご利用ください。



チェック

- ウイルスバスターのアップデートやクラウドを使用したウイルスチェックなどはインターネット接続が必要となるため、インターネット接続料金や電話料金などがかかります。特に携帯電話など、インターネット接続を従量制で契約されている場合は通信料金にご注意ください。
- インターネットに接続していない場合は、パソコンに保存されている情報をもとにウイルスチェックを行うため、最新の情報でない場合があります。
- コンピュータ全体のバックアップを定期的に作成しておくことをおすすめします。
万一ウイルスに感染してしまった場合にも、ドライブを初期化し、バックアップからデータを復元することで復旧できます。

◆オンラインユーザ登録について

ウイルスバスターをインストール後、インターネットに接続することで自動的にユーザ登録されます。
登録状況を確認するときは、次の手順で行います。



チェック

- セキュリティの警告メッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。
- ユーザ登録するにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- ウイルスバスターをインストール後、3日以内にユーザー登録を行わないとウイルス検索などのすべての機能が停止しますので、インターネットに接続し、ユーザー登録を完了させてください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ウイルスバスター クラウド」→「ウイルスバスターの表示」をクリック

2 「ホーム」にある「シリアル番号 (以下をクリック)」を確認する

「未登録」と表示されている場合は、手順3へ進んでください。
有効期限が表示されている場合は、ここで終了です。

3 「未登録」をクリック

4 「お客さま情報」画面の有効期限が表示されていることを確認する

試用期間はインターネット接続後、90日間です。

90日間は無料で試用することができますが、試用期間が終了するとすべての機能が利用できなくなります。

引き続きお使いになる場合は、ウイルスバスターを購入する必要があります。

購入に関する詳細な情報は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.trendmicro.co.jp>

以上でオンラインユーザ登録は終了です。

次に「◆アップデートについて (P. 411)」へ進んでください。

◆アップデートについて

本機に添付しているウイルスバスターは、トレンドマイクロのサーバに定期的にアクセスして、新しい脅威に対する最新の保護機能を自動的にダウンロードします。



チェック

- インストール直後のウイルスバスターは最新の状態でない場合がありますので、最新の状態にアップデートしてください。
- ウイルスバスターのアップデートには、インターネットに接続できる環境が必要です。

アップデートを行うことにより、名称やユーザーインターフェイスなどが変更される可能性があります。

最新の情報は、お使いのソフトのヘルプをご覧ください。

アップデートが成功しない場合は、インターネットに接続できるか確認してください。

インターネットに接続できるにもかかわらず、アップデートが成功しない場合は、以下のホームページをご覧ください。

◆予約スキャンについて

ウイルスバスターの予約スキャン機能で、実行タイミングに応じてウイルスの検査を自動的に実行することができます。以下の手順で、予約スキャン機能を設定してください。

- 1 Windowsを起動する**
- 2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ウイルスバスター クラウド」→「ウイルスバスターの表示」をクリック**
- 3 「コンピュータを守る」をクリックし、「コンピュータの保護設定」をクリック**
- 4 「ウイルス/スパイウェア対策」の「予約スキャン」をクリックし、「予約スキャンを有効にする」にチェックを付ける**
- 5 予約スキャンを開始する時刻と、曜日/毎日/毎月1日のいずれかを設定する**
- 6 スキャンの種類を選択する**
- 7 設定を変更したら、「適用」ボタンをクリック**
- 8 「OK」ボタンをクリック**

設定についてはウイルスバスターのヘルプをご覧ください。

以上で予約スキャンの設定は終了です。

◆ファイル/フォルダのセキュリティ監視について

アプリケーションのインストール、アンインストール、または使用中に警告を受けたときは、対象のアプリケーションが安全なものであることを確認した上で、ウイルスバスターのヘルプをご覧ください。例外設定に追加してください。

◆ボリューム削除時のウィンドウについて

「ディスクの管理」より「ボリュームの削除」を行うと、ボリューム使用中を表す警告ウィンドウが表示される場合がありますが動作に影響はありません。

警告ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

◆有料のサービスについて

「リモートファイルロック」をご使用になる場合は、ウイルスバスター製品版へのアップグレード（有償）が必要です。詳細については、トレンドマイクロ オンラインショップをご覧ください。オンラインショップへは、タスクバーの通知領域にあるウイルスバスターのアイコンを右クリック→「シリアル番号の確認」をクリック→「お客さま情報」画面にある「今すぐ購入」をクリックし進んでください。

インストール

[061103-27]

◆ウイルスバスターのインストール



チェック

- インストールには、ユーザー登録するためのメールアドレスが必要です。登録するメールアドレスを準備してください。
- VersaPro Jをお使いの場合、デスクトップにある「ウイルスバスター クラウド インストール」アイコンをダブルクリックすることで簡単にインストールできます。なお、本機を再セットアップした場合、デスクトップに「ウイルスバスター クラウド インストール」アイコンはありません。この場合は、次の手順を行い、ウイルスバスターをインストールしてください。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に「D:¥Nxsetup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック

5 「ウイルスバスター クラウド」を選択し、「インストール」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6 「メールアドレスを入力してください」と表示されたら、メールアドレスを入力し、「完了」ボタンをクリック



チェック

- メールアドレスは、ユーザー登録を行うメールアドレスを入力してください。
- トレンドマイクロの最新情報を受信しないときは、「トレンドマイクロの最新情報を受信する」のチェックを外してください。

7 「ウイルスバスター クラウド」画面が表示されたら、「終了」をクリック

8 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でウイルスバスターのインストールは終了です。
次に「[◆オンラインユーザ登録について \(P. 410\)](#)」へ進んでください。

■ アンインストール

[061104-07]

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「ウイルスバスター クラウド」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 「正常にアンインストールしました」と表示されたら、「今すぐ再起動」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でウイルスバスターのアンインストールは終了です。

Access Connections

[063500-27]

概要	415
使用上の注意	416
Access Connectionsでの無線LAN機能のオン/オフ	416
Access Connectionsでの無線LANの設定と接続	418
Access Connectionsでの有線LAN、モデムの設定と接続	419
インストール	419
アンインストール	420

概要

[063501-27]

Access Connectionsはネットワークの設定、接続、切り替えおよびロケーション・プロファイルのインポートとエクスポートができます。


機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。



メモ

Windows標準の無線LAN機能を使用して無線LANのオン/オフや設定、接続をする場合は、「本機の機能」の「無線LAN機能 (P. 173)」をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

Access Connectionsのヘルプ(Access Connectionsを起動し、 ボタンをクリック→「Access Connections ヘルプ」をクリック)



チェック

ヘルプに記載されている機能は、実際に利用できる機能と多少異なる場合があります。

◆起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Access Connections」をクリック

Access Connectionsのメインウィンドウが表示されます。



チェック

Access Connectionsは複数のユーザーで同時に使用することはできません。

複数のユーザーがログオンしている環境で他のユーザーがAccess Connectionsのメインウィンドウを起動すると「Access Connectionsは、別のユーザーによって使用されています。」と表示され、Access Connectionsを使用することができません。

ユーザーの切り替えを行う場合、Access Connectionsのメインウィンドウを閉じてからユーザーを切り替えてください。

使用上の注意

[063502-27]

- 本アプリケーションを使用する前に、「本機の機能」の「無線LAN機能」に記載している以下の内容をあわせてご覧ください。
 - ▶ 概要..... 174
 - ▶ 本機を安全にネットワークに接続するために..... 176
 - ▶ 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意..... 178
 - ▶ 使用上の注意..... 180
- 有線LANのリモートパワーオンについて
有線LANのプロファイルの設定にある「イーサネットのWake-On-LAN設定を選択する」をご使用になる場合は以下をご覧ください、リモートパワーオン機能を有効にしてください。



参照

リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能について

「本機の機能」の「LAN機能」 - 「リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能 (P. 287)」

- ネットワークの切断について
ネットワークの切断を行うと無線LAN機能が自動的にオフに変更されます。無線LAN機能がオフになった場合、下記の手順で無線LAN機能をオンにしてください。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「Windows モビリティ センター」をクリック


3

「ワイヤレス ネットワーク」にある「ワイヤレスをオンにする」ボタンをクリック

- カスタムテキストサイズの設定について
カスタムテキストサイズの設定(DPI)を既定の100%から150%に変更した場合、Access Connectionsが画面からはみ出る場合があります。その場合は、カスタムテキストサイズの設定(DPI)を既定の150%から100%に変更してご使用ください。



Access Connectionsでの無線LAN機能のオン/オフ

[063503-27]

タスク バーの通知領域から「ワイヤレス ステータス アイコン ()」を使って、無線LAN機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

- 「Access Connections」で切り替えると、ワイヤレスランプで無線LAN機能のオン/オフは確認できません。
- インストール直後の状態では、タスクバーの通知領域に「ワイヤレス ステータス アイコン ()」は表示されません。
以下の手順でタスクバーの通知領域に「ワイヤレス ステータス アイコン ()」を表示する設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Access Connections」をクリック

2 「切替」が「アドバンスへ」と表示されている場合は「アドバンスへ」ボタンをクリック

「切替」が「ベーシックへ」と表示されている場合は手順3へ進んでください。

3 「ツール」にある「グローバル設定」をクリック

4 「グローバル設定」画面の「通知」タブにある「タスクトレイにワイヤレスステータスアイコンを表示する」にチェックを付ける

5 「OK」ボタンをクリック

◆無線LAN機能をオンにする場合



チェック

この方法で切り替えるには、ワイヤレスランプが点灯している（ワイヤレス機能がオンになっている）必要があります。

1 タスクバーの通知領域にある「ワイヤレス ステータス アイコン ()」をクリック

2 表示されるメニューから「無線をオンにする」をクリック

◆無線LAN機能をオフにする場合



チェック

無線LAN機能をオフにすると、無線LAN機能を利用しているインテル® My WiFi ダッシュボードも使用できなくなります。

1 タスク バーの通知領域にある「ワイヤレス ステータス アイコン ()」をクリック

2 表示されるメニューから「無線をオフにする」をクリック

Access Connectionsでの無線LANの設定と接続

[063504-27]

◆無線LANの設定をする

「ベーシック・ビュー」で設定する方法を説明します。

「アドバンス・ビュー」の「インターネットに接続」や「アドバンス・ビュー」の「プロファイル」で設定したい場合は、「Access Connections ヘルプ」をご覧ください。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

無線LAN機能がオフになっている場合は、「[Access Connectionsでの無線LAN機能のオン/オフ \(P. 416\)](#)」をご覧ください。

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Access Connections」をクリック

3 「切替」が「アドバンスへ」と表示されている場合は「アドバンスへ」ボタンをクリック

「切替」が「ベーシックへ」と表示されている場合は手順4へ進んでください。

4 「インターネットに接続」タブをクリック

ネットワーク名 (SSID) の一覧が表示されます。

5 接続する無線LANアクセスポイントのネットワーク名 (SSID) をクリック



チェック

- 選択した無線LANアクセスポイントに間違いがないか、ネットワーク名 (SSID) を確認してください。
- ネットワーク名 (SSID) の一覧に接続するネットワーク名 (SSID) が表示されない場合は、「再検索」ボタンをクリックしてください。それでもネットワーク名 (SSID) が表示されない場合は、無線LANアクセスポイントがネットワーク名 (SSID) を通知しない設定になっている場合があります。無線LANアクセスポイントの設定を確認し、「Access Connections ヘルプ」をご覧ください。

6 「接続」ボタンをクリック

7 「ネットワークにはネットワーク・キーが必要です。」と表示されたら、「パスワード」を入力して「接続」ボタンをクリック

8 「この接続をロケーションの1つとして保存しますか？」と表示されたら、「ロケーション名」を入力して「保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

◆設定済みの接続先に接続する

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

無線LAN機能がオフになっている場合は、「[Access Connectionsでの無線LAN機能のオン/オフ \(P. 416\)](#)」をご覧ください。

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Access Connections」をクリック

3 「切替」が「アドバンスへ」と表示されている場合は「アドバンスへ」ボタンをクリック
「切替」が「ベーシックへ」と表示されている場合は手順4へ進んでください。

4 「ロケーション」にある接続先から接続するロケーション プロファイルを選択し、「接続」ボタンをクリック

以上で接続は完了です。

■ Access Connectionsでの有線LAN、モデムの設定と接続

[063505-27]

Access Connectionsで有線LANやモデムでの設定や接続をする場合は、「[Access Connections ヘルプ](#)」をご覧ください。

■ インストール

[063506-27]

◆Access Connectionsのインストール

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

- 4 「名前」に「D:¥Nxsetup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「Access Connections」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
- 6 「Access Connections用のInstallShield ウィザードへようこそ」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 7 「ネットワークの種類を選択」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 8 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック
- 9 再起動を促すメッセージが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリック
- 10 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でAccess Connectionsのインストールは終了です。

アンインストール

[063507-27]

◆ Access Connectionsのアンインストール



チェック

アンインストールはネットワークに接続した状態で行ってください。ネットワークに切断した状態でアンインストールを行うと無線LAN機能がオフになります。
無線LAN機能がオフになった場合、「[ネットワークの切断について \(P. 416\)](#)」を参照して無線LAN機能をオンにしてください。

- 1 Windowsを起動する
- 2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック
- 4 「Access Connections」を選択し、「アンインストール」をクリック
- 5 「Access Connectionsをアンインストールしますか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック



チェック

「ユーザー アカウント制御」画面にある「発行元」が「不明」と表示されますが問題ありません。

6 「システムの実行中に更新できないファイルまたはサービスを、セットアップで更新する必要があります。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

7 「Access Connections プロファイルを続けてご利用になりますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

アンインストール後に再度Access Connectionsをインストールしてご使用になる場合は「はい」ボタンをクリックしてください。

8 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でAccess Connectionsのアンインストールは終了です。

DeviceProtector

[061400-27]

▶ 概要.....	422
▶ 使用上の注意.....	423
▶ インストール.....	423
▶ アンインストール.....	424

概要

[061401-07]

DeviceProtectorは、各種周辺機器の使用を制限することができるアプリケーションです。

DeviceProtectorで周辺機器を無効にすることで、情報漏えいやコンピュータウイルス、不正なプログラムの流入を防ぐことができます。

DeviceProtectorは、次のような周辺機器を制限することができます。

- 内蔵の光学ドライブなどのIDE機器
- PCカード
- SDメモリーカードスロット
- USB機器

IDE機器、USB機器については、機器単位で有効、無効の設定ができるため、より高度で柔軟な管理ができます。機能の詳細や操作方法、制限事項については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法、制限事項

DeviceProtector User's Guide(「アプリケーションディスク」内の「DeviceProtector¥doc¥DeviceProtector User's Guide.chm」)

◆起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「DeviceProtector」→「DeviceProtector 管理者用設定ツール」をクリック



チェック

- 「DeviceProtector管理者用設定ツール」は、管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーでログオンして使用してください。
- インストール後、初めて起動した場合は、「パスワード設定」画面が表示されます。「パスワード」と「パスワードの確認」欄にパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。何も入力せずに「OK」ボタンをクリックした場合は、空のパスワードが設定されます。
- 2回目以降は「管理者確認」画面が表示されますので、「パスワード」欄に設定したパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。

◆パスワードについて

「DeviceProtector管理者用設定ツール」の起動にはパスワードが必要です。
また、このパスワードはアンインストールするときにも必要です。絶対に忘れないようにしてください。



チェック

パスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでも解除はできません。
再セットアップが必要になりますので、『再セットアップガイド』をご覧ください。本機を再セットアップしてください。

◆Roxio Creator LJBと同時に使用する場合の注意

DeviceProtectorで書き込みを制限していると、Roxio Creator LJBを使用してメディアへ書き込みやファイルバックアップはできません。

メディアへ書き込みやファイルバックアップを行う場合は、DeviceProtectorで光学ドライブを機器単位で有効に設定するか、書き込み制限を解除してください。

◆PCカードスロットを制限する場合について

PCカードスロットの有効/無効の設定、およびPCカードを使用して接続されたメモリーカードやハードディスクドライブなどの外部記憶装置への書き込みを制限することができます。

■ インストール

◆DeviceProtectorのインストール



チェック

DeviceProtectorをインストールする前に「デバイス マネージャー」ですべてのデバイスを有効に設定してください。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に「D:¥Nxsetup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック

5 「DeviceProtector v7.2」を選択し、「インストール」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」にチェックを付け、「完了」ボタンをクリック

7 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する



チェック

万が一に備え、再起動後に「DeviceProtector管理者用設定ツール」を起動し、「ロック解除用パスワード」、および「ロック解除キー」を必ず設定してください。
設定方法については「DeviceProtector User's Guide」をご覧ください。

以上でDeviceProtectorのインストールは終了です。

アンインストール

[061404-07]

◆DeviceProtectorのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「DeviceProtector」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「ようこそ」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

6 「選択したアプリケーション、およびすべての機能を完全に削除しますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

7 「パスワード」画面が表示されたら、管理者パスワードを入力し、「次へ」ボタンをクリック



チェック

入力するパスワードは「DeviceProtector管理者用設定ツール」の起動時に入力するパスワードです。このパスワードを忘れてしまった場合は、DeviceProtectorをアンインストールすることはできません。
なお、パスワードが設定されていない状態(空のパスワードが設定されている場合は除く)でアンインストールする場合は、「パスワード」画面は表示されません。

8 「ドライバをアンインストールします。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

アンインストールが始まります。

9 「ドライバのアンインストールが終了しました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

10 「メンテナンスの完了」と表示されたら、「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」にチェックを付け、「完了」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でDeviceProtectorのアンインストールは終了です。

Adobe Reader

[061500-07]

概要.....	426
インストール.....	426
アンインストール.....	427

概要

[061501-07]

Adobe ReaderはPDF (Portable Document Format) 形式のマニュアルの表示、閲覧、印刷を行うことができるビューアです。

機能の詳細、操作方法、および最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

ヘルプ (Adobe Readerを起動し、「ヘルプ」→「Adobe Reader XI ヘルプ」をクリック)



チェック

ヘルプを参照するにはインターネットに接続できる環境が必要です。

●Adobe Readerの最新の情報

<http://www.adobe.com/jp/index.html>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

◆起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Adobe Reader XI」をクリック



チェック

インストール後、初めてお使いになる場合は、起動時に「Adobe Reader XI - パーソナル コンピューターでの使用に関する配布の使用許諾契約」画面が表示されます。内容を確認し「同意する」ボタンをクリックしてください。

Adobe Readerの画面が表示されます。

インストール

[061502-07]

◆Adobe Readerのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 「D:¥AdbeRdr11000_mui_Std」フォルダをハードディスク（またはSSD）の任意の場所にコピーする



メモ

ここでは「C:¥TEMP」にコピーした場合の手順を説明します。
必要に応じて読み替えてください。

- 4 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す
- 5 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 6 「名前」に「C:¥TEMP¥AdbeRdr11000_mui_Std¥setup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

- 7 インストールが完了したら、Windowsを再起動する



メモ

手順3でコピーしたフォルダは自動的に削除されません。
Adobe Readerのインストールが終了したら削除することをおすすめします。

以上でAdobe Readerのインストールは終了です。

■アンインストール

[061503-07]

◆Adobe Readerのアンインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Adobe Reader XI MUI」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上でAdobe Readerのアンインストールは終了です。

ECOモード設定ツール

[061600-27]

概要 429

概要

[061601-27]

ECOボタン、または設定したホットキーで簡単にモード（電源プラン）を切り替えることができます。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。



チェック

本機では、ECOモード設定ツールはインストールされています。
追加の必要はありません。



参照

機能の詳細、操作方法について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 47)」

◆ 設定方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

ECOモード設定ツールの設定画面が表示されます。

ピークシフト設定ツール

[063300-27]

概要	430
インストール	430
アンインストール	431

概要

[063301-27]

電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を、他の時間帯に移行することをピークシフトといいます。本機は、「ピークシフト設定ツール」で設定を行うことで「ピークシフト機能」を使用できます。機能の詳細や使用上の注意、操作方法については、以下をご覧ください。



参照

機能の詳細や使用上の注意、操作方法について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「[ピークシフト機能 \(P. 51\)](#)」

インストール

[063302-27]

◆ピークシフト設定ツールのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 4 「名前」に「D:¥Nxsetup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「ピークシフト設定ツール」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 6 「ピークシフト設定ツール セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 7 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、「閉じる」ボタンをクリック

8 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でピークシフト設定ツールのインストールは終了です。

アンインストール

[063303-27]

◆ピークシフト設定ツールのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「ピークシフト設定ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「ピークシフト設定ツールをアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

6 「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」と表示された場合は、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でピークシフト設定ツールのアンインストールは終了です。

クイックパワーオン

[063500-07]

概要	432
インストール	432
アンインストール	433

概要

[063501-07]

クイックパワーオンは、次回の起動を高速化するソフトです。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。



チェック

お使いの機種により、クイックパワーオンは使用できない場合があります。
「便利な機能とアプリケーション (P. 379)」をご覧ください。



参照

機能の詳細、操作方法について
「本機の機能」の「電源」 - 「クイックパワーオン (P. 38)」

インストール

[063502-07]

◆クイックパワーオンのインストール



チェック

以下の環境ではご利用いただけません。

- SecureRedirectorをインストールした環境
- NASCAの認証機能で指紋センサを使う環境

1

Windowsを起動する

2

光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4

「名前」に「D:¥Nxsetup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック

5 「クイックパワーオンモード」を選択し、「インストール」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。



チェック

インストール中に「キャンセル」ボタンをクリックした場合、「インストールに失敗しました。インストールを中断します。」というエラーメッセージが表示されることがありますが、問題ありません。インストールは中止できています。

6 インストールが終了したら、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動する



チェック

「InstallShield Wizard の完了」画面が表示された場合は、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」にチェックを付け、「完了」ボタンをクリックしてください。

以上でクイックパワーオンのインストールは終了です。

アンインストール

[063503-07]

◆クイックパワーオンのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「クイックパワーオンモード」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「選択したアプリケーション、およびすべての機能を完全に削除しますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

6 「アンインストール完了」画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

以上でクイックパワーオンのアンインストールは終了です。

ワイヤレスLANの設定

[063000-27]

概要	434
インストール	434
アンインストール	435

概要

[063001-27]

ワイヤレスLANの周波数帯を切り替えることができます。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。



参照

機能の詳細や操作方法について

「本機の機能」の「無線LAN機能」 - 「ワイヤレスLANの設定 (P. 197)」

インストール

[063002-27]

◆ワイヤレスLANの設定のインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 4 「名前」に「D:¥Nxsetup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「ワイヤレスLANの設定」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
- 6 「Visual C++ ランタイム ライブラリのインストール」画面が表示された場合は、「インストール」ボタンをクリック
- 7 「ワイヤレスLANの設定 セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

8 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、「閉じる」ボタンをクリック

9 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上で「ワイヤレスLANの設定」のインストールは終了です。

■ アンインストール

[063003-27]

◆ ワイヤレスLANの設定のアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「ワイヤレスLANの設定」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「ワイヤレスLANの設定をアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

6 「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」と表示された場合は、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上で「ワイヤレスLANの設定」のアンインストールは終了です。

画面出力先切替ツール

[062700-27]

- 概要..... 436
- インストール..... 436
- アンインストール..... 437

概要

[062701-27]

キーボードから画面の出力先の切り替えなどを行うことができます。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。



チェック

画面出力先切替ツールは、工場出荷状態でインストールされています。



参照

機能の詳細や操作方法について

「本機の機能」の「外部ディスプレイ」 - 「画面出力先切替ツール (P. 126)」

インストール

[062702-27]

◆画面出力先切替ツールのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 4 「名前」に「D:¥Nxsetup.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「画面出力先切替ツール」を選択し、「インストール」ボタンをクリック



チェック

CPUの種類が表示される場合は搭載されているCPUにあったものを選択してください。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、「閉じる」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上で画面出力先切替ツールのインストールは終了です。

アンインストール

[062703-27]

◆画面出力先切替ツールのアンインストール

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「画面出力先切替ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「画面出力先切替ツールをアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

アンインストールが始まります。

6 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック



チェック

「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」と表示された場合は、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

以上で画面出力先切替ツールのアンインストールは終了です。

Roxio Creator LJB

[061800-27]

概要.....	438
使用上の注意.....	439
インストール.....	440
アンインストール.....	441

概要

[061801-07]

Roxio Creator LJBは、CD-Rなどの対応している媒体にデータを書き込むことができるライティングソフトです。Roxio Creator LJBは、CD-RなどへRoxio Creator LJBのウィンドウ上でコピーするデータを選択し、一括してコピーすることができますので、大量のデータを記録するのに適しています。

Roxio Creator LJBは、Roxio BackOnTrackのファイルバックアップ機能を利用してファイルをバックアップすることができます。

対応している媒体は以下の通りです。

ドライブ	対応している媒体
DVDスーパーマルチドライブ	CD-R、CD-RW
	DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW
	DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW
	DVD-RAM

機能の詳細、操作方法、および最新情報については、以下をご覧ください。



チェック

お使いのモデルによってはRoxio Creator LJBはインストールまたは添付されていない場合があります。「便利な機能とアプリケーション (P. 379)」をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

● Roxio Creator LJBのヘルプ

1 Roxio Creator LJBを起動する

2 「ヘルプ」メニューの「ヘルプ」をクリック

● Roxio BackOnTrackのファイルバックアップのヘルプ

1 Roxio Creator LJBを起動する

2 「データ - コピー」タブの「バックアップ/リストア」をクリック

Roxio BackOnTrackが起動します。

3 「ヘルプ」メニューの「ヘルプ」をクリック

● Roxio Creator LJBの最新の情報

<http://www.roxio.jp/jpn/support/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

◆ 起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Roxio」→「Roxio Creator LJB」をクリック

Roxio Creator LJB の画面が表示されます。



チェック

Roxio Creator LJBを初めて起動する場合、「製品の登録」の画面が表示されます。ユーザー登録を行う場合は、画面の指示に従って手続きを完了させてください。ユーザー登録を中止した場合は、以下の手順で、ユーザー登録を行うことができます。なお、「製品の登録」を行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。

1 Roxio Creator LJBを起動する

2 「ヘルプ」メニューをクリック

3 「今すぐ登録」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

■ 使用上の注意

[061802-27]

- Roxio Creator LJBはCD TEXT情報をサポートしていますが、Windows Media Player上ではCD TEXT情報は反映されません。
- 書き込みに失敗した媒体は使用できなくなります。書き込みの失敗による媒体の補償はできません。
- 媒体に傷が付いていたり、誤ってデータを削除してしまうと、データの復旧ができません。重要なデータは必ずバックアップを取るようになしてください。
- 書き込みまたはフォーマットを行っている際、スリープ、休止、またはシャットダウンを行うとメディアが破損する場合があります。

- 「データ - コピー」の「ディスクイメージを作成」を実行する際、ISOイメージファイル、またはグローバルイメージファイル(以下、giファイル)で作成することができます。
giファイルでイメージを作成する際、データの容量が大きい場合はイメージファイルが複数に分割されることがあります。
その場合、giファイルのファイル名を変更するとDVDおよびCDへのイメージの書き込みができなくなりますので、giファイルのファイル名は変更しないでください。
- 媒体へのデータ書き込み中に他のアプリケーションを使用したり、自動的に省電力機能が働いたり、一定時間が経過すると動作するスクリーンセーバーやメールの自動受信プログラムなどが常駐していると、書き込みエラー（バッファアンダーラン）が発生する場合があります。
書き込みエラーの発生を抑えるため、データ書き込みの際は他の動作プログラムを終了し、省電力機能や常駐するプログラムを無効（オフ）にすることをおすすめします。
- 本機や、外付けドライブに振動や衝撃をあたえないでください。書き込みエラーの原因となります。
- 媒体をコピーする場合、ハードディスク（またはSSD）内(1つのパーティション)にコピーするデータ分の空き容量が必要になります。
必要な容量を確保できないと媒体をコピーすることができませんので、大量のデータが入っている媒体をコピーする場合は、ハードディスク（またはSSD）に十分な空き容量があることを事前に確認してください。
- バッテリーの残量がなくなると、書き込みエラーの原因になります。書き込みを行う場合は、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。
- オプション製品の光学ドライブなどをご利用の場合は、オプション製品に添付のアプリケーションを使用してください。
- 書き込みまたはフォーマットを行っている際に表示される進捗状況バー、および推定残り時間は、実際の処理と合わない場合がありますが動作に影響はありません。
- バックアッププロジェクトファイル(*.RBC)を、エクスプローラ等で他のフォルダへ移動したり、ファイル名を変更した場合、「マイプロジェクト」にバックアッププロジェクトが表示されなくなります。
- ファイルバックアップを実行中に「<ファイル名>は他のプログラムで排他的に開かれています。再試行しますか?」と表示された場合は、そのファイルを開いているプログラムを終了してから「はい」ボタンをクリックしてください。ファイルを開いているプログラムが分からない場合や終了できない場合はバックアップすることはできませんので、「いいえ」ボタンをクリックしてください。
- カスタムテキストサイズの設定(DPI)を既定の100%から150%に変更した場合、Roxio Creatorのホームウィンドウが画面からはみ出る場合があります。その場合は、カスタムテキストサイズの設定(DPI)を既定の150%から100%に変更してご使用ください。

インストール

[061803-07]

◆Roxio Creator LJBのインストール



チェック

Roxio Creator LJBをインストールすると、Roxio BackOnTrackのファイルバックアップ機能が同時にインストールされます。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「Roxio Creator LJB ディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥RC12¥setup.exe△DisableProducts=MSXMLMSI_40SP3△DISABLE_XML4=1

※△は半角スペースを意味しています。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 再起動を促すメッセージが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリック

6 光学ドライブから「Roxio Creator LJB ディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でRoxio Creator LJBのインストールは終了です。

アンインストール

[061804-07]

◆Roxio Creator LJBのアンインストール



チェック

Roxio Creator LJBをアンインストールすると、Roxio BackOnTrackのファイルバックアップ機能が同時にアンインストールされます。

1 Windowsを起動する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Roxio Creator LJB」を選択し、「アンインストールと変更」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上でRoxio Creator LJBのアンインストールは終了です。

[062000-27]

概要	442
使用上の注意	442
インストール	445
アンインストール	445

概要

[062001-07]

DVDを再生することができます。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

「Corel WinDVD」のオンラインヘルプ(画面右上の「Corelガイド」ボタンをクリックし、「学習」タブ内の「ヘルプを開く」をクリックすることで開くことができます)



チェック

- Corel WinDVDでは音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Audioは再生できません。
- 本機では、リージョンコード(国別地域番号)が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。
- お使いのモデルによってはCorel WinDVDは添付されていない場合があります。「便利な機能とアプリケーション (P. 379)」をご覧ください。

◆起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Corel」→「Corel WinDVD」をクリック

Corel WinDVD画面が表示されます。

■使用上の注意

[062002-27]

- Corel WinDVDの起動中は、次のことに注意してください。
 - 他のソフトを起動しないでください。コマ落ちが発生する場合があります。
 - ソフトによっては(同じように映像を表示するタイプのソフトなど)、他のソフトが起動できないことがあります。
 - 省電力状態(スリープや休止状態)へ移行しないようになっています。電源スイッチやスタートメニューなどを使って強制的にスリープや休止状態にしないでください。
- Corel WinDVDを起動中に解像度/表示色/表示するディスプレイ/画面の回転/デュアルディスプレイ環境時のモニター位置の変更など、ディスプレイの設定を変更した場合はCorel WinDVDを再起動してください。

- デュアルディスプレイ機能を使っているときにディスクを再生すると、プライマリに設定されているデバイスのみに表示される場合があります。
- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない外部ディスプレイでは、著作権保護された映像をデジタル出力できません。
- Intel® WiDi機能を使用して、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない外部ディスプレイに接続した場合は再生できません。
- 画面回転機能を持った外部ディスプレイをお使いの場合、画面回転機能の使用時にはディスクの再生はサポートしていません。
- 電源プランを「ECO」にすると、Corel WinDVDは正常に動作しない可能性があります。その場合は電源プランを「高性能」や「標準」に変更してください。
- DVD再生開始時やDVDディスク内タイトルの切り替え時に時間がかかることがあります。
- ビットレートの高い映像では、スムーズな再生品質を得られない場合があります。
- DVDコンテンツの作り方により、メニュー等でマウス選択できない場合があります。
- DVDタイトルの中には、DVD再生用アプリケーションを含んだものがありますが、インストールする必要はありません。
- Corel WinDVDではCPRM 鍵をダウンロードし、適用することで再生できます。「このディスクにはCPRM 著作権保護のかかったタイトルが含まれています。・・・」と表示された場合には、CPRM コンテンツを再生するためのCPRM 鍵をダウンロードしてください。詳しい手順については「Corel WinDVD」のオンラインヘルプを参照してください。
- ディスク再生時にACアダプタを接続した状態で使用することをおすすめします。
- Corel WinDVDでDVD を再生している際に映像の乱れやコマ落ちが見られる場合は、Corel WinDVD の次の設定を変更してください。

■ 「オンスクリーン ディスプレイ」のチェックを外す

オンスクリーン文字（音量ゲージなど）が表示されなくなりますが、再生性能の向上が期待できます。

1 Corel WinDVDの画面上で右クリック

2 表示されたメニューから「設定」をクリックし、「環境設定」の「オンスクリーン ディスプレイを有効にする」のチェックを外す

3 「OK」 ボタンをクリック

■ 「デインターレース」を「プログレッシブ」に設定する

再生するDVDタイトルによってはジャギー(輪郭のギザギザ)が目立つ場合があります。その場合は、「デインターレース」を「プログレッシブ」に設定してください。

1 Corel WinDVDの画面上で右クリック

2 表示されたメニューから「設定」をクリックし、「オーディオ/ビデオ設定」の「デインターレース」の項目を「プログレッシブ」に設定する

3 「OK」 ボタンをクリック

- Corel WinDVD でディスクが認識しない/自動再生が始まらない場合は、次のような原因が考えられます。

<ディスクの確認>

- 記録面に傷や指紋などの汚れがついている
ディスクに傷が付いていると、使用できない場合があります。
また、汚れている場合は、乾いたやわらかい布で内側から外側に向かって拭いてから使用してください。
- ディスクが光学ドライブに正しくセットされていない
セットされているディスクの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイの中心に、きちんとセットしてください。
- 書き込みに失敗したディスク
書き込みに失敗したディスクは読み込めない場合があります。
- ファイナライズされていないディスク
デジタルビデオカメラや、ライティングソフトで作成した場合、ファイナライズを行わないと、光学ドライブで読めない場合があります。
- 映像データファイルを記録したディスク
Corel WinDVDはファイル再生には対応しておりません。
他の映像再生アプリケーション(Windows Media Playerなど)をご利用ください(その場合には、他社・コミュニティなどが用意するコーデックが必要になることがあります)。
- ディスクの劣化
記録ディスクの品質により、経年劣化、光劣化などを起こすことがあります。
ディスクを交換して試してみてください。

<ディスクの規格の確認>

AVCREC、AVCHDなどの規格にあわないディスクを再生させようとした可能性があります。
本機で使用できるディスクの規格を確認してください。

- AVCREC規格で記録されたDVD
著作権保護付きで、DVD媒体にハイビジョン画質のデータを記録するための規格
- AVCHD規格で記録されたDVD
ハイビジョン映像を撮影・録画するデジタルビデオカメラの規格



参照

本機で使用できるディスク

下記のリンクよりお使いのモデルの「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

<光学ドライブの確認>

- 光学ドライブの読み取りレンズが汚れているため読み取り不良になる。
ほこりや油膜などによりレンズが汚れていると、読み込みに失敗したり、読み込み時間が長くなったりすることがあります。

レンズクリーナーでレンズをクリーニングしてください。

- 光学ドライブが、使用可能ハードウェアとして認識されていない。
BIOSセットアップユーティリティのI/O制限、DeviceProtectorは周辺機器の使用を制限することができます。
光学ドライブを使用不可に設定していないか確認してください。

インストール

[062003-07]

◆Corel WinDVDのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「Corel WinDVD ディスク」をセットする
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 4 「名前」に「D:¥WINDVD¥7¥Inst_sw.exe」と入力し、「OK」ボタンをクリック
- 5 「Corel WinDVD のインストールを開始しますか。」と表示されたら、「開始する」ボタンをクリック
インストールが始まります。
- 6 「インストールが完了しました。再起動を実行します。」と表示されたら、「再起動」ボタンをクリック



チェック

再起動後、光学ドライブから「Corel WinDVD ディスク」を取り出してください。

以上でCorel WinDVDのインストールは終了です。

アンインストール

[062004-07]

◆Corel WinDVDのアンインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4 「Corel WinDVD」を選択し、「アンインストール」をクリック

5 「Corel WinDVD をアンインストールしますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

以上でCorel WinDVDのアンインストールは終了です。

メンテナンスと管理

[070000-27]

▶ ハードディスクのメンテナンス.....	448
▶ SSDのメンテナンス.....	450
▶ お手入れについて.....	452

ハードディスクのメンテナンス

[070200-27]

▶ バックアップ.....	448
▶ 復元.....	448
▶ その他のメンテナンス.....	449

ハードディスク内の大切なデータを守り、トラブルを予防するには、データのバックアップが重要です。また、突然のトラブルを予防するために、定期的にメンテナンスを行うことも大切です。ここでは、ハードディスクのバックアップ方法、およびハードディスクのメンテナンスについて説明しています。

バックアップ

[070201-27]

Windowsではファイルとフォルダ、またはコンピュータ全体をバックアップすることができます。大切なデータを保護するには、定期的にバックアップしてください。バックアップの方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。

復元

[070202-27]

◆ファイルの復元

お客様が作成したファイル（データファイル）を紛失、あるいは損傷してしまった場合、ファイルの復元を行うことにより、ファイルをバックアップした時の状態に戻すことができます。また、ファイルの復元は個別、グループ単位で復元することができます。ファイルの復元の方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック

ファイルの復元を行うときは、すべてのアプリケーションを終了してください。

◆システムの復元

本機の動作が不安定になるなど、システムにトラブルが起きてしまった場合には、「システムの復元」を実行すると、もとの状態に戻すことができます。システムの復元の方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック

- システムの復元を行うときは、すべてのアプリケーションを終了してください。
- システムの復元では、お客様が作成したファイル（データファイル）を復元することはできません。

ハードディスク内のデータの障害をチェックし、効率的に利用するために、次のメンテナンスツールがインストールされています。

これらのツールについて詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

◆ チェック ディスク

ハードディスクやハードディスク内のデータの障害を検査するためのツールです。

ファイルシステムやFAT（ファイルアロケーションテーブル）、クラスタ、ディレクトリツリー構造、ハードディスクの物理表面の不良セクタなどをチェックすることができます。

◆ ディスク デフラグ

ハードディスクのデータの並び替えを行い、データへのアクセスをやすくするためのツールです。

◆ ディスク クリーンアップ

不必要なファイルを削除し、ハードディスクの空き容量を増やすためのツールです。

SSDのメンテナンス

[070300-27]

▶ バックアップ.....	450
▶ 復元.....	450
▶ その他のメンテナンス.....	451

SSD内の大切なデータを守り、トラブルを予防するには、データのバックアップが重要です。また、突然のトラブルを予防するために、定期的にメンテナンスを行うことも大切です。ここでは、SSDのバックアップ方法、およびSSDのメンテナンスについて説明しています。

■ バックアップ

[070301-27]

Windowsではファイルとフォルダ、またはコンピュータ全体をバックアップすることができます。大切なデータを保護するには、定期的にバックアップしてください。バックアップの方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。

■ 復元

[070302-27]

◆ ファイルの復元

お客様が作成したファイル（データファイル）を紛失、あるいは損傷してしまった場合、ファイルの復元を行うことにより、ファイルをバックアップした時の状態に戻すことができます。また、ファイルの復元は個別、グループ単位で復元することができます。ファイルの復元の方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック

ファイルの復元を行うときは、すべてのアプリケーションを終了してください。

◆ システムの復元

本機の動作が不安定になるなど、システムにトラブルが起きてしまった場合には、「システムの復元」を実行すると、もとの状態に戻すことができます。システムの復元の方法についての詳細は、Windowsのヘルプをご覧ください。



チェック

- システムの復元を行うときは、すべてのアプリケーションを終了してください。
- システムの復元では、お客様が作成したファイル（データファイル）を復元することはできません。

SSD内のデータの障害をチェックし、効率的に利用するために、次のメンテナンスツールがインストールされています。これらのツールについて詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

◆チェック ディスク

SSDやSSD内のデータの障害を検査するためのツールです。ファイルシステムやFAT（ファイルアロケーションテーブル）、クラスタ、ディレクトリツリー構造などをチェックすることができます。

◆ディスク クリーンアップ

不必要なファイルを削除し、SSDの空き容量を増やすためのツールです。

お手入れについて

[071000-27]

- ▶ お手入れを始める前に..... 453
- ▶ お手入れのしかた..... 454

お手入れを始める前に

[071001-20]



チェック

- 可燃性のエアダスターは使用しないでください。発火・火災の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。
- 水かぬるま湯は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

軽い汚れのとき

乾いたきれいなやわらかい布

ひどい汚れのとき

水かぬるま湯を含ませて、よくしぼったやわらかい布



チェック

- お手入れの前には、必ず本体や周辺機器の電源を切ってください。使用していないときも、スリープ状態になっている場合があります。一度、Windowsを起動してから、電源を切ってください。電源コードのプラグはコンセントから抜いてください。バッテリーパックが外れるモデルはバッテリーパックも外してください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。
- 水やぬるま湯は、絶対に直接かけないでください。故障の原因になります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。外装を傷めたり、故障の原因になったりします。

本体、キーボード、NXパッド

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってからふき取ってください。

液晶ディスプレイ

やわらかい布でふいてください。化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。

ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽くふいてください。

電源コード/ACアダプタ

やわらかい布でふいてください。

電源コードのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまることがありますので、定期的に清掃してください。

通風孔

通風孔にほこりがたまっている場合は、本体の外側から掃除機などを使って掃除してください。ほこりの付着がひどい場合には、ハケや綿棒、使用済み歯ブラシなどを使って、ほこりをかき出しながら掃除機で吸引するときれいに掃除することができます。

本機は、装置内部の電子部品を冷却するため、冷却ファンにより常に外気を取り入れています。そのため本体の背面や側面などに通風孔を設けていますが、この通風孔にほこりがたまってしまうと、本体内部の冷却能力が低下し、本機の誤作動や部品故障の原因となる可能性がありますので、本体の通風孔を定期的にお手入れすることをおすすめします。



参照

通風孔の位置について

「本機の機能」の「各部の名称」 - 「各部の名称と説明 (P. 19)」

■ マウス

やわらかい布でふいてください。

汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってからふき取ってください。

マウスの底面のセンサーにほこりなどが付着して、マウスの移動を正しく読み取ることができなくなる場合があります。センサー周辺の汚れやほこりを軽くはらってください。

別売のOSを利用する

[080000-07]

▶ 別売のOSを利用する.....	457
-------------------	-----

別売のOSを利用する

[080100-00]

本機でボリュームライセンスや市販パッケージなどの別売OS（お使いの装置専用の「再セットアップ用ディスク」以外）を利用する場合に必要な装置固有のドライバおよびセットアップ手順を、次のサイトで紹介しています。

- NECの「ビジネスPC」サイト
<http://www.nec.co.jp/bpc/>

NECの「ビジネスPC」サイトで「保守・保証/サポート情報（ダウンロード）」を選択して、「ご使用中のお客様」から「ダウンロード（ドライバなど）」をクリックし、「ダウンロード」の「モジュール、ドライバ」から、必要なドライバを選択してください。



チェック

- 利用できるOSは機種によって異なりますので、ご注意ください。
- ご利用にあたり、使用許諾契約書への同意が必要になります。また、いくつか制限事項がありますので、必ずご利用前にサイト中の制限事項や注意事項および「ご利用前に必ずお読みください」「ドライバ利用手順」を確認してください。
ドライバ適用時には、特別な手順が必要なドライバがありますので必ず各ドライバの「SETUP.TXT」を確認してください。
また、OS自体に起因するトラブルに関しましては対応しかねますので、OS媒体の購入元にお問い合わせください。

トラブルの予防と解決のヒント

[090000-27]

▶	トラブルの予防.....	459
▶	ウイルスから守る.....	461
▶	トラブル発生に備えて.....	464
▶	解決のヒント.....	466
▶	Windowsヘルプの紹介.....	469

電源は正しい順序で操作する



参照

正しい電源の入れ方と切り方

「本機の機能」の「電源」 - 「電源の入れ方と切り方 (P. 28)」

Windowsを最新の状態に保つ

Windows® Update、またはMicrosoft® Updateでは最新かつ重要な更新プログラムが提供されています。Windowsを最新の状態に保つために、Windows® Update、またはMicrosoft® Updateを定期的の実施してください。



チェック

本機には更新プログラムがインストールされています。更新プログラムをアンインストールすると、修正されていた問題が発生する可能性がありますので、更新プログラムのアンインストールは行わないでください。

チェック ディスクを使って定期的にハードディスク（またはSSD）のメンテナンスを行う

チェック ディスクを使って、定期的にハードディスク（またはSSD）にエラーがないかどうかを調べてください。チェック ディスクは、次の手順で起動することができます。

また、チェック ディスク以外のメンテナンスについては、「メンテナンスと管理」の「ハードディスクのメンテナンス (P. 448)」または「SSDのメンテナンス (P. 450)」をご覧ください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

1 「スタート」ボタン→「コンピューター」をクリック

2 エラーチェックするハードディスク（またはSSD）のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック

3 「ツール」タブをクリック

4 「チェックする」ボタンをクリック

5 オプションを設定して「開始」ボタンをクリック

■ 保守契約を結び定期的にメンテナンスをする

本機を長時間連続で運用するなど、信頼性を必要とする設備として利用する場合は、必ず保守契約を行い、定期的にメンテナンスを実施してもらうとともに、有寿命部品などの交換を依頼してください。

■ 改造をしない

本機のマニュアルに記載されている方法以外で、本機の改造や修理をしないでください。



チェック

本機のマニュアルに記載されている方法以外で改造や修理をした製品については、当社のサービスの対象外となります。

ウイルスから守る

[070100-07]

- ウイルスとは. 461
- ウイルスバスターを使ってウイルスを駆除する. 462

■ ウィルスとは

[070101-07]

ウイルス（コンピュータウイルス）とはプログラム的一种です。
ユーザー（使用者）が気づかないうちにシステムに入り込み、異常なメッセージを表示するものや、プログラムやデータの一部を破壊するものなど、さまざまなものがあります。

ウイルスの感染を防ぐために

ウイルスの感染を少しでも防止するために、次の方法を参考にしてください。

- オリジナルプログラムは、ライトプロテクト措置、バックアップの確保等の安全な方法で保管する
- 出所が不明なCDなどのメディアは使用しない
- マクロ感染型ウイルスのおそれがあるので、出所が不明なデータファイルを開かない
- プログラムを実行する時は、ウイルス検査を済ませてから使用する
(インターネットからプログラムをダウンロードするときも、直接実行せず、いったんディスクに保存し、ウイルス検査を済ませてから使用する)
- ウィルスチェックを定期的に行う
- ウィルスパターンファイルはこまめに更新する
- ソフトウェアのセキュリティホールをふさぐ

また、定期的にデータのバックアップを作成しておくことをおすすめします。
万一ウイルスに感染してしまった場合にも、ドライブを初期化し、バックアップからデータを復元することで復旧できます。

ウイルスを発見したら

ウイルスを駆除するには、該当ファイルを削除して、アプリケーションを再インストールすることが一番安全で確実な方法です。

ただし、発見されたウイルスがブートセクタ型の場合、ブートセクタがウイルスに感染した可能性のある段階ではこの方法は使えません。

また、二次感染を防ぐため、ウイルスが発見されたパソコンで使用した媒体をすべて検査する必要があります。

本機添付のウイルスバスターをご使用の場合は「[ウイルスバスターを使ってウイルスを駆除する \(P. 462\)](#)」をご覧ください。

ウイルスバスター以外のウイルス対策ソフトをご使用の場合、使用されているウイルス対策ソフトの指示に従ってください。



チェック

パソコンの電源は切らないでください。ウイルスによっては症状が悪化することがあります。

ウイルスの被害届について

日本では、ウイルスを発見した場合、所定の機関への届出が義務付けられています。届出をしなくても罰則の規定はありませんが、今後の対策や被害状況の把握のためにも積極的な報告をお願いします。

届け出先：独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)
IPAセキュリティセンター
FAX： 03-5978-7518
E-mail： virus@ipa.go.jp
URL： <http://www.ipa.go.jp/security/>

同機構ではウイルスに関する相談を下記の電話でも対応しています。

(IPA)コンピュータウイルス110番
TEL：03-5978-7509

ウイルスバスターを使ってウイルスを駆除する

[070102-07]

ウイルスの感染を検査するには

ウイルスバスターを使ったウイルス検査には、次のような方法があります。

◆脅威を検査する

ファイルを開く、保存する、またはダウンロードする時に検査を実行します。インストール時の状態では、脅威の検査を行う設定になっています。

◆すぐに検査する（カスタムスキャン）

ウイルスに感染していないかの検査を、その場ですぐに実行します。外部からファイルを受け取ったときなどには「カスタムスキャン」を実行し、受け取ったファイルがウイルスに感染していないことを確認することをおすすめします。

◆定期的に検査する（予約スキャン）

設定した実行タイミングに応じて、ウイルス感染の検査を自動的に実行します。

ウイルスを検出した場合

インストール時の状態ではウイルスが検出された場合、ウイルスに感染したファイル名や実行した処理の情報が表示されます。

ウイルスバスターは、インターネット上のパターンファイルを利用しており、通信を行いながらウイルスチェックをします。インターネットに接続している状態でウイルスの駆除を行ってください。

新種のウイルスに備えるには

インターネットに常時接続し、インターネット上のパターンファイルを利用することで、最新の脅威に対抗し安全性をより万全にすることができるため、できるだけインターネットに接続した環境でウイルスバスターをご利用ください。

大切なデータはバックアップをとっておく

トラブル発生によるデータの消失や破損に備え、大切なデータはバックアップをとっておくことをおすすめします。

あらかじめ復元ポイントを作成しておく

Windowsの設定の変更や、周辺機器の接続などをする場合に、あらかじめ復元ポイントを作成しておくことで、Windowsの設定を復元ポイント作成時の状態まで戻すことができます。

復元ポイント作成後に行った変更によってトラブルが発生した場合の解決策として有効です。

復元ポイントの作成方法は、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システム ツール」→「システムの復元」で行ってください。

詳細、または使用方法については、Windowsのヘルプをご覧ください。

あらかじめ「システム修復ディスク」を作っておく

ファイルの破損などにより、セーフモードや前回正常起動時の構成を使用してもWindowsが正常に起動しないときに備え、あらかじめ「システム修復ディスク」を作成することをおすすめします（「システム修復ディスク」の機能により、正常に起動しないWindowsを修復できる場合があります）。

「システム修復ディスク」の作成／使用方法は、『再セットアップガイド』をご覧ください。

あらかじめ「再セットアップ用ディスク」を作成しておく



チェック

ご購入いただいたモデルが「Windows 7用再セットアップ用ディスク」を未添付、かつDVDに書き込み可能な場合に限り、「再セットアップ用ディスク」を一度だけ作成することができます。

ハードディスク（またはSSD）内に再セットアップ用データを格納しています。

DVDスーパーマルチドライブをお使いの場合、再セットアップ用データを市販のDVDに書き込み、「再セットアップ用ディスク」を作成することができます。

ハードディスク（またはSSD）が故障した場合、「再セットアップ用ディスク」を作成できなくなります。このような場合に備え、あらかじめ「再セットアップ用ディスク」を作成しておくことをおすすめします。



チェック

- 「再セットアップ用ディスク」の作成に使用できるDVDは、DVD-R、またはDVD-R DLです。
- 「再セットアップ用ディスク」を作成した場合、ディスクの枚数はOSとDVDの種類によって異なります。
- 「再セットアップ用ディスク」の作成機能については、出荷時の製品構成でのみサポートしております。「再セットアップ用ディスク」は、アプリケーションのインストール、Service Packの変更、およびRoxio Creator LJBのアップデートを行う前に作成してください。

「再セットアップ用ディスク」についての詳細は、『再セットアップガイド』をご覧ください。

解決のヒント

[090300-27]

パソコンは、さまざまなアプリケーションや周辺機器を組み合わせるため、予期しないトラブルが発生することがあります。

トラブルをうまく解決するためには、いくつかのポイントがあります。

■ 落ちついて対処する

あわてて電源を切ったり、マウスで何度もクリックしたりしないでください。

本機が反応していない（フリーズした）ように見えても、アプリケーションなどの処理に時間がかかっているだけのこともあります。

しばらく待って、処理が終わり操作ができるようにならないか確認してください。

■ メッセージが表示されている場合は記録する

本機で発生している問題の状況を示している場合や、サポートに問い合わせる際に有効な情報である場合があります。数字や英語など意味のわからないメッセージであってもメモにとるなどして記録してください。

■ トラブル発生直前に行った変更を確認する

トラブルが発生する直前に、周辺機器の取り付けやアプリケーションのインストールなどの変更をした場合、その変更がトラブルの原因になっている場合があります。行った変更を元に戻すことができるならば、1つずつ元に戻し、トラブルが発生しなくなるか確認してください。原因がわかると対処しやすくなります。

■ セーフモードを利用する

Windowsの状態や設定などの理由でトラブルが発生し、通常の手順で起動できないときは、セーフモードで本機を起動して、状態を調べたり、設定を変更したりできます。

詳しくは、「[セーフモードでWindowsを起動する \(P. 632\)](#)」をご覧ください。

■ システム情報を利用する

本機の構成情報や関連情報などを収集、表示し、システムの問題を解決するために必要なデータをすばやく探すことができます。

システム情報を起動するには、次の手順で行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システム ツール」の「システム情報」をクリック

■ システムの復元を利用する

本機に行った不適切な変更を取り消し、設定を元に戻すことができます。

システムの復元を起動するには、次の手順で行ってください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システム ツール」の「システムの復元」をクリック

システムの復元の方法については、『再セットアップガイド』をご覧ください。

Windowsのヘルプを使う

「Windowsヘルプの紹介 (P. 469)」をご覧ください。

「トラブル解決Q&A」でトラブルが起きている項目を確認し、あてはまるトラブルの記載がないか探す

あてはまる記載があったら、その記載をお読みください。

周辺機器やアプリケーションのマニュアルやヘルプ、READMEファイルを見る

周辺機器やアプリケーションに関してトラブルが発生した場合は、それらに添付のマニュアルやヘルプ、READMEファイルを確認してください。

NECの「ビジネスPC」サイトを見る

NECの「ビジネスPC」サイトでは、企業向け情報機器に関する最新のサポート情報やアップデート情報を紹介しています。
<http://www.nec.co.jp/bpc/>をご覧ください。最新の情報をご確認ください。

BIOSセットアップユーティリティの設定を工場出荷時の設定値に戻す

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて」-「工場出荷時の設定値に戻す」をご覧ください。BIOSセットアップユーティリティの設定を工場出荷時に戻してみてください。

BIOSセットアップユーティリティについて詳しくは、「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて」をご覧ください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

システムを修復する

Windowsが起動できなくなった場合、『再セットアップガイド』をご覧ください。システムを修復してください。

トラブルチェックシートに記入して問い合わせる

NECのお問い合わせ先については、本機添付の『保証規定&修理に関するご案内』をご覧ください。

なお、お問い合わせの際には、どんなトラブルかを、『保証規定&修理に関するご案内』にある「トラブルチェックシート」に記入してください。また、必ず保証書を準備してください。型番や保守に必要な情報が記載されています。

本機と別に購入した周辺機器やメモリ、アプリケーションに関するトラブルは、その製品のお問い合わせ先にご相談ください。

本機に添付されていたものでも、アプリケーションの問題は、そのアプリケーションのお問い合わせ先からの方が適切な回答を得られます。

本機に添付されているアプリケーションのお問い合わせ先

本機添付の『ソフトウェア使用条件適用一覧/添付ソフトウェアサポート窓口一覧』に従い、各社へお問い合わせください。その他のアプリケーションについては、本機添付の『保証規定&修理に関するご案内』をご覧ください。

Windowsヘルプの紹介

[090400-07]

Windowsには、機能の紹介やトラブルが起きた場合に役立つ機能や操作、解決方法などが記載された「ヘルプ」があります。

「トラブル解決Q&A」の中から解決策が見つからなかったときは、サポート窓口にお問い合わせる前にWindowsのヘルプから解決策を探してみてください。

Windows 7のヘルプ

起動方法

「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」をクリックすると、「Windows ヘルプとサポート」画面が表示されます。



問題解決方法

◆「必要な情報をすばやく見つける」から探す

「必要な情報をすばやく見つける」から項目を選択して、情報を探します。

◆キーワードで検索する

次の手順で、キーワードを入力して検索することができます。

1 「Windows ヘルプとサポート」画面の「ヘルプの検索」欄に調べたい項目やキーワードを入力する

2 「ヘルプの検索」欄の横の 🔍 をクリック

検索結果が表示されます。

3 検索結果から見たい項目をクリック

トラブル解決Q&A

[100000-27]

▶ 電源.....	472
▶ バッテリ.....	496
▶ NXパッド.....	501
▶ マウス.....	509
▶ 表示.....	513
▶ 文字入力.....	537
▶ ファイル保存.....	543
▶ モデム.....	548
▶ LAN機能.....	554
▶ 無線LAN機能.....	562
▶ 無線WAN機能.....	571
▶ サウンド.....	574
▶ 印刷.....	582
▶ セキュリティチップ機能.....	586
▶ ハードディスク.....	589
▶ SSD.....	599
▶ 光学ドライブ.....	607
▶ 周辺機器.....	630
▶ アプリケーション.....	636
▶ 再セットアップ.....	653
▶ その他.....	656

[100100-27]

➤ はじめに確認してください.	473
➤ 電源が入らない.	474
➤ ディスプレイに何も表示されない.	475
➤ メッセージが表示されて、Windowsが起動しない.	477
➤ 「Windowsエラー回復処理」画面が表示された.	478
➤ 「ユーザー名またはパスワードが正しくありません。」と表示された.	479
➤ パスワードを忘れてしまった.	480
➤ ネットワークブートができない.	482
➤ 電源が切れない.	483
➤ 自動的にスリープ状態にならない.	485
➤ スリープ状態または休止状態から復帰しようとしたらWindowsのログオン画面が表示された.	486
➤ スリープ状態にできない.	487
➤ スリープ状態から復帰できない、復帰に失敗した.	488
➤ 休止状態にできない.	489
➤ 「スタート」ボタンから休止状態にできない.	490
➤ 休止状態から復帰できない、復帰に失敗した.	491
➤ Windowsの電源設定ができない.	492
➤ 本機を一定時間放置すると、スリープ状態になってしまう.	493
➤ USBマウスでスリープ状態から復帰する／しないを設定したい.	494
➤ USBキーボードから復帰する際に使用したキーが復帰後に入力されていることがある.	495

はじめに確認してください

[100102-27]

本機とACアダプタやバッテリー、電源コード、ACコンセントなど、周辺機器の接続を確認してください

電源が入らない、画面が表示されない、などの場合、本機とACアダプタ、バッテリー、周辺機器などの接続が正しく行われていない可能性があります。

本機や使用している周辺機器のマニュアルをご覧ください、一度接続をやりなおしてみてください。

使用しているアプリケーションや周辺機器が、スリープ状態や休止状態に対応しているか確認してください

アプリケーションや周辺機器によっては、使用しているとスリープ状態や休止状態にならないものや、正常に動作しないものがあります。

正常に動作しなくなった場合は、一度本機の電源を切って、電源を入れなおしてください。



チェック

本機の電源を切った場合、スリープ状態になる前の状態に復帰できません。作業中だったデータは失われます。

Q : 電源が入らない

[100101-27]



チェック

次のことをチェックしても電源が入らない、起動しない場合は、本機の故障が考えられます。ご購入元に相談するか、NECにご相談ください。



参照

NECのお問い合わせ先について

『保証規定 & 修理に関するご案内』

A : バッテリーが切れている可能性があります。

本機をバッテリーのみで使用している場合、バッテリーが切れている可能性があります。

本機にACアダプタを接続し、ACコンセントに接続して充電を行ってください。バッテリーを充電しながら、本機を使用することもできます。



参照

バッテリーの充電について

「本機の機能」の「バッテリー」 - 「バッテリーの充電 (P. 62)」

A : 購入後、最初に電源を入れるときは、必ずACアダプタを使用します。

ACアダプタが正しく接続されているか確認してください。バッテリーを使用するには、充電が必要になります。

Q : ディスプレイに何も表示されない

[100603-27]

A : 電源ランプを確認してください。



チェック

本機は、バッテリーの残量が残りわずかの状態になると、電源が入っているかスリープ状態になっているかに関わらず、電源ランプがオレンジ色に点滅します。その場合は、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してから、電源ランプの状態を確認してください。



参照

電源ランプについて

「本機の機能」の「各部の名称」 - 「表示ランプ (P. 25)」

●電源ランプが点灯していない場合

本機の電源が入っていないか、休止状態になっています。電源スイッチを押して、本機を起動するか、休止状態から復帰させてください。

●電源ランプが点滅している場合

本機はスリープ状態になっています。本機をスリープ状態から復帰させてください。



参照

スリープ状態からの復帰について

「本機の機能」の「電源」 - 「スリープ状態 (P. 33)」

●電源ランプが点灯している場合

本機の電源は入っています。次のことを試して、ディスプレイが表示されないか確認してください。

● 外部ディスプレイのみに画面を出力する設定になっていないか確認してください

外部ディスプレイを接続し、画面の出力先を外部ディスプレイのみにしている場合、本機の液晶ディスプレイに画面は表示されません。画面の出力先を確認してください。



参照

画面の出力先の切り替えについて

「本機の機能」の「外部ディスプレイ (P. 102)」

● NXパッドなどのポインティングデバイス进行操作してみてください

電源プランの設定などにより、ディスプレイが省電力状態になっている可能性があります。NXパッドなどのポインティングデバイス进行操作して、ディスプレイの省電力状態が解除されないか確認してください。

● 液晶ディスプレイの輝度が適切か確認してください

液晶ディスプレイの輝度が、画面が見えにくい値になっている可能性があります。液晶ディスプレイの輝度を調整してみてください。



参照

液晶ディスプレイの輝度の調整について

「本機の機能」の「液晶ディスプレイ」 - 「画面表示の調整 (P. 98)」

● 液晶ディスプレイで表示できない解像度になっていないか確認してください

強制的に本体の電源を切った後、セーフモードでWindowsを起動して解像度を確認し、表示できない解像度だった場合は、表示可能な解像度に設定してください。



参照

● 強制的に電源を切る方法

「電源」の「電源が切れない」 - 「強制的に電源を切る (P. 483)」

● セーフモードでWindowsを起動する方法

「周辺機器」の「別売の周辺機器を取り付けたが動作しない、周辺機器を取り付けたら本機が起動しなくなった、他の機能が使えなくなった」 - 「セーフモードでWindowsを起動する (P. 632)」

● DirectXを使用するアプリケーションを使用している場合は、アプリケーションの設定を確認してください

DirectXを使用するアプリケーションを実行すると、画面が表示されなくなることがあります。アプリケーションに添付のマニュアルを参照し、表示解像度を320×200ドット、640×400ドット以外に変更すると、障害を回避できることがあります。



メモ

本機では、320×200ドット、640×400ドットの解像度でしか使えないアプリケーションは、正常に動作しない場合があります。



チェック

これらのチェックを行ってもディスプレイに何も表示されない場合は、故障が考えられます。ご購入元、またはNECにご相談ください。



参照

NECのお問い合わせ先について

『保証規定 & 修理に関するご案内』

Q : メッセージが表示されて、Windowsが起動しない

[100103-27]



チェック

次のことをチェックしても、Windowsが起動できない場合は、ハードディスク（またはSSD）がフォーマット（初期化）されてしまったか、システムが壊れている可能性があります。『再セットアップガイド』をご覧ください。本機のシステムを修復、または再セットアップしてください。



参照

システムの修復、再セットアップについて
『再セットアップガイド』

A : DVD、CDがドライブにセットされている場合は、それらを取り出してください。

DVD、CDがセットされたままで本機の電源を入れると、セットされた媒体から本機を起動しようとしてWindowsが起動しない場合があります。媒体を取り出して本機を再起動してください。

A : USBメモリやPCカード、外付けのディスクドライブなどを使用している場合は、それらを取り外してください。

起動ディスクとして使用可能な周辺機器が取り付けられていると、それらの機器から起動しようとしてWindowsが起動しない場合があります。

A : BIOSセットアップユーティリティの設定を工場出荷時に戻してください。

BIOSセットアップユーティリティの設定が不正になっている可能性があります。「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて」 - 「工場出荷時の設定値に戻す (P. 300)」をご覧ください。BIOSセットアップユーティリティの設定を工場出荷時に戻してみてください。

Q : 「Windowsエラー回復処理」画面が表示された

[100104-07]

A:エラーによる再起動や、システム停止などで強制的に電源を切った場合などWindowsが正常にシャットダウンされなかった場合に表示されます。

【↑】【↓】で起動方法を選択し、【Enter】を押してください。

システムに問題がある場合は、「セーフ モード」を選択して問題の解決を試みることができます。




操作を誤って電源を強制切断した場合など、特に問題が発生していない場合は「Windowsを通常起動する」を選択することでWindowsを通常起動できます。

Q : 「ユーザー名またはパスワードが正しくありません。」 と表示された

[100106-27]

A : キャップスロックキーランプ (、 ) やニューメリックロックキーランプ () の状態を確認し、もう一度パスワードを入力してください。

キャップスロックやニューメリックロックの状態によって、入力される文字が異なり、パスワードを正しく入力できない場合があります。

キャップスロックキーランプ (、 ) やニューメリックロックキーランプ () でキャップスロックやニューメリックロックの状態を確認し、オン/オフを切り替えて、もう一度パスワードを入力してください。

キャップスロックのオン/オフは【Shift】 + 【Caps Lock】で切り替えることができます。

ニューメリックロックのオン/オフは【Fn】 + 【F12】を押すことで切り替えることができます。



参照

表示ランプについて

「本機の機能」の「各部の名称」 - 「表示ランプ (P. 25)」

A : ユーザー名を確認し、もう一度パスワードを入力してください。

選択したユーザー名を確認し、選択したユーザーのパスワードをもう一度正しく入力してください。

Q : パスワードを忘れてしまった

[100107-27]

Windowsのパスワードを忘れてしまった場合

A : 忘れてしまったパスワードを復元することはできません。次のいずれかの方法で対処してください。

- ログオンに失敗した場合、再度表示されるWindowsのログオン画面にパスワードのヒントが表示されるので、そのヒントを確認しパスワードを思い出す
- 別のユーザーでログオンする
- 管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーでログオンして、パスワードを変更する
- 「パスワード リセット ディスク」を使って新しいパスワードを作成する



メモ

「パスワード リセット ディスク」について

「コントロール パネル」→「ユーザー アカウントと家族のための安全設定」→「ユーザー アカウント」の「パスワード リセット ディスクの作成」で作成してください。



チェック

お使いのコンピュータの管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーすべてのパスワードを忘れてしまった場合、Windowsの設定のほとんどは変更できなくなってしまうので注意してください。

スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合

A : NECにお問い合わせください。



チェック

- パスワード解除処置は、保証期限内でも有償です。
- パスワード解除処置は、NECでの対応となります。
- パスワード解除処置は、原則として修理対応となりますので、121コンタクトセンターへお問い合わせください。



参照

NECのお問い合わせ先について

『保証規定 & 修理に関するご案内』

■ ハードディスク（またはSSD）のパスワードを忘れてしまった場合

A : パスワードの解除はできません。ハードディスク（またはSSD）およびハードディスク（またはSSD）内のデータの利用ができなくなります。



チェック

この場合、ハードディスク（またはSSD）は有償交換となり、ハードディスク（またはSSD）に保存したデータは、お客様ご自身で作成されたデータも利用できなくなります。

Q : ネットワークブートができない

[100903-20]

A : ネットワークブート機能（PXE機能）が有効になっているかを確認してください。

ネットワークブートを使用するには、ネットワークブート機能（PXE機能）を有効にする必要があります。



参照

ネットワークブート機能（PXE機能）の設定について
「ネットワークブート機能（PXE機能）（P. 290）」

Q : 電源が切れない

[100112-27]

A : アプリケーションに異常が起きていないか確認してください。

「電源の入れ方と切り方」の手順で電源が切れない場合、アプリケーションがフリーズ（ハングアップ）するなどの異常を起していることが考えられます。

異常を起しているアプリケーションがないか確認し、あった場合は「アプリケーション」の「アプリケーションを強制的に終了させたい (P. 649)」の手順で異常を起しているアプリケーションを強制的に終了してから、もう一度、電源を切る操作を行ってください。



チェック

アプリケーションを強制的に終了させると、保存していないデータの変更が反映されない場合や、データが消えてしまう場合があります。



参照

正しい電源の入れ方と切り方

「本機の機能」の「電源」 - 「電源の入れ方と切り方 (P. 28)」

この方法でも正常に電源を切ることができない場合は、次の手順で本機を強制的に終了させてください。

●強制的に電源を切る



チェック

- 強制的に電源を切って終了させた場合、保存していないデータは消えてしまいます。また、直前に保存したデータが破損、または消えてしまう場合があります。
- ディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスク（またはSSD）の内容が壊れることがあります。
- 電源スイッチでスリープ状態や休止状態になるように設定されている場合、以下の操作をすると、電源が切れずに省電力状態になることがあります。そのようなときは、いったん電源スイッチから手を離し、もう一度電源スイッチを4秒以上押し続けて本機を強制的に終了させてください。なお、工場出荷時の状態では、電源スイッチでスリープ状態になるように設定されています。

本機の電源を強制的に切る場合は、4秒以上電源スイッチを押し続けてください。

●電源を強制OFFできない場合

4秒以上電源スイッチを押し続けても電源が切れない場合には、もう一度4秒以上電源スイッチを押し続けてください。それでも電源が切れない場合は、ご購入元、またはNECにご相談ください。



参照

NECのお問い合わせ先について
『保証規定&修理に関するご案内』

Q : 自動的にスリープ状態にならない

[100201-27]

A : 使用中の電源プランの設定を確認してください。

電源プランの設定で、自動でスリープ状態にならない設定にしているか確認してください。



参照

電源プランの設定

「本機の機能」の「電源」 - 「電源の設定 (P. 41)」

A : 一定間隔で本機にアクセスする周辺機器を使用していないか確認してください。

双方向通信をするプリンタなど、一定間隔で本機にアクセスする周辺機器を接続している場合、自動的にスリープ状態にならない場合があります。

A : 実行中のアプリケーションがある場合は終了してみてください。また、電話回線を使用している場合は接続を切ってください。

A : NXパッドの「デバイス設定」画面を表示している場合は、自動的にスリープ状態になりません。

NXパッドの「デバイス設定」画面（設定項目と操作イメージの動画が表示されている画面）を表示している場合は、自動的にスリープ状態になりません。「デバイス設定」画面を閉じてください。



参照

「デバイス設定」画面

「本機の機能」の「NXパッド」 - 「NXパッドの設定 (P. 80)」

Q : スリープ状態または休止状態から復帰しようとしたらWindowsのログオン画面が表示された

[100203-07]

A : ログオンするユーザーを選択し、パスワードを入力してWindowsにログオンしてください。

スリープ状態または休止状態から復帰するときに、ログオン画面が表示されないようにするには、次の手順を行ってください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[「ユーザー アカウント制御」について \(P. 12\)](#)」

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」の「スリープ解除時のパスワードの要求」をクリック
- 3 「現在利用可能ではない設定を変更します」をクリック
- 4 「スリープ解除時のパスワード保護」欄で「パスワードを必要としない」を選択し、「変更の保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

Q : スリープ状態にできない

[100204-07]

A : USB接続の光学ドライブにセットされたディスクにあるファイルやプログラムを使用していないか確認してください。

USB接続の光学ドライブにセットされたディスクにあるファイルやプログラムを使用している場合は、スリープ状態にできない場合があります。

ファイルを開いている場合はファイルを閉じ、プログラムを実行している場合はプログラムを終了してください。

Q : スリープ状態から復帰できない、復帰に失敗した

[100205-27]

A : 電源ランプの状態とバッテリー残量を確認してください。

●電源ランプが点滅しているが、バッテリー残量が少ない場合

ACアダプタを取り付けACコンセントに接続し、液晶ディスプレイを開いた状態で本機の電源を入れると、データが復帰できる場合があります。

●電源ランプが消灯している場合

スリープ状態中に電源が切れてしまったか、バッテリー残量が少なくなり休止状態に移行した（工場出荷時の設定）可能性があります。

ACアダプタを取り付けACコンセントに接続し、本機の電源を入れてください。休止状態に移行している場合は、休止状態から復帰し、スリープ状態になる前の状態に復帰できます。



チェック

休止状態に移行せずに電源が切れた場合は、スリープ状態になる前の状態に復帰できません。作業中だったデータは失われます。

A : スリープ状態への移行処理中に、次の操作を行わなかったか確認してください。

●ディスプレイを閉じる

このような操作を行うと、スリープ状態から復帰できなくなる場合があります。このような場合は、電源スイッチで電源を入れてください。エラーメッセージが表示された場合は、メッセージに従ってください。



チェック

この場合、スリープ状態になる前の状態に復帰できません。保存していなかったデータは失われます。

Q : 休止状態にできない

[100207-07]

A : 電源プランの設定で「ハイブリッドスリープ」を使用する設定にしている場合、「スタート」ボタンから休止状態にできません。

詳しくは、「「スタート」ボタンから休止状態にできない (P. 490)」をご覧ください。

A : ハードディスク（またはSSD）の空き領域が不足している可能性があります。

休止状態はハードディスク（またはSSD）に本機のメモリなどの状態を記録するため、ハードディスク（またはSSD）に一定の空き領域が必要です。

ハードディスク（またはSSD）の空き領域が十分にあるか確認してください。

A : USB接続の光学ドライブにセットされたディスクにあるファイルやプログラムを使用していないか確認してください。


USB接続の光学ドライブにセットされたディスクにあるファイルやプログラムを使用している場合は、休止状態にできない場合があります。

ファイルを開いている場合はファイルを閉じ、プログラムを実行している場合はプログラムを終了してください。

Q : 「スタート」 ボタンから休止状態にできない

[100208-27]

A : 電源プランの設定で「ハイブリッドスリープ」を使用する設定にしている場合、「スタート」 ボタンから休止状態にできません。

電源プランの設定で「ハイブリッドスリープ」を使用する設定にしている場合、「スタート」 ボタンをクリックし、「シャットダウン」 ボタンの横の  をクリックして表示されるメニューに「休止状態」は表示されません。

「スタート」 ボタンから休止状態にできるようにするには、Windowsの電源プランの設定でハイブリッドスリープを使用しない設定にしてください。



メモ

「ハイブリッドスリープ」とは、スリープ状態に移行する際に、ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報をすべて保存するスリープ状態です。ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報が保存されているため、スリープ状態中に電源が切れた場合でもハードディスク（またはSSD）から復帰することができます。



チェック

本機は、工場出荷時の状態ではハイブリッドスリープを使用しないように設定されています。



参照

- **ハイブリッドスリープについて**
Windowsのヘルプ
- **電源プランの設定**
「本機の機能」の「電源」 - 「電源の設定 (P. 41)」

Q：休止状態から復帰できない、復帰に失敗した

[100209-07]

A：休止状態の間に、周辺機器の取り外しなど機器構成の変更をしなかったか確認してください。

休止状態の間に、周辺機器の取り外しなど機器構成の変更をすると、休止状態からの復帰ができなくなり、作業中のデータが失われる場合があります。

機器構成を変更する場合は、一度休止状態から復帰し、本機の電源を切ってから行ってください。

Q : Windowsの電源設定ができない

[100210-07]

A : 権限を制限されたユーザーでログオンしていないか確認してください。

本機を複数の人で使用している場合は、管理者によってユーザーの設定できる項目に制限がかけられている場合があります。

このような場合は、管理者に依頼して制限を解除してもらるか、または管理者（Administrator）権限を持つユーザーでログオンして省電力の設定を行う必要があります。

Q : 本機を一定時間放置すると、スリープ状態になってしまう

[100211-27]

A : 工場出荷時は、省電力のため自動でスリープ状態になるように設定してあります。

自動でスリープ状態になるのを無効にしたい場合は、Windowsの電源プランの設定を変更してください。



参照

電源プランの設定

「本機の機能」の「電源」 - 「電源の設定 (P. 41)」

Q : USBマウスでスリープ状態から復帰する／しないを設定したい

[100212-27]

A : 次の手順で設定を行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く

2 「マウスとそのほかのポインティング デバイス」をダブルクリック

3 設定を変更するUSBマウスをダブルクリック

4 「電源の管理」タブをクリック

5 次のように設定する

- スリープ状態から復帰するように設定する場合
「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを付ける
- スリープ状態から復帰しないように設定する場合
「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」のチェックを外す

6 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。



チェック

USBマウスでスリープ状態から復帰する設定にしても、USBマウス操作でスリープ状態から復帰できない場合があります。その場合は他の方法でスリープ状態から復帰を行ってください。

Q : USBキーボードから復帰する際に使用したキーが復帰後に入力されていることがある

[100213-27]

A : 次の手順で設定を行ってください。



チェック

- 管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。
- これらの手順を行う前に、実行中のアプリケーションを全て終了してください。
- 別売りのUSBテンキーボード2 (PC-VP-KB13) を利用している場合、この手順を実行後、USBテンキーボード2でスリープから復帰するとUSBテンキーボード2のキー入力ができなくなる場合があります。その場合は、電源ボタンでスリープから復帰するなど他の方法で復帰してください。また、現象が発生した場合はUSBテンキーボード2を接続し直してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

2 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥DRV¥FHCROR

3 表示されたフォルダにある「FHCROR」を右クリックし「管理者として実行」をクリック

コマンドプロンプトが表示されますが、しばらくすると自動的に閉じます。

4 Windowsを再起動する

以上で設定は完了です。

Q&A : バッテリ

[100300-27]

- 本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してもバッテリーの充電が始まらない. 497
- タスクバーの通知領域に電源アイコンが表示されない. 498
- 満充電したのに、バッテリー充電ランプが点灯する. 499
- バッテリー充電ランプが点滅する. 500

Q : 本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してもバッテリーの充電が始まらない

[100301-27]

A : バッテリー充電ランプを確認してください。

- **バッテリー充電ランプが点滅している場合**
バッテリーパックが接触不良を起こしている可能性があります。バッテリーパックを取り外し、取り付けなおしてください。
- **バッテリー充電ランプが消灯している場合**
バッテリーパックが満充電、または満充電に近い状態の可能性があります。そのような状態では、充電が始まらない場合があります。

Q : タスク バーの通知領域に電源アイコンが表示されない

[100302-07]

A : 次の手順で設定してください。

- 1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」をクリックし、「タスク バーと [スタート] メニュー」をクリック
- 3 「タスク バー」 タブをクリックし、「通知領域」の「カスタマイズ」 ボタンをクリック
- 4 「電源」の動作欄で「アイコンと通知を表示」を選択する
- 5 「OK」 ボタンをクリック
- 6 「OK」 ボタンをクリック

Q : 満充電したのに、バッテリー充電ランプが点灯する

[100303-27]

A : バッテリーは少しずつ自然放電しているので、それを補充するため、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続しているときは自動的に充電が始まります。故障ではありません。

Q : バッテリ充電ランプが点滅する

[100304-27]

A : 電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取り外してからもう一度正しく取り付けなおしてください。

バッテリーパックを取り付けなおしても直らない場合は、バッテリーリフレッシュを行ってください。バッテリーリフレッシュを行っても直らない場合は、バッテリーパックの寿命ですので、別売のバッテリーパックと交換してください。



参照

バッテリーリフレッシュ、バッテリーパックの交換について
「本機の機能」の「バッテリー (P. 55)」

Q&A : NXパッド

[100400-27]

- NXパッドが動作しない. 502
- NXパッドの反応が鈍い. 505
- NXパッドの拡張機能を使用したい. 506
- 文字入力中に、NXパッドのタップ機能が動作したり、マウスカーソルが移動してしまう. 507
- 一時的にNXパッドを無効にしたい. 508

Q : NXパッドが動作しない

[100401-27]

A : NXパッドや操作する指が汚れていないか確認してください。

NXパッドや操作する指に水分や脂分が付いていると、正常に動作しません。汚れをふき取ってから操作してください。

A : NXパッドを操作する際は次の点に注意してください。

- **指先で操作する**
指先以外で操作すると、正常に動作しない場合があります。
- **力をかけすぎない**
必要以上に力をかけると、正常に動作しない場合があります。

A : NXパッドの2カ所以上に同時に触れていないか確認してください。

本機のNXパッドはマルチタッチに対応しています。NXパッドの2カ所以上に同時に触れていると、別の操作となる場合があります。

A : NXパッド上のスクロール領域で操作していないか、確認してください。

NXパッドドライバ使用時、NXパッドドライバでNXパッドのスクロール機能を有効に設定していると、パッドのスクロール領域（右端、下端）でポインタの移動やドラッグなどの操作をすることができません。

右端や下端でも操作したい場合は、スクロール機能を無効にするか操作領域を変更してください。




参照

スクロール機能の有効/無効、領域の設定方法

「本機の機能」の「NXパッド」 - 「NXパッドの設定 (P. 80)」

A : マウスポインタがになっていないか確認してください。

マウスポインタがになっている場合は、本機がプログラムの処理をしているので、NXパッドなどのポインティングデバイスをクリックしても操作は受け付けられません。処理が終わるまでお待ちください。

しばらく待ってもNXパッドなどのポインティングデバイスの操作ができない場合は、プログラムに異常が発生して動かなくなった（フリーズした）可能性があります。アプリケーションを強制終了してください。この場合、保存していなかったデータは消去されます。



参照

アプリケーションの強制終了

「アプリケーション」の「アプリケーションを強制的に終了させたい (P. 649)」

A : マウスドライバの変更などで一時的にNXパッドが使用できなくなっている可能性があります。

マウスポインタが動かない場合は、次の手順で、キーボードを使用して本機を再起動してください。

1 【Windowsキー】 (Windowsキー) を押す

「スタート」メニューが表示されます。

2 【→】 を2回押す

3 【↑】【↓】 で表示されたメニューから「再起動」を選択し、【Enter】 を押す

A : 【Fn】 + スペースキーを押し、NXパッドがオンになるか確認してください。

NXパッドドライバ使用時は、【Fn】 + スペースキーを押すことで、NXパッドのオン/オフを切り替えることができます。
【Fn】 + スペースキーを押して、NXパッドがオンになるか確認してください。



参照

【Fn】 について

「本機の機能」の「キーボード」 - 「キーの使い方 (P. 75)」

A : NXパッドドライバで、USBマウス接続時にNXパッドを使用しない設定になっていないか確認してください。

次の手順で設定を確認してください。

1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」 をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」 をクリックし、「デバイスとプリンター」 の「マウス」 をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

3 「デバイス設定」 タブをクリック

「USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする」にチェックが付いている場合、USBマウスを接続しているとNXパッドでの操作が行えません。

USBマウスと同時にNXパッドを使用する場合は、チェックを外してください。

4 「OK」 ボタンをクリック

A: BIOSセットアップユーティリティでNXパッドを使用しない設定になっていないか確認してください。



参照

- **BIOSセットアップユーティリティについて**
「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」
- **BIOSセットアップユーティリティの設定項目**
「システム設定」の「設定項目一覧」 - 「[Advanced] メニュー (P. 303)」

Q : NXパッドの反応が鈍い

[100402-27]


A : NXパッドや操作する指が汚れていないか確認してください。

NXパッドや操作する指に水分や脂分が付いていると、正常に動作しません。汚れをふき取ってから操作してください。

A : NXパッドを操作する際は次の点に注意してください。

- **指先で操作する**
指先以外で操作すると、正常に動作しない場合があります。
- **力をかけすぎない**
必要以上に力をかけると、正常に動作しない場合があります。

A : マウスポインタがになっていないか確認してください。

マウスポインタがになっている場合は、本機がプログラムの処理をしているので、NXパッドなどのポインティングデバイスをクリックしても反応が鈍くなる場合があります。処理が終わるまでお待ちください。

しばらく待っても処理が終了しない場合は、プログラムに異常が発生して動かなくなった（フリーズした）可能性があります。アプリケーションを強制終了してください。この場合、保存していなかったデータは消去されます。



参照

アプリケーションの強制終了

「アプリケーション」の「アプリケーションを強制的に終了させたい (P. 649)」

A : ポインタの移動速度が遅く設定されていないか確認してください。

次の手順でポインタの移動速度の設定を確認し、必要に応じて設定しなおしてください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック
- 3 「ポインター オプション」タブをクリックし、「速度」欄でポインタの速度を確認し、必要に応じて設定しなおす
- 4 「OK」ボタンをクリック

Q : NXパッドの拡張機能を使用したい

[100403-27]

A : 次の手順で、NXパッドドライバの設定画面を表示し設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」の「マウス」をクリック



チェック

NXパッドのドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に変更した場合、NXパッドの拡張機能を使用するには、ドライバをNXパッドドライバへ戻す必要があります。



参照

- **NXパッドドライバへ戻す**
「本機の機能」の「NXパッド」 - 「NXパッドドライバへ戻す (P. 86)」
- **NXパッドの拡張機能を使用する**
「本機の機能」の「NXパッド」 - 「NXパッドの設定 (P. 80)」

Q: 文字入力中に、NXパッドのタップ機能が動作したり、マウスカーソルが移動してしまう

[100704-27]

A: 文字入力中にNXパッドに手が触れたり、NXパッドの近くに手が行ったりしたためです。

NXパッドに手が触れたり、NXパッドの近くに手が行ったりすると、手が触れていなくてもNXパッドで使用している静電容量式という仕組みのためにタップ機能が動作したり、マウスカーソルが移動してしまう場合があります。

NXパッドドライバを使用している場合、パッドやSmartSenseの感度を調整したり、【Fn】 + スペースキーを押して、NXパッドのオン/オフを切り替えることができます。



参照

- **パッドやSmartSenseの感度の調整**
「本機の機能」の「NXパッド」 - 「NXパッドの設定 (P. 80)」
- **【Fn】について**
「キーボード」の「キーの使い方 (P. 75)」

また、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニュー- 「Device Configuration」 - 「Internal Mouse」を「Disabled」に設定することで、NXパッドを無効にできます。



メモ

NXパッドのドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に変更している場合でも無効にできます。



参照


NXパッドを無効にする

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」および「設定項目一覧 (P. 301)」


Q : 一時的にNXパッドを無効にしたい

[100405-27]

A : 【Fn】 + スペースキーを押すごとにNXパッドのオン/オフが切り替わります。

NXパッドのオン/オフは、タスクバーの通知領域の  をクリックすると表示されるNXパッドのアイコンで確認できます。

 の場合は、パッド部分での操作が有効になっています。

 の場合は、パッド部分での操作が無効になっています。



参照

【Fn】について

「本機の機能」の「キーボード」 - 「キーの使い方 (P. 75)」

Q&A : マウス

[100500-27]

- ▶ はじめに確認してください. 510
- ▶ マウスを動かしても、何も反応しない. 511
- ▶ マウスの動きが悪い. 512

はじめに確認してください

[100503-27]


マウスと本機が正しく接続されていることを確認してください

マウスが反応しない、動きが悪い場合は、マウスと本機との接続が緩んだり外れたりしていないか確認してください。

Q : マウスを動かしても、何も反応しない

[100501-27]

A : マウスポインタがになっていないか確認してください。

マウスポインタがになっている場合は、本機がプログラムの処理をしているので、マウスをクリックしても操作は受け付けられません。処理が終わるまでお待ちください。

しばらく待ってもマウスからの操作ができない場合は、プログラムに異常が発生して動かなくなった（フリーズした）可能性があります。アプリケーションを強制終了してください。この場合、保存していなかったデータは消去されます。



参照

アプリケーションの強制終了

「アプリケーション」の「アプリケーションを強制的に終了させたい (P. 649)」

A : マウスの設定が正しく行われているか確認してください。

他社製USBマウスを使用している場合は、ドライバなどの設定が必要になる場合があります。設定が正しく行われているか確認してください。



参照

マウスの設定について

「本機の機能」の「マウス」 - 「マウスを接続するための設定方法 (P. 92)」

Q : マウスの動きが悪い

[100502-00]

A : マウスのセンサー周辺が汚れていないか確認し、汚れている場合は掃除してください。

レーザー式や光学式マウスをお使いの場合、底面のセンサーにほこりなどが付着して、マウスの移動を正しく読み取ることができなくなる場合があります。センサーの周辺の汚れやほこりを軽く払ってください。

A : レーザー式や光学式マウスをお使いの場合は、光沢のない無地の紙の上で動作するか確認してください。

レーザー式や光学式マウスは、マウス底面に光源があり、それをセンサーで検知することでマウスの動きを判断しています。次のような表面では正しく動作しない（操作どおりにマウスポインタが動かない）場合があります。

- 反射しやすいもの（鏡、ガラスなど）
- 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの（雑誌や新聞の写真など）
- 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの
- 光学式マウスの場合、光沢があるもの（透明、半透明な素材を含む）

操作どおりにマウスポインタが動かないときは、光沢がない無地の印刷用紙やそれぞれのマウス（レーザー式または光学式）に対応したマウスパッドなどの上で操作してください。

[100600-27]

- はじめに確認してください. 514
- 電源を入れてしばらくすると、画面が真っ暗になる. 515
- 表示できるはずの高解像度を選択できない. 516
- ディスプレイに何も表示されない. 517
- 画面の解像度を変更すると色数も変更される. 519
- 画面の色調を調整したい. 520
- 再生中の動画がとぎれる、なめらかに再生されない. 521
- 動画の再生中に画面が消えてしまう. 522
- Windows Media PlayerでDVDが再生できない. 523
- Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない. 524
- Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる. 525
- Corel WinDVDでDVDが再生できない. 527
- Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない. 528
- Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる. 529
- 個人設定で、Aero®に設定できない. 531
- 画面の表示位置やサイズがおかしい. 532
- 外部ディスプレイで画面が流れるように表示される. 533
- 外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい. 534
- HDMI接続したテレビや外部ディスプレイに映像が表示されない. 535
- HDMIでテレビに接続すると、画面の周りがかみ出してしまい、表示されない部分がある. 536

はじめに確認してください

[100618-27]

本機や外部ディスプレイの電源の状態を確認してください

画面が表示されない、途中で消えるなどの場合は、本機がスリープ状態や休止状態になっていたり、外部ディスプレイ使用時は外部ディスプレイの省電力機能が動作したり、電源が切れていないか確認してください。

外部ディスプレイ使用時は、本機と外部ディスプレイの接続を確認してください

外部ディスプレイを使用している場合は、本機と外部ディスプレイが正しく接続されているか、また正しいケーブルを使用しているか確認してください。

Q : 電源を入れてしばらくすると、画面が真っ暗になる

[100601-27]

A : 液晶ディスプレイの電源が切れている可能性があります。

使用中の電源プランで「ディスプレイの電源を切る」が設定されている場合、液晶ディスプレイの電源が切れている可能性があります。NXパッドなどのポインティングデバイスやキーボードを操作することで、液晶ディスプレイの電源が入り、画面が表示されます。元に戻らない場合は、本機がスリープ状態になっている可能性があります。

A : 本機がスリープ状態になっている可能性があります。

電源ランプで本機の状態を確認し、本機がスリープ状態になっている場合は復帰させてください。一定時間経過後にスリープ状態にならないように設定したい場合は、Windowsの電源プランの設定を変更してください。



チェック

本機は、バッテリーの残量が残りわずかの状態になると、電源が入っているかスリープ状態になっているかに関わらず、電源ランプがオレンジ色に点滅します。本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してから、電源ランプの状態を確認してください。



参照

- **電源ランプについて**
「本機の機能」の「各部の名称」 - 「表示ランプ (P. 25)」
- **電源プランの設定**
「本機の機能」の「電源」 - 「電源の設定 (P. 41)」

Q : 表示できるはずの高解像度を選択できない

[100602-27]

A : 外部ディスプレイを使用している場合、プラグアンドプレイ (DDC) 対応ディスプレイでも、ディスプレイの種類によっては、高解像度などサポートしている表示モードの一部を選べないことがあります。

「本機の機能」の「外部ディスプレイ」 - 「ディスプレイに合わせた設定 (P. 129)」をご覧ください。ディスプレイの種類を指定してください。

Q : ディスプレイに何も表示されない

[100603-27]

A : 電源ランプを確認してください。



チェック

本機は、バッテリーの残量が残りわずかの状態になると、電源が入っているかスリープ状態になっているかに関わらず、電源ランプがオレンジ色に点滅します。その場合は、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してから、電源ランプの状態を確認してください。



参照

電源ランプについて

「本機の機能」の「各部の名称」 - 「表示ランプ (P. 25)」

●電源ランプが点灯していない場合

本機の電源が入っていないか、休止状態になっています。電源スイッチを押して、本機を起動するか、休止状態から復帰させてください。

●電源ランプが点滅している場合

本機はスリープ状態になっています。本機をスリープ状態から復帰させてください。



参照

スリープ状態からの復帰について

「本機の機能」の「電源」 - 「スリープ状態 (P. 33)」

●電源ランプが点灯している場合

本機の電源は入っています。次のことを試して、ディスプレイが表示されないか確認してください。

●外部ディスプレイのみに画面を出力する設定になっていないか確認してください

外部ディスプレイを接続し、画面の出力先を外部ディスプレイのみにしている場合、本機の液晶ディスプレイに画面は表示されません。画面の出力先を確認してください。



参照

画面の出力先の切り替えについて

「本機の機能」の「外部ディスプレイ (P. 102)」

●NXパッドなどのポインティングデバイス进行操作してみてください

電源プランの設定などにより、ディスプレイが省電力状態になっている可能性があります。NXパッドなどのポインティングデバイス进行操作して、ディスプレイの省電力状態が解除されないか確認してください。

●液晶ディスプレイの輝度が適切か確認してください

液晶ディスプレイの輝度が、画面が見えにくい値になっている可能性があります。液晶ディスプレイの輝度を調整してみてください。



参照

液晶ディスプレイの輝度の調整について

「本機の機能」の「液晶ディスプレイ」 - 「画面表示の調整 (P. 98)」

● 液晶ディスプレイで表示できない解像度になっていないか確認してください

強制的に本体の電源を切った後、セーフモードでWindowsを起動して解像度を確認し、表示できない解像度だった場合は、表示可能な解像度に設定してください。



参照

● 強制的に電源を切る方法

「電源」の「電源が切れない」 - 「強制的に電源を切る (P. 483)」

● セーフモードでWindowsを起動する方法

「周辺機器」の「別売の周辺機器を取り付けたが動作しない、周辺機器を取り付けたら本機が起動しなくなった、他の機能が使えなくなった」 - 「セーフモードでWindowsを起動する (P. 632)」

● DirectXを使用するアプリケーションを使用している場合は、アプリケーションの設定を確認してください

DirectXを使用するアプリケーションを実行すると、画面が表示されなくなることがあります。アプリケーションに添付のマニュアルを参照し、表示解像度を320×200ドット、640×400ドット以外に変更すると、障害を回避できることがあります。



メモ

本機では、320×200ドット、640×400ドットの解像度でしか使えないアプリケーションは、正常に動作しない場合があります。



チェック

これらのチェックを行ってもディスプレイに何も表示されない場合は、故障が考えられます。ご購入元、またはNECにご相談ください。



参照

NECのお問い合わせ先について

『保証規定 & 修理に関するご案内』

Q : 画面の解像度を変更すると色数も変更される

[100604-07]

A : 画面の設定で「解像度」の変更を行うと、「色」がその解像度で使用できる最も多い色数の設定に変更されます。

「解像度」だけ変更し「色」は変更したくない場合には、解像度を変更した後に「色」を設定しなおしてください。

Q : 画面の色調を調整したい

[100606-27]

A : 次の手順で調整してください。

- 1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」 をクリック
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」 の「画面の解像度の調整」 をクリック
- 3 「詳細設定」 をクリック
- 4 「インテル(R) グラフィック/メディア・コントロール・パネル」 タブをクリック
- 5 「グラフィック プロパティ」 ボタンをクリック
- 6 「ディスプレイ」 の「色調整」 をクリック

表示される画面で色調の調整を行ってください。

Q : 再生中の動画がとぎれる、なめらかに再生されない

[100607-27]

A : 動画の再生を行うアプリケーション以外のアプリケーションを終了してください。

動画の再生には処理能力を多く必要とするものもあり、複数のアプリケーションを使用中に動画の再生を行うと、再生がとぎれる場合や、なめらかに再生ができない場合があります。

A : ECOモード機能で選択しているモードを確認してください。

ECOモード機能で、省電力を優先するモードを選択している場合、動画の再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 47)」

A : 再生中はウィンドウの大きさや位置を変更しないでください。

動画の再生中に、ウィンドウの大きさや位置を変更すると、音飛びや画像の乱れの原因になる場合があります。

A : Intel® WiDiで接続した外部ディスプレイやテレビに表示している場合は、解像度を低くしてください。

Intel® WiDiで接続した外部ディスプレイやテレビに表示している映像が乱れやすい場合は、解像度を1,280×720に設定してください。

画質は低下しますが、転送するデータ量が減るため映像が安定する場合があります。

Q : 動画の再生中に画面が消えてしまう

[100608-07]

A : 電源の設定を確認してください。

MPEG形式の動画を再生中にスリープ状態や休止状態に移行した場合や、ディスプレイの省電力機能やパワーマネジメント機能が働いた場合、再生画面が消えてしまいます。

動画を再生するときは、スリープ状態や休止状態およびディスプレイの省電力機能やパワーマネジメント機能をオフにしてください。

Q : Windows Media PlayerでDVDが再生できない

[101902-07]

A : CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生しようとしていないか確認してください。

Windows Media Playerは、CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルの再生には対応していません。



メモ

CPRM方式による著作権保護は、デジタルテレビ放送番組をDVDに記録するためなどに用いられています。

Q : Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない

[101904-07]

A : Windows Media Playerで使用可能な規格のディスクか、また使用しているディスクや光学ドライブの状態に問題はないか確認してください。

本機の光学ドライブで利用できるディスクであっても、本機やWindows Media Playerで使用できない規格で記録されていると認識ができない場合があります。

また、使用しているディスクや光学ドライブの状態によってはディスクの認識ができない場合があります。使用しているディスクや光学ドライブの確認を行ってください。

Q : Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる

[101905-27]

A : 再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

Windows Media Playerで、DVDやビデオCDを再生する場合、再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

また、メモリを増設できるモデルでは、メモリを増設することによって動作が改善することがあります。



参照

メモリを増設するには

「本機の機能」の「メモリ (P. 258)」

A : ECOモード機能で選択しているモードを確認してください。

ECOモード機能で、省電力を優先するモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 47)」

A : 電源オプションの設定を確認してください。

次の手順で電源オプションの設定を確認してください。

1

「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2

「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3

現在選択している電源プランの「プラン設定の変更」をクリック

4

「詳細な電源設定の変更」をクリック

5

「マルチメディアの設定」→「ビデオの再生時」をクリック

6

それぞれの電源状態の欄が「ビデオ品質の最適化」に設定されているか確認する

「ビデオ品質の最適化」に設定されていない場合は、「ビデオ品質の最適化」に設定してください。

7 「OK」ボタンをクリック

Q : Corel WinDVDでDVDが再生できない

[101914-00]

A : CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生しようとしていないか確認してください。

添付のCorel WinDVDで、CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生するためにはCPRM鍵のダウンロードが必要です。

「このディスクにはCPRM著作権保護のかかったタイトルが含まれています。・・・」と表示された場合は、CPRMコンテンツを再生するためのCPRM鍵をダウンロードしてください。

詳しい手順についてはCorel WinDVDのヘルプファイルを参照してください。



チェック

外部ディスプレイ使用時、接続しているディスプレイが、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない場合は、著作権保護された映像をデジタル出力できません。



メモ

CPRM方式による著作権保護は、デジタルテレビ放送番組をDVDに記録するためなどに用いられています。

Q : Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない

[101906-07]

A : Corel WinDVDで使用可能な規格のディスクか、また使用しているディスクや光学ドライブの状態に問題はないか確認してください。

本機の光学ドライブで使用できるディスクであっても、本機やCorel WinDVDで使用できない規格で記録されていると認識ができない場合があります。

また、使用しているディスクや光学ドライブの状態によってはディスクの認識ができない場合があります。使用しているディスクや光学ドライブの確認を行ってください。



参照

Corel WinDVDで使用できるディスクの規格、ディスクや光学ドライブの確認について

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「Corel WinDVD」 - 「使用上の注意 (P. 442)」

Q : Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる

[101907-27]

A : 再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

Corel WinDVDで、DVDを再生する場合、再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。また、メモリを増設できるモデルでは、メモリを増設することによって動作が改善することがあります。



参照

メモリを増設するには
「本機の機能」の「メモリ (P. 258)」

A : ECOモード機能で選択しているモードを確認してください。

ECOモード機能で、省電力を優先するモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について
「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 47)」

A : 電源オプションの設定を確認してください。

次の手順で電源オプションの設定を確認してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 現在選択している電源プランの「プラン設定の変更」をクリック
- 4 「詳細な電源設定の変更」をクリック
- 5 「マルチメディアの設定」→「ビデオの再生時」をクリック
- 6 それぞれの電源状態の欄が「ビデオ品質の最適化」に設定されているか確認する
「ビデオ品質の最適化」に設定されていない場合は、「ビデオ品質の最適化」に設定してください。

7 「OK」 ボタンをクリック

A : 再生するDVDによっては、ジャギー（輪郭のギザギザ）が目立つ場合があります。

次の手順で、Corel WinDVDの設定を変更してみてください。再生品質が改善する場合があります。

1 Corel WinDVDの画面上で右クリック

2 表示されたメニューから「設定」をクリック

3 「オーディオ/ビデオ設定」タブをクリック

4 「デインターレース」欄で「プログレッシブ」を選択する

5 「OK」 ボタンをクリック

A : Corel WinDVDのオンスクリーン表示をオフにしてください。

次の手順で、Corel WinDVDのオンスクリーン表示をしない設定に変更してください。音量などのオンスクリーン文字が表示されなくなりますが、動作が改善する場合があります。

1 Corel WinDVDの画面上で右クリック

2 表示されたメニューから「設定」をクリック

3 「環境設定」タブをクリック

4 「オンスクリーン ディスプレイを有効にする」のチェックを外す

5 「OK」 ボタンをクリック

A : 画面のテーマを「Aero テーマ」から選択してください。

画面のテーマを「Aero テーマ」以外に設定した状態で、Corel WinDVDで再生を行うと、映像の乱れやコマ落ちが発生する場合があります。

Q : 個人設定で、Aero[®]に設定できない

[100609-07]

A : 「Aero テーマ」からテーマを選択して、設定を行ってください。

Aero[®]を使用する場合は、「Aero テーマ」からテーマを選択し、設定を行ってください。「ベーシック テーマとハイコントラスト テーマ」のテーマではAero[®]は使用できません。

A : Aero[®]の実行に必要な事項を満たしていない場合は、Aero[®]は選択できません。



参照

Aero[®]の実行に必要な事項、およびAero[®]の実行
Windowsのヘルプ

Q : 画面の表示位置やサイズがおかしい

[100610-27]

A : ディ스플레이ストレッチ機能の設定を確認してください。

ディスプレイストレッチ機能が無効の状態、デスクトップの解像度を液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度に設定した場合、画面は液晶ディスプレイ中央に表示され、周辺には黒い枠が表示されます。

画面を液晶ディスプレイ全体に拡大表示したい場合は、ディスプレイストレッチ機能を有効にしてください。



参照

ディスプレイストレッチ機能について

「本機の機能」の「液晶ディスプレイ」 - 「ディスプレイストレッチ機能 (P. 101)」

A : 外部ディスプレイを使用している場合は、ディスプレイ側で表示位置やサイズを調整してください。



参照

表示位置やサイズの調整について

ディスプレイに添付のマニュアル

Q : 外部ディスプレイで画面が流れるように表示される

[100611-27]

A : お使いのディスプレイのディスプレイ情報ファイルを最新のものに更新してください。

一部のDDC対応ディスプレイにおいて、ディスプレイ情報ファイルがないためにディスプレイの同期がとれず、画面が流れるように表示される場合があります。

この場合には、ディスプレイ製造元より最新のディスプレイ情報ファイルを入手し、セットアップしてください。

Q : 外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい

[100612-27]

A : メイン ディスプレイの切り替え操作を行うとデスクトップ アイコンがメイン ディスプレイに正しく表示されない場合があります。



参照

文書番号 : 2475327

「Windows 7 で複数台のモニターを使用し、プライマリ ディスプレイの切り替えを行うと、デスクトップ上のアイコンが変更したディスプレイに表示されない場合がある」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 14\)](#)」を参照してください。

Q : HDMI接続したテレビや外部ディスプレイに映像が表示されない

[100616-27]

A : 出力先がHDMIコネクタに設定されているか確認してください。



参照

画面の出力先の切り替えについて

「本機の機能」の「外部ディスプレイ (P. 102)」

A : I/O制限で、HDMIコネクタの接続を使用不可に設定していないか確認してください。



参照

I/O制限について

「本機の機能」の「セキュリティ機能」 - 「I/O制限 (P. 270)」

A : 接続しているテレビや外部ディスプレイの設定を確認してください。

接続しているテレビや外部ディスプレイのマニュアルをご覧になり、次のことを確認してください。

- 入力信号の設定はあっているか
- 複数の入力に対応している場合、本機と接続したHDMIコネクタからの信号を表示する設定になっているか

Q : HDMIでテレビに接続すると、画面の周りのはみ出し てしまい、表示されない部分がある

[100617-27]

A : テレビの設定をアンダースキャンに変更してください。

テレビのオーバースキャン機能（従来のテレビ方式との互換性を持たせるために、画面の周囲を表示しない機能）によるものです。テレビの設定をアンダースキャンに変更してください。
設定方法について詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

A : 表示の大きさを調節してください。

次の手順で表示の大きさを調節してください。

- 1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」 をクリック
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」 の「画面の解像度の調整」 をクリック
- 3 「詳細設定」 をクリック
- 4 「インテル(R) グラフィック/メディア・コントロール・パネル」 タブをクリック
- 5 「グラフィック プロパティ」 ボタンをクリック
- 6 「ディスプレイ」 の「一般設定」 をクリック
- 7 「ディスプレイ」 欄で「デジタルテレビ」 をクリック
- 8 「スケーリング」 欄の水平スケーリングと垂直スケーリングを左右にドラッグして、表示の大きさを調節する

Q&A : 文字入力

[100700-27]

- ▶ はじめに確認してください. 538
- ▶ キーボードのキーを押しても、何も反応しない. 539
- ▶ 記号などで入力できない文字がある. 540
- ▶ 別売のキーボードを接続したが、キーを押しても反応しない。使えないキーがある. 541
- ▶ 文字入力中に、NXパッドのタップ機能が動作したり、マウスカーソルが移動してしまう. 542

はじめに確認してください

[100701-27]

キャップスロックキーランプ (A) でキャップスロックの状態を確認してください

キャップスロックキーランプ (A) が点灯している場合はキャップスロックがオン、消灯している場合はキャップスロックがオフになっています。

キャップスロックの状態により、大文字/小文字の入力が変わります。

- **キャップスロックがオン**

【Shift】を押していないときは大文字が、押しているときは小文字が入力されます。

- **キャップスロックがオフ**

【Shift】を押していないときは小文字が、押しているときは大文字が入力されます。

キャップスロックのオン/オフは【Shift】 + 【Caps Lock】で切り替えることができます。

ニューメリックロックキーランプ (N) でニューメリックロックの状態を確認してください

ニューメリックロックキーランプ (N) が点灯している場合はニューメリックロックがオン、消灯している場合はニューメリックロックがオフになっています。

ニューメリックロックの状態により、キーボードの一部で入力できる文字が変わります。

- **ニューメリックロックがオン**

キーボードの一部がテンキーとして機能します。

- **ニューメリックロックがオフ**

通常の文字入力が行えます。

ニューメリックロックのオン/オフは【Fn】 + 【F12】を押すことで切り替えることができます。

日本語入力の入力モードを確認してください

日本語入力が入力したいモードになっているか確認し、必要に応じてモードを切り替えてください。

工場出荷時の状態で日本語入力と英字入力を切り替えるには、【半角/全角】または【Caps Lock】を押します。

日本語入力モードのときに、かな入力とローマ字入力を切り替えるには、次の手順で行います。


1 【Alt】 + 【カタカナ ひらがな ローマ字】を押す

2 確認のメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリック

Q : キーボードのキーを押しても、何も反応しない

[100706-27]

A : マウスポインタがになっていないか確認してください。

マウスポインタがになっている場合は、本機がプログラムの処理をしているので、キーボードからの操作は受け付けられません。処理が終わるまでお待ちください。

しばらく待ってもキーボードからの操作ができない場合は、プログラムに異常が発生して動かなくなった（フリーズした）可能性があります。アプリケーションを強制終了してください。この場合、保存していなかったデータは消去されます。



参照

アプリケーションの強制終了

「アプリケーション」の「アプリケーションを強制的に終了させたい (P. 649)」

A : 別売のキーボードを使用している場合は、本機との接続を確認してください。

Q : 記号などで入力できない文字がある

[100702-07]

A : 日本語入力システムを使用しても入力できない文字は、文字コード表を使って入力します。

文字コード表は次の手順で起動します。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」をクリック

2 「アクセサリ」→「システムツール」→「文字コード表」をクリック



参照

文字コード表の使い方

Windowsのヘルプ

Q : 別売のキーボードを接続したが、キーを押しても反応しない。使えないキーがある

[100703-07]

A : キーボードの設定を行ってください。

使用しているキーボードにマニュアルやドライバが添付されている場合は、キーボードのマニュアルに従って設定やドライバのインストールを行ってください。

マニュアルやドライバが添付されていない場合は、次の手順でキーボードの設定を行ってみてください。



チェック

この方法で設定すると別売のキーボードも使えますが、キーボードによっては、一部のキーが使えなくなることがあります。

- 1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く
- 2 「キーボード」をダブルクリック
- 3 表示されたキーボードから設定するキーボード名をダブルクリック
- 4 「ドライバー」タブをクリックし、「ドライバーの更新」ボタンをクリック
- 5 「コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します」をクリック
- 6 「コンピューター上のデバイス ドライバーの一覧から選択します」をクリック

以後は、接続したキーボードの種類などを参考に画面の指示に従って設定してください。

Q: 文字入力中に、NXパッドのタップ機能が動作したり、マウスカーソルが移動してしまう

[100704-27]

A: 文字入力中にNXパッドに手が触れたり、NXパッドの近くに手が行ったりしたためです。

NXパッドに手が触れたり、NXパッドの近くに手が行ったりすると、手が触れていなくてもNXパッドで使用している静電容量式という仕組みのためにタップ機能が動作したり、マウスカーソルが移動してしまう場合があります。

NXパッドドライバを使用している場合、パッドやSmartSenseの感度を調整したり、【Fn】 + スペースキーを押して、NXパッドのオン/オフを切り替えることができます。



参照

- **パッドやSmartSenseの感度の調整**
「本機の機能」の「NXパッド」 - 「NXパッドの設定 (P. 80)」
- **【Fn】について**
「キーボード」の「キーの使い方 (P. 75)」

また、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニュー- 「Device Configuration」 - 「Internal Mouse」を「Disabled」に設定することで、NXパッドを無効にできます。



メモ

NXパッドのドライバを「標準 PS/2 ポート マウス」に変更している場合でも無効にできます。



参照

NXパッドを無効にする

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」および「設定項目一覧 (P. 301)」

Q&A : ファイル保存

[100800-27]

- ▶ はじめに確認してください. 544
- ▶ ハードディスクに保存できない. 545
- ▶ SSDに保存できない. 546
- ▶ DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）. 547

はじめに確認してください

[100801-27]

DeviceProtectorで光学ドライブの機能を制限していないか確認してください

DeviceProtectorは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。

DeviceProtectorをインストールしている場合は、DeviceProtector管理者用設定ツールを起動し、設定を確認してください。



参照

DeviceProtectorについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「[DeviceProtector \(P. 422\)](#)」

Q : ハードディスクに保存できない

[101503-27]

A : ハードディスクの空き領域を確認してください。

ハードディスクの空き領域を確認してください。足りない場合は「ハードディスクの空き領域が足りない (P. 594)」に従って空き領域を増やしてください。ハードディスクの空き領域よりもサイズが大きいファイルは保存できません。

Q : SSDに保存できない

[101602-27]

A : SSDの空き領域を確認してください。

SSDの空き領域を確認してください。足りない場合は「SSDの空き領域が足りない (P. 602)」に従って空き領域を増やしてください。SSDの空き領域よりもサイズが大きいファイルは保存できません。

Q : DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）

[101711-07]

A : 「光学ドライブ」の「はじめに確認してください (P. 608)」の内容をご確認ください。

[102400-27]

- ダイヤルアップ接続できない、接続が切れる. 549
- 自動切断されない. 551
- ATコマンドについて知りたい. 552
- 海外でモデムを使用したい. 553

Q：ダイヤルアップ接続できない、接続が切れる

[102401-27]

A：構内交換機（PBX）の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。

A：電話を使用している場合は切ってください。他に電話回線を使用するアプリケーションを起動している場合は終了してください。

同じ電話回線に接続している電話を使用していたり、他に電話回線を使用するアプリケーションが起動していると接続できない場合があります。

A：使用している電話回線でキャッチホンサービスを利用していないか、確認してください。

キャッチホンサービスを利用している場合、モデムでの接続中に電話がかかってくると、接続が切断される場合があります。通話中にかかってきた電話を転送・録音する、キャッチホンIIというサービスを利用すると通信が切れることはありません。

A：電話回線の設定が正しいか確認してください。

次の手順で「所在地の編集」を表示し、電話回線の設定を確認してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「表示方法」を「大きいアイコン」または「小さいアイコン」に変更する

3 「電話とモデム」をクリック

「電話とモデム」が表示されます。

4 「ダイヤル情報」タブをクリックし、「所在地」欄から使用する電話回線を選択し、「編集」ボタンをクリック

5 「全般」タブで電話回線の設定を確認し、必要に応じて設定を変更する

使用する電話回線にあわせて、次の設定を確認してください。

- **国/地域**

使用する国/地域を設定してください。

また、外線発信番号「0」を使用する電話回線を使用する場合は「日本」に設定してください。

- **市外局番**
使用する地域の市外局番が"0"で始まる場合は、最初の"0"を除いた番号を入力します。
携帯電話、PHSの場合は「000」を入力します。
- **ダイヤル情報**
使用している電話回線に応じて、必要な項目が設定されているかを確認してください。
- **ダイヤル方法**
使用している電話回線の方式と、設定があっているか確認してください。

6 「OK」 ボタンをクリック

7 「OK」 ボタンをクリック

A : ダイヤルアップ接続の設定を確認してください。

次の手順で、ダイヤルアップ接続の設定を確認してください。

1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」 をクリック

2 「ネットワークとインターネット」 → 「ネットワークと共有センター」 → 「アダプターの設定の変更」 をクリック

3 接続先を右クリックして表示されたメニューから「プロパティ」 をクリック

4 「全般」 タブをクリック

5 「ダイヤル情報を使う」 にチェックが付いているか確認し、付いていない場合はチェックを付ける



チェック

「ダイヤル情報を使う」 にチェックが付いていない場合、ダイヤル方式の設定が接続に反映されず、接続できない場合があります。

6 「OK」 ボタンをクリック

Q : 自動切断されない

[102402-27]

A : 次の手順で設定を行ってください。

ダイヤルアップネットワーク接続の場合、インターネットエクスプローラを終了しても回線が接続されたままになることがあります。

回線の切断が必要な場合は、次の作業を行ってください。

1 タスク バーの通知領域のをクリック

2 「接続済み」と表示された接続先をクリック

3 「切断」ボタンをクリック

Q : ATコマンドについて知りたい

[102403-27]

A : 「ATコマンド (P. 241)」をご覧ください。

Q : 海外でモデムを使用したい

[102404-27]

A : 海外で内蔵モデムを使用する場合は、使用する国/地域にあわせて設定を行ってください。



参照

モデムの設定について

「本機の機能」の「モデム (P. 232)」

[100900-27]

- はじめに確認してください. 555
- ネットワークに接続できない. 556
- ドライブやフォルダが共有できない. 557
- ネットワークブートができない. 560
- 動作が不安定になった. 561

はじめに確認してください

[100905-27]

本機とLANケーブル、ハブなどのネットワーク機器が正しく接続されているか確認してください

ネットワークに接続できない、ネットワークを利用した機能が使えない場合は、本機とLANケーブル、ハブなどのネットワーク機器が正しく接続されているか確認してください。

Q : ネットワークに接続できない

[100901-00]

A : プロトコルやドメイン、ワークグループの設定を間違えていないか確認してください。

詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

Q : ドライブやフォルダが共有できない

[100902-07]

A : 「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有」を使用する設定になっているか確認してください。

次の手順で確認してください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック
- 3 左のメニューから「アダプターの設定の変更」をクリック
- 4 ワイヤレス ネットワーク接続のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック
- 5 「ネットワーク」タブの「この接続は次の項目を使用します」欄に「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有」が表示され、チェックが付いていることを確認する

チェックが付いていない場合は、チェックを付けてください。



チェック

「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有」が組み込まれていない場合は、共有ドライブやフォルダを使うことはできません。このサービスは、「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有」をインストールすると使えるようになります。

- 6 「OK」ボタンをクリック

A : 「共有の詳細設定」で設定を確認してください。

次の手順で確認してください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)」について (P. 12)」

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック


2 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

3 左のメニューから「共有の詳細設定の変更」をクリック

4 ネットワーク プロファイルごとに、設定を確認し必要に応じて設定を変更する



メモ

ネットワーク プロファイルの設定項目が表示されていない場合は、をクリックしてください。

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
ネットワーク探索	他のネットワーク コンピュータやデバイスを参照できるかどうか、また、本機が他のネットワーク コンピュータから参照できるかどうかを設定します。
ファイルとプリンターの共有	本機で共有しているファイルとプリンタをネットワーク上のユーザーからアクセスできるようにするかどうかを設定します。
パブリック フォルダーの共有	ネットワーク上のユーザーが、本機のパブリックフォルダ内のファイルにアクセスできるようにするかどうかを設定します。
メディア ストリーミング	ネットワーク上のユーザーやデバイスが、本機のピクチャ、ミュージック、ビデオにアクセスできるかどうか、また、本機でネットワーク上のメディアを検出できるようにするかどうかを設定します。
ファイル共有の接続	ファイル共有の接続で使用する暗号化のビット数を設定します。
パスワード保護共有	共有ファイルや、本機に接続しているプリンタ、パブリックフォルダへのアクセスを、本機のユーザー アカウントとパスワードを持つ人のみに制限するかどうかを設定できます。
ホームグループ接続※	ホームグループ接続の管理を、Windowsが行うか、ユーザー アカウントとパスワードで行うかを設定します。

※ ネットワーク プロファイル「パブリック」では設定できません。

5 「変更の保存」ボタンをクリック

A : ドライブやフォルダを共有する設定にしているか確認してください。

ネットワークに接続された他のコンピュータから本機のドライブやフォルダを参照するには、共有したいドライブやフォルダを共有するように設定する必要があります。

共有したいドライブ、フォルダを右クリックし、表示されたメニューの「共有」から設定を行ってください。

A : 共有するドライブやフォルダのアクセス許可の設定を確認してください。

共有するドライブやフォルダは、共有するユーザーごとにアクセス許可の設定を行うことができます。アクセス許可の設定を確認し、必要に応じて設定を変更してください。

Q : ネットワークブートができない

[100903-20]

A : ネットワークブート機能（PXE機能）が有効になっているかを確認してください。

ネットワークブートを使用するには、ネットワークブート機能（PXE機能）を有効にする必要があります。



参照

ネットワークブート機能（PXE機能）の設定について
「ネットワークブート機能（PXE機能）（P. 290）」

Q：動作が不安定になった

[100904-07]

A：LANに接続して通信中にスリープ状態や休止状態にすると、本機が正常に動作しなくなる場合があります。

LANに接続して通信中にスリープ状態や休止状態にすると、本機が正常に動作しなくなる場合があります。通信中にスリープ状態や休止状態にしないでください。

Windowsの電源プランで自動的にスリープ状態になる設定をしている場合は、設定を解除してください。

Q&A：無線LAN機能

[101000-27]

- はじめに確認してください. 563
- 通信ができない. 564
- 通信がとぎれる、または通信速度が遅い. 566
- 「ネットワーク」で相手のコンピュータが表示されない. 568
- 「ネットワーク」上のコンピュータのアイコンをダブルクリックしても内容が表示されない. 569
- 接続している無線LANアクセスポイントから、いつのまにか切断されてしまう. 570

はじめに確認してください

[101006-27]

無線LAN機能がオンになっていることを確認してください



参照

無線LAN機能のオン/オフについて

「本機の機能」の「無線LAN機能」 - 「無線LAN機能のオン/オフ (P. 182)」

接続先の機器の電源が入っているか確認してください



参照

接続先の機器に添付のマニュアル

ネットワーク名 (SSID) が正しく設定されているか確認してください

- 無線LANアクセスポイントと接続する場合は、ネットワーク名 (SSID) の設定を無線LANアクセスポイントと同じ設定にする必要があります。
- 複数の無線LANアクセスポイントが存在する環境で、接続する無線LANアクセスポイントを限定したい場合は、無線LANアクセスポイントごとに異なるネットワーク名 (SSID)を設定してください。

接続しようとしている機器が、無線LAN対応機器か確認してください

無線LAN対応機器以外は使用できません。

Q：通信ができない

[101001-27]

次の項目を確認してください。また、「通信がとぎれる、または通信速度が遅い (P. 566)」もあわせてご覧ください。

A：データ暗号化の設定を行っている場合、ネットワークセキュリティキーが正しく設定されているか確認してください。

接続先の無線LANアクセスポイントやコンピュータには、すべて同じネットワークセキュリティキーを設定する必要があります。

A：使用するチャンネルは正しく設定されているか確認してください。

本機が対応しているチャンネルは、次の通りです。

無線LANアクセスポイントのチャンネルを本機が使用できるチャンネル範囲に設定してください。

- **IEEE802.11b (2.4GHz) 対応機器、またはIEEE802.11g (2.4GHz) 対応機器と通信する場合**
1～13chまでのチャンネル
- **IEEE802.11a (5GHz) 対応機器と通信する場合**
36、40、44、48、52、56、60、64、100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140chのいずれか
- **IEEE802.11n (2.4/5GHz) 対応機器と通信する場合**
1～13chまでのチャンネル
36、40、44、48、52、56、60、64、100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140chのいずれか



チェック

以下のチャンネルは、無線LANアクセスポイントからの電波を受信してから通信を開始するため、接続するまでに時間がかかる場合があります。

- 12、13、36、40、44、48、52、56、60、64、100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140ch

A：本機や接続したい無線LAN対応機器の環境設定が、正しく設定されているか確認してください。

設定を確認し、必要に応じてもう一度設定してください。

A：「ワイヤレスLANの設定」で設定されている周波数と、無線LAN機器の周波数を確認してください。

「ワイヤレスLANの設定」で5GHzを使用しない設定にされていると、IEEE802.11a/n (5GHz) で接続できません。なお、工場出荷時の状態は、5GHzを使用しない設定になっています。



参照

ワイヤレスLANの設定について

「本機の機能」の「無線LAN機能」 - 「ワイヤレスLANの設定 (P. 197)」

Q：通信がとぎれる、または通信速度が遅い

[101002-27]

A：接続したい無線LAN対応機器との距離が遠すぎないか確認してください。

電波環境を確認し、電波環境が悪い場合は、無線LAN対応機器までの距離を近づけてみてください。
無線LAN対応機器間の距離は、機器の仕様により異なります。



参照

電波環境の確認について

「本機の機能」 - 「無線LAN機能」 - 「無線LANの設定と接続」の「接続の確認 (P. 194)」

A：接続先のIEEE802.11g対応無線LANアクセスポイントの電波到達範囲内に、IEEE802.11bのみに対応した他の無線機器が存在する場合、IEEE802.11gでの通信速度が低下します。



チェック

IEEE802.11bのみに対応した無線機器が別の無線LANアクセスポイントに接続していても、電波が到達するだけで速度に影響があります。

A：周囲で2.4GHz周波数帯を利用する機器（電子レンジなど）を使用していると、2.4GHz無線LAN対応機器の通信が不安定になる場合があります。

2.4GHz無線LAN対応機器と2.4GHz周波数帯を利用する機器（電子レンジなど）は離して使用することをおすすめします。

A：2.4GHz無線LAN対応機器とBluetooth機器など同じ周波数帯を利用する機器を同時に通信をした場合、それぞれの機器の通信速度や通信距離が低下する場合があります。

2.4GHz無線LAN対応機器とBluetooth機器など、同じ周波数帯を利用する機器のいずれか一方をオフにするか離して使用することをおすすめします。

A：1つの無線LANアクセスポイントに接続する機器の台数が増えると、1台あたりの転送速度が低下する場合があります。

A：大きなサイズのファイルを転送すると、途中で通信が切断される場合があります。

大きなサイズ（約100MB以上）のファイルを転送すると、途中で通信が切断される場合があります。無線LANで接続するときは、転送するファイルのサイズに注意してください。

A : IEEE802.11n (2.4/5GHz) に対応した無線LAN機器と接続する際に、データ転送レートが54Mbps以下になる場合があります。

次の設定を確認してください。

- 無線LANアクセスポイントと本機の暗号化方式がAESとなっていること
- 無線LANアクセスポイントのWMM (Wi-Fi Multimedia) の機能が有効になっていること



参照

接続先の機器に添付のマニュアル

A : Intel® WiDiと、無線LAN機能を同時に使用した場合、それぞれの通信速度や通信距離が低下する場合があります。

A : インテル® My WiFi ダッシュボードで、周辺機器や他のパソコンと接続している場合、通信速度に影響が出る場合があります。

インテル® My WiFi ダッシュボードを使用した周辺機器や他のパソコンとの接続は、無線LAN機能を使用するため、通信速度に影響が出る場合があります。

必要がない場合は、周辺機器や他のパソコンとの接続を切断しておくことをおすすめします。

Q : 「ネットワーク」で相手のコンピュータが表示されない

[101003-20]

A : ネットワークに接続されているコンピュータに、同一のコンピュータ名が使用されている可能性があります。

コンピュータ名を確認し、他のコンピュータの名前とは異なるコンピュータ名を設定してください。

A : 相手のコンピュータに「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有」が組み込まれているか確認してください。

相手のコンピュータに「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有」が組み込まれていないと、「ネットワーク」で相手のコンピュータは表示されません。相手のコンピュータに「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共有」を組み込んでください。

A : TCP/IPが組み込まれているか確認してください。

TCP/IPが組み込まれているかを確認し、接続するネットワークにあわせてIPアドレスを正しく設定してください。

A : 周囲の電波状況は適切な状態か確認してください。

電波状態が悪い場合、接続する相手との距離を短くする、または本機と相手との間に障害物があるときは障害物をなくしてから再度接続してください。

A : 相手のコンピュータが起動した直後で、ネットワークへの接続が完了していない可能性があります。

相手のコンピュータが起動した直後の場合は、数分たってからもう一度接続状況を確認してください。

Q : 「ネットワーク」上のコンピュータのアイコンをダブルクリックしても内容が表示されない

[101004-20]

A : 相手のコンピュータに共有しているフォルダやプリンタなどが無い可能性があります。

相手のコンピュータ上で共有化したいフォルダやプリンタを共有する設定にしてください。

Q : 接続している無線LANアクセスポイントから、いつのまにか切断されてしまう

[101005-20]

A : 周囲に複数の無線LANアクセスポイントが存在する場合、無線LANアクセスポイントの設定によっては電波の状況に応じて自動的に他の無線LANアクセスポイントに接続が切り替わることがあります。

Q&A : 無線WAN機能

[102300-27]

- ▶ はじめに確認してください. 572
- ▶ 通信ができない. 573

はじめに確認してください

[102302-27]

無線WAN機能がオンになっていることを確認してください



参照

無線WAN機能の切り替えについて

「本機の機能」の「無線WAN機能」 - 「無線WAN機能のオン/オフ (P. 213)」

Q：通信ができない

[102301-27]

A：ドコモUIMカードが取り付けられているか、認識されているか確認してください。

ドコモUIMカードが取り付けられていない、または認識されていない場合は通信できません。本機の電源を切ってから、ドコモUIMカードを取り付けなおしてください。

A：ご使用のドコモUIMカードがXi回線契約済みであるか、確認してください。

「docomo LTE Xi（クロッシィ）」を使用するためには、NTTドコモのXi回線契約済みのドコモUIMカードが必要です。FOMA回線契約のみのドコモUIMカードは、本機ではご使用になれません。またMVNOの提供するサービスをご使用の場合も、「docomo LTE Xi（クロッシィ）」に対応したカードが必要になります。

A：初期設定を間違えていないか、確認してください。

通信できない場合は、初期設定を間違えている可能性があります。設定内容が正しいかご確認ください。

A：セキュリティを有効にしている場合、認証に失敗していないか確認してください。

セキュリティを有効に設定している場合、認証用のPINコードダイアログで正しいPINコードを入力しないとセキュリティ機能が働いて通信できません。

認証ダイアログを閉じてしまった場合、無線WAN機能のオン/オフをすることで、再度、認証ダイアログを表示することができます。



チェック

PINロック解除コードを10回連続して間違えると、完全にロックされます。

完全にロックされた場合にはドコモUIMカードと本人確認書類（運転免許証など）をお持ちのうえ、お近くのドコモショップまでご相談ください。

- NTTドコモ ウェブサイト：<http://www.nttdocomo.co.jp/>
- ドコモインフォメーションセンター：
受付時間：午前9：00～午後8：00
ドコモの携帯電話からの場合：（局番なし）151（無料）
※一般電話などからはご利用いただけません。

一般電話などからの場合：0120-800-000（無料）

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

Q&A : サウンド

[101200-27]

- ▶ はじめに確認してください. 575
- ▶ 音が出ない. 576
- ▶ HDMI接続した機器から音声が出力されない. 577
- ▶ 音楽CDの再生音を調節したい. 579
- ▶ 音楽CDが再生されない. 580
- ▶ 音楽CDの再生中に音飛びする. 581

はじめに確認してください

[101205-27]

本機の音量が適切に設定されているか確認してください

適切な音量に設定されているか確認し、必要に応じて調節してください。



参照

音量の調節について

「本機の機能」の「サウンド機能」 - 「音量の調節 (P. 158)」

外部の機器に接続している場合は、接続している機器の音量、本機と外部の機器との接続を確認してください

Q : 音が出ない

[101201-27]

A : HDMI接続で音声を出力する設定にしているか確認してください。

HDMI接続で音声を出力する設定にしている場合、本機のスピーカやライン/ヘッドフォン共用出力から音声は出力されません。

本機のスピーカやライン/ヘッドフォン共用出力から音声を出力する場合は、次の手順で設定を変更してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。

4 「再生」タブをクリック

5 「スピーカー」をクリックし、「既定値に設定」をクリック

6 「スピーカー」にチェックが付いていることを確認し、「OK」をクリック

Q : HDMI接続した機器から音声が出力されない

[101209-27]

A : HDMIの映像が正しく表示されているか確認してください。

映像が正しく表示されていない場合は、「表示」の「HDMI接続したテレビや外部ディスプレイに映像が表示されない (P. 535)」を参照し、テレビや外部ディスプレイとの接続、設定を確認してください。

A : 接続している機器が、HDMIの音声出力のサンプリングレートに対応しているか確認してください。

次の手順で確認してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。



チェック

「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」にチェックが付いていない場合は、チェックを付けて「既定値に設定」をクリックしてください。

4 「再生」タブをクリック

5 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」をクリックし、「プロパティ」をクリック

6 「詳細」タブをクリック

7 「既定の形式」欄の設定が接続先の機器に対応していることを確認する



参照

対応しているサンプリングレートについて
接続している機器のマニュアル

A : 音声の出力設定を確認してください。

音声を、本機のスピーカやライン/ヘッドフォン共用出力から出力する設定になっている場合、HDMI接続で音声は出力されません。

HDMI接続で音声を出力するには、次の手順で出力先を設定してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。

4 「再生」タブをクリック

5 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」をクリックし、「既定値に設定」をクリック

6 手順5で選択した項目にチェックが付いていることを確認し、「OK」をクリック

A : I/O制限で、HDMIコネクタの接続を使用不可に設定していないか確認してください。



参照

I/O制限について

「本機の機能」の「セキュリティ機能」 - 「I/O制限 (P. 270)」

Q : 音楽CDの再生音を調節したい

[101202-07]

A : 次の手順で音量を調節してください。



チェック

- 工場出荷時の状態で、Windows Media Playerで再生した場合を例にして説明します。その他の再生用アプリケーションを使用する場合は、それぞれのアプリケーションのマニュアルやヘルプをご覧ください。再生音量を調整してください。
- お使いの機種によって表示が異なることがあります。

1 Windows Media Playerを起動する



チェック

Windows Media Playerを起動していないと、「音量ミキサー」に「Windows Media Player」が表示されません。

2 タスク バーの通知領域のをクリック

3 表示されたウィンドウから「ミキサー」をクリック

「音量ミキサー」が表示されます。

4 「デバイス」欄の「スピーカー」、または「アプリケーション」欄の「Windows Media Player」の音量つまみをドラッグして音量を調節する

Q : 音楽CDが再生されない

[101203-00]

A : コピーコントロールCDなど、一部のCompact Discの規格外の音楽ディスクは再生できない場合があります。

Q : 音楽CDの再生中に音飛びする

[101204-00]

A : 音楽CDに傷や汚れがないか確認してください。

音楽CDに傷が付いていると、使用できない場合があります。
また、汚れている場合は、乾いたやわらかい布で内側から外側に向かってふいてから使用してください。

A : 音楽CDを再生中の光学ドライブや本機に何らかの振動を与えた場合、音飛びや故障の原因になる場合があります。

音楽CDを再生中は光学ドライブや本機に振動を与えないでください。

[101300-27]

- ▶ はじめに確認してください. 583
- ▶ プリンタから印刷が正しくできない. 584
- ▶ PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない. 585

はじめに確認してください

[101303-27]

プリンタの接続や状態を確認してください

プリンタのマニュアルをご覧ください。プリンタが正しく接続されているか、プリンタの状態は正常か確認してください。

プリンタのケーブルが指定または推奨のものか確認してください

プリンタによっては、プリンタの製造元が指定または推奨するケーブルを使用しないと、印刷がうまくいかないものがあります。使用しているプリンタのマニュアルをご覧ください。ケーブルを確認してください。

使用するプリンタ用のドライバがインストールされているか、またドライバは正しく設定されているか確認してください

新しくプリンタを使用する場合は、プリンタドライバのセットアップが必要です。また、プリンタドライバの設定によっては正しく印刷されない場合があります。



参照

プリンタドライバのセットアップ、プリンタドライバの設定
プリンタに添付のマニュアル

使用したいプリンタが「通常使うプリンター」に設定されているか確認してください

使用したいプリンタが「通常使うプリンター」に設定されていないと、アプリケーションで印刷先を指定しない限り、印刷されない場合や、別のプリンタから印刷される場合があります。「通常使うプリンター」の設定をする場合は、次の手順で行います。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「デバイスとプリンター」をクリック
- 3 「プリンターとFAX」欄で、使用したいプリンタのアイコンにチェックが付いているか確認する

チェックが付いていない場合には、使用したいプリンタのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「通常使うプリンターに設定」をクリックしてください。

Q : プリンタから印刷が正しくできない

[101301-20]

A : プrintサーバに接続されているプリンタの場合、Printサーバを確認してください。

プリンタがPrintサーバに接続されている場合は、Printサーバでエラーが表示されていないか確認してください。

A : ネットワークに接続されているプリンタの場合、ネットワークの機器を確認してください。

ネットワークに接続しているプリンタの場合、本機からプリンタまでの経路にあるネットワーク機器にエラーが発生したり、電源が切れていたりしないか確認してください。

A : プリンタのテスト印字を実行してみてください。

プリンタには一般にテスト印字する機能があります。この機能を使ってプリンタのテスト印字を行ってください。テスト印字ができない場合は、プリンタの故障が考えられます。プリンタの製造元にご相談ください。

Q : PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない

[101302-00]

A : 白抜きの文字やグラデーション、図形などがうまく印刷できない場合は次の対処方法を試してみてください。

- Adobe Readerの「印刷」ダイアログボックスの「詳細設定」ボタンをクリックして、「画像として印刷」にチェックを付けるか、プリンタのプロパティの中から「きれい」、「高品位」などを選択する
- プリンタドライバを最新のものにする
- プリンタが複数ある場合は、印刷先を別のプリンタに切り替え、同様に試してみる

Q&A：セキュリティチップ機能

[102200-27]

- ▶ パスワードを忘れてしまった..... 587
- ▶ 「Security Platform サービスとの接続に失敗しました。」と表示される..... 588

Q : パスワードを忘れてしまった

[102201-27]

A : BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップを初期化してください。

Security Platformで設定したパスワードを解除することはできません。
次の手順で、セキュリティチップを初期化してください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

2 「Security」メニューで「Security Chip Configuration」を選択し、【Enter】を押す

3 「Current TPM State」が「Enabled&Activated」になっていることを確認する

「Current TPM State」が「Enabled&Activated」になっていない場合は、「セキュリティチップを有効にする (P. 333)」の手順でセキュリティチップを有効にしてから、セキュリティチップの初期化を行ってください。

4 「Change TPM State」を「Clear」にする

5 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

6 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了します。

7 本機の再起動後、確認画面が表示された場合は【Shift】 + 【F10】を押す

設定値が保存され、本機が再起動します。

これでセキュリティチップが初期化されました。セキュリティチップを使用する場合は、再度、「セキュリティチップを有効にする (P. 333)」の手順で、セキュリティチップを有効にしてください。

Q : 「Security Platform サービスとの接続に失敗しました。」と表示される

[102202-27]

A : セキュリティチップ機能が有効になっているか確認してください。

「セキュリティチップを有効にする (P. 333)」をご覧ください、セキュリティチップ機能が有効になっているか確認してください。

A : 自己診断テストを行ってください。

次の手順で、自己診断テストを行って問題点を明確にできます。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Infineon Security Platform ソリューション」→「Security Platform の管理」をクリック

「Infineon Security Platform 設定ツール」画面が表示されます。

2 「全般」タブをクリックし、「自己診断テスト」ボタンをクリック

エラーが発見された場合、画面の指示に従って対処してください。

A : セキュリティチップが破損している可能性があります。

自己診断テストで提示された対処方法を行っても問題が解決しない場合は、NECにお問い合わせになり、セキュリティチップを交換してください。

セキュリティチップを交換した後は、セキュリティチップ機能を復元してください。



参照

- **セキュリティチップ機能のバックアップと復元について**
「セキュリティチップ ユーティリティ」の「セキュリティチップ機能のバックアップと復元 (P. 362)」
- **NECのお問い合わせ先について**
『保証規定 & 修理に関するご案内』

Q&A : ハードディスク

[101500-27]

- ハードディスクの動作速度が遅い. 590
- ハードディスクに障害が起きた. 591
- ハードディスクに保存できない. 592
- ハードディスクから異常な音がする. 593
- ハードディスクの空き領域が足りない. 594
- 領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない. 595
- 複数のパーティションを利用したい. 596
- ハードディスクをメンテナンスする方法を知りたい. 598

Q : ハードディスクの動作速度が遅い

[101501-07]

A : ハードディスクの最適化をしてください。

ハードディスクを長い間使用していると、1つのファイルがディスクの空いている場所に分散して保存されるようになります。ファイルが連続していないと、ファイルを読み書きする時間が長くなります。このようなばらばらになったファイルを最適な場所に整理するには、「ディスク デフラグ ツール」で最適化を実行してください。



参照

ディスク デフラグ ツールについて

「メンテナンスと管理」の「ハードディスクのメンテナンス (P. 448)」

Q : ハードディスクに障害が起きた

[101502-07]

A : エラーチェックプログラムで、ハードディスクの障害を確認してください。

軽い障害であれば、ディスクのエラーチェックプログラムを使って障害を修復することができます。



参照

ハードディスクのエラーチェックプログラムについて

「メンテナンスと管理」の「ハードディスクのメンテナンス (P. 448)」

Q : ハードディスクに保存できない

[101503-27]

A : ハードディスクの空き領域を確認してください。

ハードディスクの空き領域を確認してください。足りない場合は「ハードディスクの空き領域が足りない (P. 594)」に従って空き領域を増やしてください。ハードディスクの空き領域よりもサイズが大きいファイルは保存できません。

Q : ハードディスクから異常な音がする

[101504-00]

A : ディスクアクセスランプを確認してください。

ディスクアクセスランプの点滅とあわせて、本体から小さな音がしている場合は、ハードディスクの動作によるもので異常ではありません。

ディスクアクセスランプの点滅に関係なく異音がする場合や、頻繁にフリーズする、操作が遅くなる場合などは、ハードディスクの故障が考えられます。

ご購入元、またはNECにお問い合わせください。



参照

NECのお問い合わせ先について

『保証規定 & 修理に関するご案内』



チェック

本機を安全に使用するための注意事項を『安全にお使いいただくために』に記載しています。本機をお使いになるときは、必ず注意事項を守ってください。

Q : ハードディスクの空き領域が足りない

[101505-07]

A : ディスク クリーンアップを実行し、不要なファイルを削除してください。

次の手順でディスク クリーンアップを起動し、不要なファイルを削除してください。

1 「スタート」 ボタン→「すべてのプログラム」 をクリック

2 「アクセサリ」 → 「システム ツール」 → 「ディスク クリーンアップ」 をクリック

「ディスク クリーンアップ」 が起動します。

以後は画面の指示に従って操作してください。



参照

ディスク クリーンアップについて
Windowsのヘルプ

A : 使用しないアプリケーションをアンインストールしてください。

使用しないアプリケーションをハードディスクからアンインストールすると、ハードディスクの空き領域を増やすことができます。



参照

- 添付アプリケーションのアンインストール
「アプリケーションのインストール/アンインストール (P. 378)」
- 別売のアプリケーションのアンインストール
アプリケーションに添付のマニュアル

Q：領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない

[101506-07]

A：計算方法の違いによるもので、故障ではありません。

カタログなどに記載されているハードディスクの容量は、1MB=1,000,000バイトで計算しています。これに対し、ハードディスクを領域作成するときには、1MB=1,024×1,024=1,048,576バイトで計算しているため、容量が少なく表示されることがありますが、故障ではありません。

GB（ギガバイト）についても、同様の記述となっています。

A：ハードディスクに、「再セットアップ用データ」などを格納する領域があるためです。

本機のハードディスクには、Windowsの起動に必要なファイルや「再セットアップ用データ」などを格納するための領域として約8GBの領域が確保されています。そのため、使用可能な容量が、その領域の分だけ少なくなります。この領域を削除することはできません。

Q : 複数のパーティションを利用したい

[101507-27]

A : 「ディスクの管理」でドライブ構成を変更することができます。

工場出荷時において1台目の内蔵ハードディスクでお客様が利用可能な領域はCドライブのみの1パーティション(ボリューム)です。

Cドライブを分割して、複数のパーティションを利用することもできます。

工場出荷時の構成から、Cドライブを縮小して作成された未割り当ての領域に1つのパーティションを作成する場合は、次の手順で行います。



チェック

Cドライブの容量は60GB以上に設定してください。Cドライブの容量を60GB未満に設定した状態では、「Cドライブのみ再セットアップ」を行うことができません。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「管理ツール」をクリック
- 3 「コンピューターの管理」をダブルクリック
- 4 左側のツリーの「記憶域」→「ディスクの管理」をクリック
- 5 (C:)と表示されているボリュームを選択し、右クリック
- 6 「ボリュームの縮小」をクリック
- 7 「縮小する領域のサイズ (MB)」欄に任意のサイズを入力する
ここで入力するサイズが、新たに作成するパーティションの最大値になります。
- 8 「縮小」ボタンをクリック
- 9 ボリュームの縮小後に確保された未割り当て領域を選択し、右クリック
- 10 「新しいシンプル ボリューム」をクリック
- 11 「次へ」ボタンをクリック

12 「シンプル ボリューム サイズ (MB)」 欄に任意のボリュームサイズを入力し、「次へ」 ボタンをクリック

13 「次のドライブ文字を割り当てる」 が選択されていることを確認し、「次へ」 ボタンをクリック

14 「このボリュームを次の設定でフォーマットする」 が選択されていることを確認し、「次へ」 ボタンをクリック

15 「完了」 ボタンをクリック



チェック

- 作成したパーティションに対して「パーティションをアクティブとしてマーク」を選択しないでください。
- 「回復パーティション」は、縮小することはできません。



メモ

- 必要に応じて、ドライブ文字を変更することもできます。
- 「ボリュームの縮小」は、環境によっては実施できない場合があります。「ボリュームの縮小」についての詳細は「コンピューターの管理」のヘルプ内の「ベーシック ボリュームを圧縮する」を参照してください。



参照

- **ディスクの管理の使用方法**
「ディスクの管理」のヘルプ
- **ハードディスクについて**
「本機の機能」の「ハードディスク (P. 134)」

Q : ハードディスクをメンテナンスする方法を知りたい

[101508-07]

A : ハードディスクのメンテナンスについては以下をご覧ください。

ハードディスクを長時間使用している間に、まれにハードディスク自体や保存されているデータに障害を起こすことがあります。しかし、小さな障害であれば、付属のユーティリティを使うことですぐに復旧することができます。小さな障害であっても、放置すると被害が拡大するおそれがあります。これを防ぐために、こまめにハードディスクをメンテナンスしてください。



参照

ハードディスクのメンテナンスについて

「メンテナンスと管理」の「ハードディスクのメンテナンス (P. 448)」

メンテナンスをするためのユーティリティには、ドライブのエラーをチェックするためのエラーチェックプログラムがあります。

◆エラーチェックプログラムについて

エラーチェックプログラムを使うと、ハードディスク自体やハードディスクに保存されているデータに障害がないかどうか調べることができます。



参照

ハードディスクのエラーチェックプログラムについて

Windowsのヘルプ

◆不良セクタ、スキップセクタについて

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。

エラーチェックプログラムを実行すると「不良セクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタを使わないように予防されたことを表しており、異常ではありません。

[101600-27]

- SSDに障害が起きた. 600
- SSDに保存できない. 601
- SSDの空き領域が足りない. 602
- 領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない. 603
- 複数のパーティションを利用したい. 604
- SSDをメンテナンスする方法を知りたい. 606

Q : SSDに障害が起きた

[101601-07]

A : エラーチェックプログラムで、SSDの障害を確認してください。

軽い障害であれば、ディスクのエラーチェックプログラムを使って障害を修復することができます。



参照

SSDのエラーチェックプログラムについて

「メンテナンスと管理」の「SSDのメンテナンス (P. 450)」

Q : SSDに保存できない

[101602-27]

A : SSDの空き領域を確認してください。

SSDの空き領域を確認してください。足りない場合は「SSDの空き領域が足りない (P. 602)」に従って空き領域を増やしてください。SSDの空き領域よりもサイズが大きいファイルは保存できません。

Q : SSDの空き領域が足りない

[101603-07]

A : ディスク クリーンアップを実行し、不要なファイルを削除してください。

次の手順でディスク クリーンアップを起動し、不要なファイルを削除してください。

1 「スタート」 ボタン→「すべてのプログラム」 をクリック

2 「アクセサリ」 → 「システム ツール」 → 「ディスク クリーンアップ」 をクリック

「ディスク クリーンアップ」 が起動します。

以後は画面の指示に従って操作してください。



参照

ディスク クリーンアップについて
Windowsのヘルプ

A : 使用しないアプリケーションをアンインストールしてください。

使用しないアプリケーションをSSDからアンインストールすると、SSDの空き領域を増やすことができます。



参照

- 添付アプリケーションのアンインストール
「アプリケーションのインストール/アンインストール (P. 378)」
- 別売のアプリケーションのアンインストール
アプリケーションに添付のマニュアル

Q : 領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない

[101604-27]

A : 計算方法の違いによるもので、故障ではありません。

カタログなどに記載されているSSDの容量は、1MB=1,000,000バイトで計算しています。これに対し、SSDを領域作成するときには、1MB=1,024×1,024=1,048,576バイトで計算しているため、容量が少なく表示されることがありますが、故障ではありません。

GB（ギガバイト）についても、同様の記述となっています。

A : SSDに、「再セットアップ用データ」などを格納する領域があるためです。

本機のSSDには、Windowsの起動に必要なファイルや「再セットアップ用データ」などを格納するための領域として約8GBの領域が確保されています。そのため、使用可能な容量が、その領域の分だけ少なくなります。この領域を削除することはできません。



メモ

格納する領域は、モデルによって異なります。

Q : 複数のパーティションを利用したい

[101605-27]

A : 「ディスクの管理」でドライブ構成を変更することができます。

工場出荷時において1台目の内蔵SSDでお客様が利用可能な領域はCドライブのみの1パーティション(ボリューム)です。Cドライブを分割して、複数のパーティションを利用することもできます。工場出荷時の構成から、Cドライブを縮小して作成された未割り当ての領域に1つのパーティションを作成する場合は、次の手順で行います。



チェック

Cドライブの容量は60GB以上に設定してください。Cドライブの容量を60GB未満に設定した状態では、「Cドライブのみ再セットアップ」を行うことができません。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「管理ツール」をクリック
- 3 「コンピューターの管理」をダブルクリック
- 4 左側のツリーの「記憶域」→「ディスクの管理」をクリック
- 5 (C:)と表示されているボリュームを選択し、右クリック
- 6 「ボリュームの縮小」をクリック
- 7 「縮小する領域のサイズ (MB)」欄に任意のサイズを入力する
ここで入力するサイズが、新たに作成するパーティションの最大値になります。
- 8 「縮小」ボタンをクリック
- 9 ボリュームの縮小後に確保された未割り当て領域を選択し、右クリック
- 10 「新しいシンプル ボリューム」をクリック
- 11 「次へ」ボタンをクリック

12 「シンプル ボリューム サイズ (MB)」 欄に任意のボリュームサイズを入力し、「次へ」 ボタンをクリック

13 「次のドライブ文字を割り当てる」 が選択されていることを確認し、「次へ」 ボタンをクリック

14 「このボリュームを次の設定でフォーマットする」 が選択されていることを確認し、「次へ」 ボタンをクリック

15 「完了」 ボタンをクリック



チェック

- 作成したパーティションに対して「パーティションをアクティブとしてマーク」を選択しないでください。
- 「回復パーティション」は、縮小することはできません。



メモ

- 必要に応じて、ドライブ文字を変更することもできます。
- 「ボリュームの縮小」は、環境によっては実施できない場合があります。「ボリュームの縮小」についての詳細は「コンピューターの管理」のヘルプ内の「ベーシック ボリュームを圧縮する」を参照してください。



参照

- **ディスクの管理の使用方法**
「ディスクの管理」のヘルプ
- **SSDについて**
「本機の機能」の「SSD (P. 138)」

Q : SSDをメンテナンスする方法を知りたい

[101606-07]

A : SSDのメンテナンスについては以下をご覧ください。

SSDを長時間使用している間に、まれにSSD自体や保存されているデータに障害を起こすことがあります。しかし、小さな障害であれば、付属のユーティリティを使うことですぐに復旧することができます。小さな障害であっても、放置すると被害が拡大するおそれがあります。これを防ぐために、こまめにSSDをメンテナンスしてください。



参照

SSDのメンテナンスについて

「メンテナンスと管理」の「SSDのメンテナンス (P. 450)」

メンテナンスをするためのユーティリティには、ドライブのエラーをチェックするためのエラーチェックプログラムがあります。

◆エラーチェックプログラムについて

エラーチェックプログラムを使うと、SSD自体やSSDに保存されているデータに障害がないかどうか調べることができます。



参照

SSDのエラーチェックプログラムについて

Windowsのヘルプ

◆不良セクタ、スキップセクタについて

SSDは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。

エラーチェックプログラムを実行すると「不良セクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタを使わないように予防されたことを表しており、異常ではありません。

Q&A : 光学ドライブ

[101700-27]

- はじめに確認してください. 608
- 「コンピューター」に光学ドライブが表示されない. 609
- 光学ドライブのディスクトレイを出し入れできない. 610
- DVD、CDをセットしても自動再生しない. 611
- DVD、CDからデータを読み出せない. 612
- DVD、CDの読み取りエラーメッセージが表示された. 613
- DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）. 614
- DVD、CDへの書き込み中にエラーになった. 615
- Roxio Creator LJBでデータディスクを作成できない. 616
- ドライブ文字がおかしい. 617
- 光学ドライブから異常な音がする. 618
- 添付されていたDVD、CDが使いなくなった、壊れた. 619
- Windows Media PlayerでDVDが再生できない. 620
- Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない. 621
- Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる. 622
- Corel WinDVDでDVDが再生できない. 624
- Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない. 625
- Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる. 626
- 音楽CDの再生中に音飛びする. 628
- 音楽CDが再生されない. 629

はじめに確認してください

[101718-27]

光学ドライブの接続を確認してください

USB接続の光学ドライブを使用するモデルをお使いの場合、光学ドライブが正しく取り付けられているかどうか確認してください。

DeviceProtectorで光学ドライブを制限していないか確認してください

DeviceProtectorは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。

DeviceProtectorをインストールしている場合は、DeviceProtector管理者用設定ツールを起動し、設定を確認してください。



メモ

DeviceProtectorで光学ドライブを無効に設定していると「コンピューター」に表示されません。



参照

DeviceProtectorについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「DeviceProtector (P. 422)」

ディスクが正しくセットされているか確認してください

セットされているDVD、CDの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイ中心の軸に、きちんとセットしてください。



参照

光学ドライブ使用上の注意

「本機の機能」の「光学ドライブ (P. 142)」

本機のドライブで使用できるディスクを確認してください

お使いのモデルにより光学ドライブで使えるディスクは異なります。使用できるディスクについては、下記のリンクよりお使いのモデルの「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

Q : 「コンピューター」に光学ドライブが表示されない

[101701-27]

A : BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で使用不可に設定していないか確認してください。

BIOSセットアップユーティリティのI/O制限は、本機と各種デバイスのI/O（データの入出力）を制限する機能です。BIOSセットアップユーティリティで光学ドライブや、USB接続の光学ドライブを使用するモデルの場合はUSBコネクタを使用不可に設定していないか確認してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

Q : 光学ドライブのディスクトレイを出し入れできない

[101702-27]

A : 本機の電源が入っているか確認してください。

本機の電源が入っていない場合は、電源を入れてからディスクトレイを取り出してください。

本機の電源が入っているのにディスクトレイが出てこない場合は、非常時ディスク取り出し穴を使って、手動でディスクを取り出すことができます。



参照

非常時のディスクの取り出し方について

「本機の機能」の「光学ドライブ」 - 「非常時のディスクの取り出し方 (P. 151)」

Q : DVD、CDをセットしても自動再生しない

[101708-07]

A : ディスクが自動再生に対応しているかどうか確認してください。

自動再生に対応したディスクでなければ、自動再生は行われません。

そのようなディスクの場合は、ディスクのマニュアルがある場合は使用方法を確認するか、マニュアルがない場合は「コンピューター」から手動で開いてください。

A : 自動再生の設定を確認してください。

自動再生の設定、設定の確認は次の手順で行います。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
 - 2 「ハードウェアとサウンド」をクリック
 - 3 「自動再生」をクリック
 - 4 それぞれのメディアやデバイスの自動再生の設定、設定の確認を行う
 - 5 「保存」ボタンをクリック
-

Q : DVD、CDからデータを読み出せない

[101709-07]

A : DVD、CDに傷や汚れがないか確認してください。

DVD、CDに傷が付いていると、使用できない場合があります。
また、汚れている場合は、乾いたやわらかい布で内側から外側に向かってふいてから使用してください。

A : DVD、CDをセットした光学ドライブや本機に何らかの振動を与えた場合、エラーや故障の原因になる場合があります。

DVD、CDを使用中は光学ドライブや本機に振動を与えないでください。

Q : DVD、CDの読み取りエラーメッセージが表示された

[101710-07]

A : DVD、CDを使用するプログラムを実行中に、ディスクを取り出すと、エラーメッセージが表示されます。

取り出したディスクをセットしなおして、【Enter】を押してください。

Q : DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）

[101711-07]

A : 「光学ドライブ」の「はじめに確認してください (P. 608)」の内容をご確認ください。

Q : DVD、CDへの書き込み中にエラーになった

[101712-27]

A : DVD、CDへのデータの書き込み中に、他のアプリケーションが起動していたり、電源状態の変更や省電力機能が働いたりすると書き込みエラーになることがあります。

DVD、CDへのデータの書き込みを行う場合には、次の操作をおすすめします。

- スクリーンセーバーを起動させないようにする
- スリープ状態に移行させないようにする
- 他のアプリケーションを終了する
- 常駐プログラムをオフにする

A : DVD、CDへのデータの書き込み中にバッテリーの残量がなくなると、データの書き込みに失敗します。

データを書き込むときには、必ず本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してお使いください。

Q : Roxio Creator LJBでデータディスクを作成できない

[101713-07]

A : DVD、CD内のファイルをコピー元として、データディスクの作成を行おうとしていないか確認してください。

DVD、CD内のファイルを書き込む場合は、ファイルを一度ハードディスク（またはSSD）にコピーしてから書き込みを行ってください。



参照

Roxio Creator LJB使用上の注意

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「Roxio Creator LJB」 - 「使用上の注意 (P. 439)」

Q：ドライブ文字がおかしい

[101715-07]

A：周辺機器を接続したままスリープ状態や休止状態にすると、光学ドライブのドライブ文字が変更される場合があります。

このような場合は、Windowsを再起動してください。

Q : 光学ドライブから異常な音がする

[101716-00]

A : 重心バランスの悪いディスクを使用していないか確認してください。

特殊な形状のディスクや、ラベルがはってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、ディスク使用時に異音や振動が発生する場合があります。このようなディスクは故障の原因になるため、使用しないでください。

Q : 添付されていたDVD、CDが使えなくなった、壊れた

[101717-00]

A : 本機に添付されているDVD、CDに傷が付いて使えなくなったときなどは、有償で交換いたします。



参照

DVD、CDの交換のお問い合わせ先

『保証規定&修理に関するご案内』

Q : Windows Media PlayerでDVDが再生できない

[101902-07]

A : CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生しようとしていないか確認してください。

Windows Media Playerは、CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルの再生には対応していません。



メモ

CPRM方式による著作権保護は、デジタルテレビ放送番組をDVDに記録するためなどに用いられています。

Q : Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない

[101904-07]

A : Windows Media Playerで使用可能な規格のディスクか、また使用しているディスクや光学ドライブの状態に問題はないか確認してください。

本機の光学ドライブで使用できるディスクであっても、本機やWindows Media Playerで使用できない規格で記録されていると認識ができない場合があります。

また、使用しているディスクや光学ドライブの状態によってはディスクの認識ができない場合があります。使用しているディスクや光学ドライブの確認を行ってください。

Q : Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる

[101905-27]

A : 再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

Windows Media Playerで、DVDやビデオCDを再生する場合、再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

また、メモリを増設できるモデルでは、メモリを増設することによって動作が改善することがあります。



参照

メモリを増設するには

「本機の機能」の「メモリ (P. 258)」

A : ECOモード機能で選択しているモードを確認してください。

ECOモード機能で、省電力を優先するモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 47)」

A : 電源オプションの設定を確認してください。

次の手順で電源オプションの設定を確認してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 現在選択している電源プランの「プラン設定の変更」をクリック
- 4 「詳細な電源設定の変更」をクリック
- 5 「マルチメディアの設定」→「ビデオの再生時」をクリック
- 6 それぞれの電源状態の欄が「ビデオ品質の最適化」に設定されているか確認する

「ビデオ品質の最適化」に設定されていない場合は、「ビデオ品質の最適化」に設定してください。

7 「OK」ボタンをクリック

Q : Corel WinDVDでDVDが再生できない

[101914-00]

A : CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生しようとしていないか確認してください。

添付のCorel WinDVDで、CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生するためにはCPRM鍵のダウンロードが必要です。

「このディスクにはCPRM著作権保護のかかったタイトルが含まれています。・・・」と表示された場合は、CPRMコンテンツを再生するためのCPRM鍵をダウンロードしてください。

詳しい手順についてはCorel WinDVDのヘルプファイルを参照してください。



チェック

外部ディスプレイ使用時、接続しているディスプレイが、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない場合は、著作権保護された映像をデジタル出力できません。



メモ

CPRM方式による著作権保護は、デジタルテレビ放送番組をDVDに記録するためなどに用いられています。

Q : Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない

[101906-07]

A : Corel WinDVDで使用可能な規格のディスクか、また使用しているディスクや光学ドライブの状態に問題はないか確認してください。

本機の光学ドライブで使用できるディスクであっても、本機やCorel WinDVDで使用できない規格で記録されていると認識ができない場合があります。

また、使用しているディスクや光学ドライブの状態によってはディスクの認識ができない場合があります。使用しているディスクや光学ドライブの確認を行ってください。



参照

Corel WinDVDで使用できるディスクの規格、ディスクや光学ドライブの確認について

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「Corel WinDVD」 - 「使用上の注意 (P. 442)」

Q : Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる

[101907-27]

A : 再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

Corel WinDVDで、DVDを再生する場合、再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。また、メモリを増設できるモデルでは、メモリを増設することによって動作が改善することがあります。



参照

メモリを増設するには

「本機の機能」の「メモリ (P. 258)」

A : ECOモード機能で選択しているモードを確認してください。

ECOモード機能で、省電力を優先するモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 47)」

A : 電源オプションの設定を確認してください。

次の手順で電源オプションの設定を確認してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 現在選択している電源プランの「プラン設定の変更」をクリック
- 4 「詳細な電源設定の変更」をクリック
- 5 「マルチメディアの設定」→「ビデオの再生時」をクリック
- 6 それぞれの電源状態の欄が「ビデオ品質の最適化」に設定されているか確認する
「ビデオ品質の最適化」に設定されていない場合は、「ビデオ品質の最適化」に設定してください。

7 「OK」 ボタンをクリック

A : 再生するDVDによっては、ジャギー（輪郭のギザギザ）が目立つ場合があります。

次の手順で、Corel WinDVDの設定を変更してみてください。再生品質が改善する場合があります。

1 Corel WinDVDの画面上で右クリック

2 表示されたメニューから「設定」をクリック

3 「オーディオ/ビデオ設定」タブをクリック

4 「デインターレース」欄で「プログレッシブ」を選択する

5 「OK」 ボタンをクリック

A : Corel WinDVDのオンスクリーン表示をオフにしてください。

次の手順で、Corel WinDVDのオンスクリーン表示をしない設定に変更してください。音量などのオンスクリーン文字が表示されなくなりますが、動作が改善する場合があります。

1 Corel WinDVDの画面上で右クリック

2 表示されたメニューから「設定」をクリック

3 「環境設定」タブをクリック

4 「オンスクリーン ディスプレイを有効にする」のチェックを外す

5 「OK」 ボタンをクリック

A : 画面のテーマを「Aero テーマ」から選択してください。

画面のテーマを「Aero テーマ」以外に設定した状態で、Corel WinDVDで再生を行うと、映像の乱れやコマ落ちが発生する場合があります。

Q : 音楽CDの再生中に音飛びする

[101204-00]

A : 音楽CDに傷や汚れがないか確認してください。

音楽CDに傷が付いていると、使用できない場合があります。
また、汚れている場合は、乾いたやわらかい布で内側から外側に向かってふいてから使用してください。

A : 音楽CDを再生中の光学ドライブや本機に何らかの振動を与えた場合、音飛びや故障の原因になる場合があります。

音楽CDを再生中は光学ドライブや本機に振動を与えないでください。

Q : 音楽CDが再生されない

[101203-00]

A : コピーコントロールCDなど、一部のCompact Discの規格外の音楽ディスクは再生できない場合があります。

[101800-27]

- ▶ はじめに確認してください. 631
- ▶ 別売の周辺機器を取り付けたが動作しない、周辺機器を取り付けたら本機が起動しなくなった、他の機能が使えなくなった. 632
- ▶ 周辺機器のドライバをインストールできない、ドライバを更新できない. 635

はじめに確認してください

[101803-27]

お使いの周辺機器が、本機やWindows 7に対応しているか確認してください

周辺機器によっては、本機やWindows 7で動作しないものや、別途Windows 7に対応したドライバーが必要なものがあります。

また、32ビット版と64ビット版では、使用するドライバーが異なります。周辺機器のマニュアルで確認してください。

周辺機器が正しく接続されているか確認してください

コネクタやネジが緩んだり外れたりしていないか、接続が正しく行われているか確認してください。



参照

周辺機器の接続について

周辺機器に添付のマニュアル

DeviceProtectorで無効に設定していないか確認してください

DeviceProtectorは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。

DeviceProtectorをインストールしている場合は、DeviceProtector管理者用設定ツールを起動し、該当する周辺機器を無効に設定していないか確認してください。



参照

DeviceProtectorについて

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「[DeviceProtector \(P. 422\)](#)」

Q : 別売の周辺機器を取り付けたが動作しない、周辺機器を取り付けたら本機が起動しなくなった、他の機能が使えなくなった

[101801-27]

A : 周辺機器の設定を確認してください。

周辺機器によっては、設定の変更やドライバなどのインストールが必要な場合があります。



参照

周辺機器の設定やドライバのインストールについて
周辺機器に添付のマニュアル

周辺機器のドライバのインストールによりトラブルが発生し、Windowsの通常起動ができなくなった場合など、次の手順に従って、セーフモードでWindowsを起動し、トラブルを起こしたドライバのアンインストールを行うことができます。

I. セーフモードでWindowsを起動する

1 電源を入れ、すぐに【F8】を数回押す

「詳細ブート オプション」画面が表示されます。



メモ

「詳細ブート オプション」画面が表示されず、本機が通常のように起動した場合は、いったん電源を切り、手順1からやりなおしてください。

2 【↑】、【↓】で「セーフ モード」を選択し、【Enter】を押す

3 Windowsのログオン画面が表示された場合は、ユーザー名を選択し、パスワードを入力する

II. 取り付けた周辺機器のドライバを無効にする

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「デバイス マネージャー」を開く

3 取り付けた周辺機器のアイコンをダブルクリック

4 「ドライバー」タブをクリックして「無効」ボタンをクリック

5 「はい」ボタンをクリック

6 「OK」ボタンをクリック

7 Windowsを再起動し、通常モードで起動する

Ⅲ. 周辺機器を使いたいときはドライバを更新する

周辺機器の最新のドライバを用意してください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く

2 取り付けた周辺機器のアイコンをダブルクリック

3 「ドライバー」タブをクリックして「ドライバーの更新」ボタンをクリック

以降は画面の指示に従ってください。



メモ

最新のドライバは周辺機器メーカーのホームページなどからダウンロードしてください。また、Windows® Updateでも周辺機器のドライバを更新できることがあります。

A : リソースの設定を確認してください。

古い周辺機器などには、割り込みレベルやDMAチャンネルなどのリソースが競合していると動作しない場合や、リソースの競合により本機の動作が不安定になる場合があります。次の手順でリソースの設定を確認してください。



チェック

- 使用中のアプリケーションがある場合は、すべて終了しておいてください。
- 次の手順を行う場合は、管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーで行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く

2 設定を確認するデバイスの種類をダブルクリック

3 設定を確認するデバイスをダブルクリック

4 「リソース」タブをクリック



チェック

「リソース」タブが表示されていない場合は、そのデバイスのリソースの確認、変更はできません。

5 「競合するデバイス」欄を確認する

- 競合しているデバイスがない場合
「競合なし」と表示されます。
- 競合しているデバイスがある場合
競合しているデバイスの名前が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリック

競合しているデバイスがあった場合、リソースの設定を変更することで正常に動作するようになる場合があります。リソースの設定変更の方法については、次の手順で表示される「Microsoft 管理コンソール」のヘルプをご覧ください。

1 「デバイス マネージャー (P. 13)」を開く

2 「ヘルプ」メニュー→「トピックの検索」をクリック

A : BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、周辺機器を取り付けたインターフェイスを使用不可に設定していないか確認してください。

BIOSセットアップユーティリティのI/O制限は、本機と各種デバイスのI/O（データの入出力）を制限する機能です。BIOSセットアップユーティリティで、USBなど周辺機器を取り付けたインターフェイスを使用不可に設定していないか確認してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

Q : 周辺機器のドライバをインストールできない、ドライバを更新できない

[101802-07]

A : 権限を制限されたユーザーでログオンしていないか確認してください。

本機を複数の人で使用している場合は、管理者によってユーザーの設定できる項目に制限がかけられている場合があります。

このような場合は、管理者に依頼して制限を解除してもらるか、または管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーでログオンしてドライバのインストールや更新を行う必要があります。

Q&A : アプリケーション

[101900-27]

- はじめに確認してください. 637
- 起動しなくなった、動作が遅い、動かなくなることがある. 638
- Windows Media PlayerでDVDが再生できない. 640
- Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない. 641
- Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる. 642
- Corel WinDVDでDVDが再生できない. 644
- Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない. 645
- Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる. 646
- アプリケーションをインストールできない. 648
- アプリケーションを強制的に終了させたい. 649
- アプリケーションが本機で使用できるか知りたい. 650
- 使用しているWindowsへの対応が明記されていないWindows用アプリケーションを使用したい. 651
- Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術情報について知りたい. 652

はじめに確認してください

[101903-27]

お使いのアプリケーションが、本機やWindows 7に対応しているか確認してください

アプリケーションによっては、本機やWindows 7で動作しないものや、別売の周辺機器が必要なものがあります。アプリケーションのマニュアルで「動作環境」や「必要なシステム」を確認してください。

お使いのアプリケーションが、使用しているWindows 7に対応しているか確認してください

Windows 7 32ビット版では、64ビット版のアプリケーションは使用できません。

Windows 7 64ビット版では、32ビット版のアプリケーションも使用可能ですが、アプリケーションによっては正常に動作しない場合があります。

アプリケーションのマニュアルで確認してください。

本機のドライブで使用できるディスクを確認してください

お使いのモデルにより光学ドライブで使えるディスクは異なります。使用できるディスクについては、下記のリンクよりお使いのモデルの「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

Q : 起動しなくなった、動作が遅い、動かなくなることがある

[101901-27]

A : スリープ状態／休止状態に対応したアプリケーションを確認してください。

対応していないアプリケーションを使用中にスリープ状態／休止状態になると、正常に動作しなくなることがあります。対応していないアプリケーションを使用中は、スリープ状態／休止状態にしないでください。電源を切ることができなくなった場合には、4秒以上電源スイッチを操作し続けて、強制的に電源を切ってください。



参照

強制的に電源を切る方法

「電源」の「電源が切れない」 - 「強制的に電源を切る (P. 483)」

A : アプリケーションのアンインストールを中断した場合は、Windowsを再起動してください。

アプリケーションのアンインストールを中断した後に、そのアプリケーションが動作しなくなった場合は、Windowsを再起動してください。

それでも動作しない場合は、アプリケーションの再インストールが必要です。

A : ハードディスク（またはSSD）の中にデータがたくさん蓄積されたため空き領域が減っていないか確認してください。

ハードディスク（またはSSD）の中にデータがたくさん蓄積され、空き領域が減ると、Windowsの動作が遅くなる可能性があります。ハードディスク（またはSSD）に十分な空き領域があるか確認してください。

必要のないデータを削除したり、アプリケーションをCドライブ以外のドライブにインストールして、Cドライブからアンインストールしてください。詳しくは、「ハードディスク」の「ハードディスクの空き領域が足りない (P. 594)」、または「SSD」の「SSDの空き領域が足りない (P. 602)」をご覧ください。

A : メモリやシステムリソースが不足している可能性があります。

複数のアプリケーションを同時に起動したり、多くのメモリを使うアプリケーションを使用していると、メモリやシステムリソースが不足し、新たにアプリケーションが起動できなくなったり、動作が遅くなる、動かなくなることがあります。

他のアプリケーションを起動しているときは、それらを終了してから使用してください。それでも起動できなかったり、動作が遅いときは本機を再起動してください。

メモリやシステムリソースが不足しがちな場合、メモリを増設できるモデルでは、メモリを増設することによって動作が改善することがあります。



参照

メモリを増設するには

「本機の機能」の「メモリ (P. 258)」

A : ユーザー名に環境依存文字を使用していないか確認してください。

ユーザー名に環境依存文字を使用していると、アプリケーションによっては正しく動作しない場合があります。

Q : Windows Media PlayerでDVDが再生できない

[101902-07]

A : CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生しようとしていないか確認してください。

Windows Media Playerは、CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルの再生には対応していません。



メモ

CPRM方式による著作権保護は、デジタルテレビ放送番組をDVDに記録するためなどに用いられています。

Q : Windows Media Playerでディスクが認識されない、自動再生が始まらない

[101904-07]

A : Windows Media Playerで使用可能な規格のディスクか、また使用しているディスクや光学ドライブの状態に問題はないか確認してください。

本機の光学ドライブで利用できるディスクであっても、本機やWindows Media Playerで使用できない規格で記録されていると認識ができない場合があります。

また、使用しているディスクや光学ドライブの状態によってはディスクの認識ができない場合があります。使用しているディスクや光学ドライブの確認を行ってください。

Q : Windows Media PlayerでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる

[101905-27]

A : 再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

Windows Media Playerで、DVDやビデオCDを再生する場合、再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

また、メモリを増設できるモデルでは、メモリを増設することによって動作が改善することがあります。



参照

メモリを増設するには

「本機の機能」の「メモリ (P. 258)」

A : ECOモード機能で選択しているモードを確認してください。

ECOモード機能で、省電力を優先するモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 47)」

A : 電源オプションの設定を確認してください。

次の手順で電源オプションの設定を確認してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 現在選択している電源プランの「プラン設定の変更」をクリック
- 4 「詳細な電源設定の変更」をクリック
- 5 「マルチメディアの設定」→「ビデオの再生時」をクリック
- 6 それぞれの電源状態の欄が「ビデオ品質の最適化」に設定されているか確認する

「ビデオ品質の最適化」に設定されていない場合は、「ビデオ品質の最適化」に設定してください。

7 「OK」ボタンをクリック

Q : Corel WinDVDでDVDが再生できない

[101914-00]

A : CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生しようとしていないか確認してください。

添付のCorel WinDVDで、CPRM (Content Protection for Recordable Media) 方式で著作権保護されているタイトルを再生するためにはCPRM鍵のダウンロードが必要です。

「このディスクにはCPRM著作権保護のかかったタイトルが含まれています。・・・」と表示された場合は、CPRMコンテンツを再生するためのCPRM鍵をダウンロードしてください。

詳しい手順についてはCorel WinDVDのヘルプファイルを参照してください。



チェック

外部ディスプレイ使用時、接続しているディスプレイが、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない場合は、著作権保護された映像をデジタル出力できません。



メモ

CPRM方式による著作権保護は、デジタルテレビ放送番組をDVDに記録するためなどに用いられています。

Q : Corel WinDVDでディスクが認識されない、自動再生が始まらない

[101906-07]

A : Corel WinDVDで使用可能な規格のディスクか、また使用しているディスクや光学ドライブの状態に問題はないか確認してください。

本機の光学ドライブで使用できるディスクであっても、本機やCorel WinDVDで使用できない規格で記録されていると認識ができない場合があります。

また、使用しているディスクや光学ドライブの状態によってはディスクの認識ができない場合があります。使用しているディスクや光学ドライブの確認を行ってください。



参照

Corel WinDVDで使用できるディスクの規格、ディスクや光学ドライブの確認について

「アプリケーションのインストール/アンインストール」の「Corel WinDVD」 - 「使用上の注意 (P. 442)」

Q : Corel WinDVDでDVDがなめらかに再生されない、画面が乱れる

[101907-27]

A : 再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。

Corel WinDVDで、DVDを再生する場合、再生するディスクの種類によっては、コマ落ちが発生することがあります。また、メモリを増設できるモデルでは、メモリを増設することによって動作が改善することがあります。



参照

メモリを増設するには

「本機の機能」の「メモリ (P. 258)」

A : ECOモード機能で選択しているモードを確認してください。

ECOモード機能で、省電力を優先するモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「高性能」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 47)」

A : 電源オプションの設定を確認してください。

次の手順で電源オプションの設定を確認してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 現在選択している電源プランの「プラン設定の変更」をクリック
- 4 「詳細な電源設定の変更」をクリック
- 5 「マルチメディアの設定」→「ビデオの再生時」をクリック
- 6 それぞれの電源状態の欄が「ビデオ品質の最適化」に設定されているか確認する
「ビデオ品質の最適化」に設定されていない場合は、「ビデオ品質の最適化」に設定してください。

7 「OK」 ボタンをクリック

A : 再生するDVDによっては、ジャギー（輪郭のギザギザ）が目立つ場合があります。

次の手順で、Corel WinDVDの設定を変更してみてください。再生品質が改善する場合があります。

1 Corel WinDVDの画面上で右クリック

2 表示されたメニューから「設定」をクリック

3 「オーディオ/ビデオ設定」タブをクリック

4 「デインターレース」欄で「プログレッシブ」を選択する

5 「OK」 ボタンをクリック

A : Corel WinDVDのオンスクリーン表示をオフにしてください。

次の手順で、Corel WinDVDのオンスクリーン表示をしない設定に変更してください。音量などのオンスクリーン文字が表示されなくなりますが、動作が改善する場合があります。

1 Corel WinDVDの画面上で右クリック

2 表示されたメニューから「設定」をクリック

3 「環境設定」タブをクリック

4 「オンスクリーン ディスプレイを有効にする」のチェックを外す

5 「OK」 ボタンをクリック

A : 画面のテーマを「Aero テーマ」から選択してください。

画面のテーマを「Aero テーマ」以外に設定した状態で、Corel WinDVDで再生を行うと、映像の乱れやコマ落ちが発生する場合があります。

Q : アプリケーションをインストールできない

[101908-07]

A : 権限を制限されたユーザーでログオンしていないか確認してください。

本機を複数の人で使用している場合は、管理者によってユーザーの設定できる項目に制限がかけられている場合があります。

このような場合は、管理者に依頼して制限を解除してもらるか、または管理者 (Administrator) 権限を持つユーザーでログオンしてアプリケーションのインストールを行う必要があります。

A : ユーザー名に環境依存文字を使用していないか確認してください。

ユーザー名に環境依存文字を使用していると、アプリケーションによっては正しく動作しない場合があります。

A : アプリケーションのインストール先がハードディスク (またはSSD) 以外のドライブになっていないか確認してください。

ハードディスク (またはSSD) にインストールして使用するアプリケーションのインストール先がハードディスク (またはSSD) 以外のドライブになっていた場合は、インストール先をハードディスク (またはSSD) に変えて、インストールしなおしてください。

A : アプリケーションを新しくインストールするときに、ハードディスク (またはSSD) に一定の空き領域が必要な場合があります。

アプリケーションを新しくインストールするときに、ハードディスク (またはSSD) に一定の空き領域が必要な場合があります。アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください、ハードディスク (またはSSD) に必要な空き領域を確認してください。

ハードディスク (またはSSD) の空き領域が足りない場合は、空き領域のある他のドライブにインストールしてください。



メモ

アプリケーションによっては、必要最低限の機能だけをインストールしたり、使用する機能だけを選択してインストールすることで、必要な空き容量を減らせる場合があります。



参照

- **ハードディスクの空き領域を増やすには**
「ハードディスク」の「ハードディスクの空き領域が足りない (P. 594)」
- **SSDの空き領域を増やすには**
「SSD」の「SSDの空き領域が足りない (P. 602)」

Q : アプリケーションを強制的に終了させたい

[101909-27]

A : アプリケーションがフリーズするなどの異常を起こしていて、電源が切れないなどの問題が起きている場合、次の方法で異常を起こしているアプリケーションを強制的に終了してください。



チェック

この方法でアプリケーションを終了させると、保存していないデータは消えてしまうことがあります。

1

【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Del】 を1回押す

2

「タスク マネージャーの起動」をクリック

3

「アプリケーション」タブをクリック

4

「状態」のところに「応答なし」と表示されているタスク（アプリケーション）をクリックし、「タスクの終了」ボタンをクリック

この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

この方法で異常を起こしていたアプリケーションが終了できた場合は、「本機の機能」の「電源」 - 「電源の入れ方と切り方」の手順で電源を切ってください。



参照

正しい電源の入れ方と切り方

「本機の機能」の「電源」 - 「電源の入れ方と切り方 (P. 28)」

Q : アプリケーションが本機で使用できるか知りたい

[101910-00]

A : アプリケーションのカタログなどで必要な動作環境を確認するか、製造元に確認してください。

アプリケーションが必要とする動作環境は、アプリケーションによって異なります。アプリケーションのカタログなどで必要な動作環境について確認するか、アプリケーションの製造元に確認してください。

Q : 使用しているWindowsへの対応が明記されていない Windows用アプリケーションを使用したい

[101911-07]

A : アプリケーションの製造元に確認してください。

Windows 7への対応が明記されていない、Windows用アプリケーションが使用できるかどうかは、アプリケーションによって異なります。

アプリケーションの製造元に確認してください。アプリケーションの使用についての情報や、使用に必要なアップデートプログラムなどが入手できる場合があります。

Q : Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術情報について知りたい

[101913-07]

A : Internet Explorerやその関連製品に関するサポート技術情報は、次の手順で調べることができます。

1 インターネットに接続する

2 Internet Explorerを起動し、【Alt】 を押し、「ヘルプ」 → 「Internet Explorer ヘルプ」 をクリック

Microsoft社のサポートページが表示されます。この後は、そのページの説明に従って操作してください。

Q&A : 再セットアップ

[102000-27]

- 「再セットアップをすることはできません。」と表示される. 654
- 「再セットアップ用ディスク」を要求する画面が繰り返し表示され、先に進めない. 655

Q : 「再セットアップをすることはできません。」 と表示される

[102001-07]

A : 本機の機種情報が書き換わっている可能性があります。

ご購入元、またはNECにお問い合わせください。



参照

NECのお問い合わせ先について
『保証規定&修理に関するご案内』

Q : 「再セットアップ用ディスク」を要求する画面が繰り返し表示され、先に進めない

[102002-27]

A : 「再セットアップ用ディスク」が必要です。「再セットアップ用ディスク」を持っている／持っていないにあわせて、次のように対処してください。

● 「再セットアップ用ディスク」を持っている場合

お手持ちのDVDがお使いの装置の「再セットアップ用ディスク」であること、すべての「再セットアップ用ディスク」が揃っていることをご確認の上、再セットアップの操作を継続してください。



チェック

「再セットアップ用ディスク」を作成した場合、ディスクの枚数はOSとDVDの種類によって以下のように異なります。

- Windows 7 Professionalで、DVD-Rを使用して作成した場合 : 「再セットアップ用ディスク1」と「再セットアップ用ディスク2」の2枚
- Windows 7 Professionalで、DVD-R DLを使用して作成した場合 : 「再セットアップ用ディスク1」の1枚のみ

● 「再セットアップ用ディスク」を持っていない場合

再セットアップの操作を継続することはできません。本機の電源スイッチを4秒以上押し続け、強制的に電源を切ってください。

なお、「再セットアップ用ディスク」は、別途入手することもできます。



参照

- **再セットアップの方法について**
『再セットアップガイド』
- **「再セットアップ用ディスク」の入手について**
「アフターケア、改造について」の「添付品の再入手方法について (P. 664)」

[102100-27]

- 日付や時刻が正しく表示されない. 657
- クリップなどの異物が本体内部に入ってしまった. 658
- 本機が動かなくなった（フリーズした）. 659
- Windows 7 SP1をアンインストールしたい. 660
- マニュアルをなくしてしまった. 661

Q : 日付や時刻が正しく表示されない

[102101-27]

A : 日付や時刻を設定しなおしてください。

日付や時刻がずれた場合は、次の手順に従って日付と時刻を設定しなおしてください。



チェック

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「ユーザー アカウント制御」について (P. 12)」

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「時計、言語、および地域」をクリックし、「日付と時刻」をクリック
- 3 「日付と時刻の変更」をクリック
- 4 日付と時刻を設定する
- 5 「OK」ボタンをクリック
- 6 「OK」ボタンをクリック

以上で日付と時刻の設定は完了です。

A : 内蔵のカレンダー用電池が十分に充電されていない可能性があります。

本機の内蔵時計はカレンダー用電池で動いています。内蔵のカレンダー用電池が十分に充電されていないと、日付や時刻が正しく表示されないことがあります。

本機購入後すぐや、本機を電源に接続せずに2カ月以上使用しない後などには、本機にACアダプタを取り付け、約40時間以上、ACコンセントに接続したままにして、カレンダー用電池を充電してから、日付と時刻を設定しなおしてください。

Q : クリップなどの異物が本体内部に入ってしまった

[102102-20]

A : 異物が入り込んでしまった場合は、すぐに電源を切ってACアダプタとバッテリーパックを取り外し、ご購入元にお問い合わせください。



チェック

そのままお使いになると、発煙、発火や故障の原因になります。

Q : 本機が動かなくなりました（フリーズした）

[102105-27]

A : Windowsの起動中やデータの処理中でないことを確認し、強制的に電源を切ってください。

ディスクアクセスランプが点滅していないなど、本機が反応していないときは、電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切り、5秒以上待ってから、もう一度電源を入れます。

何か異常が発見された場合は、画面の指示に従ってください。問題が解決したら、そのままお使いください。



参照

強制的に電源を切る方法

「電源」の「電源が切れない」 - 「強制的に電源を切る (P. 483)」

システムに重大な問題が発見されたことを伝えるメッセージが表示された場合は、再セットアップが必要になります。『再セットアップガイド』をご覧ください。再セットアップしてください。

Q : Windows 7 SP1をアンインストールしたい

[102106-07]

A : 本機では、Windows 7 SP1をアンインストールすることはできません。

Q : マニュアルをなくしてしまった

[102108-00]

A : NEC「ビジネスPC」サイトの「電子マニュアルビューア」では、本機のマニュアル
をご覧ください。

アフターケア、改造について

[110000-00]

- ▶ 保守サービスについて..... 663
- ▶ 添付品の再入手方法について..... 664
- ▶ 消耗品と有寿命部品について..... 665
- ▶ 24時間以上の連続使用について..... 666
- ▶ 本製品の改造、修理について..... 667

保守サービスについて

[110100-00]

保守サービスのご相談は、ご購入元、NECなどで承っております。お問い合わせ窓口やお問い合わせの方法など、詳しくは『保証規定&修理に関するご案内』をご覧ください。



チェック

- ご購入元、NECなどに本製品の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。
- 故障箇所によっては、本製品購入後にハードディスク（またはSSD）やメモリ内に保存されたデータを完全には復旧できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。



参照

NECのお問い合わせ先について

『保証規定&修理に関するご案内』

添付品の再入手方法について

[110200-07]

本製品の添付品のうち、次のものは有償で再入手が可能です。

- DVD-ROM
- CD-ROM



メモ

本機の型名などは、紛失に備えて控えておくことをおすすめします。

DVD-ROMやCD-ROMの再入手についてのお問い合わせ先は、本製品添付の『保証規定 & 修理に関するご案内』をご覧ください。

「再セットアップ用ディスク」を入手したい

「再セットアップ用ディスク」はメディアオーダーセンターより有償で入手することができます。

「再セットアップ用ディスク」入手についてのお問い合わせは、下記のホームページをご覧ください。

お問い合わせ先：

PC98-NXシリーズ メディアオーダーセンター

ホームページアドレス：

<http://nx-media.ssnet.co.jp/>

また、ご購入いただいたモデルが「Windows 7用再セットアップ用ディスク」を未添付、かつDVDに書き込み可能な場合に限り、「再セットアップ用ディスク」を一度だけ作成することができます。



参照

「再セットアップ用ディスク」の作成

『再セットアップガイド』

消耗品と有寿命部品について

[110300-20]

本製品には、消耗品と有寿命部品が含まれています。

安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。

特に長時間連続して使用する場合には、安全等の観点から早期の部品交換が必要です。

本製品のアルミ電解コンデンサは有寿命部品です。寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇に至り、異臭や発煙が発生する場合があります。その場合は直ちに使用を中止し修理を依頼してください（尚、アルミ電解コンデンサの交換は保守部品単位になります）。

標準保証期間内であっても、有償となる場合があります。特に長時間連続して使用する場合には、安全等の観点から早期の部品交換が必要です。

消耗品と有寿命部品は次の通りです。

種類	種類の内容説明	該当品または部品（代表例）
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。 お客様ご自身で購入し、交換していただくものです。 保証期間内であっても有償となります。	フロッピーディスク、CD-ROM等の媒体、バッテリーパック、乾電池、USBメモリ
有寿命部品	使用頻度や経過時間によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。 本体の保証期間内であっても部品代は有償となる場合があります。 詳しくは、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。	ディスプレイ（CRT、LCD）、HDD/SSD、光学ドライブ（DVD-ROMドライブ等）、フロッピーディスクドライブ、キーボード、マウス、ファン、NXパッド、指紋センサ、ACアダプタ 本製品には、有寿命部品（ディスプレイ、光学ドライブ、HDD/SSD、電源、ACアダプタ、マザーボード、グラフィックボード等の内蔵基板など）が含まれています。 これらのユニットの中には有寿命部品であるアルミ電解コンデンサが使用されているものがあります。



メモ

- 記載部品は代表例です。機種により構成が異なります。詳しくは下記のリンクよりご覧ください。
<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>
- 有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で約5年です。
（ご使用になる頻度や条件により差が生じます。また、上記の目安期限前に交換が必要となることがあります。）
- 本製品の補修用性能部品の保有期間は、PC本体については、製造打切後5年、オプション製品については6年です。
製造打切後5年を経過した本製品（オプション製品は6年）は、修理などの保守サービスを受けることができませんのでご了承願います。



参照

NECのお問い合わせ先について
『保証規定&修理に関するご案内』

24時間以上の連続使用について

[110400-00]

本製品は、24時間連続使用を前提とした設計になっておりません。
24時間連続稼働した場合、標準保証の対象外となり、製品保証期間内であっても有償修理となります。



参照

NECのお問い合わせ先について
『保証規定 & 修理に関するご案内』

本製品の改造、修理について

[110500-00]

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、本製品を改造・修理しないでください。



チェック

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外となります。

譲渡、廃棄について

[120000-00]

- ▶ 本製品の譲渡について..... 669
- ▶ 本製品の廃棄方法について..... 670
- ▶ パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意..... 671
- ▶ パソコンの廃棄・譲渡時のSSD上のデータ消去に関するご注意..... 673
- ▶ ハードディスクのデータ消去..... 675

本製品の譲渡について

[120100-00]

本製品を第三者に譲渡（売却）する場合は、所定の条件に従ってください。また、本製品を譲り受けられたときには、所定の手続きに従って「お客様登録」を行ってください。

■ 本製品を第三者に譲渡（売却）するお客様へ

本製品を第三者に譲渡（売却）するときは、以下の条件を満たす必要があります。

1. 本機に添付されるすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、アンインストールした後、譲渡すること（本機に添付されている「ソフトウェアの使用条件適用一覧」をご覧ください）



チェック

- パソコン内のデータには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように譲渡（売却）の際には、これらの情報を削除することをおすすめします。
- 第三者に譲渡（売却）する製品をご登録されている場合は、登録先にて登録削除の手続きを必ずお願いいたします。
 - **121ware に登録されている方**
121ware.comのマイページ（<http://121ware.com/my/>）の保有商品情報で削除の手続きをお願いいたします。
 - **「お客様登録」ページから登録をされている方**
購入品登録のページ（<http://acc.express.nec.co.jp/Main/main.asp>）の購入品一覧より、購入品登録削除の手続きをお願い致します。

■ 本製品を譲り受けられたお客様へ

NECの「121ware」サイトでの登録をお願いします。

<http://121ware.com/my/>より、121wareの「ログインID取得ページ」を取得し、購入商品をご登録くださいますようお願いいたします。

本製品の廃棄方法について

[120200-00]

- 希少資源の再利用のため、不要になったパソコンのリサイクルにご協力ください
- 本製品の所有者が個人の場合、当社が使用済製品の回収を行うときは有償となることがあります。詳細は、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください

URL : <http://121ware.com/support/recyclese1/>

- 本製品の所有者が事業者の場合、当社が使用済製品の回収を行うときは有償になります。詳細は、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください

URL : <http://www.nec.co.jp/eco/ja/business/recycle/it/>

なお、NEC グループの回収・リサイクルシステムに関する詳細については、下記のホームページをご覧ください

URL : <http://www.nec.co.jp/eco/ja/>



チェック

- 添付されたマニュアルに記載されている方法以外で機器を改造された場合、その機器を引き取ることができない場合がありますので、ご注意ください。
- 一度ハードディスク（またはSSD）に記憶されたデータは、「ごみ箱」から削除したりハードディスク（またはSSD）をフォーマットしたりしても、復元できる場合があります。詳しくは、以下をご覧ください。
 - ▶ パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意. 671
 - ▶ パソコンの廃棄・譲渡時のSSD上のデータ消去に関するご注意. 673

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

[120300-07]

本内容は、JEITAが案内する「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳しくは以下のWebサイトをご覧ください。

http://home.jeita.or.jp/page_file/20110511155520_8vAEy2Fi5d.pdf

パソコンを使っていくと、ハードディスクにお客様が作成、使用した重要なデータが記録されていきます。そのため、本機を譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。ところが、ハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、実はそれほど簡単なことではありません。

一般に「データを消去する」という場合、次の操作を指します。

- データを「ごみ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化（フォーマット）する
- 再セットアップを行い、工場出荷状態に戻す

これらの操作を行うと、パソコン内部では、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更され、データが見えなくなっているだけという状態になります。

つまり、データは一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSから、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータはハードディスク内に残っているのです。

データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって、本機のハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、ハードディスクに記録された全データをお客様の責任において消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金づちや強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

また、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。詳しくは「[本製品の譲渡について \(P. 669\)](#)」をご覧ください。

なお、お手元に再セットアップ用ディスクがある場合は、再セットアップ用ディスクを利用してハードディスクのデータを消去することができます。



チェック

再セットアップ用ディスクを利用するには、光学ドライブが必要です。



参照

ハードディスクのデータ消去について
「ハードディスクのデータ消去 (P. 675)」

パソコンの廃棄・譲渡時のSSD上のデータ消去に関する ご注意

[120400-07]

本内容は、JEITAが案内する「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳しくは以下のWebサイトをご覧ください。

http://home.jeita.or.jp/page_file/20110511155520_8vAEy2Fi5d.pdf

パソコンを使っていくと、SSDにお客様が作成、使用した重要なデータが記録されていきます。そのため、本機を譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要となります。ところが、SSD内に書き込まれたデータを消去するというのは、実はそれほど簡単なことではありません。

一般に「データを消去する」という場合、次の操作を指します。

- データを「ごみ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化（フォーマット）する
- 再セットアップを行い、工場出荷状態に戻す

これらの操作を行うと、パソコン内部では、SSD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更され、データが見えなくなっているだけという状態になります。

つまり、データは一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSから、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータはSSD内に残っているのです。

データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって、本機のSSD内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡等を行う際に、SSD上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、SSDに記録された全データをお客様の責任において消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス（共に有償）を利用するか、SSDを金づちなどで物理的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

また、SSD上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。詳しくは「[本製品の譲渡について \(P. 669\)](#)」をご覧ください。十分な確認を行ってください。

なお、お手元に再セットアップ用ディスクがある場合は、再セットアップ用ディスクを利用してSSDのデータを消去することができます。



チェック

再セットアップ用ディスクを利用するには、光学ドライブが必要です。



参照

SSDのデータ消去について

「ハードディスクのデータ消去 (P. 675)」

ハードディスクのデータ消去

[120600-27]

- ▶ データ消去について..... 675
- ▶ データを消去する..... 676

データ消去について

[120601-27]

本機のハードディスクのデータを消去することができます。

ハードディスクに一度記録されたデータは、「ごみ箱」から削除したり、フォーマットしたりしても復元できる場合があります。

このメニューを選択すると、OS標準のハードディスクのフォーマット機能では消去できないハードディスク上のデータを消去し、復元ツールで復元されにくくします。

本機を譲渡、または廃棄する場合にご利用ください。

本機を譲渡、または廃棄する場合は、「譲渡、廃棄について (P. 668)」もあわせてご覧ください。



チェック

- **SSDモデルをお使いの場合でも使用することができます。**
- ハードディスクのデータ消去には「再セットアップ用ディスク1」と光学ドライブが必要です。CDレスモデルをお使いの方は、別売の光学ドライブを使用してください。
- ハードディスクのデータ消去を実行する前にBIOSセットアップユーティリティの設定値を工場出荷時の状態に戻してください。
工場出荷時の設定値に戻す方法については、「システム設定」をご覧ください。



参照

- **再セットアップ用ディスクについて**
『再セットアップガイド』
- **BIOSセットアップユーティリティについて**
「システム設定」の「BIOSセットアップユーティリティについて (P. 296)」

消去にかかる時間は、消去方式やハードディスクの容量、モデルによって異なります。

また、ハードディスクのデータ消去方式は次の3つの方式があります。

- **かんたんモード (1回消去)**

ハードディスク全体を「00」のデータで1回上書きします。

- **しっかりモード (3回消去)**

米国国防総省NSA規格準拠方式により、ハードディスクのデータ消去を行います。

ランダムデータ1、ランダムデータ2、「00」のデータの順に3回書き込みを行い、3回消去を行うことで、より確実に

消去できます。ただし、3回書き込みを行うため、かんたんモードの3倍の時間がかかります。

● しっかりモードプラス（3回消去+検証）

米国国防総省DoD規格準拠方式により、ハードディスクのデータ消去を行います。

「00」、「FF」、「ランダムデータ」の順に3回書き込みを行い、最後に正常にランダムデータが書き込まれているかを検証します。3回消去を行うことで、より確実に消去できます。

なお、この方法でのハードディスクのデータ消去は、データの復元が完全にできなくなることを保証するものではありません。

データの復元が完全にできないことの証明が必要な場合は、NECフィールディング株式会社に有償のデータ消去を依頼してください。

NEC フィールディングホームページ

<http://www.fielding.co.jp/>

■ データを消去する

[120602-27]



チェック

- 『はじめにお読みください』をご覧になり、周辺機器(光学ドライブを除く)を取り外してご購入時と同じ状態にしてください。
- ハードディスクのデータの消去は本マニュアルを表示しながら行うことはできません。印刷してご覧ください。

1 本機の電源を入れる

2 電源ランプがついたら、すぐに「再セットアップ用ディスク1」を光学ドライブにセットする

3 「Press any key to boot from CD or DVD...」と表示されたら、【Enter】を押す

4 「Windows 再セットアップ」画面が表示されたら、「ハードディスクのデータを消去する」を選択し、【Enter】を押す

5 「ハードディスクのデータを消去します。よろしいですか？」と表示されたら、「はい」を選択し、【Enter】を押す

6 データを消去するハードディスクを選択し、「次へ」ボタンをクリック

7 データの消去方式を選択して、「実行」ボタンをクリック

8 「ハードディスクのデータ消去を開始しますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック



チェック

データ消去が中断された場合は、「再セットアップ用ディスク1」を光学ドライブに挿入した状態のまま、電源を入れてください。自動的に、前回の続きからデータ消去が開始されます。

9 「ハードディスクのデータ消去が完了しました。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリック

10 光学ドライブから「再セットアップ用ディスク1」を取り出し、【Enter】を押す

以上でハードディスクのデータ消去は終了です。

仕様一覧など（Web専用コンテンツ）

[130000-00]

▶ 仕様一覧など（Web専用コンテンツ）	679
----------------------------	-----

仕様一覧など（Web専用コンテンツ）

[130001-00]

本機に関する次の情報については、Web専用コンテンツに記載しております。

- 仕様一覧
- 割り込みレベル、およびDMAチャンネルの割り当て
- ソフトウェア占有量



メモ

Web専用コンテンツをご覧になるには、インターネットへの接続環境が必要です。

Web専用コンテンツは、下記のリンクからご覧ください。

<http://121ware.com/e-manual/m/nx/ac/201305/bios/v1/mst/index.html>

活用ガイド

UltraLite タイプVB

初版 2013年5月

©NEC Personal Computers, Ltd. 2013

NECパーソナルコンピュータ株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
